64 Mb (8 MB) FL-L フラッシュ

SPI マルチ I/O, 3.0 V

概要説明

FL-L ファミリ デバイスはフラッシュ不揮発性メモリ製品であり、以下の技術を使用しています。

- フローティング ゲート テクノロジー
- 65nm プロセス リソグラフィー

FL-L ファミリはシリアル ペリフェラル インターフェース (SPI) を介してホスト システムに接続します。従来の SPI シングル ビット シリアル入出力 (シングル I/O - SIO) だけでなく、オプションの 2 ビット (デュアル I/O - DIO) および 4 ビット幅クアッド I/O (QIO) とクアッド ペリフェラル インターフェース (QPI) コマンドにも対応しています。さらに、アドレスと読み出しデータをクロックの両方のエッジで転送する、QIO および QPI 用のダブル データ レート (DDR) 読み出しコマンドに対応しています。

アーキテクチャは 1 回の動作で最大 256 バイト のプログラミングを可能にするページ プログラミング バッファを備えており、個別の 4KB セクタ、32KB ハーフ ブロック セクタ、64KB ブロック セクタ、またはチップ全体の消去機能を提供します。

より高い対応クロック レートで デバイスを使用することで、クアッドまたは DDR クアッド コマンドにより、命令読み出し転送速度は従来のパラレル インターフェース、非同期、NOR フラッシュ メモリの転送速度以上となり、信号数を著しく減少させています。

FL-L ファミリ製品は大容量に加えて、多くのモバイルや組み込みアプリケーションに必要な柔軟性および高速処理性能を提供します。スペース、信号接続、消費電力が限られているシステムに理想的なストレージ ソリューションを提供します。これらのメモリは通常のシリアル フラッシュ デバイスと比べて、はるかに優れた柔軟性および処理性能を提供します。これらは RAM へのコードシャドーイング、コードの直接実行 (XIP) および再プログラム可能なデータ保存に理想的です。

特長

- マルチ I/O を備えたシリアル ペリフェラル インターフェース (SPI)
  - クロック極性と位相モード 0 と 3
  - ダブル データ レート (DDR) オプション
  - クアッド ペリフェラル インターフェース (QPI) オプション
  - 拡張アドレス指定 : 24 ビットまたは 32 ビット アドレス指定オプション
  - S25FL-A, S25FL1-K, S25FL-P, S25FL-S, および S25FS-S SPI ファミリと互換性のあるシリアル コマンド サブセットおよびフットプリント
  - S25FL-P, S25FL-S および S25FS-S SPI ファミリと互換性のあるマルチI/Oコマンド サブセットおよびフットプリント
- 読み出し
  - コマンド : 通常 , 高速 , デュアル I/O, クアッド I/O, デュアル O, クアッド O, DDR クアッド I/O
  - モード : バースト ラップ , 連続 (XIP), QPI
  - コンフィギュレーション情報用のシリアル フラッシュ検出可能なパラメーター (SFDP)
- プログラム アーキテクチャ
  - 256 バイトのページ プログラム バッファ
  - プログラムの一時停止と再開
- 消去アーキテクチャ
  - ユニフォーム 4 KB セクタ消去
  - ユニフォーム 32 KB ハーフ ブロック消去
  - ユニフォーム 64 KB ブロック消去
  - チップ消去
  - 消去の一時停止と再開
- 100,000 プログラム / 消去サイクル (Min)
- 20 年のデータ保持期間 (Min)

特長

- セキュリティ機能
  - ステータスおよびコンフィギュレーション レジスタ保護
  - メイン フラッシュ アレイから独立した各 256- バイトの 4 つのセキュリティ領域
  - レガシー ブロック保護 : ブロック範囲
  - 個別および領域保護
    - 個別ブロック ロック : 揮発性個別セクタ / ブロック
    - ポインター領域 : 不揮発性セクタ / ブロック領域
    - セキュリティ領域と 2 と 3 およびポインター領域の電源ロックダウン , パスワード , または恒久的保護
- テクノロジー
  - 65nm フローティング ゲート テクノロジー
- 単一電源電圧、CMOS I/O
  - 2.7 V 〜 3.6 V
- 温度範囲 / グレード
  - 産業用 (–40°C 〜 +85°C)
  - 産業用プラス (–40°C 〜 +105°C)
  - 車載向け、AEC-Q100 グレード 3 (–40°C 〜 +85°C)
  - 車載向け、AEC-Q100 グレード 2 (–40°C 〜 +105°C)
  - 車載向け、AEC-Q100 グレード 1 (–40°C 〜 +125°C)
- パッケージ (すべて鉛フリー)
  - 8 リード SOIC 208 mil (SOC008)
  - 16 リード SOIC 300 mil (SO3016)
  - USON 4 × 4 mm (UNF008)
  - WSON 5 × 6 mm (WND008)
  - BGA-24 6 × 8 mm
    - 5 × 5 ボール (FAB024) フットプリント
    - 4 × 6 ボール (FAC024) フットプリント
  - 良品保証ベアダイ (KGD) および テスト済みベアダイ

主な性能

Table 1　最大 SDR 読み出し速度

コマンド	クロック レート (MHz)	MBps
読み出し	50	6.25
高速読み出し	108	13.5
デュアル読み出し	108	27
クアッド読み出し	108	54

Table 2　最大 DDR 読み出し速度

コマンド	クロック レート (MHz)	MBps
DDR クアッド読み出し	54	54

Table 3　代表的なプログラム / 消去速度

動作	KBps
ページ プログラム	569
4 KB セクタ消去	61
32 KB ハーフ ブロック消去	106
64 KB ブロック消去	142

Table 4　標準消費電流

動作	標準電流	単位
読み出し 50 MHz	10	mA
高速読み出し 5MHz	10	mA
高速読み出し 10 MHz	10	mA
高速読み出し 20 MHz	10	mA
高速読み出し 50 MHz	15	mA
高速読み出し 108 MHz	20	mA
クアッド I/O / QPI 読み出し 108 MHz	20	mA
クアッド I/O / QPI DDR 読み出し 33 MHz	15	mA
クアッド I/O / QPI DDR 読み出し 54 MHz	17	mA
プログラム	17	mA
消去	17	mA
スタンバイ SPI	20	µA
スタンバイ QPI	35	µA
ディープ パワー ダウン	2	µA

目次

概要説明 1
特長 1
主な性能 3
目次 4
1 製品概要 6
1.1 デバイスファミリ移行時の注意事項 6
2 ピン配置図 8
2.1 SOIC 16 リード 8
2.2 8 コネクタ パッケージ 8
2.3 BGA ボール フットプリント 9
3 信号説明 10
3.1 複数の入力 / 出力を備えるシリアル ペリフェラル インターフェース (SPI-MIO) 10
3.2 入出力のまとめ 10
3.3 マルチ入力 / 出力 (MIO) 11
3.4 シリアル クロック (SCK) 11
3.5 チップ セレクト (CS#) 11
3.6 シリアル入力 (SI) / IO0 11
3.7 シリアル出力 (SO) / IO1 12
3.8 書き込み保護 (WP#) / IO2 12
3.9 IO3/RESET# 12
3.10 RESET# 13
3.11 電源電圧 (VCC) 13
3.12 電源および信号グランド (V_{SS}) 13
3.13 未接続 (NC) 13
3.14 将来に使用するために予約済み (RFU) 13
3.15 使用禁止 (DNU) 13
4 ブロック図 14
4.1 システム ブロック図 14
5 信号プロトコル 16
5.1 SPI クロック モード 16
5.2 コマンド プロトコル 17
5.3 インターフェース状態 22
5.4 データ保護 26
6 アドレス空間マップ 27
6.1 概要 27
6.2 フラッシュ メモリ アレイ 27
6.3 ID アドレス空間 28
6.4 JEDEC JESD216 シリアル フラッシュ検出可能パラメーター (SFDP) 空間 28
6.5 セキュリティ領域アドレス空間 28
6.6 レジスタ 29
7 データ保護 49
7.1 セキュリティ領域 49
7.2 ディープ パワー ダウン 49
7.3 書き込みイネーブルのコマンド 50
7.4 書き込み保護信号 50
7.5 ステータス レジスタ保護 (SRP1, SRP0) 50
7.6 アレイ保護 52
7.7 個別および領域保護 57
8 コマンド 62
8.1 コマンド セットのまとめ 62
8.2 ID のコマンド 69

目次

8.3 レジスタ アクセスのコマンド 73
8.4 メモリ アレイの読み出しコマンド 90
8.5 プログラム フラッシュ アレイのコマンド 100
8.6 フラッシュ アレイ消去のコマンド 102
8.7 セキュリティ領域アレイのコマンド 110
8.8 個別ブロック ロックのコマンド 112
8.9 ポインター領域のコマンド 117
8.10 個別および領域保護 (IRP) のコマンド 118
8.11 リセット コマンド 125
9 データの完全性 129
9.1 消去可能回数 129
9.2 データ保護 129
10 ソフトウェア インターフェース リファレンス 130
10.1 JEDEC JESD216B シリアル フラッシュ検出可能パラメーター 130
10.2 デバイス ID アドレス マップ 141
10.3 工場出荷時の初期状態 141
11 電気的仕様 142
11.1 絶対最大定格 [59] 142
11.2 ラッチアップ特性 142
11.3 熱抵抗 142
11.4 動作範囲 143
11.5 電源投入および電源切断 144
11.6 DC 特性 146
12 タイミング仕様 150
12.1 スイッチング波形 150
12.2 AC テスト条件 150
12.3 リセット 151
12.4 SDR AC 特性 154
12.5 DDR AC 特性 157
12.6 組込みアルゴリズム性能表 160
13 注文情報 161
13.1 注文製品番号 161
13.2 有効な組合せ — 標準 162
13.3 有効な組合せ — 車載用グレード / AEC-Q100 162
14 外形図 163
改訂履歴 169
免責事項 170

1 製品概要

1.1 デバイスファミリ移行時の注意事項

1.1.1 機能比較

FL064L ファミリは前世代の FL-S, FL1-K, FL-P ファミリとコマンド サブセットおよびフットプリントの互換性があります。

Table 1 SPI ファミリの比較

パラメーター	FL-L	FL-L	FL-S	FL1-K	FL-P
テクノロジー ノード	65nm	65nm	65nm	90nm	90nm
アーキテクチャ	フローティング ゲート	フローティング ゲート	MIRRORBIT™ Eclipse	フローティング ゲート	MIRRORBIT™
リリース予定	量産中	量産中	量産中	量産中	量産中
メモリ容量	64 Mb	256 Mb	128 Mb ～ 1 Gb	16 Mb ～ 64 Mb	32 Mb ～ 256 Mb
バス幅	x1, x2, x4	x1, x2, x4	x1, x2, x4	x1, x2, x4	x1, x2, x4
電源電圧	2.7 V ～ 3.6 V	2.7 V ～ 3.6 V	2.7 V ～ 3.6 V / 1.65 V ～ 3.6 V V_{IO}	2.7 V ～ 3.6 V	2.7 V ～ 3.6 V
通常読み出し速度	6 MBps (50 MHz)	6 MBps (50 MHz)	6 MBps (50 MHz)	6 MBps (50 MHz)	5 MBps (40 MHz)
高速読み出し速度	13 MBps (108 MHz)	16.5 MBps (133 MHz)	17 MBps (133 MHz)	13 MBps (108 MHz)	13 MBps (104 MHz)
デュアル読み出し速度	26 MBps (108 MHz)	33 MBps (133 MHz)	26 MBps (104 MHz)	26 MBps (108 MHz)	20 MBps (80 MHz)
クアッド読み出し速度	52 MBps (108 MHz)	66 MBps (133 MHz)	52 MBps (104 MHz)	52 MBps (108 MHz)	40 MBps (80 MHz)
クアッド読み出し速度 (DDR)	54 MBps (54 MHz)	66 MBps (66 MHz)	80 MBps (80 MHz)	–	–
プログラム バッファ サイズ	256 B	256B	256 B / 512 B	256 B	256 B
消去セクタ / ブロック サイズ	4 KB / 32 KB / 64 KB	4 KB / 32 KB / 64 KB	64 KB / 256 KB	4 KB / 64 KB	64 KB / 256 KB
パラメーター セクタ サイズ	–	–	4 KB (option)	–	4 KB
セクタ / ブロック 消去速度 (Typ)	61 KB/s (4 KB) 106 KB/s (32 KB) 142 KB/s (64 KB)	80 KB/s (4 KB) 168 KB/s (32 KB) 237 KB/s (64 KB)	500 KB/s	80 KB/s (4 KB) 128 KB/s (64 KB)	130 KB/s
ページ プログラム 速度 (Typ)	569 KB/s (256 B)	854 KB/s (256 B)	1.2 MBps (256 B) 1.5 MBps (512 B)	365 KB/s	170 KB/s
セキュリティ領域 /OTP	1024 B	1024 B	1024 B	768 B (3 × 256 B)	506 B
個別および領域保護または高度セクタ保護	有	有	有	有	無

注

1. 詳細情報は個別のデータシートを参照してください。

Table 1 SPI ファミリの比較 *(continued)*

パラメーター	FL-L	FL-L	FL-S	FL1-K	FL-P
消去一時停止 / 再開	有	有	有	有	無
プログラム一時停止 / 再開	有	有	有	有	無
動作温度	–40°C ～ +85°C –40°C ～ +105°C –40°C ～ +125°C	–40°C ～ +85°C –40°C ～ +105°C –40°C ～ +125°C	–40°C ～ +85°C –40°C ～ +105°C	–40°C ～ +85°C –40°C ～ +105°C –40°C ～ +125°C	–40°C ～ +85°C –40°C ～ +105°C

注
1. 詳細情報は個別のデータシートを参照してください。

1.1.2 前世代との既知の相違

1.1.2.1 エラー報告

保護されたセクタをプログラムまたは消去しようとする場合、FL-K, FL1-K および FL-P メモリはエラー ステータス ビットがないか、またはそれらをセットしません。本製品ファミリは、プログラムと消去の動作にエラー レポート ステータス ビットを持っています。プログラムまたは消去に内部エラーが発生した場合、または保護されたセクタをプログラム / 消去しようとした場合、それらのビットがセットされます。これらの場合、プログラムや消去動作がコマンドに従って完了していません。P_ERR または E_ERR ビットと WIP ビットは SR1V で 1 にセットされ、1 のままに維持されます。エラーをクリアしデバイスをスタンバイ状態に戻すために、ステータス レジスタ クリア コマンドを送信する必要があります。

1.1.2.2 ステータス レジスタ保護 1 ビット

コンフィギュレーション レジスタ 1 の SRP1 ビット CR1V[0] は、前世代での FREEZE ビットと同様にレガシー ブロック保護ビット (SR1NV[5:2] と SR1V[5:2])、CMP_NV (CR1NV[6]) および TBPROT_NV ビット (SR1NV[6]) の状態をロックします。FS-S および FL-S ファミリでは、FREEZE ビットはコンフィギュレーション レジスタ 1 の BPNV_O ビット (CR1NV[3]) およびセキュア シリコン領域 (OTP) の状態もロックします。

1.1.2.3 WRR シングル レジスタ書き込み

いくつかのレガシー SPI デバイスでは、1 つのみのデータ バイトを持つレジスタ書き込み (WRR) コマンドがステータス レジスタ 1 を更新し、クアッド モード ビットを含むコンフィギュレーション レジスタ 1 のいくつかのビットをクリアします。これは、クワッド モードの意図しない終了につながる可能性があります。本製品ファミリは単一のデータ バイトが与えられたとき、ステータス レジスタ 1 だけを更新します。この場合、コンフィギュレーション レジスタ 1 は変更されません。

1.1.2.4 他の未対応のレガシーコマンド

- 自動ブート関連のコマンド
- バンク アドレス関連のコマンド
- Hold# は Reset# に置き換えられます

1.1.2.5 新機能

本製品ファミリはインフィニオン SPI カテゴリのメモリに以下の新機能を導入します。

- セキュリティ領域パスワード保護
- IRP 個別領域保護

2 ピン配置図

2.1 SOIC 16 リード

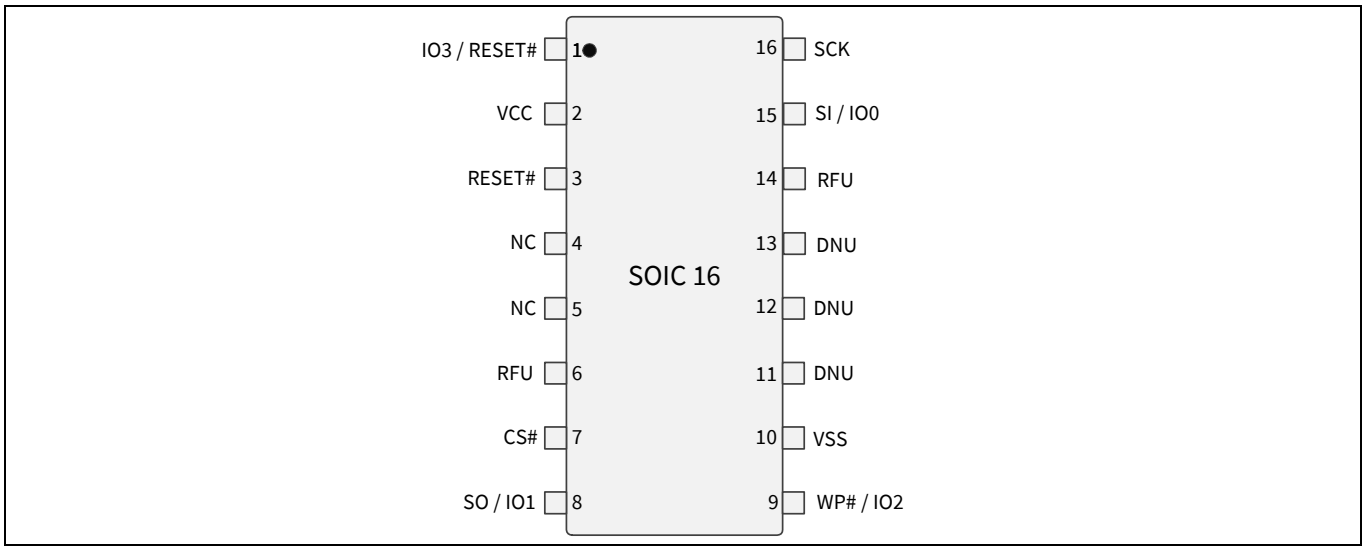


Figure 1 16 リード SOIC パッケージ (SO3016), 上面図

2.2 8 コネクタ パッケージ

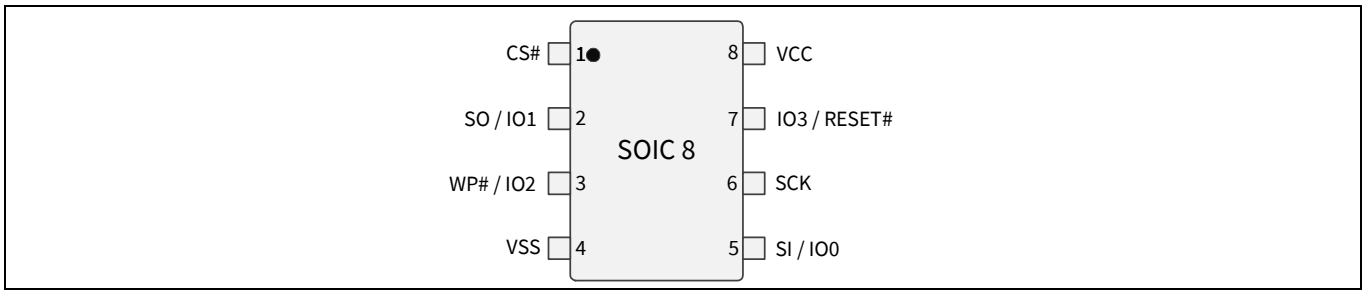


Figure 2 8 ピン プラスチック小型パッケージ (SOIC8)

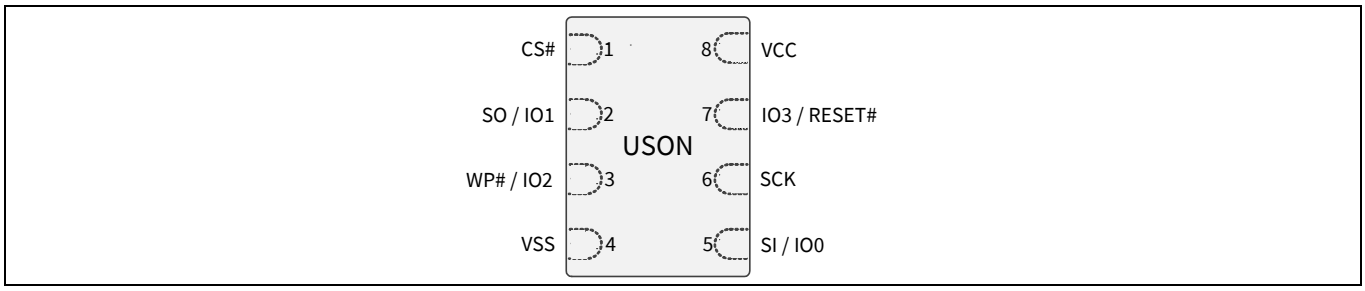


Figure 3 8 コネクタ パッケージ (USON 4 x 4), 上面図

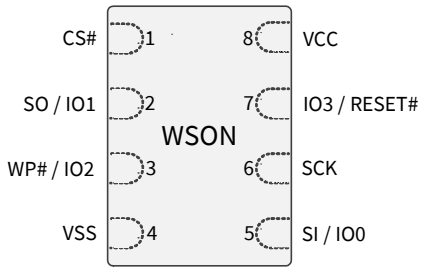


Figure 4 **8 コネクタ パッケージ (WSON 5 x 6), 上面図** [2]

2.3 BGA ボール フットプリント

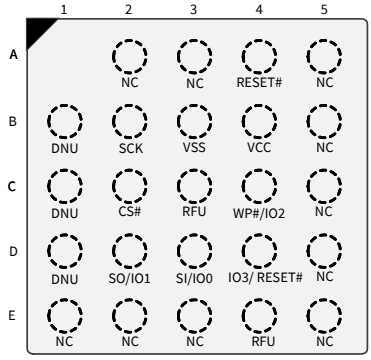


Figure 5 **24 ボール BGA, 5 x 5 ボール フットプリント (FAB024), 上面図** [3, 4]

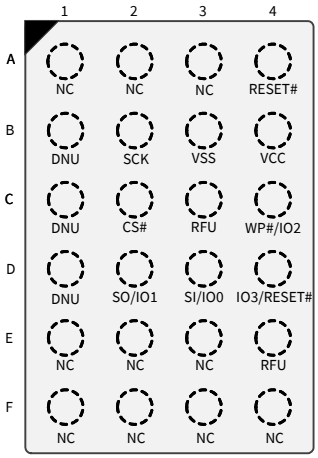


Figure 6 **24 ボール BGA, 4 x 6 ボール フットプリント (FAC024), 上面図** [4]

注 :

2. RESET# 入力は内部プルアップ抵抗に接続しており、クアッド モードとハードウェア リセットが使用されない場合はシステムで開放のまま にできます。
3. 信号接続は FAC024 BGA と同じ相対位置にあるため、プリント基板の単一のフットプリントでいずれのパッケージにも使用できます。
4. RESET# 入力は内部プルアップ抵抗に接続しており、クアッド モードとハードウェア リセットが使用されない場合はシステムで開放のまま にできます。

3 信号説明

3.1 複数の入力 / 出力を備えるシリアル ペリフェラル インターフェース (SPI-MIO)

多くのメモリ デバイスは、別々のパラレル制御 , アドレスおよびデータ信号でホスト システムに接続し、多数の信号接続とより大きいパッケージ サイズを必要とします。接続が多いほど信号スイッチングが多くなるため、消費電力は増加します。パッケージが大きいほどコストは高くなります。

S25FL-L ファミリはすべての制御 , アドレス , データ情報を 6 信号を介して順次転送することで、ホスト システムへの接続に必要な信号数を減らします。これにより、メモリ パッケージのコストを削減し、信号スイッチングに必要な電力を削減するほか、ホスト接続数を削減し、その他の機能を使用できるようにホスト コネクタを解放します。

S25FL-L ファミリは業界標準のシングル ビット SPI を使用し、2 ビット (デュアル) と 4 ビット (クアッド) 幅のシリアル転送用のオプションの拡張コマンドにも対応しています。複数幅インターフェースは SPI マルチ I/O (SPI-MIO) と呼ばれます。

3.2 入出力のまとめ

Table 2 信号一覧

信号名	タイプ	説明
RESET#	入力	**ハードウェア リセット :** LOW にすると、デバイスはリセットし、スタンバイ状態に復帰し、コマンドを受け入れられます。信号は内部プルアップ抵抗に接続され、ホスト システムで使用されない場合は開放のままにできます。
SCK	入力	**シリアル クロック**
CS#	入力	**チップ セレクト**
SI / IO0	I/O	シングル ビット データ コマンド用の**シリアル入力**、またはデュアル / クアッド コマンド用の IO0 です。
SO / IO1	I/O	シングル ビット データ コマンド用の**シリアル出力**、またはデュアル / クアッド コマンド用の IO1 です。
WP# / IO2	I/O	クアッド モードではない (CR1V[1]=0、SR1NV[7]=1) 場合は**書き込み保護**です。クアッド モードである (CR1V[1]=1) 場合は **IO2** です。 信号は内部プルアップ抵抗に接続され、ホスト システムでクアッド コマンドまたは書き込み保護に使用されない場合は開放のままにできます。SR1NV[7]=1、CR1V[1]=0 にセットすることで書き込み保護を有効にする場合、ホスト システムは WRR または WRAR コマンドの実行中に WP# を HIGH または LOW に駆動する必要があります。
IO3 / RESET#	I/O	クアッド I/O モードである (コンフィギュレーション レジスタ 1 の QUAD ビット CR1V[1]=1) 場合、または QPI モードで (コンフィギュレーション レジスタ 2 の QPI ビット CR2V[3]=1)、CS# が LOW である場合は **IO3** です。 CR2V[7]=1 により有効にされ、クアッド I/O モードではない (CR1V[1]=0) 場合、またはクアッド モード (CR1V[1]=1) で、CS# が HIGH である場合は **RESET#** です。 信号は内部プルアップ抵抗に接続され、ホスト システムでクアッド コマンドまたは RESET# に使用されない場合は開放のままにできます。
V_{CC}	電源	**電源**
V_{SS}	電源	**グランド**

注

5. 内部プルアップまたはプルダウン抵抗に接続された入力の消費電流は 2µA 未満です。電源投入時のみ、最大電流は 4 µs の間、150 µA になります。プルアップまたはプルダウン抵抗は、標準プロセスで Vcc=3.3 V、-40°C の場合は約 4.5 MΩ、90°C の場合は約 6.6 MΩ です。

Table 2 信号一覧 *(continued)*

信号名	タイプ	説明
NC	未使用	**未接続 :** デバイスの内部信号はパッケージ コネクタに接続されず、信号にコネクタを使用する計画もありません。接続は、プリント基板 (PCB) 上で信号の配線スペース向けに安全に使用できます。ただし、NC に接続されたすべての信号は電圧レベルが V_{CC} 以下でなければいけません。
RFU	予約済み	**将来使用するために予約済み :** 現時点ではパッケージ コネクタに接続しているデバイスの内部信号はありませんが、将来コネクタを信号に使用する可能性があります。RFU コネクタを PCB 配線チャネルに使用しないことを推奨します。それによって、PCB はフットプリントの互換性があるデバイスの将来の拡張機能を活用できます。
DNU	予約済み	**使用禁止 :** デバイスの内部信号がパッケージ コネクタに接続される可能性があります。接続はインフィニオンによってテスト用または他の目的で使用され、ホスト システムの信号に接続するためのものではありません。DNU 信号が V_{IL} のとき、DNU 信号に関連するすべての機能は無効になります。信号は内部プルダウン抵抗に接続され、ホスト システムで開放のままにされるか、または V_{SS} に接続できます。これらの接続を PCB 信号配線チャネルに使用しないでください。ホスト システム信号をこれらの信号に接続しないでください。

注

5. 内部プルアップまたはプルダウン抵抗に接続された入力の消費電流は 2µA 未満です。電源投入時のみ、最大電流は 4 µs の間、150 µA になります。プルアップまたはプルダウン抵抗は、標準プロセスで Vcc=3.3 V、-40°C の場合は約 4.5 MΩ、90°C の場合は約 6.6 MΩ です。

3.3 マルチ入力 / 出力 (MIO)

従来の SPI シングル ビット幅コマンド (シングルまたは SIO) はシリアル入力 (SI) 信号のみで、情報をホストからメモリへ送信します。データはシリアル出力 (SO) 信号でホストへ順次戻されます。

デュアルまたはクアッド入出力 (I/O) コマンドは SI/IO0 信号のみで命令をメモリに送信します。アドレス、またはデータは IO0 と IO1 信号上でビット ペア、または IO0, IO1, IO2, IO3 信号上で 4 ビット (ニブル) グループでホストからメモリへ送信されます。データは同様に IO0 と IO1 信号上でビット ペア、または IO0, IO1, IO2, IO3 信号上で 4 ビット (ニブル) グループでホストへ戻されます。

QPI モードでは、すべての命令 , アドレスおよびデータが IO0, IO1, IO2, IO3 信号上で 4 ビット (ニブル) グループでホストからメモリへ送信されます。データは同様に IO0, IO1, IO2, IO3 信号上で 4 ビット (ニブル) グループでホストへ戻されます。

3.4 シリアル クロック (SCK)

入力信号は SPI インターフェースに同期基準を提供します。命令 , アドレスまたはデータ入力は SCK 信号の立ち上りエッジでラッチされます。SDR コマンドでは、データ出力は SCK の立ち下りエッジの後に変化します。

3.5 チップ セレクト (CS#)

チップ セレクト信号は、コマンドがデバイスからまたはデバイスへ情報を送信し、その他の信号がメモリ デバイスに関連している時点を示します。

CS# 信号が論理 HIGH のとき、デバイスは選択されず、すべての入力信号は無視され、すべての出力信号は高インピーダンスです。内部の組込み動作がまだ実行中である場合を除き、デバイスはスタンバイ電力モードに入ります。組込み動作は、完了するまで、ステータス レジスタ 1 の「書き込み中」ビット (SR1V[0]) が 1 にセットされることにより示されます。組込み動作の例としては、プログラム , 消去 , レジスタ書き込み (WRR) 動作があります。

CS# 入力を論理 LOW にすると、デバイスは有効になり、アクティブ電力モードに入ります。電源投入後、あらゆるコマンドが開始する前に CS# の立ち下りエッジが必要です。

3.6 シリアル入力 (SI) / IO0

この入力信号はデータをデバイスに順次転送するために使用されます。命令 , アドレスおよびプログラムされるデータを受信します。値はシリアル SCK クロック信号の立ち上りエッジでラッチされます。デュアルとクアッド コマンドの実行中、SI は I/O0 となります。命令 , アドレス , プログラムされるデータ (シリアル SCK クロック信号の立ち上りエッジでラッチされる値) の受信、およびデータのシフトアウト (SDR コマンドの場合は SCK の立ち下りエッジで、DDR コマンドの場合は SCK のすべてのエッジで) のための入出力です。

3.7 シリアル出力 (SO) / IO1

この出力信号はデータをデバイスからシリアル転送するために使用されます。データはシリアル SCK クロック信号の立ち下りエッジでシフトアウトされます。デュアルとクアッド コマンドの実行中、SO は IO1 となります。アドレスとプログラムされるデータ (シリアル SCK クロック信号の立ち上りエッジでラッチされる値) の受信、およびデータのシフトアウト (SDR コマンドの場合は SCK の立ち下りエッジで、DDR コマンドの場合は SCK のすべてのエッジで) のための入出力です。

3.8 書き込み保護 (WP#) / IO2

WP# が LOW (V_{IL}) の間、ステータス レジスタ 1 のステータス レジスタ保護 0 ビット SRP0_NV または SRP0 (SR1NV[7] または SR1V[7]) が 1 にセットされた場合、ステータス レジスタ , コンフィギュレーション レジスタまたは DLR レジスタに書き込めません。この場合、SR1NV, SR1V, CR1NV, CR1V, CR2NV, CR2V, CR3NV, DLRNV, および DLRV を選択するコマンドは無視され、エラーがセットされません。

これにより、レガシー ブロック保護設定の変更を防止します。結果として、SRP0_NV が 1 にセットされており、かつステータスレジスタ , コンフィギュレーション レジスタ , または DLR レジスタを変更するコマンドが実行されている間、WP# が LOW である場合、レガシー ブロック保護機能により保護されるメモリ領域のすべてのデータ バイトはハードウェアによってもデータの変更から保護されます。同様に、セキュリティ領域ロック ビット (LB3 ～ LB0) はプログラムから保護されます。

クアッド モードが有効 (CR1V[1]=1) であるか、または QPI モードが有効 (CR2V[3]=1) である場合、WP# 機能は使用できません。

クアッド モードまたは QPI モードが有効 (CR2V[3]=1) の間、WP# 機能は IO2 に置き換えられます。アドレスとプログラムされるデータ (SCK 信号の立ち上りエッジでラッチされる値) の受信およびデータのシフトアウト (SDR コマンドの場合は SCK の立ち下りエッジで、DDR コマンドの場合は SCK のすべてのエッジで) のための入出力です。

WP# は内部のプルアップ抵抗に接続されています。外部に接続されていないとき、WP# は V_{IH} であり、クアッド モード、QPI モードまたは保護に使用されない場合、ホスト システムで開放にできます。

3.9 IO3 / RESET#

クアッド モード (CR1V[1]=1) または QPI モードが有効 (CR2V[3]=1) の間、IO3 はアドレスとプログラムされるデータ (SCK 信号の立ち上りエッジでラッチされる値) の受信およびデータのシフトアウト (SDR コマンドの場合は SCK の立ち下りエッジで、DDR コマンドの場合は SCK のすべてのエッジで) のための入出力に使用されます。

IO3/RESET# 機能が揮発性または不揮発性コンフィギュレーション レジスタ 2 のビット 7 の書き込み (CR2V[7]=1 または CR2NV[7]=1) により有効にされた場合、IO3/RESET# 入力はハードウェア リセット機能を開始するために使用できます。デバイスがクアッド モード (114, 144, 444) でないか (CR1V[1]=0)、または CS# が HIGH の場合、入力は RESET# としてのみ扱われます。クアッド モードのとき (CR1V[1]=1)、または QPI モードが有効 (CR2V[3]=1) であり、かつデバイスが CS# LOW で選択されている場合、IO3/RESET# は情報転送のために IO3 としてのみ使用されます。CS# が HIGH の場合、IO3/RESET# は情報転送のために使用されず、リセット入力として使用されます。クアッド モード (114, 144, 444) の間、CS# HIGH 時のリセット動作を調整することで、リセット機能を有効のままにできます。

システムがリセットの状態に入る場合、CS# 信号はリセット プロセスの一部として HIGH に駆動しなければならず、IO3/RESET# 信号は LOW に駆動されます。CS# が HIGH になったとき、IO3/RESET# 入力は IO3 である状態からリセット入力に遷移します。その後、CS# が HIGH のままであり、かつ IO3/RESET# 信号が t_{RP} の間 LOW のままである場合、リセット状態は検出されます。リセットが意図されていない場合、メモリへのデータの転送の終わりに、システムは IO3/RESET# と CS# を HIGH に駆動する必要があります。データをホスト システムへ転送した後、メモリは t_{CS} の間 IO3 を HIGH に駆動します。これにより、IO3/RESET#

は開放の状態にならず、内部あるいは外部のパッシブ プルアップ抵抗によって HIGH にゆっくりプルアップされません。したがって、t_{RP} が経過する前に IO3/RESET# が HIGH として認識されないことによる意図されないリセットはトリガーされません。

CR2V[7]=0 のとき、IO3/RESET# 入力リセット機能は無効です。

IO3/RESET# 入力は内部プルアップ抵抗に接続しており、クアッド モードまたはリセット機能に使用されない場合、ホスト システムで開放にできます。ホスト システムによる IO3/RESET# 信号の HIGH 駆動から信号の駆動停止の後、内部プルアップ抵抗が IO3/RESET# 信号を HIGH のままに維持します。

いずれかの SPI-MIO メモリがクアッド I/O モードで動作している場合、IO3/RESET# は 2 つ以上の SPI-MIO メモリによって共有できないことに注意してください。理由は、1 つの選択されたメモリとの間で駆動されている IO3 が、同じ IO3/RESET# 信号を共有している 2 番目の選択されないメモリによってリセット信号と認識される場合があるからです。

3.10 RESET#

RESET# 入力は、デバイスをハードウェア的にスタンバイ状態にリセットして、コマンドを受信できるようにします。RESET# が少なくとも t_{RP} の 1 周期の間論理 LOW (V_{IL}) に駆動されたとき、デバイスはハードウェア リセット プロセスを開始します。

RESET# は、電源投入時と同じ初期化プロセスを行い、t_{PU} 時間を要します。

RESET# はいつでも LOW にアサートできます。データ完全性を保証するために、デバイスがコマンド シーケンスを受けられるようになると、ハードウェア リセットにより中断された動作を再実行する必要があります。

RESET# は内部プルアップ抵抗に接続しており、ホスト システムで使用されない場合は開放のままにすることがあります。ホストシステムによる RESET 信号の HIGH 駆動から信号の駆動停止の後、内部プルアップ抵抗が RESET 信号を HIGH のままに維持します。

パッケージ オプションによって、RESET# 入力は利用できない場合があります。使用されないとき、デバイスの RESET# 入力は無効な状態にされます。

3.11 電源電圧 (V_{CC})

V_{CC} はすべてのデバイスの内部ロジックの電圧ソースです。読み出し , プログラム , 消去を含むデバイスのすべての内部機能に使用される単一の電圧です。

3.12 電源および信号グランド (V_{SS})

V_{SS} はデバイス コア , 入力信号レシーバ , および出力ドライバー用の共通電圧ドレインとグランド リファレンス電圧です。

3.13 未接続 (NC)

デバイスの内部信号はパッケージ コネクタに接続されず、信号にコネクタを使用する計画もありません。接続はプリント基板 (PCB) 上で信号の配線スペース向けに安全に使用できます。

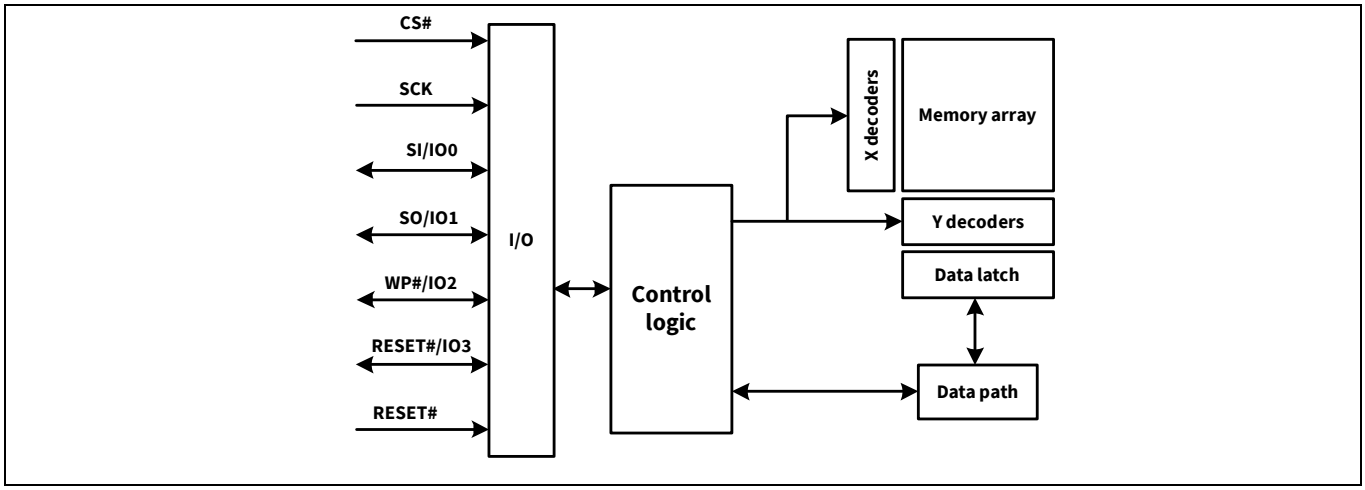
3.14 将来に使用するために予約済み (RFU)

現時点ではパッケージ コネクタに接続しているデバイスの内部信号はありませんが、将来コネクタを使用する可能性があります。RFU コネクタを PCB 配線チャネルに使用しないことを推奨します。それによって、PCB はフットプリントの互換性があるデバイスの将来の拡張機能を活用できます。

3.15 使用禁止 (DNU)

デバイスの内部信号がパッケージ コネクタに接続される可能性があります。接続はインフィニオンによってテスト用または他の目的で使用され、ホスト システムの信号に接続するためのものではありません。DNU 信号が V_{IL} のとき、DNU 信号に関連するすべての機能は無効になります。信号は内部プルダウン抵抗に接続され、ホスト システムで開放のままにされるか、または V_{SS} に接続できます。これらの接続を PCB 信号配線チャネルに使用しないでください。ホスト システム信号をこれらの信号に接続しないでください。

4 ブロック図



4.1 システム ブロック図

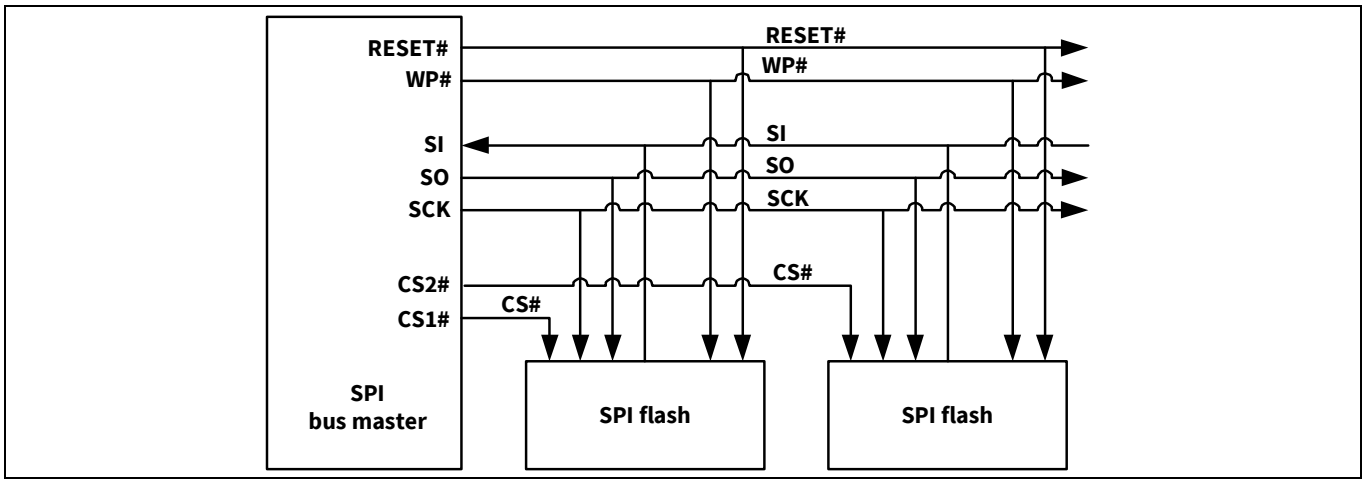


Figure 7 SPI バス上のバス マスターおよびメモリ デバイス - シングル ビット データ パス

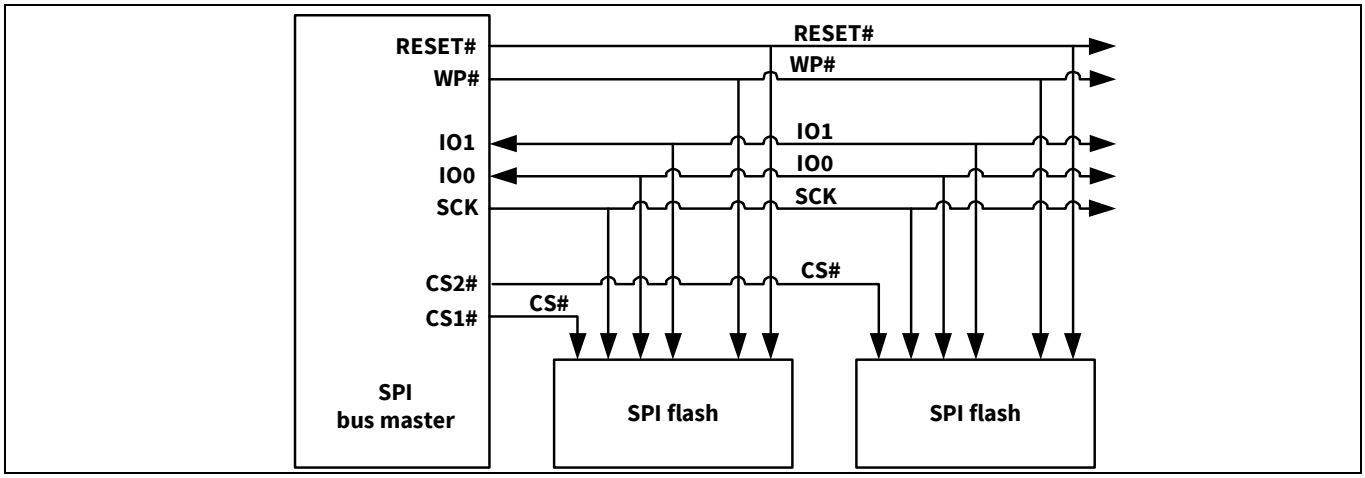


Figure 8 SPI バス上のバス マスターおよびメモリ デバイス - デュアル ビット データ パス

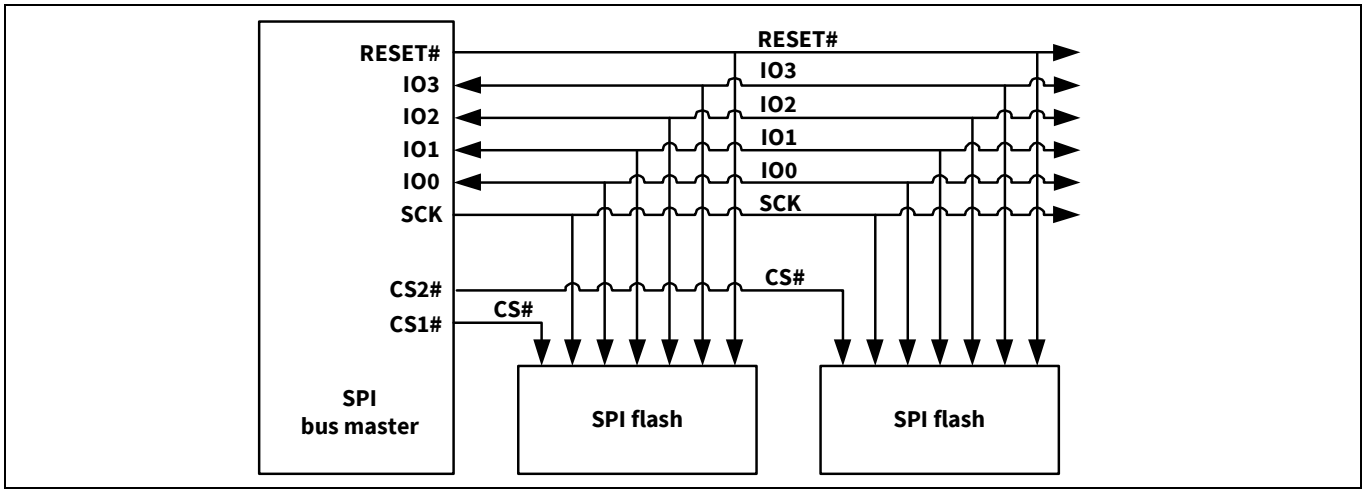


Figure 9 SPI バス上のバス マスターおよびメモリ デバイス - クアッド ビット データ パス - 個別 RESET#

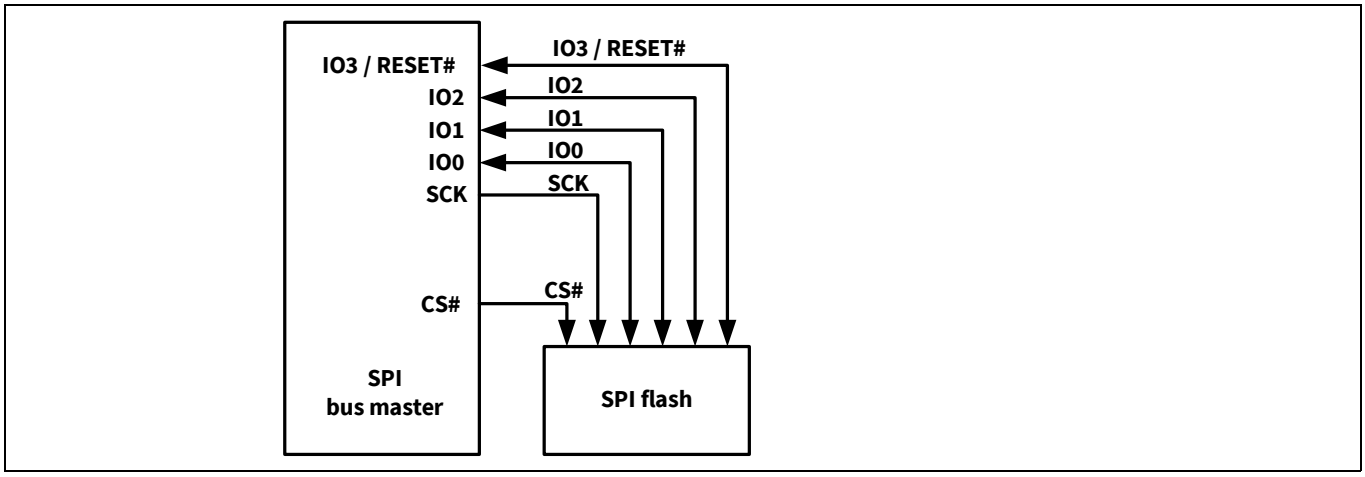


Figure 10 SPI バス上のバス マスターおよびメモリ デバイス - クアッド ビット データ パス - I/O3 / RESET#

5 信号プロトコル

5.1 SPI クロック モード

5.1.1 シングル データ レート (SDR)

FL-L ファミリは以下の 2 つのクロック モードのどちらかで、組込みマイクロコントローラー (バス マスター) によって駆動されます。

- **モード 0**: クロック極性 (CPOL) = 0、クロック位相 (CPHA) = 0
- **モード 3**: CPOL = 1、CPHA = 1

2 つのモードでは、デバイスへの入力データは常に SCK 信号の立ち上りエッジでラッチされ、出力データは常に SCK クロック信号の立ち下りエッジで得られます。

2 つのモードの異なる点は、バス マスターがスタンバイ モードであり、データを転送しないときのクロック極性です。

- CPOL = 0, CPHA = 0 のとき、SCK は論理 LOW の状態にあります。
- CPOL = 1, CPHA = 1 のとき、SCK は論理 HIGH の状態にあります。

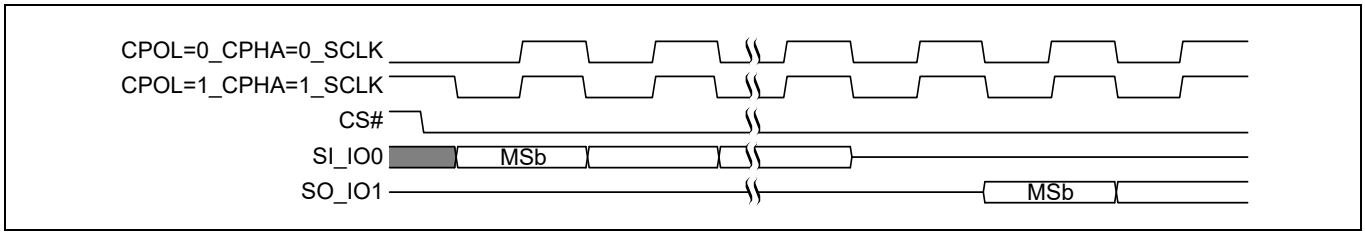


Figure 11 対応する SPI SDR モード

本文書の以降のタイミング図は、CS# の立ち下りのときに SCK が HIGH と LOW の両方として表示することにより、一般的にモード 0 とモード 3 の両方として示されます。場合によっては、タイミング図はモード 0 (CS# の立ち下り時に SCK が LOW) のみを示します。その場合において、モード 3 のタイミングは単に CS# の立ち下がりのときにクロックが HIGH であることを意味し、CS# の立ち下りエッジまでの SCK の立ち上りエッジのセットアップまたはホールド時間はモード 3 に必要がありません。

SCK サイクルは SCK の 1 つの立ち下りエッジから次の立ち下りエッジまで測定 (カウント) されます。モード 0 では、SCK がコマンドの開始時にすでに LOW であるため、コマンドの最初の SCK サイクルの始まりは CS# の立ち下りエッジから SCK の最初の立ち下りエッジまで測定されます。

5.1.2 ダブル データ レート (DDR)

モード 0 とモード 3 は DDR コマンドにも対応します。SDR コマンドと同様に DDR コマンドでは、命令ビットは常にクロックの立ち上りエッジでラッチされます。ただし、命令の後に続くアドレスおよび入力データは SCK の立ち上りエッジと立ち下りエッジの両方でラッチされます。最初のアドレス ビットは、直前の命令ビットの終わりの立ち下りエッジの後に続く SCK の最初の立ち上りエッジでラッチされます。出力データの最初のビットは、直前のアクセス レイテンシ (ダミー) サイクルの最後の立ち下りエッジで駆動されます。

SDR コマンドと同様に、SCK サイクルは SCK の 1 つの立ち下りエッジから次の立ち下りエッジまで測定 (カウント) されます。モード 0 では、SCK がコマンドの開始時にすでに LOW であるため、コマンドの最初の SCK サイクルの始まりは CS# の立ち下りエッジから SCK の最初の立ち下りエッジまで測定されます。

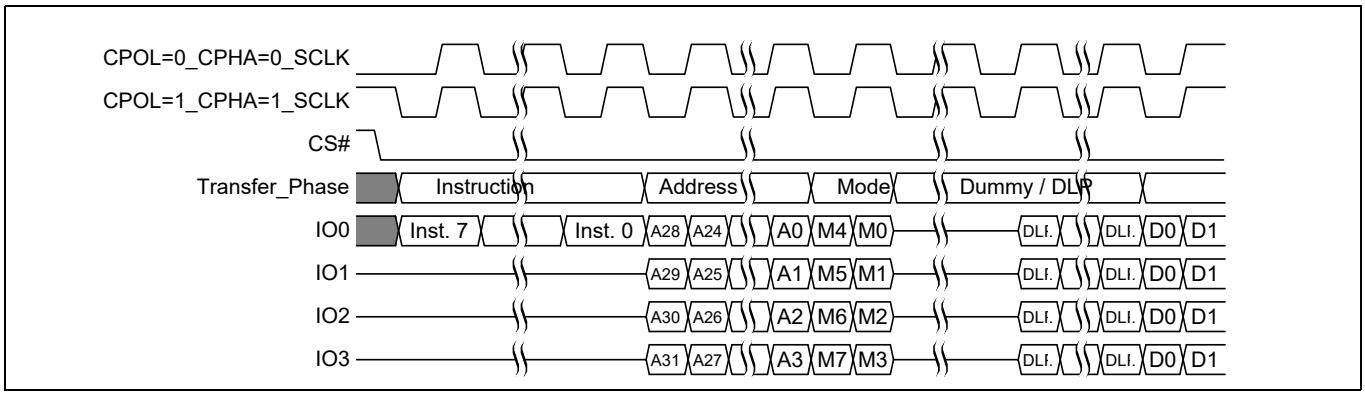


Figure 12 対応する SPI DDR モード

5.2 コマンド プロトコル

ホスト システムと FL-L ファミリ メモリ デバイスの間のすべての通信はコマンドの形で行われます。すべてのコマンドの定義および詳細はコマンドを参照してください。

すべてのコマンドは、情報転送のタイプ、または実行するデバイスの動作を選択する 8 ビットの命令で始まります。コマンドには、アドレス , 命令修飾子 , レイテンシ周期 , メモリへのデータ転送 , またはメモリからのデータ転送もあります。すべての命令 , アドレス , およびデータ情報はホスト システムとメモリ デバイスの間で順次に転送されます。

コマンド プロトコルは、下記 3 つのコマンド フェーズの転送幅を示すために 3 つの番号を使用する数値命名により分類されます。

- 命令
- アドレスおよび命令修飾子 (連続読み出しモード ビット)
- データ

シングル ビット幅コマンドは命令で開始し、SI 信号のみで送信されるアドレスまたはデータを提供します。データは SO 信号でホストへ順次戻されることがあります。シングル ビット幅命令 , シングル ビット幅アドレスおよび修飾子 , シングル ビット データ用の 1-1-1 コマンド プロトコルと呼ばれます。

デュアル出力またはクアッド出力のコマンドは SI (IO0) 上でシリアルとしてホストから送信されるアドレスを提供してからダミーサイクルを提供します。データは IO0 と IO1 信号上でビット ペア、または IO0, IO1, IO2, IO3 信号上で 4 ビット (ニブル) グループでホストへ戻されます。デュアル出力用の 1-1-2 コマンド プロトコル、またはクアッド出力用の 1-1-4 コマンド プロトコルと呼ばれます。

デュアルまたはクアッド入出力 (I/O) コマンドは、IO0 と IO1 信号上でビット ペア、または IO0, IO1, IO2, IO3 信号上で 4 ビット (ニブル) グループとしてホストから送信されるアドレスを提供してからダミー サイクルを提供します。データは同様に IO0 と IO1 信号上でビット ペア、または IO0, IO1, IO2, IO3 信号上で 4 ビット (ニブル) グループでホストへ戻されます。デュアル I/O 用の 1-2-2 コマンド プロトコル、またはクアッド I/O 用の 1-4-4 コマンド プロトコルと呼ばれます。

FL-L ファミリは、命令 , アドレス , 修飾子 , およびデータを含み、すべての情報が 4 ビットの幅で転送される QPI モードにも対応します。4-4-4 コマンド プロトコルと呼ばれます。

コマンドは以下のとおり構成されます。

- 各コマンドは CS# が LOW になることで開始され、CS# が HIGH に戻ることで終了されます。メモリ デバイスはホストがコマンドを通してチップ セレクト (CS#) 信号を LOW に駆動することで選択されます。
- シリアル クロック (SCK) はホストとメモリの間の各ビットまたは各ビット グループの転送を示します。
- 各コマンドは 8 ビット (バイト) の命令で始まります。命令は、情報転送のタイプ、または実行するデバイスの動作を選択します。命令の転送は SCK の立ち上りエッジで実行されます。ただし、いくつかの読み出しコマンドは、命令が前のコマンドから黙示的に示されるように、前の読み出しコマンドにより修正されます。連続読み出しモードと呼ばれます。デバイスが連続読み出しモードにあるとき、命令は連続読み出しモードを開始した読み出しコマンドと同じであるため、命令ビットはコマンドの始まりには送信されません。連続読み出しモードでは、コマンドは読み出しアドレスで開始されます。したがって、連続読み出しモードは一連の同じタイプの読み出しコマンドの各読み出しコマンドから 8 命令ビットを取り除きます。
- 命令は単独であるか、またはその後にデバイスの 1 つのアドレス空間内の位置を選択するアドレス ビットが続きます。命令は使用されるアドレス空間を決定します。アドレスは 24 ビットまたは 32 ビットのバイト境界アドレスです。アドレス転送は SDR コマンドでは SCK の立ち上りエッジで、DDR コマンドでは SCK の両エッジで実行されます。
- レガシー SPI モードでは、命令の後に続くすべての転送の幅は送信される命令により決められます。その次の転送は SI あるいはシリアル出力 (SO) 信号のみでのシングル ビット シリアル転送であり続けるか、IO0 と IO1 信号上の 1 回の (デュアル) 転送当たりに 2 ビット グループで、または IO0 ～ IO3 信号上の 1 回の (クアッド) 転送当たりに 4 ビット グループで実行されます。デュアルまたはクアッドのグループでは、最下位ビットは IO0 信号上にあります。そのビットに比べて上位である各ビットはより高い番号付きの IO 信号に有意の順序で (上位から下位へ) 配置されます。シングル ビットまたはパラレル ビット グループは最上位ビットから最下位ビットまでの順で転送されます。
- QPI モードでは、すべての転送の幅は IO0 ～ IO3 信号上の 4 ビット幅 (クアッド) 転送です。
- デュアルとクアッド I/O 読み出し命令は、次のコマンドが黙示の命令 (明示的な命令でなく) と同じタイプであるかどうかを示すために、アドレスの後に、連続読み出しモード ビットと呼ばれる命令修飾子を送信します。モード ビットは連続読み出しモードを開始させるか、または終了させます。そのため、連続読み出しモードでは、次のコマンドは命令のバイトを提供せずに新しいアドレスおよびモード ビットのみを提供します。これにより、一連のコマンドで同じタイプのコマンドが繰り返された場合、各コマンドの送信に必要な時間を削減できます。モード ビットの転送は SDR コマンドの場合、SCK の立ち上がりエッジで行われ、DDR コマンドの場合、すべての SCK エッジで行われます。
- アドレスまたはモード ビットの後、メモリ デバイスに保存される書き込みデータが続くか、または読み出しデータがホストに戻される前に読み出しレイテンシ周期が続く場合があります。
- 書き込みデータ ビットの転送は SDR コマンドの場合、SCK の立ち上りエッジで行われ、DDR コマンドの場合、すべての SCK エッジで行われます。
- SCK はすべての読み出しアクセス レイテンシ期間中は継続的にトグルします。レイテンシは 0 から数個の SCK サイクルです (ダミー サイクルとも呼ばれています)。最後の読み出しレイテンシ サイクルの終わりに、最初の読み出しデータ ビットが SCK 立ち下りエッジで出力から駆動されます。最初の読み出しデータ ビットは次の SCK 立ち上りエッジでホストへ転送されるものと見なされます。その次の転送は SDR コマンドの場合、次の SCK の立ち上りエッジで行われ、DDR コマンドの場合、すべての SCK エッジで行われます。
- コマンドが読み出しデータをホストへ戻す場合、デバイスはホストが CS# 信号を HIGH にするまで、継続的にデータを送信します。CS# 信号は読み出しデータ シーケンスの任意の転送の後、HIGH に駆動できます。これにより、コマンドは終了します。
- データを戻さないコマンドの終わりに、ホストは CS# 入力を HIGH に駆動します。CS# 信号はスタンドアロン命令または転送される最後の書き込みデータ バイトの 8 ビット目の転送後に HIGH にしなければいけません。すなわち、CS# 信号を HIGH に駆動するのは LOW に駆動された後のビット数が 8 ビットの整数倍となる場合に限ります。CS# 信号が命令または書き込みデータの 8 ビット境界できっかりに HIGH にならない場合、コマンドは拒否され、実行されません。
- すべての命令 , アドレス , およびモード ビットは最上位ビット (MSb) からデバイスにシフトインされます。デバイスとの間のデータ ビットのシフトイン / シフトアウトは MSb から行われます。すべてのデータ転送はバイトの単位で、最下位アドレス バイトから行われます。その次のデータ バイトは最下位アドレス バイトから最上位アドレス バイトまで (すなわち、バイト アドレスインクリメント) の順序で送信されます。
- プログラム , 消去 , あるいは書き込みサイクル (組込み動作) 中に、フラッシュ メモリ アレイを読み出そうとすると無視されます。組込み動作は何の影響も受けず、実行が継続されます。組込み動作中、ごく限られたコマンド セットは受け入れられます。各々のコマンド説明で記述します。
- コマンドによって実行時間が異なります。いつコマンドの実行が完了したか、およびコマンドが正常に完了したかどうかを判断するために、実行中のコマンドからステータス情報を読み出すコマンドが使用できます。

5.2.1 コマンド シーケンス例

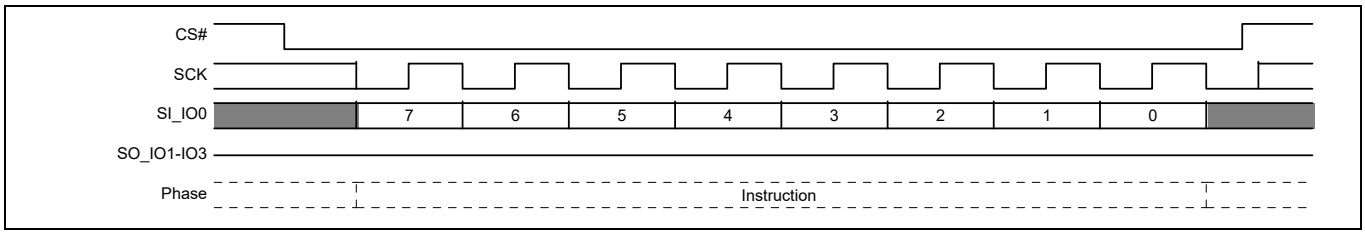


Figure 13 スタンドアロン命令コマンド

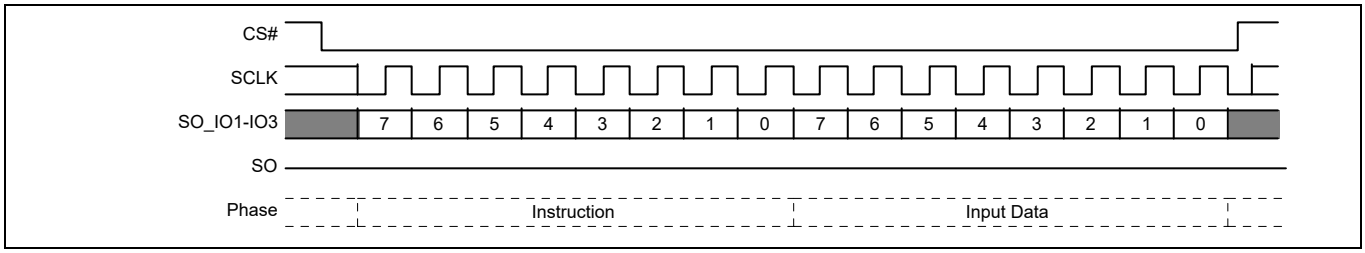


Figure 14 シングル ビット幅の入力コマンド

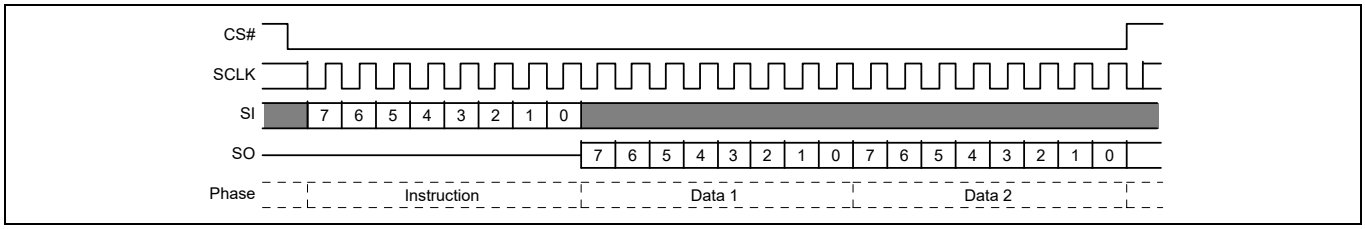


Figure 15 レイテンシなしのシングル ビット幅の出力コマンド

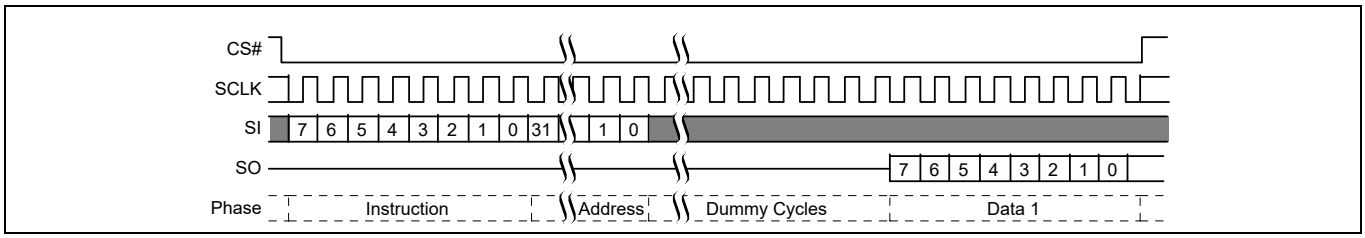


Figure 16 レイテンシ付きのシングル ビット幅の I/O コマンド

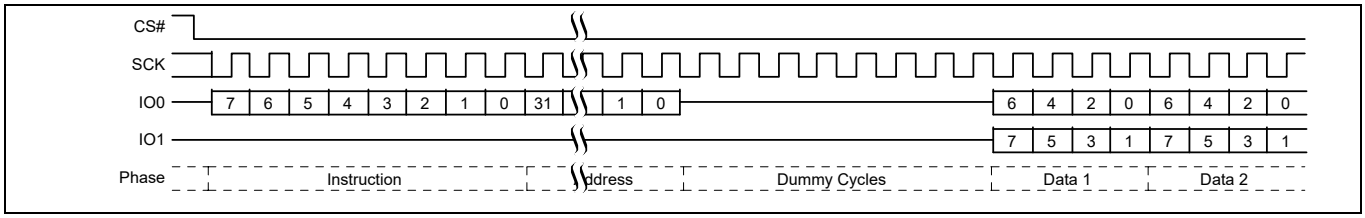


Figure 17 デュアル出力の読み出しコマンド

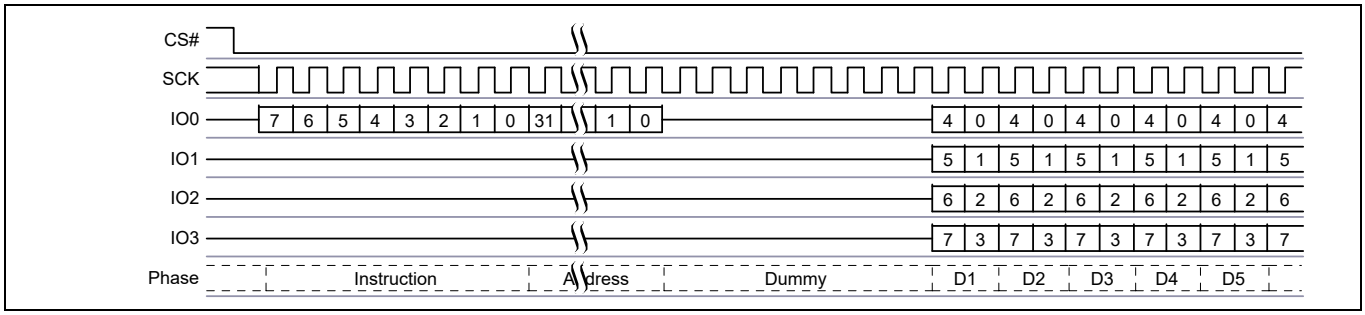


Figure 18 クアッド出力の読み出しコマンド

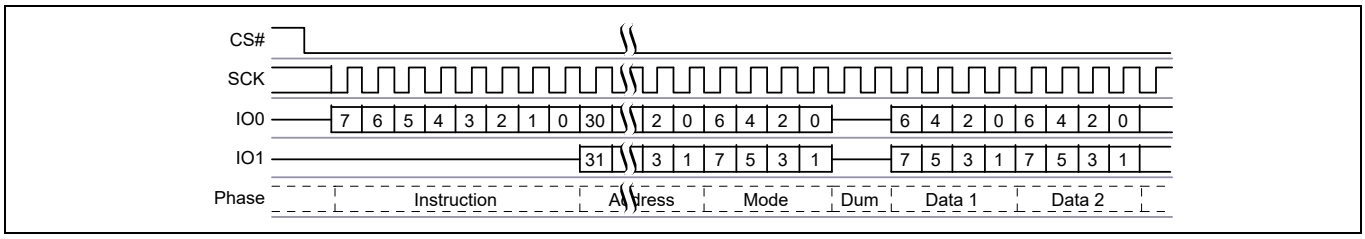


Figure 19 デュアル I/O コマンド

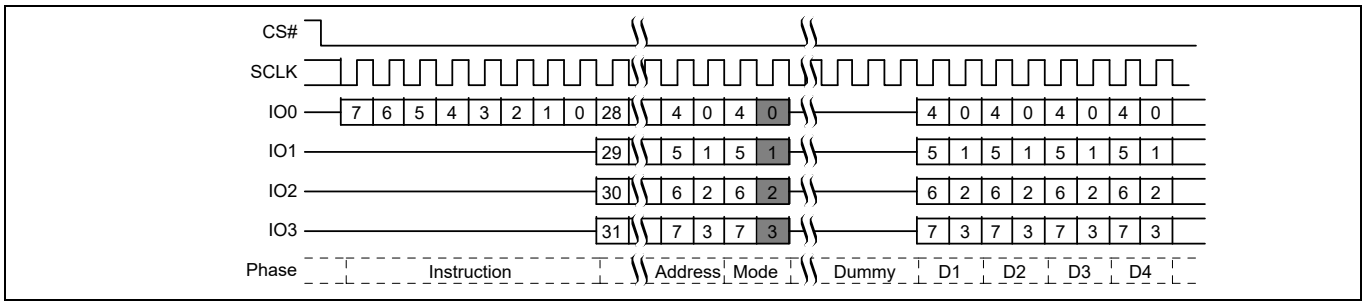


Figure 20 クアッド I/O コマンド [6]

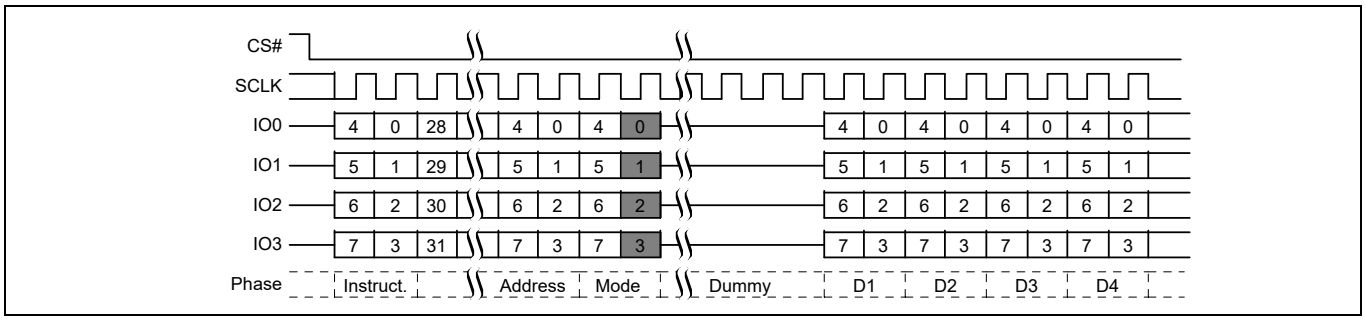


Figure 21 クアッド I/O 読み出しコマンド - QPI モード [6]

注

6. 灰色のビットはオプションのビットであり、ホストはそのサイクル中にそれらのビットを駆動する必要がありません。

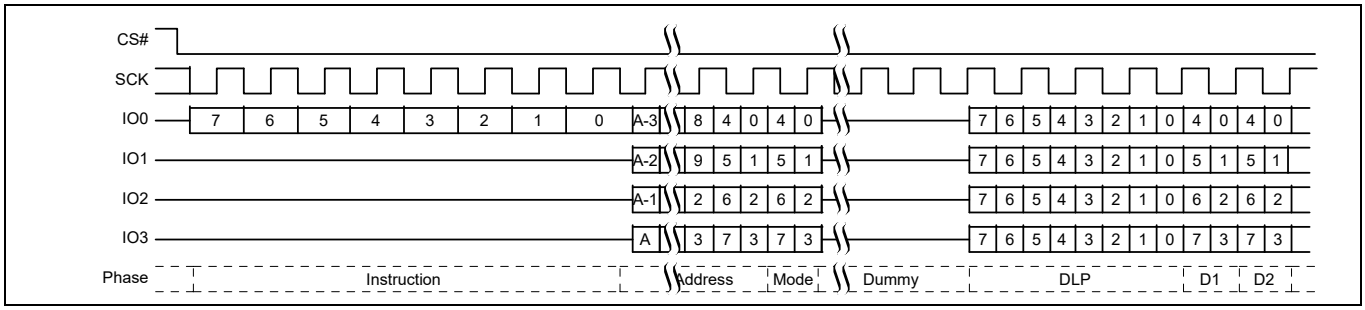


Figure 22 DDR クアッド I/O 読み出しコマンド

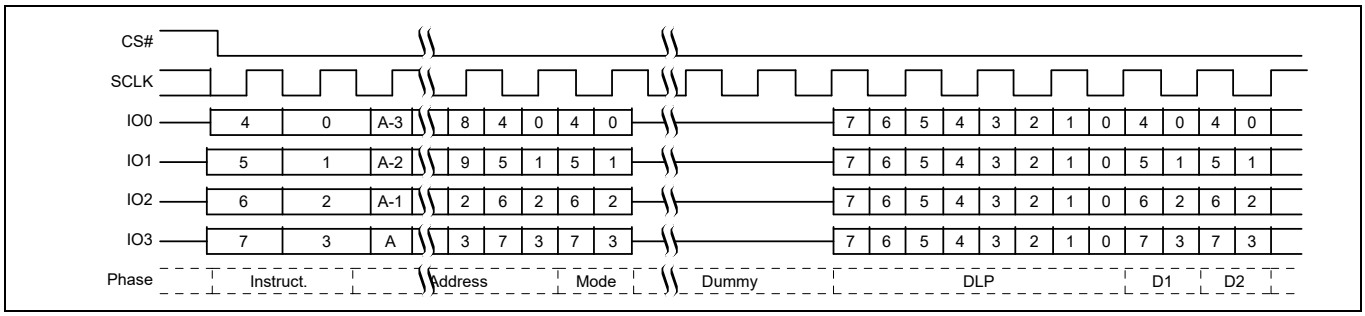


Figure 23 DDR クアッド I/O 読み出しコマンド - QPI モード

各コマンド特定の更なるシーケンス図はコマンド節で記述されます。

5.3 インターフェース状態

ここでは、SPI インターフェース動作に関連する入力と出力の信号レベルについて説明します。

Table 3 インターフェース状態のまとめ

インターフェース状態	V_{CC}	SCK	CS#	RESET#	IO3 / RESET#	WP# / IO2	SO / IO1	SI / IO0
電源切断	<V_{CC} (low)	X	X	X	X	X	Z	X
低消費電力 ハードウェア データ保護	<V_{CC} (cut-off)	X	X	X	X	X	Z	X
パワーオン (コールド) リセット	≥V_{CC} (min)	X	HH	X	X	X	Z	X
ハードウェア (ウォーム) リセット、 非クアッド モード	≥V_{CC} (min)	X	X	HL	HL	X	Z	X
ハードウェア (ウォーム) リセット、 クアッド モード	≥V_{CC} (min)	X	HH	HL	HL	X	Z	X
インターフェース スタンバイ	≥V_{CC} (min)	X	HH	HH	HH	X	Z	X
命令サイクル (レガシー SPI)	≥V_{CC} (min)	HT	HL	HH	HH	HV	Z	HV
シングル入力サイクル ホストからメモリへの転送	≥V_{CC} (min)	HT	HL	HH	HH	X	Z	HV
シングル レイテンシ (ダミー) サイクル	≥V_{CC} (min)	HT	HL	HH	HH	X	Z	X
シングル出力サイクル メモリからホストへの転送	≥V_{CC} (min)	HT	HL	HH	HH	X	MV	X
デュアル入力サイクル ホストからメモリへの転送	≥V_{CC} (min)	HT	HL	HH	HH	X	HV	HV
デュアル レイテンシ (ダミー) サイクル	≥V_{CC} (min)	HT	HL	HH	HH	X	X	X
デュアル出力サイクル メモリからホストへの転送	≥V_{CC} (min)	HT	HL	HH	HH	X	MV	MV
クアッド入力サイクル ホストからメモリへの転送	≥V_{CC} (min)	HT	HL	HH	HV	HV	HV	HV
クアッド レイテンシ (ダミー) サイクル	≥V_{CC} (min)	HT	HL	HH	X	X	X	X
クアッド出力サイクル メモリからホストへの転送	≥V_{CC} (min)	HT	HL	HH	MV	MV	MV	MV
DDR クアッド入力サイクル ホストからメモリへの転送	≥V_{CC} (min)	HT	HL	HH	HV	HV	HV	HV
DDR レイテンシ (ダミー) サイクル	≥V_{CC} (min)	HT	HL	HH	X	X	X	X
DDR クアッド出力サイクル メモリからホストへの転送	≥V_{CC} (min)	HT	HL	HH	MV	MV	MV	MV

凡例
Z = ドライバーなし - 開放信号
HL = ホスト駆動 V_{IL}
HH = ホスト駆動 V_{IH}
HV = HL または HH
X = HL または HH または Z
HT = HL と HH の間トグル
ML = メモリ駆動 V_{IL}
MH = メモリ駆動 V_{IH}
MV = ML または MH

5.3.1 電源切断

コア電源電圧が $V_{CC\ (Low)}$ 電圧以下の場合、デバイスは電源切断と見なされます。デバイスは外部信号に反応せず、あらゆるプログラムまたは消去動作を実行できません。

5.3.2 低消費電力のハードウェア データ保護

V_{CC} が $V_{CC\ (Cut\text{-}off)}$ を下回った場合、コア電源電圧が動作範囲外にあるときにプログラムおよび消去動作が開始できないようにするために、メモリ デバイスはコマンドを無視します。コア電源電圧が tPD 時間以上で VCC (Low) 電圧以下に維持してから $V_{CC\ (Minimum)}$ 以上に上がった場合、デバイスはパワー オン リセット (POR) プロセスを開始します。t_{PU} の終わりまで POR は続きます。t_{PU} 期間中に、デバイスは外部入力信号に反応せず、出力も駆動しません。t_{PU} が経過した後、デバイスはインターフェース スタンバイ状態に移行して、コマンドを受け入れられるようになります。POR の詳細はパワーオン (コールド) リセットを参照してください。

5.3.3 ハードウェア (ウォーム) リセット

デバイスがクアッド モードまたは QPI モードにないとき、またはデバイスがクアッド モード または QPI モードにありかつ CS# が HIGH のとき、IO3/RESET# をハードウェア リセット入力として使用できるようにするための設定オプションが提供されます。クアッド モードおよび QPI モードでは、いくつかのパッケージで別のリセット入力が提供されます (RESET#)。IO3/RESET# または RESET# を t_{RP} 時間 LOW に駆動した後、デバイスはハードウェア リセットのプロセスを開始します。プロセスは t_{RPH} 時間続きます。t_{RPH} と、RESET# の立ち上りの後に続くリセット ホールド時間 (t_{RH}) が両方とも経過した後、デバイスはインターフェース スタンバイ状態に移行して、コマンドを受け入れられるようになります。ハードウェア リセットの詳細はリセットを参照してください。

5.3.4 インターフェース スタンバイ

CS# が HIGH であるとき、SPI インターフェースはスタンバイ状態です。RESET# 以外の入力は無視されます。インターフェースは新しいコマンドの開始を待ちます。CS# が新しいコマンドを開始するために LOW になるとき、次のインターフェース状態は命令サイクルです。

インターフェース スタンバイ状態の間、進行中の組込みアルゴリズムがない場合、メモリ デバイスはスタンバイ電流 (ISB) を消費します。進行中の組込みアルゴリズムがある場合、対応する電流はアルゴリズムが終了するまで消費されます。その後、デバイス全体の消費電流はスタンバイ電流に戻ります。

5.3.5 命令サイクル (レガシー SPI モード)

ホストが命令の MSb を駆動し、かつ CS# が LOW になると、SCK の次の立ち上りエッジでデバイスは新しいコマンドを開始する命令の MSb を取り込みます。SCK の各々の次の立ち上りエッジでデバイスは、8 ビット命令の次の下位ビットを取り込みます。ホストは CS# を LOW に維持し、書き込み保護 (WP#) と IO3/RESET# 信号を命令の必要に応じて駆動します。しかし、WP# は、hWRR, WRAR コマンド , またはステータス レジスタ , コンフィギュレーション レジスタ , および DLR レジスタに影響を与える他のコマンドの命令サイクル中にのみ有効です。それ以外では無視されます。デバイスがクアッド モードでもなく (CR1V[1]=0) QPI モードでもない (CR2V[3]=0)、かつハードウェアリセットが不要なとき、IO3/RESET# は HIGH に駆動されます。

各命令は、操作するアドレス空間と、コマンドの残りで使用する転送フォーマットを選択します。転送フォーマットは、シングル , デュアル出力 , クアッド出力 , デュアル I/O, クアッド I/O, または DDR クアッド I/O です。起こりうる次のインターフェース状態は、受け取った命令によって異なります。

いくつかの命令はスタンドアロンであり、メモリとの間でアドレスまたはデータ転送を必要としません。ホストはこのようなコマンドでの命令の 8 番目のビットのための SCK の立ち上りエッジ後に CS# を HIGH に戻します。この場合、次のインターフェース状態はインターフェース スタンバイです。

5.3.6 命令サイクル (QPI mode)

QPI モードでは、CR2V[3]=1 のとき、命令は 1 サイクルごとに 4 ビット転送されます。このモードでは、命令サイクルはクアッド入力サイクルと同様です。QPP または QOR アドレス入力サイクルを参照してください。

5.3.7 シングル入力サイクル - ホストからメモリへの転送

いくつかのコマンドは、シングル シリアル入力 (SI) 信号上で命令の後に情報をホストからメモリ デバイスに転送します。ホストは RESET# を HIGH に、CS# を LOW に維持し、コマンドの必要に応じて SI を駆動します。メモリはシリアル出力 (SO) 信号を駆動しません。

予期される次のインターフェース状態は、命令によって異なります。いくつかの命令は、追加のシングル入力サイクルを使用して、メモリにアドレスまたはデータを送信し続けます。他の命令はシングル レイテンシ状態に遷移するか、またはシングル , デュアル , およびクアッドの出力サイクル状態に直接遷移します。

5.3.8 シングル レイテンシ (ダミー) サイクル

読み出しコマンドは、0 ～数レイテンシ サイクルがあります。それらのサイクルの間、読み出しデータはメイン フラッシュ メモリ アレイから読み出されてから、ホストに転送されます。レイテンシ サイクル数は、コンフィギュレーション レジスタ (CR3V[3:0]) 内のレイテンシ コードによって決まります。レイテンシ サイクル中に、ホストは RESET# と IO3/RESET# を HIGH に、CS# を LOW に維持し、SCK はトグルします。書き込み保護 (WP#) 信号は無視されます。ホストは、これらのサイクル中に SI 信号を駆動するか、または SI を開放のままにします。メモリは、レイテンシ サイクル中に SO またはその他の I/O 信号上で駆動されるデータを使用しません。レイテンシ サイクル中にメモリはシリアル出力 (SO) または I/O 信号を駆動しません。

次のインターフェース状態はコマンドの構造 (すなわち、レイテンシ サイクル数と、読み出しがシングル , デュアル , またはクアッド幅であるか) によって異なります。

5.3.9 シングル出力サイクル - メモリからホストへの転送

いくつかのコマンドは、シングル シリアル出力 (SO) 信号上でホストに情報を送り返します。ホストは RESET# と IO3/RESET# を HIGH に、CS# を LOW に維持します。書き込み保護 (WP#) 信号は無視されます。メモリはシリアル入力 (SI) 信号を無視します。メモリはデータを SO に駆動します。

ホストが CS# を HIGH に戻して、コマンドを終了させるまでは、次のインターフェース状態はシングル出力サイクルのままです。

5.3.10 デュアル入力サイクル - ホストからメモリへの転送

デュアル I/O 読み出しコマンドは、各サイクルで 2 つのアドレスまたはモード ビットをメモリに転送します。ホストは RESET# と IO3/RESET# を HIGH に、CS# を LOW に維持します。書き込み保護 (WP#) 信号は無視されます。ホストは SI/IO0 および SO/IO1 の上でアドレスを駆動します。

アドレスおよびモード ビットの送信後の次のインターフェース状態は、レイテンシ サイクルが必要であればデュアル レイテンシサイクルであり、レイテンシが必要でなければデュアル出力サイクルです。

5.3.11 デュアル レイテンシ (ダミー) サイクル

読み出しコマンドは、0 ～数レイテンシ サイクルがあります。それらのサイクルの間、読み出しデータはメイン フラッシュ メモリ アレイから読み出されてから、ホストに転送されます。レイテンシ サイクル数は、コンフィギュレーション レジスタ (CR3V[3:0]) 内のレイテンシ コードによって決まります 。レイテンシ サイクル中に、ホストは RESET# と IO3/RESET# を HIGH に、CS# を LOW に維持し、SCK はトグルし続けます。書き込み保護 (WP#) 信号は無視されます。ホストは、これらのサイクル中に SI/IO0 および SO/IO1 信号を駆動するか、または SI/IO0 および SO/IO1 を開放のままにします。メモリは、レイテンシ サイクル中に SI/IO0 および SO/IO1 上で駆動されるいかなるデータも使用しません。ホストは、最後のレイテンシ サイクルの終了時に SCK の立ち下りエッジで SI/IO0 および SO/IO1 の駆動を停止する必要があります。メモリがレイテンシ サイクルの終了後駆動を開始する前に、ホスト ドライバーがオフになるのに十分な時間を持つように、ホストがすべてのレイテンシ サイクルでそれらの信号の駆動を停止することが推奨されます。そうすることにより、信号方向が変わるときのホストとメモリとのドライバー衝突を防ぎます。メモリは、レイテンシ サイクル中に SI/IO0 および SO/IO1 信号を駆動しません。

最後のレイテンシ サイクルの後に続く次のインターフェース状態はデュアル出力サイクルです。

5.3.12 デュアル出力サイクル - メモリからホストへの転送

デュアル出力読み出しとデュアル I/O 読み出しは、各サイクルごとに 2 データ ビットをホストに戻します。ホストは RESET# と IO3/RESET# を HIGH に、CS# を LOW に維持します。書き込み保護 (WP#) 信号は無視されます。デュアル出力サイクル中に、メモリは SCK の立ち下りエッジで SI/IO0 および SO/IO1 信号上でデータを駆動します。

ホストが CS# を HIGH に戻して、コマンドを終了させるまでは、次のインターフェース状態はデュアル出力サイクルのままです。

5.3.13 QPP または QOR アドレス入力サイクル

クアッド ページ プログラムおよびクアッド出力読み出しコマンドは IO0 上でのみ、メモリにアドレスを送信します。他の IO 信号は無視されます。ホストは RESET# と IO3/RESET# を HIGH に、CS# を LOW に維持し、IO0 を駆動します。

QPP の場合、アドレス送信後の次のインターフェース状態はクアッド入力サイクルです。QOR の場合、アドレス送信後の次のインターフェース状態は、レイテンシ サイクルが必要であればクアッド レイテンシ サイクルであり、レイテンシが必要でなければクアッド出力サイクルです。

5.3.14 クアッド入力サイクル - ホストからメモリへの転送

クアッド I/O 読み出しコマンドは、各サイクルで 4 つのアドレスまたはモード ビットをメモリに転送します。QPI モードでは、クアッド I/O 読み出しとページ プログラム コマンドは、命令サイクルを含む各サイクルでメモリに 4 データ ビットを転送します。ホストは CS# を LOW に維持し、IO 信号を駆動します。

クアッド I/O 読み出しの場合、アドレスおよびモード ビットの送信後の次のインターフェース状態は、レイテンシ サイクルが必要であればクアッド レイテンシ サイクルであり、レイテンシが必要でなければクアッド出力サイクルです。QPI モード ページ プログラムの場合、ホストはプログラムされるデータの送信後に CS# を HIGH に戻し、インターフェースはスタンバイ状態に戻ります。

5.3.15 クアッド レイテンシ (ダミー) サイクル

読み出しコマンドは、0 ～数レイテンシ サイクルがあります。それらのサイクルの間、読み出しデータはメイン フラッシュ メモリ アレイから読み出されてから、ホストに転送されます。レイテンシ サイクル数は、コンフィギュレーション レジスタ (CR3V[3:0]) 内のレイテンシ コードによって決まります 。レイテンシ サイクル中に、ホストは CS# を LOW に維持し、SCK をトグルし続けます。ホストはこれらのサイクル中に IO 信号を駆動するか、または IO を開放のままにします。メモリはレイテンシ サイクル中に IO 上で駆動されるいかなるデータも使用しません。ホストは最後のレイテンシ サイクルの終了時に立ち下りエッジでの IO 信号の駆動を停止する必要があります。メモリがレイテンシ サイクルの終了後駆動を開始する前に、ホスト ドライバーがオフになるのに十分な時間を持つように、ホストがすべてのレイテンシ サイクルでそれらの信号の駆動を停止することが推奨されます。そうすることにより、信号方向が変わるときのホストとメモリとのドライバー衝突を防ぎます。レイテンシ サイクル中にメモリは IO 信号を駆動しません。

最後のレイテンシ サイクルの次のインターフェース状態はクアッド出力サイクルです。

5.3.16 クアッド出力サイクル - メモリからホストへの転送

クアッド出力とクアッド I/O 読み出しは、各サイクルごとに 4 データ ビットをホストに戻します。ホストは CS# を LOW に維持します。メモリはクアッド出力サイクル中に IO0 ～ IO3 信号上でデータを駆動します。

ホストが CS# を HIGH に戻して、コマンドを終了させるまでは、次のインターフェース状態はクアッド出力サイクルのままです。

5.3.17 DDR クアッド入力サイクル - ホストからメモリへの転送

DDR クアッド I/O 読み出しコマンドは、すべての IO 信号上でアドレスおよびモード ビットをメモリに送信します。各サイクルで 4 ビットは SCK の立ち上りエッジで、4 ビットは立ち下りエッジで転送されます。ホストは CS# を LOW に維持します。

アドレスとモード ビットの送信後の次のインターフェース状態は DDR レイテンシ サイクルです。

5.3.18 DDR レイテンシ サイクル

DDR 読み出しコマンドは 1 ～数レイテンシ サイクルがあります。それらのサイクルの間、読み出しデータはメイン フラッシュ メモリ アレイから読み出されてから、ホストに転送されます。レイテンシ サイクル数は、コンフィギュレーション レジスタ (CR3V[3:0]) 内のレイテンシ コードによって決まります 。レイテンシ サイクル中に、ホストは CS# を LOW に維持します。これらのサイクル中にホストは IO 信号を駆動しません。よって、メモリが駆動を開始する前に、ホスト ドライバーはオフになるのに十分な時間があります。そうすることにより、信号方向が変わるときのホストとメモリとのドライバー衝突を防ぎます。メモリは最後の 4 レイテンシ サイクル中にデータ ラーニング パターン (DLP) を使ってすべての IO 信号を駆動するオプションがあります。5 レイテンシ サイクル未満の場合、DLP オプションを有効にしてはいけません。その理由は、メモリが DLP の駆動を開始する前に IO 信号のターン アラウンドのために高インピーダンスのサイクルが少なくても 1 つあるようにするためです。4 サイクルより多くのレイテンシがある場合、メモリはレイテンシの最後の 4 サイクルまで IO 信号を駆動しません。

最後のレイテンシ サイクルの後に続く次のインターフェース状態は命令に応じて DDR クアッド出力サイクルです。

5.3.19 DDR クアッド出力サイクル - メモリからホストへの転送

DDR クアッド I/O 読み出しコマンドは、すべての IO 信号上でビットをホストに戻します。各サイクルで 4 ビットは SCK の立ち上りエッジで、4 ビットは立ち下りエッジで転送されます。ホストは CS# を LOW に維持します。

ホストが CS# を HIGH に戻して、コマンドを終了させるまでは、次のインターフェース状態は DDR クアッド出力サイクルのままです。

5.4 データ保護

保存されたデータへの意図的でない変更に対するいくつかの基本的な保護は単にハードウェア デザインで提供かつ制御されます。それらは以下で説明されます。ソフトウェアで制御する他の保護方法は本書のソフトウェアの節で説明されます。

5.4.1 電源投入

コア電源電圧が $V_{CC\ (Low)}$ 電圧以下の場合、デバイスは電源切断と見なされます。デバイスは外部信号に反応せず、あらゆるプログラムまたは消去動作を実行できないようにされます。t_{PU} 中にユーザーはあらゆる有効なコマンドを入力できません。

5.4.2 低消費電力

V_{CC} が $V_{CC\ (Cut\text{-}off)}$ を下回った場合、コア電源電圧が動作範囲外にあるときにプログラムおよび消去動作が開始できないようにするために、メモリ デバイスはコマンドを無視します。

5.4.3 クロック パルス数

デバイスはデータ変更のコマンドを実行する前に、どのコマンドも 8 ビット転送の倍数 (バイト境界) であるクロック パルス数から成ることを確認します。8 ビット (バイト) 境界で終わらないコマンドは無視され、そのコマンドに対してエラー状態がセットされません。

5.4.4 ディープ パワー ダウン (DPD)

DPD モードでは、デバイスは DPD 終了コマンド (RES ABh) のみに応答します。他のコマンドは DPD モードの間は無視されます。それによって、メモリはプログラムおよび消去動作から保護されます。IO3/RESET# 機能が有効になったとき (CR2V[7]=1)、または RESET# がアクティブになったとき、IO3/RESET# または RESET# が LOW になると、ハードウェア リセットが開始され、デバイスを DPD モードから解放します。

6 アドレス空間マップ

6.1 概要

6.1.1 拡張アドレス

FL-L ファミリは 32 ビット (4 バイト) アドレスに対応しており、24 ビット (3 バイト) アドレスだけに対応した前世代 (レガシー) の SPI デバイスに比べると、より高容量のデバイスを可能にします。24 ビット、バイト分解能のアドレスは、16MB (128Mb) の最大容量までしかアクセスできません。一方、32 ビット、バイト分機能のアドレスは、最大 4GB (32Gb) までのアドレス空間を直接アドレス指定できます。

レガシー コマンドはソフトウェア下位互換性のために 24 ビット アドレスの対応を継続しています。拡張 32 ビット アドレスは次の 2 つの方法によって有効にされます。

- 拡張アドレス モード : すべてのレガシー コマンドを、ホスト システムから供給される 32 ビット アドレスを期待するものに変更する、揮発性コンフィギュレーション レジスタ ビットです。
- 4 バイト アドレス コマンド: レガシー機能と常に32 ビット アドレスを期待する新機能の両方を実行します。

電源投入またはリセット後の拡張アドレス モードのデフォルト状態は不揮発性コンフィギュレーション ビットによって制御されます。デフォルト拡張アドレス モードは 24 または 32 ビットのアドレスに設定できます。これにより、デバイスの最初の 128Mb へのレガシー ソフトウェア互換アクセスが可能になるか、またはデバイスが 32 ビット アドレス モードで直接起動できます。

6.1.2 複数のアドレス空間

多くのコマンドはメイン フラッシュ メモリ アレイ上で動作します。メイン フラッシュ アレイから独立したアドレス空間で動作するコマンドもいくつかあります。それぞれ独立したアドレス空間は完全な 24 ビットか 32 ビット アドレスを使用しますが、利用可能なアドレス空間の小さな部分のみを定義することもできます。

6.2 フラッシュ メモリ アレイ

メイン フラッシュ アレイは物理ブロック (64KB)、ハーフ ブロック (32KB) およびセクタ (4KB) と呼ばれるユニフォーム消去ユニットに分割されています。

Table 4 S25FL064L セクタ アドレス マップ

ブロック サイズ (KB)	ブロック数	ブロック範囲	ハーフ ブロック サイズ (KB)	ハーフ ブロック数	ハーフ ブロック範囲	セクタ サイズ (KB)	セクタ数	セクタ範囲	アドレス範囲 (バイト アドレス)	備考
64	1	BA00	32	1	HBA00	4	1	SA00	0000000h ～ 0000FFFh	セクタ開始アドレス – セクタ終了アドレス
			:	:	:	:	:	:	:	
			32	2	HBA01	4	16	SA15	000F000h ～ 000FFFFh	
:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	
64	128	BA127	32	255	HBA254	4	2032	SA2031	07F0000h ～ 07F0FFFh	
			:	:	:	:	:	:	:	
			32	256	HBA255	4	2048	SA2047	07FF000h ～ 07FFFFFh	

6.3 ID アドレス空間

RDID コマンド (9Fh) はデバイス識別子 (ID) のために個別のフラッシュ メモリ アドレス空間から情報を読み出します。ID アドレス空間の内容を定義する表は、デバイス ID アドレス マップを参照してください。ID アドレス空間はインフィニオンによってプログラムされ、ホスト システムからは読み出し専用です。

6.3.1 固有デバイス ID

64 ビットの固有の番号が固有デバイス ID アドレス空間の 8 バイトに位置しています。Table 44 を参照してください。固有 ID はデバイス固有のソフトウェア読み出し可能なシリアル番号として使用できます。

6.4 JEDEC JESD216 シリアル フラッシュ検出可能パラメーター (SFDP) 空間

RSFDP コマンド (5Ah) はシリアル フラッシュ検出可能パラメーター向けの JEDEC JESD216 規格に準拠して、デバイス ID, 機能 , およびコンフィギュレーション情報のために個別のフラッシュ メモリ アドレス空間から情報を読み出します。ID アドレス空間は SFDP パラメーターの 1 つとして組み込まれています。SFDP アドレス空間の内容を定義する表は、JEDEC JESD216B シリアル フラッシュ検出可能パラメーターを参照してください。SFDP アドレス空間はインフィニオンによってプログラムされ、ホスト システムからは読み出し専用です。

6.5 セキュリティ領域アドレス空間

各 FL-L ファミリ メモリ デバイスにはメイン フラッシュ アレイから独立した 1024 バイトのセキュリティ領域アドレス空間があります。セキュリティ領域エリアは 4 つの単独にロック可能な 256 バイト の領域に分割されています。セキュリティ領域のメモリ空間は、プログラムまたは消去から一時的に保護される情報または永久的にロックされる情報を格納するためのものです。

インフィニオンから出荷されるときに領域のデータ バイトは FFh に消去されています。保護またはロックされていないとき、領域は他のフラッシュ メモリ アドレス空間と同じようにプログラムと消去ができます。それぞれの領域を個別に消去できます。セキュリティ領域ロック ビット (CR1NV[5:2]) はコンフィギュレーション レジスタ 1 に位置しています。セキュリティ領域ロック ビットはワン タイム プログラマブル (OTP) のビットであり、プログラム (1 にセット) された後、ロック ビットは関連領域を消去またはプログラムから永久的に保護します。

また領域 2 と領域 3 は、保護レジスタ (PR) の NVLOCK ビットによってプログラムと消去からの一時的な保護機能があります。NVLOCK ビットは揮発性ビットであり、IRP ロジックとコマンドによってセットまたはクリアされます。保護レジスタ (PR) を参照してください。

IRP レジスタでのセキュリティ領域パスワード保護ビット (IRP[2]) はパスワードが提供されるまで領域 2 と領域 3 をプログラムおよび消去動作から保護できます。IRP レジスタでのセキュリティ領域読み出し保護ビット (IRP[6]) はパスワードが提供されるまで領域 3 を読み出し動作から保護できます。読み出し保護領域から読み出そうとすると、無効で未定義のデータが返されます。個別および領域保護レジスタ (IRP) を参照してください。

ロックまたは保護された領域で消去またはプログラムしようとすると、動作が失敗し、SR2V[6:5] での P_ERR ビットまたは E_ERR ビットが 1 にセットされます (詳細は揮発性ステータス レジスタ 2 (SR2V) を参照してください)。

Table 5 セキュリティ領域アドレス マップ

領域	バイト アドレス範囲 (16 進)	工場出荷初期状態 (16 進)
領域 0	000 ～ 0FF	全バイト = FF
領域 1	100 ～ 1FF	全バイト = FF
領域 2	200 ～ 2FF	全バイト = FF
領域 3	300 ～ 3FF	全バイト = FF

6.6 レジスタ

レジスタは、FL-L ファミリ メモリ デバイスの動作方法を設定する、またはデバイス動作のステータスを報告するために使用されるメモリ セルの小さなグループです。レジスタは特定のコマンドによりアクセ

スされます。レジスタに使用されるコマンド (と 16 進の命令コード) は各レジスタの説明に記載しています。

レガシー SPI メモリ デバイスでは、個別レジスタ ビットは同じレジスタ内で、揮発性 , 不揮発性 , またはワンタイム プログラマブル (OTP) ビットが混在しています。コンフィギュレーション オプションによってはレジスタ ビットのタイプは変更可能です (例えば、不揮発性から揮発性に変更できます)。

FL-L ファミリは異なるレジスタ ビットのタイプを実装するために個別の不揮発性または揮発性メモリ セル グループ (領域) を使用します。ただし、レガシー ソフトウェアとの互換性のために、レガシー レジスタとコマンドは以前と変わらず対応され、動作し続けます。レガシー レジスタに揮発性ビットがある場合、またはレガシー レジスタを読み出すコマンドの読み出しレイテンシがゼロの場合、各レガシー レジスタには不揮発性と揮発性バージョンが存在します。そのようなレジスタが読み出されるとき、レジスタの揮発性バージョンが提供されます。パワー オン リセット (POR), ハードウェア リセット , またはソフトウェア リセットの間、揮発性レジスタのデフォルト状態を提供するために、レジスタの不揮発性バージョンは揮発性バージョンにコピーされます。不揮発性レジスタ ビットが書き込まれたとき、レジスタの不揮発性バージョンは消去され、新しいビット値でプログラムされ、その後、揮発性バージョンは不揮発性バージョンの新しい内容で更新されます。OTP ビットがプログラムされると、レジスタの不揮発性バージョンがプログラムされ、レジスタの揮発性バージョン中の適切なビットが更新されます。揮発性レジスタ ビットが書き込まれたとき、レジスタの揮発性バージョンのみは適切なビットが更新されます。

各ビットのタイプはそれぞれのレジスタの説明に記載されています。ビットが揮発性である場合、各ビットのデフォルト状態はパワー オン リセット , ハードウェア リセット , またはソフトウェア リセットの後の状態です。ビットが不揮発性または OTP である場合、デフォルト状態はインフィニオンから出荷されたときのビット値です。不揮発性レジスタに書き込む際には、途切れない安定した電源が必要となることに特に注意してください。これにより、正しいデータがレジスタに書き込まれることが保証されます。

Table 6 レジスタの説明

レジスタ	タイプ	ビット	略語
ステータス レジスタ 1	不揮発性	7:0	SR1NV[7:0]
	揮発性	7:0	SR1V[7:0]
ステータス レジスタ 1	揮発性	7:0	SR2V[7:0]
コンフィギュレーション レジスタ 1	不揮発性 /OTP	7:0	CR1NV[7:0]
	揮発性	7:0	CR1V[7:0]
コンフィギュレーション レジスタ 2	不揮発性	7:0	CR2NV[7:0]
	揮発性	7:0	CR2V[7:0]
コンフィギュレーション レジスタ 3	不揮発性	7:0	CR3NV[7:0]
	揮発性	7:0	CR3V[7:0]
個別および領域保護レジスタ	OTP	15:0	IRP[15:0]
パスワード レジスタ	OTP	63:0	PASS[63:0]
個別ブロック ロック アクセス レジスタ	揮発性	7:0	IBLAR[7:0]
ポインター領域保護レジスタ	不揮発性	31:0	PRPR[31:0]
DDR データ ラーニング レジスタ	OTP	7:0	DLRNV[7:0]
	揮発性	7:0	DLRV[7:0]

6.6.1 ステータス レジスタ 1

6.6.1.1 不揮発性ステータス レジスタ 1 (SR1NV)

関連コマンド : 不揮発性書き込みイネーブル (WREN 06h), 書き込みディセーブル (WRDI 04h), レジスタ書き込み (WRR 01h), 任意レジスタ読み出し (RDAR 65h), 任意レジスタ書き込み (WRAR 71h)。

Table 7 不揮発性ステータス レジスタ 1 (SR1NV)

ビット	フィールド名	機能	タイプ	デフォルト状態	説明
7	SRP0_NV	ステータス レジスタ保護 0 デフォルト	不揮発性	0	SRP0 のデフォルト状態を示します。
6	SEC_NV	セクタ / ブロック保護	不揮発性	0	SEC のデフォルト状態を示します。
5	TBPROT_NV	TBPROT デフォルト	不揮発性	0	TBPROT のデフォルト状態を示します。
4	BP_NV2	レガシー ブロック保護デフォルト	不揮発性	000b	BP ビットのデフォルト状態を示します。
3	BP_NV1				
2	BP_NV0				
1	WEL_D	WEL デフォルト	不揮発性 読み出し専用	0	WEL ステータスのデフォルト状態を示します。ユーザーによってプログラムできません。
0	WIP_D	WIP デフォルト	不揮発性 読み出し専用	0	WIP ステータスのデフォルト状態を示します。ユーザーによってプログラムできません。

不揮発性ステータス レジスタ保護 (SRP0_NV) SR1NV[7]: SRP0 のデフォルト状態を示します。ステータス レジスタ保護 (SRP1, SRP0) を参照してください。

セクタ / ブロック保護 (SEC_NV) SR1NV[6]: SEC のデフォルト状態を示します。各ビットのタイプは、各レジスタの説明に記載されています。各ビットに示されているデフォルトの状態は、パワーオン リセット , ハードウェア リセット , またはビットが揮発性の場合はソフトウェア リセット後の状態を指します。ビットが不揮発性または OTP の場合、デフォルト状態はデバイスがインフィニオンから出荷されたときのビットの値です。不揮発性レジスタに書き込むときは、中断のない安定した電源が供給されていることに特別な注意を払う必要があります。これにより、正しいデータがレジスタに書き込まれることが保証されます。

最上部 / 最下部保護 (TBPROT_NV) SR1NV[5]: TBPROT のデフォルト状態を示します。

レガシー ブロック保護 (BP_NV3, BP_NV2, BP_NV1, BP_NV0) SR1NV[4:2]: BP_2 ～ BP_0 ビットのデフォルト状態を示します。

書き込み イネーブル ラッチ デフォルト (WEL_D) SR1NV[1]: SR1V[1] での WEL ステータスのデフォルト状態を示します。ビットはインフィニオンによってプログラムされ、ユーザーはプログラムできません。

書き込み中デフォルト (WIP_D) SR1NV[0]: SR1V[0] での WIP ステータスのデフォルト状態を示します。ビットはインフィニオンによってプログラムされ、ユーザーはプログラムできません。

6.6.1.2 揮発性ステータス レジスタ 1 (SR1V)

関連コマンド : ステータス レジスタ 1 読み出し (RDSR1 05h), 揮発性レジスタの書き込みイネーブル (WRENV 50h), レジスタ書き込み (WRR 01h), ステータス レジスタ クリア (CLSR 30h), 任意レジスタ読み出し (RDAR 65h), 任意レジスタ書き込み (WRAR71h)。これは RDSR1 コマンドの実行で表示されるレジスタです。

Table 8 揮発性ステータス レジスタ 1 (SR1V)

ビット	フィールド名	機能	タイプ	デフォルト状態	説明
7	SRP0	ステータス レジスタ保護 0	揮発性	SR1NV	1=WP# が LOW のとき、SR1NV, SR1V, CR1NV, CR1V, CR2NV, CR2V, CR3NV, DLRNV, DLRV に影響するどのコマンドも実行しないことで、SR1NV, SR1V, CR1NV, CR1V, CR2NV, CR2V, CR3NV, DLRNV, DLRV の状態をロックします。 0=WP# が LOW になってもレジスタを保護しません。
6	SEC	セクタ / ブロック保護	揮発性		0=BP2 ～ BP0 は 64kB ブロックを保護します。 1=BP2 ～ BP0 は 4kB セクタを保護します。
5	TBPROT	最上部 / 最下部関連保護	揮発性		1=BP が下部 (低いアドレス) から開始します。 0=BP が上位 (高いアドレス) から開始します。
4	BP2	レガシー ブロック保護揮発性	揮発性		セクタ (ブロック) の選択した範囲をプログラム / 消去から保護します。
3	BP1				
2	BP0				
1	WEL	書き込みイネーブル ラッチ	揮発性読み出し専用		0= 書き込みは無効で、組込み動作は開始できません。 1= 書き込みは有効で、組込み動作は開始できます。このビットは WRR または WRAR コマンドに影響されず、WREN, WRENV, WRDI, および CLSR コマンドにのみ影響されます。
0	WIP	書き込み中	揮発性読み出し専用		1= デバイスはビジーであり、プログラムや消去などの組込み動作が処理中です。 0= デバイスはスタンバイ モードでレディであり、コマンドを受け入れられます。 このビットは WRR または WRAR コマンドに影響されず、WIP 状態のみを示します。

ステータス レジスタ保護 0 (SRP0) SR1V[7]: ビットが「1」にセットされ、WP# 入力が LOW に駆動されると、デバイスはハードウェア保護モードに入ります。このモードでは、ステータス レジスタまたはコンフィギュレーション レジスタを変更するコマンドはすべて無視され、実行のためには受け入れられず、ステータス レジスタとコンフィギュレーション レジスタ SR1NV, SR1V, CR1NV, CR1V, CR2NV, CR2V, CR3NV, DLRNV および DLRV を読み出し専用レジスタにすることで、レジスタのビットの状態を効果的にロックします。WP# が HIGH の場合、ステータス レジスタおよびコンフィギュレーション レジスタ SR1NV, SR1V, CR1NV, CR1V, CR2NV, CR2V, CR3NV, DLRNV, g および DLRV は変更可能です。WP# は他のレジスタの書き込みに影響しません。SRP0 は不揮発性バージョン (SRP0_NV) に対する変更を追跡します。QPI または QIO モードが有効 (CR2V[3] または CR1V[1] が 1) になる場合、WP# の外部入力が IO2 として使用されるため、内部の WP# 信号レベルは 1 になります。これにより、ハードウェア保護機能が効果的にオフにされます。SR1NV, SR1V, CR1NV, CR1V, CR2NV, CR2V, CR3NV, DLRNV, および DLRV レジスタはロックされずに書き込み可能になります。ステータス レジスタ保護 (SRP1, SRP0) を参照してください。

セクタ / ブロック保護 (SEC) SR1V[6]: このビットは、ブロック保護ビット (BP2, BP1, BP0) が 4kB セクタ (SEC=「1」) または 64kB ブロック (SEC=「0」) を保護するかどうかを制御します。SEC ビット値が保護対象のメモリ アレイ領域をどのように選択するかは、レガシー ブロック保護を参照してください。

TBPROT SR1V[5]: このビットは、ステータス レジスタのレガシー ブロック保護ビット (BP2, BP1, BP0) の参照点を定義します。ステータス レジスタの節で説明したとおり、BP2 ～ 0 ビットを使用すると、ユーザーはアレイの一部 (1/64, 1/4, 1/2 など) から全部までオプションとして保護できます。TBPROT が「0」にセットされた場合、レガシー ブロック保護の開始アドレスは最上部 (最大アドレス) になります。TBPROT が「1」にセットされた場合、レガシー ブロック保護の開始アドレスは最下部 (ゼロ アドレス) になります。TBPROT は不揮発性バージョン (TBPROT_NV) に対する変更を追跡します。

レガシー ブロック保護 (BP2, BP1, BP0) SR1V[4:2]: これらのビットは、プログラムおよび消去コマンドから保護されるメインフラッシュ アレイ領域を定義します。BP ビット値が保護対象のメモリ アレイ領域を選択する方法については、レガシー ブロック保護を参照してください。

書き込みイネーブル ラッチ (WEL) SR1V[1]: メモリやレジスタ値への不注意による意図しない変更に対する保護手段として、プログラム , 書き込み , または消去動作を可能にするためには WEL ビットを「1」にセットする必要があります。書き込みイネーブル (WREN) コマンドを実行すると、書き込みイネーブル ラッチを「1」にセットし、その後のすべてのプログラム , 消去 , または書き込みコマンドの実行を可能にします。書き込みディセーブル (WRDI) コマンドは書き込みイネーブル ラッチを「0」にセットし、すべてのプログラム , 消去 , および書き込みコマンドの実行を防止します。WEL ビットはプログラム , 書き込み , または消去動作が正常に終了すると「0」にクリアされます。処理が正常に終了しない場合、WEL ビットはセットされたままとなり、CLSR コマンドでクリアする必要があります。電源切断 / 電源投入シーケンス , ハードウェア リセット , またはソフトウェア リセットの後、書き込みイネーブル ラッチは WEL_D にセットされます。WRR または WRAR コマンドはこのビットには影響しません。

書き込み中 (WIP) SR1V[0]: デバイスがプログラム , 書き込み , 消去動作 , またはその他の動作を実行しているかどうかを示し、この間は新しい動作コマンドを無視します。このビットが「1」にセットされると、デバイスは処理の実行でビジーになっていることを示します。WIP が「1」のときに許可されるコマンドは、ステータス読み出し (RDSR1 または RDSR2), 任意レジスタ読み出し (RDAR), 消去 / プログラム一時停止 (EPS), ステータス レジスタ クリア (CLSR), およびソフトウェア リセット (RSTEN 66h に続いて RST 99h) コマンドだけです。EPS コマンドは、メモリ アレイが消去やプログラム中のみ許可されます。ステータス レジスタの E_ERR と P_ERR ビットは WIP が「1」のときに更新されます。P_ERR または E_ERR ビットが「1」にセットされたとき、WIP ビットは「1」にセットされたままで、デバイスがまだビジーの状態で新しい動作のコマンドを受信できないことを示します。デバイスをスタンバイ モードに戻らせるためにステータス レジスタ クリア (CLSR) コマンドを受信しなければいけません。WIP ビットが「0」にクリアされたとき、進行中の処理はありません。読み出し専用ビットです。

6.6.2 揮発性ステータス レジスタ 2 (SR2V)

関連コマンド : ステータス レジスタ 2 読み出し (RDSR2 07h), 任意レジスタ読み出し (RDAR 65h)。ステータス レジスタ 2 はユーザー プログラム可能な不揮発性ビットを持っていません。定義されたすべてのビットは揮発性読み出し専用の状態にあります。ビットのデフォルト状態はハードウェアにより設定されます。

Table 9 揮発性ステータス レジスタ 1 (SR2V)

ビット	フィールド名	機能	タイプ	デフォルト状態	説明
7	RFU	予約済み	–	0	将来使用するために予約済み
6	E_ERR	消去エラー発生	揮発性 読み出し専用	0	1 = エラーが発生 0 = エラーなし
5	P_ERR	プログラムエラー発生	揮発性 読み出し専用	0	1 = エラーが発生 0 = エラーなし
4	RFU	予約済み	–	0	将来使用するために予約済み
3	RFU	予約済み	–	0	将来使用するために予約済み
2	RFU	予約済み	–	0	将来使用するために予約済み
1	ES	消去一時停止	揮発性 読み出し専用	0	1 = 消去一時停止モード 0 = 消去一時停止モードではない
0	PS	プログラム一時停止	揮発性 読み出し専用	0	1 = プログラム一時停止モード 0 = プログラム一時停止モードではない

消去 エラー (E_ERR) SR2V[6]: 消去エラー ビットは消去動作が成功したか失敗したかを示すために使用されます。消去エラー ビットが「1」にセットされたとき、直前の消去動作にエラーが発生したことを示します。また、ユーザーが個別の保護されたメインメモリ セクタまたはロックされたセキュリティ領域を消去しようとするときにもビットはセットされます。チップ消去コマンド実行中に保護されたセクタを検出すると、E_ERR ビットはセットされます。消去エラー ビットが「1」のとき、ステータス レジスタ クリア (CLSR) コマンドで「0」にクリアできます。読み出し専用ビットであり、WRR または WRAR コマンドに影響されません。

プログラム エラー (P_ERR) SR2V[5]: プログラム エラー ビットはプログラム動作が成功したか失敗したかを示すために使用されます。プログラム エラー ビットが「1」にセットされたとき、直前のプログラム動作にエラーが発生したことを示します。また、ユーザーが保護されたメイン メモリ セクタまたはロックされたセキュリティ領域をプログラムしようとするときにもビットはセットされます。プログラム エラー ビットが「1」のとき、ステータス レジスタ クリア (CLSR) コマンドで「0」にクリアできます。読み出し専用ビットであり、WRR または WRAR コマンドに影響されません。

消去一時停止 (ES) SR2V[1]: 消去一時停止ビットは、いつデバイスが消去一時停止モードに入るかを決めるために使用されます。ステータス ビットであり、ユーザーは書き込めません。消去一時停止ビットが「1」にセットされたとき、デバイスは消去一時停止モードになります。消去一時停止ビットが「0」にクリアされたとき、デバイスは消去一時停止モードになりません。消去一時停止 / 再開コマンドの詳細は、プログラムまたは消去一時停止 (PES 75h) を参照してください。

プログラム一時停止 (PS) SR2V[0]: プログラム一時停止ビットは、いつデバイスがプログラム一時停止モードに入るかを決めるために使用されます。ステータス ビットであり、ユーザーは書き込めません。プログラム一時停止ビットが「1」にセットされたとき、デバイスはプログラム一時停止モードになります。プログラム一時停止ビットが「0」にクリアされたとき、デバイスはプログラム一時停止モードになりません。詳細はプログラムまたは消去一時停止 (PES 75h) を参照してください。

6.6.3 コンフィギュレーション レジスタ 1

コンフィギュレーション レジスタ 1 は一定のインターフェースとデータ保護機能を制御します。レジスタ ビットは 16 入力サイクルの WRR コマンドや WRAR コマンドを使用して変更できます。

6.6.3.1 不揮発性コンフィギュレーション レジスタ 1 (CR1NV)

関連コマンド : 不揮発性書き込みイネーブル (WREN 06h), レジスタ書き込み (WRR 01h), 任意レジスタ読み出し (RDAR 65h), 任意レジスタ書き込み (WRAR 71h)。

Table 10 不揮発性コンフィギュレーション レジスタ 1 (CR1NV)

ビット	フィールド名	機能	タイプ	デフォルト状態	説明
7	SUS_D	一時停止ステータスデフォルト	不揮発性読み出し専用	0	一時停止ステータスのデフォルト状態を示します。 ユーザーによってプログラムできません。
6	CMP_NV	補完的保護デフォルト	不揮発性	0	CMP のデフォルト状態を示します。
5	LB3	セキュリティ領域ロック ビット	OTP	0	セキュリティ領域 3:0 の OTP ロック ビット 3:0 0= セキュリティ領域がロックされません。 1= セキュリティ領域が永久的にロックされます。
4	LB2			0	
3	LB1			0	
2	LB0			0	
1	QUAD_NV	クアッドデフォルト	不揮発性	0	QUAD のデフォルト状態を示します。
0	SRP1_D	ステータスレジスタ保護 1 デフォルト	OTP	0	IRP[2:0] = 「111」のとき、SRP1_D ビットはプログラムできます。 SR1NV, SR1V, CR1NV, CR1V, CR2NV, CR2V, CR3NV, DLRNV, DLRV の現時点の状態をロックします。 1= レジスタが永久的にロックされます。 0= POR 後、レジスタが SRP1 でロックされません。

消去 / プログラム一時停止ステータス (SUS_D) CR1NV[7]: CR1V[7] での SUS ビットのデフォルト状態を示します。ユーザーによってプログラムできません。

補完的保護 (CMP_NV) CR1NV[6]: CR1V[6] での CMP ビットのデフォルト状態を示します。

セキュリティ領域ロック ビット (LB3, LB2, LB1, LB0) CR1NV[5:2]: セキュリティ領域の OTP 書き込み保護制御を示します。LB ビットが「1」にセットされたとき、対応するセキュリティ領域に対するプログラムや消去動作はできなくなります。

クアッド データ幅 不揮発性 (QUAD_NV) CR1NV[1]: CR1V[1] での QUAD ビットのデフォルト状態を示します。WRR または WRAR コマンドはこのビットに影響を与えます。CR1NV[1] を「1」にプログラムすると、電源投入時やリセット時にクアッド データ幅コマンドはデフォルトで許可されます。

ステータス レジスタ保護 1 デフォルト (SRP1_D) CR1NV[0]: CR1V[0] での SRP1 ビットのデフォルト状態を示します。IRP[2:0] が「111」の場合、SRP1_D OTP ビットはユーザー プログラム可能です。SRP1_D が「1」の場合、SR1NV, SR1V, CR1NV, CR1V, CR2NV, CR2V, CR3NV, DLRNV, および DLRV レジスタは永久的にロックされます。ステータス レジスタ保護 (SRP1, SRP0) を参照してください。

6.6.3.2 揮発性コンフィギュレーション レジスタ 1 (CR1V)

関連コマンド : コンフィギュレーション レジスタ 1 読み出し (RDCR1 35h), 揮発性レジスタの書き込みイネーブル (WRENV 50h), レジスタ書き込み (WRR 01h), 任意レジスタ読み出し (RDAR 65h), 任意レジスタ書き込み (WRAR 71h) RDCR1 コマンドの実行で表示されるレジスタです。

Table 11 揮発性コンフィギュレーション レジスタ 1 (CR1V)

ビット	フィールド名	機能	タイプ	デフォルト状態	説明
7	SUS	一時停止ステータス	揮発性読み出し専用	CR1NV	1= 消去 / プログラムが一時停止されます。 0= 消去 / プログラムが一時停止されません。
6	CMP	補完的保護	揮発性		0= 通常保護マップ 1= 反転保護マップ
5	LB3	セキュリティ領域ロック ビットの揮発性コピー	揮発性読み出し専用		ユーザーによって書き込めません。 CR1NV[5:2] を参照してください。 セキュリティ領域 3:0 の OTP ロック ビット 3:0 0= セキュリティ領域がロックされません。 1= セキュリティ領域が永久的にロックされます。
4	LB2				
3	LB1				
2	LB0				
1	QUAD	クアッド I/O モード	揮発性		1 = クアッド 0 = デュアルまたはシリアル
0	SRP1	ステータス レジスタ保護 1	揮発性		SR1NV, SR1V, CR1NV, CR1V, CR2NV, CR2V, CR3NV, DLRNV, DLRV の現時点の状態をロックします。 1= レジスタはロックされます。 0= レジスタはロック解除されます。

一時停止ステータス (SUS) CR1V[7]: 一時停止ステータス ビットは、いつデバイスが消去またはプログラム一時停止モードにあるかを決めるために使用されます。ステータス ビットであり、ユーザーは書き込めません。一時停止ステータス ビットが「1」にセットされたとき、デバイスは消去またはプログラム一時停止モードになります。一時停止ステータス ビットが「0」にクリアされたとき、デバイスは消去またはプログラム一時停止モードになりません。消去 / プログラム一時停止 / 再開コマンドの詳細は、プログラムまたは消去一時停止 (PES 75h) を参照してください。補完的保護 (CMP) CR1V[6]: TBPROT, BP3, BP2, BP1, BP0 ビットとともに CMP を使用すると、アレイの半分から全部まで保護できる柔軟性をアレイ保護マップに提供します。

LB[3:0] CR1V[5:2]: ビットは CR1NV の該当する OTP ビットの揮発性バージョンです。ビットの該当する OTP バージョンに対する変更を追跡します。

クアッド データ幅 (QUAD) CR1V[1]: 1 にセットされると、ビットはデバイスのデータ幅を 4 ビット クアッド モードに切り替えます。つまり、WP# は IO2 になり、IO3/RESET# は CS# が LOW のときアクティブな I/O 信号になり、CS# が HIGH のとき RESET# 入力になります。WP# 入力は通常機能が監視されず、内部で HIGH (非アクティブ) にセットされます。シリアルおよびデュアル I/O 読み出しのコマンドはまだ正常に動作しますが、異なるデータ パス幅を使ってコマンドを切り替える際はコマンドのために WP# 入力を駆動する必要がありません。同様に、CS# が LOW のとき、それらのコマンドの実行中に IO3/RESET# を駆動する必要がありません。クアッド出力読み出し、クアッド I/O 読み出しおよび DDR クアッド I/O 読み出しコマンドを使用する際、QUAD ビットを「1」にセットする必要があります。QIO モードでの揮発性レジスタ書き込みは、短くて明確に定義された時間を要します。デバイス インターフェースを QIO モードに切り替えるためには t_{QEN}、デバイスを SPI モードに戻らせるためには tQEX を要します。その後、後続するコマンドは直ちに QIO プロトコルで送信できます。QPI モードは QPIEN および QPIEX コマンド、または CR2V[3] ビットを「1」にセットすることで開始 / 終了される一方、クアッド データ幅モードは QUAD ビットの設定にかかわらず使用されます。

ステータス レジスタ保護 1(SRP1) CR1V[0]: SRP1 ビットは 1 にセットされたとき、SR1NV, SR1V, CR1NV, CR1V, CR2NV, CR2V, CR3NV, DLRNV, および DLRV レジスタへの書き込み動作を防止することで、レジスタの現時点の状態を保護します。ステータス レジスタ保護 (SRP1, SRP0) を参照してください。

SRP1 ビットを論理 0 にする限り、SR1NV, SR1V, CR1NV, CR1V, CR2NV, CR2V, CR3NV, DLRNV, および DLRV レジスタは SRP1 により保護されません。ただし、レジスタは SRP0 (SR1V[7]) および WP# 入力により保護が可能です。

SRP1 ビットが一度論理 1 にセットされると、パワー サイクルまたはハードウェア リセットでのみ論理 0 にクリアできます。ソフトウェア リセットは SRP1 ビットの状態に影響を与えません。

CR1V[0] SRP1 は揮発性ビットであり、電源投入後の SRP1 のデフォルト状態は CR1NV[0] での SRP1_D から得られます。SRP1 ビットは CR1V 内の他の値の更新と同時に WRR または WRAR コマンドの実行で設定できます。

6.6.4 コンフィギュレーション レジスタ 2

コンフィギュレーション レジスタ 2 は一定のインターフェース機能を制御します。レジスタ ビットは任意レジスタ読み出しと任意レジスタ書き込みコマンドを実行することで読み出され、変更が可能です。レジスタの不揮発性バージョンにより、POR, ハードウェア リセット , またはソフトウェア リセットの制御状態を設定できます。レジスタの揮発性バージョンは通常動作での機能を制御します。

6.6.4.1 不揮発性コンフィギュレーション レジスタ 2 (CR2NV)

関連コマンド : 不揮発性書き込みイネーブル (WREN 06h), レジスタ書き込み (WRR 01h), 任意レジスタ読み出し (RDAR 65h), 任意レジスタ書き込み (WRAR 71h)。

Table 12 不揮発性コンフィギュレーション レジスタ 2 (CR2NV)

ビット	フィールド名	機能	タイプ	デフォルト状態	説明
7	IO3R_NV	IO3_Reset	Non-volatile	0	1= 有効 -- CS# が HIGH のとき、またはクアッド モードが無効 (CR1V[1]=0) のとき、または QPI が無効 (CR3V[3]=0) のとき、IO3_RESET は IO3/RESET# の入力として使用されます。 0= 無効 -- IO3 は代替機能を持っておらず、ハードウェアリセットは無効です。 IO3/RESET# 機能イネーブルのデフォルト状態を示します。
6	OI_NV	出力インピーダンス		1	出力インピーダンスのデフォルト状態を示します。 Table 13 を参照してください。
5				1	
4	RFU	予約済み		0	将来使用するために予約済み
3	QPI_NV	QPI		0	1= 有効 -- QPI (4-4-4) プロトコルを使用します。 0= 無効 -- 従来の SPI プロトコルを使用します。命令は SI 上で常にシリアルです。 QPI モードのデフォルト状態を示します。
2	WPS_NV	書き込み保護選択		0	WPS のデフォルト状態を示します。 0= レガシー保護 1= 個別ブロック ロック
1	ADP_NV	電源投入時のアドレス長		0	アドレス長のデフォルト状態を示します。 1=4 バイト アドレス 0=3 バイト アドレス
0	RFU	予約済み		0	将来使用するために予約済み

不揮発性 IO3 _Reset CR2NV[7]: ビットは、POR, ハードウェア リセット , またはソフトウェア リセット時の IO3 信号動作を制御します。ほとんどのレガシー SPI デバイスは、従来の SPI デバイス パッケージにおける信号数および使用可能な接続数に制限があるため、ハードウェア リセットの入力信号を有しません。FL-L ファミリでは、IO3 信号がホスト システムとメモリ間の情報通信に使用されていないとき、IO3 信号をハードウェア リセット入力として使用するオプションがあります。不揮発性 IO3_Reset コンフィギュレーション ビットは、IO3 が RESET# 信号として使用可能な状態でデバイスを直ちに起動 (ブート) させます。

不揮発性出力インピーダンス CR2NV[6:5]: CR2NV[6:5]: ビットは、POR, ハードウェア リセット , またはソフトウェア リセット時の IO 信号の出力インピーダンス (駆動能力) を制御します。出力インピーダンスをプリント基板のシステム環境に一致させ、オーバーシュートおよびリンギングを最小限に抑えるために多くの駆動能力を利用できます。不揮発性出力インピーダンスのコンフィギュレーション ビットにより、デバイスは適切な駆動能力で直ちに作動 (ブート) できます。

Table 13 出力インピーダンス制御

CR2NV[6:5] インピーダンス選択	V_{SS} に対する標準インピーダンス (Ω)	V_{CC} に対する標準インピーダンス (Ω)	備考
00	18	21	–
01	26	28	–
10	47	45	–
11	71	64	工場出荷時

不揮発性 QPI CR2NV[3]: このビットは、POR, ハードウェア リセット , またはソフトウェア リセット時のすべてのコマンドに対する所望の命令幅を制御します。レガシーの SPI コマンドは 1 ビット幅 (シリアル I/O) の命令を SI (IO0) 信号上に送信します。また、FL-L ファミリはホスト システムとメモリ間のすべての転送 (すべての命令転送を含む) が 4 ビット幅で IO0 ～ IO3 を介して実行される QPI モードにも対応します。不揮発性 QPI コンフィギュレーション ビットを使用すると、デバイスは、レガシーのシリアル命令モードではなく QPI モードで直ちに起動 (ブート) できます。QPI モードに遷移する推奨手順としては、最初は QPIEN (38h) コマンドを使用することですが、WRR または WRAR コマンドで CR2V[3] を「1」(QPI モード) にセットすることもできます。QPI モードでの揮発性レジスタ書き込みは、短くて明確に定義された時間を要します。デバイス インターフェースを QPI モードに切り替えるためには t_{QEN}、デバイスを SPI モードに戻らせるためには t_{QEX} を要します。その後、後続するコマンドは直ちに QPI プロトコルで送信できます。WRAR コマンドを使用して CR2NV[3] を「1」にプログラムし、その後、SR1V[0] をポーリングしていつプログラム動作が終了するかを判定します。同様に、QPI モードを終了するためには QPIEX (F5h) コマンドを使用します。また、WRR または WRAR コマンドは CR2V[3] を「0」にクリアするためにも使用されます。

不揮発性書き込み保護選択 CR2NV[2]: このビットは、POR, ハードウェア リセット , またはソフトウェア リセット時の書き込み保護方法を制御します。この不揮発性コンフィギュレーション ビットを使用すると、デバイスはレガシーのブロック保護ではなく個別ブロック ロック保護の方法で直ちに起動 (ブート) できます。

不揮発性電源投入時アドレス長 CR2NV[1]: アドレスを必要とし、かつ 3 バイトまたは 4 バイト (32 ビット) アドレスのみに固定しないすべてのコマンドに対して、このビットは POR, ハードウェア リセット , またはソフトウェア リセット時の所望するアドレス長を制御します。アドレスを必要とするほとんどのコマンドは、従来 3 バイト (24 ビット) のアドレスを使用するレガシーの SPI コマンドです。容量が 128Mb 以上のデバイスの場合、メモリ アレイ全体にアクセスするために 4 バイト (32 ビット) のアドレスが必要です。アドレス長コンフィギュレーション ビットはすべての 3 バイト アドレス コマンドを所望の 4 バイト アドレスに変更するために使用されます。コマンド アドレス長は Table 33 を参照してください。不揮発性アドレス長コンフィギュレーション ビットを使用すると、デバイスは、レガシーの 3 バイト アドレス モードではなく 4 バイト アドレス モードで直ちに起動 (ブート) できます。

6.6.4.2 揮発性コンフィギュレーション レジスタ 2 (CR2V)

関連コマンド : コンフィギュレーション レジスタ 2 読み出し (RDCR2 15h), 任意レジスタ読み出し (RDAR 65h), 揮発性レジスタの書き込みイネーブル (WRENV 50h), レジスタ書き込み (WRR 01h), 任意レジスタ書き込み (WRAR 71h), 4 バイト アドレスモード開始 (4BEN B7h), 4 バイト アドレス モード終了 (4BEX E9h), QPI 開始 (38h), QPI 終了 (F5h)。RDCR2 コマンドの実行で表示されるレジスタです。

Table 14 揮発性コンフィギュレーション レジスタ 2 (CR2V)

ビット	フィールド名	機能	タイプ	デフォルト状態	説明
7	IO3R	IO3_Reset	揮発性	CR2NV	1= 有効 -- CS# が HIGH のとき、またはクアッド モードが無効 (CR1V[1]=0) のとき、または QPI が無効 (CR3V[3]=0) のとき、IO3 は RESET# の入力として使用されます。 0= 無効 -- IO3 は代替機能を持っておらず、IO3/RESET# 入力によるハードウェア リセットは無効です。
6	OI	出力インピーダンス			Table 13 を参照してください。
5					
4	RFU	予約済み			将来使用するために予約済み
3	QPI	QPI			1= 有効 -- QPI (4-4-4) プロトコルを使用します。 0= 無効 -- 従来の SPI プロトコルを使用します。命令は SI 上で常にシリアルです。
2	WPS	書き込み保護選択			0= レガシー ブロック保護 1= 個別ブロック ロック
1	ADP	電源投入時のアドレス長	揮発性読み出し専用		ステータス読み出し専用ビット 1= 4 バイト アドレス 0= 3 バイト アドレス
0	ADS	アドレス長ステータス	揮発性	CR2NV[1]	現在のアドレス モード 1= 4 バイト アドレス 0= 3 バイト アドレス

IO3 Reset CR2V[7]: このビットは IO3/RESET# 信号の動作を制御します。揮発性 IO3_Reset コンフィギュレーション ビットを使用すると、CS# が HIGH のとき、またはクアッド モードが無効のとき (CR1V[1]=0)、または QPI が無効のとき (CR3V[3]=0)、通常動作で IO3 を RESET# 入力として使用できます。

出力インピーダンス CR2V[6:5]: これらのビットは IO 信号の出力インピーダンス (駆動能力) を制御します。揮発性出力インピーダンス コンフィギュレーション ビットを使用すると、ユーザーは通常動作での駆動能力を調整できます。

QPI CR2V[3]: このビットはすべてのコマンドに対して所望の命令幅を制御します。揮発性 QPI コンフィギュレーション ビットは、デバイスの通常動作中に QPI モードを開始 / 終了できます。ビットを QPI モードにセットされたとき、QIO モード (CR1V[1]) の設定にかかわらず QUAD モードは有効になります。ビットをレガシーSPI モードにクリアしても、QUAD ビットは影響されません。QPI CR2V[3] ビットはまた、QPIEN (38h) コマンドと QPIEX (F5h) コマンドの実行でそれぞれ「1」と「0」にセットできます。

Table 15 QPI および QIO モード制御ビット

QPI CR2V[3]	QUAD CR1V[1]	説明
0	0	SIO モード : シングルおよびデュアル読み出し、WP#/IO2 入力は WP# ピンとして使用され、IO3/RESET# 入力は RESET# ピンとして使用されます。
0	1	QIO モード : シングル , デュアル , およびクアッド読み出し、WP#/IO2 入力は IO2 として使用され、IO3/RESET# 入力は IO3 または RESET# ピンとして使用されます。
1	X	QPI モード : クアッド読み出し、WP#/IO2 入力は IO2 として使用され、IO3/RESET# 入力は IO3 または RESET# ピンとして使用されます。

書き込み保護選択 CR2V[2]: このビットは、レガシー ブロック保護または個別ブロック ロック (IBL) 保護のどちらのアレイ保護方法を使用するかを選択します。揮発性コンフィギュレーション ビットを使用すると、ユーザーは通常動作での保護方法を変更できます。

電源投入時アドレス長 (ADP) CR2V[1]: このビットは読み出し専用であり、アドレスを必要とし 3 バイトまたは 4 バイト (32 ビット) アドレスに固定しないすべてのコマンドに対して、POR, ハードウェア リセット , またはソフトウェア リセット後のアドレス長を示します。

アドレス長ステータス (ADS) CR2V[0]: このビットはアドレスを必要とし 3 バイトまたは 4 バイトに固定しないすべてのコマンドに対して、所望するアドレス長を制御します。コマンド アドレス長は Table 33 を参照してください。揮発性アドレス長コンフィギュレーション ビットは、通常動作中にアドレス長を変更できます。4 バイト アドレス モードの 4BEN コマンドはこのビットを 4 バイト アドレス モードに直接設定し、4BEX コマンドはこのビットを 3 バイト アドレス モードに戻るように設定します。不揮発性アドレス長 CR2NV[1] ビットが更新されるとともに、このビットも更新されます。

6.6.5 コンフィギュレーション レジスタ 3

コンフィギュレーション レジスタ 3 はメイン フラッシュ アレイの読み出しコマンドのバースト ラップ動作およびレイテンシ読み出しを制御します。バースト ラップ コンフィギュレーションはレジスタまたはセキュリティ領域からの読み出しコマンドなどのメイン フラッシュ アレイでない領域から読み出すコマンドに影響しません。POR, ハードウェア リセット , またはソフトウェアリセット時にレジスタの内容がレジスタの揮発性バージョンにコピーされるため、レジスタの不揮発性バージョンは起動時 (ブート) の制御状態を設定できるようにします。レジスタの揮発性バージョンは通常動作での機能を制御します。

レジスタ ビットは、コンフィギュレーション レジスタ 3 読み出し (RDCR3 33h), レジスタ書き込み (WRR 01h), 任意レジスタ読み出し (RDAR 65h), 任意レジスタ書き込み (WRAR 71h) を実行することで読み出され、変更が可能です。また、レジスタの揮発性バージョンはバースト長設定 (77h) コマンドの実行でも書き込めます。

6.6.5.1 不揮発性コンフィギュレーション レジスタ 3 (CR3NV)

関連コマンド : 不揮発性書き込みイネーブル (WREN 06h), レジスタ書き込み (WRR 01h), 任意レジスタ読み出し (RDAR 65h), 任意レジスタ書き込み (WRAR 71h)。

Table 16 不揮発性コンフィギュレーション レジスタ 3 (CR3NV)

ビット	フィールド名	機能	タイプ	デフォルト状態	説明
7	RFU	予約済み	不揮発性	0	将来使用するのために予約済み
6	WL_NV	ラップ長デフォルト		1	00= 8 バイト ラップ 01= 16 バイト ラップ 10= 32 バイト ラップ 11= 64 バイト ラップ
5				1	
4	WE_NV	ラップ イネーブルデフォルト		1	0= ラップが有効 1= ラップが無効
3	RL_NV	読み出しレイテンシデフォルト		1	読み出しアドレスまたは連続モードビットの後に続く 0～15 レイテンシ (ダミー) サイクル
2				0	
1				0	
0				0	

不揮発性ラップ長 CR3NV[6:5]: これらのビットは、POR, ハードウェア リセット , またはソフトウェア リセット時のラップ読み出しの長さとアラインメントを制御します。

不揮発性ラップ イネーブル CR3NV[4]: このビットは POR, ハードウェア リセット , またはソフトウェア リセット時のラップ イネーブルを制御します。ラップ イネーブルに影響されるコマンドは、クアッド I/O 読み出し , QPI 読み出し , DDR クアッド I/O 読み出し , および DDR QPI 読み出しです。コンフィギュレーション ビットを使用すると、デバイスはレガシーの順次読み出しモードではなくラップ バースト読み出しモードで直ちに起動 (ブート) できます。

不揮発性読み出しレイテンシ CR3NV[3:0]: これらのビットは POR, ハードウェア リセット , またはソフトウェア リセット時のすべての可変レイテンシ読み出しコマンドの読み出しレイテンシ (ダミー サイクル) 遅延を制御します。以下の読み出しコマンドは、アドレス / モードの終わりからホストに返される読み出しデータの始まりまでの、可変のレイテンシ期間があります。

- 以下のコマンドに対するクロック周波数ごとのレイテンシ遅延は、全クロック周波数に対して 1 ダミー サイクルです。「0」のデフォルト レイテンシ コードは 1 ダミー サイクルです。
  - データ ラーニング パターン読み出し DLPRD (1-1-1) または (4-4-4)
  - IRP 読み出し IRPRD (1-1-1) または (4-4-4))
  - 保護レジスタ読み出し PRRD (1-1-1) または (4-4-4)
  - パスワード読み出し PASSRD (1-1-1) また (4-4-4)
- 以下のコマンドに対するクロック周波数ごとのレイテンシ遅延は下記の Table 17 および Table 18 に示します。「0」のデフォルト レイテンシ コードは 8 ダミー サイクルです。
  - 高速読み出し FAST_READ (1-1-1)
  - クアッド出力読み出し QOR, 4QOR (1-1-4)
  - デュアル出力読み出し DOR, 4DOR (1-1-2)
  - デュアル I/O 読み出し DIOR, 4DIOR (1-2-2)
  - クアッド I/O 読み出し QIOR, 4QIOR (1-4-4) または (4-4-4)
  - DDR クアッド I/O 読み出し DDRQIOR, 4DDRQIOR(1-4-4)
  - セキュリティ領域読み出し SECRR (1-1-1) または (4-4-4)
  - 任意レジスタ読み出し RDAR (1-1-1) または (4-4-4)
  - シリアル フラッシュ検出可能パラメーター読み出し RSFDP (1-1-1) または (4-4-4)

不揮発性読み出しレイテンシ コンフィギュレーションビットは、使用される読み出しレイテンシ (ダミー サイクル) 数を設定します。これにより、デバイスはホスト システムの適切な読み出しレイテンシで直ちに起動 (ブート) できます。

Table 17 レイテンシ コード (サイクル) と周波数

レイテンシ コード 0	Read command maximum frequency (MHz)						
	高速読み出し (1-1-1)	デュアル出力読み出し (1-1-2)	デュアル I/O 読み出し (1-2-2)	クアッド出力読み出し (1-1-4)	クアッド I/O 読み出し (1-4-4)	クアッド I/O 読み出し QPI (4-4-4)	DDR クアッド I/O (1-4-4) QPI (4-4-4)
	モード サイクル = 0	モード サイクル = 0	モード サイクル = 4	モード サイクル = 0	モード サイクル = 2	モード サイクル = 2	モード サイクル = 1
	ダミー サイクル = 8	ダミー サイクル = 8	ダミー サイクル = 8	ダミー サイクル = 8	ダミー サイクル = 8	ダミー サイクル = 8	ダミー サイクル = 8
1	50	50	75	35	35	35	20
2	65	65	85	45	45	45	25
3	75	75	95	55	55	55	35
4	85	85	108	65	65	65	45
5	95	95	108	75	75	75	54
6	108	105	108	85	85	85	54
7	108	108	108	95	95	95	54
8	108	108	108	108	108	108	54
9	108	108	108	108	108	108	54
10	108	108	108	108	108	108	54
11	108	108	108	108	108	108	54
12	108	108	108	108	108	108	54

Table 17 レイテンシ コード (サイクル) と周波数 *(continued)*

レイテンシ コード 0	Read command maximum frequency (MHz)						
	高速 読み出し (1-1-1)	デュアル 出力 読み出し (1-1-2)	デュアル I/O 読み出し (1-2-2)	クアッド 出力 読み出し (1-1-4)	クアッド I/O 読み出し (1-4-4)	クアッド I/O 読み出し QPI (4-4-4)	DDR クアッド I/O (1-4-4) QPI (4-4-4)
	モード サイクル = 0	モード サイクル = 0	モード サイクル = 4	モード サイクル = 0	モード サイクル = 2	モード サイクル = 2	モード サイクル = 1
	ダミー サイクル = 8	ダミー サイクル = 8	ダミー サイクル = 8	ダミー サイクル = 8	ダミー サイクル = 8	ダミー サイクル = 8	ダミー サイクル = 8
13	108	108	108	108	108	108	54
14	108	108	108	108	108	108	54
15	108	108	108	108	108	108	54

Table 18 レイテンシ コード (サイクル) と周波数

レイテンシ コード 0	Read Command Maximum Frequency (MHz)					
	任意レジスタ 読み出し (1-1-1)	任意レジスタ 読み出し QPI (4-4-4)	セキュリティ 領域読み出し (1-1-1)	セキュリティ 領域読み出し QPI (4-4-4)	SFDP 読み出し RSFDP (1-1-1)	SFDP 読み出し RSFDP QPI (4-4-4)
	モード サイクル = 0	モード サイクル = 0	モード サイクル = 0	モード サイクル = 0	モード サイクル = 0	モード サイクル = 0
	ダミー サイクル = 8	ダミー サイクル = 8	ダミー サイクル = 8	ダミー サイクル = 8	ダミー サイクル = 8	ダミー サイクル = 8
1	50	15	50	15	50	15
2	65	25	65	25	65	25
3	75	35	75	35	75	35
4	85	45	85	45	85	45
5	95	55	95	55	95	55
6	108	65	108	65	108	65
7	108	75	108	75	108	75
8	108	85	108	85	108	85
9	108	95	108	95	108	95
10	108	108	108	108	108	108
11	108	108	108	108	108	108
12	108	108	108	108	108	108
13	108	108	108	108	108	108
14	108	108	108	108	108	108
15	108	108	108	108	108	108

7. このデバイス ファミリでは 108MHz SDR を超えた、h または 54MHz DDR を超えた SCK 周波数に対応しません。
8. デュアル I/O, クアッド I/O, QPI, DDR クアッド I/O, および DDR QPI コマンド プロトコルには、アドレスの後に続く連続読み出しモードのビットが含まれます。ビットのクロック サイクルはこの Table 18 に示されるレイテンシ サイクルの一部として計算されません。例えば、レガシーのクアッド I/O コマンドでは、アドレスの後に 2 つの連続読み出しモード サイクルが続きます。したがって、追加の読み出しレイテンシがないレガシーのクアッド I/O コマンドは、0 サイクルの読み出しレイテンシのために、この表に示されている周波数までだけが対応されます。可変読み出しレイテンシを増加することで、クアッド I/O コマンドの周波数は最大周波数および QPI 最大対応周波数 (108MHz) の動作に対応できるように増加できます。
9. 他のコマンドは固定したレイテンシを持っています。例えば、読み出しコマンドは常にゼロ読み出しレイテンシ、固有 ID 読み出しコマンドは 32 ダミー サイクル、ディープ パワーダウン終了コマンドは 24 ダミー サイクルを持っています。

6.6.5.2 揮発性コンフィギュレーション レジスタ 3 (CR3V)

関連コマンド : コンフィギュレーション レジスタ 3 読み出し (RDCR3 33h), 揮発性レジスタの書き込みイネーブル (WRENV 50h), レジスタ書き込み (WRR 01h), 任意レジスタ読み出し (RDAR 65h), 任意レジスタ書き込み (WRAR 71h), バースト長設定 (SBL77h)。RDCR3 コマンドの実行で表示されるレジスタです。

Table 19 揮発性コンフィギュレーション レジスタ 3 (CR3V)

ビット	フィールド名	機能	タイプ	デフォルト状態	説明
7	RFU	予約済み	揮発性	CR3NV	将来使用するために予約済み
6	WL	ラップ長			00= 8 バイト ラップ 01= 16 バイト ラップ 10= 32 バイト ラップ 11= 64 バイト ラップ
5					
4	WE	ラップ イネーブル			0= ラップが有効 1= ラップが無効
3	RL	読み出し レイテンシ			読み出しアドレスまたは連続モード ビットの後に続く 0 ～ 15 レイテンシ (ダミー) サイクル
2					
1					
0					

ラップ長 CR3V[6:5]: これらのビットは通常動作でのラップ読み出しの長さおよびアラインメントを制御します。揮発性コンフィギュレーション ビットを使用すると、ユーザーは通常動作でのバースト ラップ読み出しの長さを調整できます。

ラップ イネーブル CR3V[4]: このビットはバースト ラップ機能を制御します。揮発性コンフィギュレーション ビットを使用すると、デバイスは通常動作中にバースト ラップ読み出しモードを開始 / 終了できます。CR3V[4] が「1」の場合、ラップ モードは無効になり、長さが無制限の順次読み出しが実行されます。CR3V[4] が「0」の場合、ラップ モードは有効になり、固定長の 8/16/32/64 バイトにアラインされたグループは、読み出しコマンドで提供されたバイト アドレスから読み出され、グループのアライメント境界でラップアラウンドします。

読み出しレイテンシ CR3V[3:0]: これらのビットは可変レイテンシ読み出しコマンドの読み出しレイテンシ (ダミー サイクル) 遅延を設定します。揮発性コンフィギュレーション ビットを使用することにより、ユーザーは通常動作での読み出しレイテンシを調整でき、異なるコマンドまたは必要な場合に異なる動作周波数に応じてレイテンシを最適化できます。

6.6.6 個別および領域保護レジスタ (IRP)

関連コマンド : IRP 読み出し (IRPRD 2Bh), IRP プログラム (IRPP 2Fh), 任意レジスタ読み出し (RDAR 65h), 任意レジスタ書き込み (WRAR 71h)。

IRP レジスタは個別および領域保護 (IRP) 機能の動作を永久的に設定するための、16 ビットの OTP メモリ位置にあります。IRP にはユーザー プログラム可能な揮発性ビットがなく、すべての定義されたビットは OTP です。

IRP ビットのデフォルト状態はインフィニオンによってプログラムされています。

Table 20 IRP レジスタ (IRP)

ビット	フィールド名	機能	タイプ	デフォルト状態	説明
15 ～ 7	RFU	予約済み	OTP	全ビットは 1	将来使用するために予約済み
6	SECRRP	セキュリティ領域 3 読み出しパスワード モード イネーブル ビット	OTP	1	0= セキュリティ領域 3 読み出しパスワード モードが選択される 1= セキュリティ領域 3 読み出しパスワード モードが選択されない IRP[2:0]= 「111」の場合、IRP[6] はプログラム可能
5	RFU	予約済み	OTP	1	将来使用するために予約済み
4	IBLLBB	IBL ロック ブート ビット	OTP	1	0= 非保護状態での電源投入時に全 IBL ビットが「1」にセットされる 1= 保護状態での電源投入時に全 IBL ビットが「0」にセットされない IRP[2:0]= 「111」の場合、IRP[4] はプログラム可能
3	RFU	予約済み	OTP	1	将来使用するために予約済み
2	PWDMLB	パスワード保護モード ロックビット	OTP	1	0= パスワード保護モードが永久的に有効にされる 1= パスワード保護モードが永久的に有効にされない IRP[2:0]= 「111」の場合、IRP[2] はプログラム可能
1	PSLMLB	電源ロックダウン保護モード ロックビット	OTP	1	0= 電源ロックダウン保護モードが永久的に有効にされる 1= 電源ロックダウン保護モードが永久的に有効にされない IRP[2:0]= 「111」の場合、IRP[1] はプログラム可能
0	PERMLB	永久的保護ロック	OTP	1	0= 永久的保護モードが永久的に有効にされる 1= 永久的保護モードが永久的に有効にされない IRP[2:0]= 「111」の場合、IRP[0] はプログラム可能

セキュリティ領域読み出しパスワード モード イネーブル (SECRRP) IRP[6]: SECRRP が「0」にプログラムされるとき、PWDMLB ビット IRP[2] が同時、またはその後にプログラムされると、セキュリティ領域 3 読み出しパスワード モードは有効になります。SECRRP ビットは、IRP[2:0]= 「111」のときにのみプログラム可能です。そうでない場合、プログラムは失敗し、P_ERR が「1」にセットされます。セキュリティ領域読み出しパスワード保護を参照してください。

IBL ロック ブート ビット (IBLLBB) IRP[4]: IBLLBB のデフォルト状態は「1」であり、電源投入 , ハードウェア リセット , またはソフトウェア リセットの後、保護状態で個々の IBL ビットに「0」がセットされます。アレイをプログラムまたは消去するために、グローバル IBL ロック解除またはセクタ / ブロック IBL ロック解除コマンドをプログラムまたは消去コマンドの前に発行しなければいけません。IBLLBB ビットが「0」にプログラムされると、電源投入 , ハードウェア リセット , またはソフトウェア リセットの後、個々の IBL ビットは非保護状態になります。IBLLBB ビットは、IRP[2:0]= 「111」のときにのみプログラム可能です。そうでない場合、プログラムは失敗し、P_ERR が「1」にセットされます。個別ブロック ロック (IBL) 保護を参照してください。

パスワード保護モード ロック ビット (PWDMLB) IRP[2]: PWDMLB が「0」にプログラムされると、パスワード保護モードはセキュリティ領域 2 と 3 およびポインター領域を保護するよう永久的に選択されます。PWDMLB ビットは IRP[2:0]= 「111」のときにのみプログラム可能です。そうでない場合、プログラムは失敗し、P_ERR が「1」にセットされます。パスワード保護モードを参照してください。

IRP[2] を「0」にプログラムしてパスワード保護モードを選択した後、すべての IRP ビットの状態はロックされ、永久的にプログラムから保護されます。任意の IRP ビットをプログラムしようとすると、プログラミング エラーが発生し、P_ERR が「1」にセットされます。

パスワード モードをセット (IRP[2]=0) する前に、パスワードのプログラムおよび検証をしなければいけません。

電源ロックダウン保護モード ロック ビット (PSLMLB) IRP[1]: PSLMLB が「0」にプログラムされると、電源ロックダウン保護モードは永久的に選択されます。IBLLBB ビットは IRP[2:0]= 「111」のときにのみプログラム可能です。そうでない場合、プログラムは失敗し、P_ERR が「1」にセットされます。

IRP[1] を「0」にプログラムして電源ロックダウン保護モードを選択した後、すべての IRP ビットの状態はロックされ、将来のプログラムから永久的に保護されます。任意の IRP ビットをプログラムしようとすると、プログラミング エラーが発生し、P_ERR が「1」にセットされます。IRP レジスタを参照してください。

永久的保護ロック ビット (PERMLB) IRP[0]: PERMLB が「0」にプログラムされると、ポインター領域およびセキュリティ領域 2 と 3 は永久的に保護されます。ビットをプログラムすることで、パスワードや PRL コマンドを使用せずにポインター領域およびセキュリティ領域 2 と 3 を簡単に永久的に保護できます。IRP レジスタを参照してください。

PWDMLB (IRP[2]), PSLMLB (IRP[1]), および PERMLB (IRP[0]) は相互に排他的であり、どれか 1 つのみを「0」にプログラムできます。IRP ビットは IRP[2:0]= 「111」のときにのみプログラム可能です。IRP[2:0] が「111」でない場合、IRP ビットをプログラムすると、プログラミング エラーが発生し、P_ERR が「1」にセットされます。IRP 保護モードは後で不正なプログラムが意図しない保護モードを選択しないようにするため、システム コンフィギュレーションのときに選択する必要があります。IRP モードの選択によりすべての保護コンフィギュレーションをロックすることで、後で不正なプログラムが保護方式を変更できないようにできます。

6.6.7 パスワード レジスタ (PASS)

関連コマンド : パスワード読み出し (PASSRD E7h), パスワード プログラム (PASSP E8h), 任意レジスタ読み出し (RDAR 65h), 任意レジスタ書き込み (WRAR 71h)。PASS レジスタは個別および領域保護 (IRP) 機能のパスワードを永久的に設定するための 64 ビット OTP メモリ位置です。PASS にはユーザー プログラム可能な揮発性ビットがなく、すべての定義されたビットは OTP です。読み出しレイテンシ要件を満たすために PASS の揮発性コピーが使用されますが、揮発性レジスタはユーザー書き込み不可であり、さらに記述されません。IRP[2] が「0」にプログラムされた後、パスワードの読み出しもプログラムもできません。Table 20 を参照してください。

Table 21 パスワード レジスタ (PASS)

ビット	フィールド名	機能	タイプ	デフォルト状態	説明
63～0	PWD	隠しパスワード	OTP	FFFFFFFF～FFFFFFFFh	64 ビット パスワードの不揮発性 OTP ストレージです。IRP レジスタのビット 2 を「0」にプログラムすることでパスワード保護モードを選択した後、パスワードは読み出し不可になります。

6.6.8 保護レジスタ (PR)

関連コマンド : 保護レジスタ読み出し (PRRD A7h), 保護レジスタ ロック (PRL A6h), 任意レジスタ読み出し (RDAR 65h)。

PR にはユーザー プログラム可能な揮発性ビットがなく、すべての定義されたビットは揮発性の読み出し専用状態です。RFU ビットのデフォルト状態はハードウェアで設定されます。PR レジスタの不揮発性バージョンはありません。

NVLOCK ビットはセキュリティ領域 2 と 3 およびポインター領域の保護に使用されます。NVLOCK[0]=0 のとき、セキュリティ領域 2 と 3 およびポインター領域の保護は変更できません。

Table 22 保護ステータス レジスタ (PR)

ビット	フィールド名	機能	タイプ	デフォルト状態	説明
7	RFU	予約済み	揮発性読み出し専用	00h	将来使用するために予約済み
6	SECRRP	セキュリティ領域パスワード読み出し		IRP[6]	0= NVLOCK が 0 のとき、セキュリティ領域 3 は読み出しからパスワードで保護されます。 1= セキュリティ領域 3 は読み出しからパスワードで保護されません。
5	RFU	予約済み		0	将来使用するために予約済み
4	RFU	予約済み		0	将来使用するために予約済み
3	RFU	予約済み		0	将来使用するために予約済み
2	RFU	予約済み		0	将来使用するために予約済み
1	RFU	予約済み		0	将来使用するために予約済み
0	NVLOCK[10]	不揮発性コンフィギュレーション保護		IRP[2] と IRP[0]	0= セキュリティ領域 2 と 3 およびポインター領域は書き込みから保護されます。 1= セキュリティ領域 2 と 3 およびポインター領域は書き込み可能です。

注
10.保護レジスタ ロック (PRL) コマンドで NVLOCK を「1」にセットします。

6.6.9 個別ブロック ロック アクセス レジスタ (IBLAR)

関連コマンド : IBL 読み出し (IBLRD 3Dh または 4IBLRD E0h), IBL ロック (IBL 36h または 4IBL E1h), IBL ロック解除 (IBLUL 39h または 4IBUL E2h), グローバル IBL ロック (GBL 7Eh), グローバル IBL ロック解除 (GBUL 98h)。

IBLAR にはユーザー プログラム可能な不揮発性ビットがなく、すべてのビットは IBL アレイの揮発性ビットのコピーです。IBL アレイ ビットのデフォルト状態はハードウェアで設定されます。IBLAR レジスタの不揮発性バージョンはありません。

Table 23 IBL アクセス レジスタ (IBLAR)

ビット	フィールド名	機能	タイプ	デフォルト状態	説明
7 ～ 0	IBL	個別セクタ / ブロック用 IBL 読み書き	揮発性	IRP[4] = 1: 00h IRP[4] = 0: FFh	00h= アドレス指定されたセクタ / ブロック用の IBL が IBL, 4IBL, GBL コマンドで「0」にセットされ、セクタはプログラム / 消去動作から保護されます。 FFh= アドレス指定されたセクタ / ブロック用の IBL が IBUL, 4IBUL, GBUL コマンドで「1」にクリアされ、セクタはプログラム / 消去動作から保護されません。

注
11.Figure 25 を参照してください。
12.IBL ビットは IBLRD および 4IBLRD コマンドで読み出されます。

6.6.10 ポインター領域保護レジスタ (PRPR)

関連コマンド : ポインター領域保護セット (SPRP FBh または 4SPRP E3h), 任意レジスタ読み出し (RDAR 65h), 任意レジスタ書き込み (WRAR 71h)。

PRPR にはユーザー プログラム可能な不揮発性ビットが含まれます。PRPR ビットのデフォルト状態はハードウェアで設定されます。PRPR レジスタの揮発性バージョンはありません。詳細はポインター領域保護 (PRP) を参照してください。

Table 24 PRP レジスタ (PRPR)

ビット	フィールド名	機能	タイプ	デフォルト状態	説明
A31 ～ A23	RFU	予約済み	不揮発性	11111111b	将来使用のために予約済み
A22 ～ A16	PRPAD	PRP アドレス		FFh	ポインター アドレス A22 ～ A16
A15 ～ A12	–	–		Fh	ポインター アドレス A15 ～ A12
A11	PRPALL	PRP 保護 全セクタ		1	0= ポインター領域によって選択されたセクタを保護 1= すべてのセクタを保護
A10	PRPEN	PRP イネーブル		1	0= ポインター領域保護が有効 1= ポインター領域保護が無効
A9	PRPTB	PRP 最上部 / 最下部		1	0= ポインター領域保護は最上部 (上位アドレス) から始まる 1= ポインター領域保護は最下部 (下位アドレス) から始まる
A8	RFU	予約済み		1	将来使用のために予約済み
A7 ～ A0	RFU	予約済み		FFh	将来使用のために予約済み

6.6.11 DDR データ ラーニング レジスタ

関連コマンド : DLRNV プログラム (PDLRNV 43h), DLRV 書き込み (WDLRV 4Ah), データ ラーニング パターン読み出し (DLPRD41h), 任意レジスタ読み出し (RDAR 65h), 任意レジスタ書き込み (WRAR 71h)。

データ ラーニング パターン (DLP) は 8 ビット不揮発性データ ラーニング レジスタ (DLRNV) および 8 ビット揮発性データ ラーニング レジスタ (DLRV) にあります。インフィニオン出荷時の DLRNV 値は 00h です。いったんプログラムされた DLRNV は再プログラムも消去もできません。DLRNV 内のデータ パターンのコピーは DLRV にも書き込まれます。DLRV はいつでも書き込めますが、ハードウェアおよびソフトウェアのリセットまたはパワー サイクルのとき、データ パターンは DLRNV 内のものに戻ります。説明された SPI DDR モードのラーニング フェーズでは、DLP は DLRV から得られます。それぞれの IO はクロック エッジごとに同じ DLP 値を出力します。例えば、DLP が 34h (2 進で 00110100) の場合、1 番目のクロック エッジですべての I/O は 0 を出力します。続いて、2 番目のクロック エッジで 0 を、3 番目のクロック エッジで 1 を、というように順番に出力します。

DLRV 値が 00h の場合、DDR コマンドのダミー フェーズ中にプリアンブル データ パターンはありません。

Table 25 不揮発性データ ラーニング レジスタ (DLRNV)

ビット	フィールド名	機能	タイプ	デフォルト状態	説明
7 ～ 0	NVDLP	不揮発性データ ラーニング パターン	OTP	00h	ホストが受信データ ビットでデータ キャプチャ ポイントを正確に中央に位置付けるのに役立つトレーニング パターンを提供するために DDR 読み出しコマンド レイテンシ (ダミー) サイクル中にホストに転送される OTP 値です。

Table 26 Volatile Data Learning Register (DLRV)

ビット	フィールド名	機能	タイプ	デフォルト状態	説明
7 ～ 0	VDLP	揮発性データ ラーニング パターン	揮発性	POR または リセット中に DLRNV 値を取得	データ ラーニング パターン (DLP) を有効にして出力に供給するための NVDLP の揮発性コピーです。VDLP はシステム動作中にホストによって変更される場合があります。

7 データ保護

7.1 セキュリティ領域

デバイスにはメイン フラッシュ アレイから独立した 1024 バイト アドレス空間があります。空間は 4 つの領域に分割され、それぞれが単独にロックでき、256 バイト長です。セキュリティ領域アドレス空間を参照してください。

セキュリティ領域メモリ空間はシステム セキュリティの強化に使用されます。データ値はフラッシュ コンポーネントをシステム CPU/ASIC と一体化してデバイス置き換えを回避できます。セキュリティ領域アドレス空間はセキュリティ領域ロック ビットまたは保護レジスタの NVLOCK ビット PR[0] で保護されます。セキュリティ領域ロック ビット (LB3, LB2, LB1, LB0) を参照してください。

7.1.1 セキュリティ領域メモリの読み出し

セキュリティ領域読み出しコマンド (SECRR) は高速読み出しと同じプロトコルを使用します。1024 バイトの有効なセキュリティ領域アドレス範囲外の読み出し動作は不定値を生じます。セキュリティ領域読み出し (SECRR 48h) を参照してください。

セキュリティ領域 3 は NVLOCK=0 のとき、PWDMLB ビット IRP[2]=0 かつ SECRRP ビット IRP[6]=0 にセットすることにより、読み出しからパスワードで保護されます。

7.1.2 セキュリティ領域のプログラミング

セキュリティ領域プログラム コマンド (SECRP) のプロトコルはページ プログラムと同じです。セキュリティ領域プログラム (SECRP 42h) を参照してください。

セキュリティ領域プログラムの有効なアドレス範囲は Table 5 に示されます。セキュリティ領域アドレス範囲外のセキュリティ領域プログラム動作は無視され、P_ERR ビット SR2V[5] に「1」がセットされません。

セキュリティ領域 2 と 3 は、PWDMLB ビット IRP[2]=0 にセットすることによりプログラムからパスワードで保護できます。

7.1.3 セキュリティ領域の消去

セキュリティ領域消去コマンド (SECRE) のプロトコルはセクタ消去と同じです。セキュリティ領域消去 (SECRE 44h) を参照してください。

セキュリティ領域消去の有効なアドレス範囲は Table 5 に示されます。セキュリティ領域アドレス範囲外のセキュリティ領域消去動作は無視され、SR2V の E_ERR ビットに「1」がセットされません。

セキュリティ領域 2 と 3 は PWDMLB ビット IRP[2]=0 にセットすることにより消去からパスワードで保護できます。

7.1.4 セキュリティ領域ロック ビット (LB3, LB2, LB1, LB0)

セキュリティ領域ロック ビット (LB3, LB2, LB1, LB0) はコンフィギュレーション レジスタ 1 の不揮発性ワンタイム プログラム (OTP) ビット (CR1NV[5:2]) であり、セキュリティ領域に書き込み保護の制御およびステータスを提供します。セキュリティ領域 0 ～ 3 のデフォルト状態はロック解除です。LB[3:0] はステータス レジスタ書き込みまたは任意レジスタ書き込みコマンドでそれぞれ「1」にセットできます。LB[3:0] はワンタイム プログラマブル (OTP) で、いったん「1」にセットされた後、対応する 256 バイトのセキュリティ領域は永久的に読み出し専用になります。

7.2 ディープ パワー ダウン

ディープ パワー ダウン (DPD) コマンドはデータ保護の代替手段です。DPD 状態の間、ディープ パワー ダウン終了 (RES ABh) コマンドおよびハードウェア リセットを除くすべてのコマンドが無視されます。これにより、DPD 状態ですべてのプログラムや消去動作を防ぎます。

7.3 書き込みイネーブルのコマンド

7.3.1 書き込みイネーブル (WREN)

書き込みイネーブル (WREN) コマンドは不揮発性データを変更するすべてのコマンドの前に書き込む必要があります。WREN コマンドで書き込みイネーブル ラッチ (WEL) ビットをセットします。WEL ビットは電源投入時、ハードウェア / ソフトウェア リセットのとき、またはデバイスが以下のコマンドを完了した後 0 にクリアされます (書き込み不可になります)。

- リセット
- ページ プログラム (PP または 4PP)
- クアッド ページ プログラム (QPP または 4QPP)
- セクタ消去 (SE または 4SE)
- ハーフ ブロック消去 (HBE または 4HBE)
- ブロック消去 (BE または 4BE)
- チップ消去 (CE)
- 書き込みディセーブル (WRDI)
- レジスタ書き込み (WRR)
- 任意レジスタ書き込み (WRAR)
- セキュリティ領域消去 (SECRE)
- セキュリティ領域バイト プログラム (SECRP)
- 個別および領域保護レジスタ プログラム (IRPP)
- パスワード プログラム (PASSP)
- ステータス レジスタ クリア (CLSR)
- ポインター領域保護セット (SPRP または 4SPRP)
- 不揮発性データ ラーニング レジスタ プログラム (PDLRNV)
- 揮発性データ ラーニング レジスタ書き込み (WDLRV)

7.3.2 揮発性レジスタの書き込みイネーブル (WRENV)

揮発性書き込みイネーブル (WRENV) コマンドは揮発性レジスタ データを変更するレジスタ書き込み (WRR) コマンドの前に実行する必要があります。

7.4 書き込み保護信号

クアッド モードでないとき (CR1V[1]=0) または QPI モードでないとき (CR2V[3]=0)、書き込み保護 (WP#) 入力はステータス レジスタ保護 0 (SRP0) ビット (SR1NV[7]) とともにハードウェア入力信号で制御された保護を提供します。WP# が LOW で、SRP0 が「1」にセットされたとき、ステータス レジスタ 1 (SR1NV, SR1V), コンフィギュレーション レジスタ (CR1NV, CR1V, CR2NV, CR2V, CR3NV), および DDR データ ラーニング レジスタ (DLRNV, DLRV) は変更から保護されます。これにより、レガシー ブロック保護ビットまたはセキュリティ領域ロック ビットで定義された保護の無効化あるいは変更を防ぎます。ステータス レジスタ 1 を参照してください。

7.5 ステータス レジスタ保護 (SRP1, SRP0)

ステータス レジスタ保護ビット (SRP1 と SRP0) はコンフィギュレーション レジスタとステータス レジスタの揮発性ビット (CR1V[0] と SR1V[7]) です。SRP ビットは SR1NV, SR1V, CR1NV, CR1V, CR2NV, CR2V, CR3NV, DLRNV, および DLRV の書き込み保護の方法 (ソフトウェア保護 , ハードウェア保護 , または電源ロックダウン) を制御します。

Table 27 ステータス レジスタ保護ビット (高セキュリティ)

SRP1_D CR1NV[0]	SRP1 CR1V[0]	SRP0 SR1V[7]	WP#	ステータス レジスタ	説明
0	0	0	X	ソフトウェア保護	WP# ピンは何も制御しません。SR1NV, SR1V, CR1NV, CR1V, CR2NV, CR2V, CR3NV, DLRNV, DLRV は書き込み可能です。[工場出荷時]
0	0	1	0	ハードウェア保護	WP# ピンが LOW のとき、SR1NV, SR1V, CR1NV, CR1V, CR2NV, CR2V, CR3NV, DLRNV, DLRV はロックされ、書き込めません [13, 16]。
0	0	1	1	ハードウェア非保護	WP# ピンが HIGH のとき、SR1NV, SR1V, CR1NV, CR1V, CR2NV, CR2V, CR3NV, DLRNV, DLRV はロックされず、書き込めます [13]。
0	1	X	X	電源ロックダウン	次のパワー サイクルまでは、SR1NV, SR1V, CR1NV, CR1V, CR2NV, CR2V, CR3NV, DLRNV, DLRV は保護され、再度書き込めません [14]。
1	1	X	X	ワンタイム プログラム	SRP1_D CR1NV[0] = 1 SR1NV, SR1V, CR1NV, CR1V, CR2NV, CR2V, CR3NV, DLRNV, DLRV は永久的に保護され、書き込めません [15]。

13. SRP0 はパワー サイクルまたはソフトウェア / ハードウェア リセットの後に SRP0_NV (SR1NV[7]) のデフォルト状態からリロードされます。電源投入時に WP# ピンによるハードウェア保護モードを有効にするために、SRP0_NV ビットを「1」にセットします。
14. SRP1=1 のとき、パワー サイクルまたはハードウェア リセットが発生すると、SRP1 は SRP1_D からリロードされ、「0」になります。
15. SRP1_D は IRP[2:0]= 「111」のときにのみ書き込めます。SRP1_D CR1NV[0]= 「1」のとき、パワー サイクルまたはハードウェア リセットが発生すると、SRP1 は SRP1_D= 「1」からリロードされます。揮発性ビット SRP1 は書き込み不可であるため、OTP 保護を実現します。SRP1_D が「1」にプログラムされたとき、OTP 保護が使用中であることを示すために SRP0_NV も「1」にプログラムすることを推奨します。
16. QPI と QIO のいずれかのモードが有効になる (CR2V[3] または CR1V[1]= 「1」) 場合、外部 WP# 入力が IO2 として使用されるため、内部 WP# 信号レベルは 1 になります。これにより、SRP1 と SRP0 が 01b になるとハードウェア保護が効果的にオフにされます。SR1NV, SR1V, CR1NV, CR1V, CR2NV, CR2V, CR3NV, DLRNV, および DLRV レジスタはロックされずに書き込み可能になります。
17. WIP, WEL, SUS (SR1[1:0] と CR1[7]) はステータス レジスタ書き込みコマンドに影響されない揮発性の読み出し専用ステータス ビットです。
18. SR1NV, CR1NV, CR2NV, CR3NV の不揮発性バージョンは表に示されるように SRP ビットおよび WP# によって保護されているとき書き込み不可です。書き込みイネーブル (06h) コマンドに続いてステータス レジスタ書き込み (01h) コマンドまたは任意レジスタ書き込み (71h) コマンドを実行すると、これらのステータス レジスタ ビットの不揮発性バージョンは書き込み用に選択されます。
19. SR1V, CR1V, CR2V の揮発性バージョンは Table 27 に示されるように SRP ビットおよび WP# によって保護されるとき書き込み不可です。揮発性ステータス レジスタの書き込みイネーブル (50h) コマンドに続いてステータス レジスタ書き込み (01h) コマンドを実行するか、または書き込みイネーブル (06h) コマンドに続いて任意レジスタ書き込み (71h) コマンドを実行すると、これらのステータス レジスタ ビットの揮発性バージョンは書き込み用に選択されます。
20. 揮発性の CR3V ビットは SRP ビットによって保護されず、揮発性書き込みイネーブル (50h) コマンドに続いてステータス レジスタ書き込み (01h) コマンドを実行することでいつでも書き込めます。WRAR (71h) コマンドおよび SBL (77h) コマンドは CR3V レジスタ ビットに書き込む代替方法です。
21. システム電源投入およびブート コード実行時、信頼できるブート コードは SR1NV, SR1V, CR1NV, CR1V, CR2NV, CR2V, CR3NV, DLRNV, および DLRV 値を変更する必要があるかどうか判定します。変更が必要ない場合、SRP1 ビット (CR1V[0]) を「1」にセットすることで、電源が投入されたままであれば通常システム動作の残りの部分中に SR1NV, SR1V, CR1NV, CR1V, CR2NV, CR2V, CR3NV, DLRNV, および DLRV レジスタを変更から保護できます。

7.6 アレイ保護

メモリ アレイ保護には、レガシー ブロック (LBP), 個別ブロック ロック (IBL), ポインター領域 (PRP) の 3 種類があります。ユーザーは書き込み保護選択 (WPS) ビットを使用して、レガシー ブロック (LBP) 保護 (WPS CR2V[2]=0) または個別ブロック ロック (IBL) 保護 (WPS CR2V[2]=1) の 2 つの保護方式の 1 つを有効にします。揮発性コンフィギュレーション レジスタ 2 (CR2V) を参照してください。保護方式は一度に 1 つしか有効にできません。レガシー ブロック保護はデフォルトの保護方式で、IBL 保護方式と排他的です。ポインター領域保護方式は A10=0 によりポインター領域保護セット コマンドまたは WRAR コマンドを使用することで有効にします。ポインター領域のコマンドを参照してください。ポインター領域保護が有効のとき、レガシー ブロック保護または個別ブロック ロック保護との論理和が取られます。

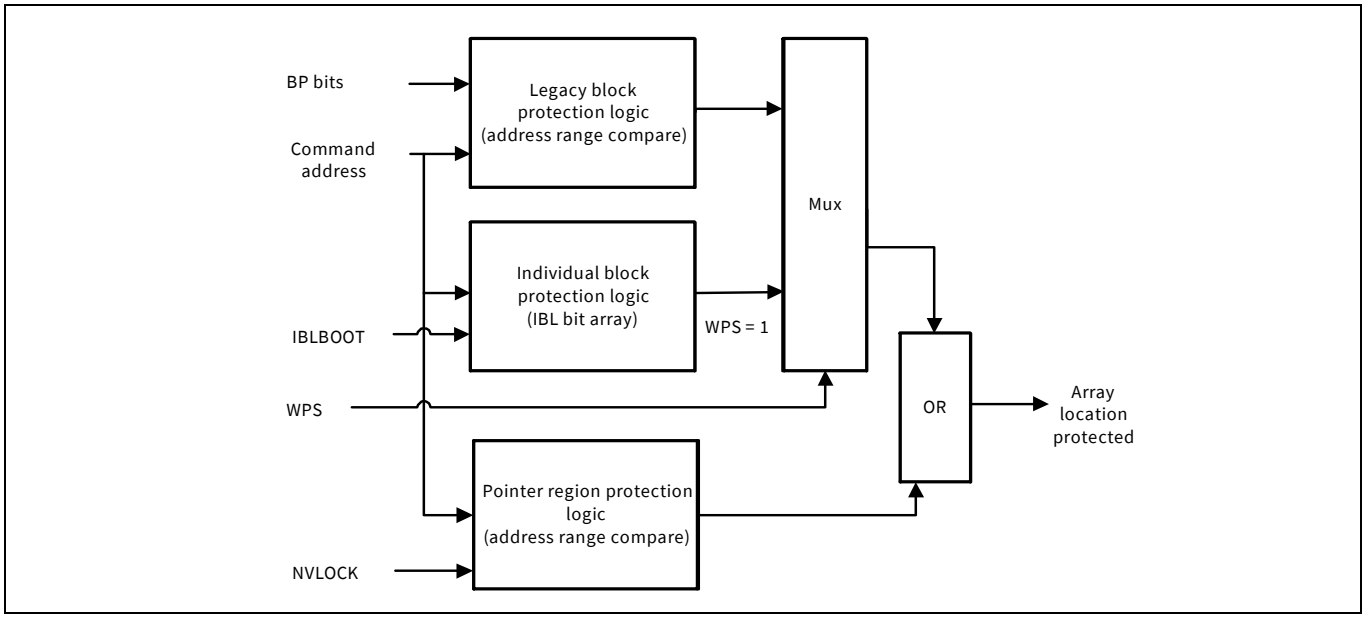


Figure 24 WPS による LBP または IBL の選択および PRP アレイ保護

7.6.1 レガシー ブロック保護

レガシー ブロック保護ビット (ステータス レジスタ ビット BP2, BP1, BP0 -- SR1V[4:2]) はコンフィギュレーション レジスタの TBPROT ビット (SR1V[5])、CMP ビット (CR1V[6]) および SEC ビット (SR1V[6]) と併用してメイン フラッシュ アレイのアドレス範囲をプログラムおよび消去動作から保護できます。範囲のサイズは BP ビットの値で決まり、範囲の上限または下限のスタートポイントはコンフィギュレーション レジスタの TBPROT ビット (SR1V[5]) で選択されます。CMP ビット (CR1V[6]) が「1」にセットされると、保護は補完されます。

ポインター領域保護は有効となった場合、レガシー ブロック保護領域との論理和が得られます。

Table 28 S25FL064L レガシー ブロック保護 (CMP = 0)

ステータス レジスタ					64 Mb ブロック保護 (CMP = 0)			
SEC	TBPROT	BP2	BP1	BP0	保護ブロック	保護アドレス範囲	保護容量	保護部分
X	X	0	0	0	無	無	無	無
0	0	0	0	1	126 および 127	7E0000h ～ 7FFFFFh	128 kB	上位 1/64
0	0	0	1	0	124 ～ 127	7C0000h ～ 7FFFFFh	256 kB	上位 1/32
0	0	0	1	1	120 ～ 127	780000h ～ 7FFFFFh	512 kB	上位 1/16
0	0	1	0	0	112 ～ 127	700000h ～ 7FFFFFh	1 MB	上位 1/8
0	0	1	0	1	96 ～ 127	600000h ～ 7FFFFFh	2 MB	上位 1/4
0	0	1	1	0	64 ～ 127	400000h ～ 7FFFFFh	4 MB	上位 1/2
0	1	0	0	1	0 および 1	000000h ～ 01FFFFh	128 kB	下位 1/64
0	1	0	1	0	0 ～ 3	000000h ～ 03FFFFh	256 kB	下位 1/32
0	1	0	1	1	0 ～ 7	000000h ～ 07FFFFh	512 kB	下位 1/16
0	1	1	0	0	0 ～ 15	000000h ～ 0FFFFFh	1 MB	下位 1/8
0	1	1	0	1	0 ～ 31	000000h ～ 1FFFFFh	2 MB	下位 1/4
0	1	1	1	0	0 ～ 63	000000h ～ 3FFFFFh	4 MB	下位 1/2
X	X	1	1	1	0 ～ 127	000000h ～ 7FFFFFh	8 MB	All
1	0	0	0	1	127	7FF000h ～ 7FFFFFh	4 kB	上位 1/2048
1	0	0	1	0	127	7FE000h ～ 7FFFFFh	8 kB	上位 1/1024
1	0	0	1	1	127	7FC000h ～ 7FFFFFh	16 kB	上位 1/512
1	0	1	0	X	127	7F8000h ～ 7FFFFFh	32 kB	上位 1/256
1	1	0	0	1	0	000000h ～ 000FFFh	4 kB	下位 1/2048
1	1	0	1	0	0	000000h ～ 001FFFh	8 kB	下位 1/1024
1	1	0	1	1	0	000000h ～ 003FFFh	16 kB	下位 1/512
1	1	1	0	X	0	000000h ～ 007FFFh	32 kB	下位 1/256

注
22.X = ドントケア。

Table 29　S25FL064L レガシー補完的ブロック保護 (CMP = 1)

ステータス レジスタ					64 Mb レガシー ブロック保護 (CMP = 1)			
SEC	TBPORT	BP2	BP1	BP0	保護ブロック	保護アドレス範囲	保護容量	保護部分
X	X	0	0	0	0 ～ 127	000000h ～ 7FFFFFh	8 MB	全部
0	0	0	0	1	0 ～ 125	000000h ～ 7DFFFFh	8,064 kB	下位 63/64
0	0	0	1	0	0 ～ 123	000000h ～ 7BFFFFh	7,936 kB	下位 31/32
0	0	0	1	1	0 ～ 119	000000h ～ 77FFFFh	7,680 kB	下位 15/16
0	0	1	0	0	0 ～ 111	000000h ～ 6FFFFFh	7 MB	下位 7/8
0	0	1	0	1	0 ～ 95	000000h ～ 5FFFFFh	5 MB	下位 3/4
0	0	1	1	0	0 ～ 63	000000h ～ 3FFFFFh	4 MB	下位 1/2
0	1	0	0	1	2 ～ 127	020000h ～ 7FFFFFh	8,064 kB	上位 63/64
0	1	0	1	0	4 ～ 127	040000h ～ 7FFFFFh	7,936 kB	上位 31/32
0	1	0	1	1	8 ～ 127	080000h ～ 7FFFFFh	7,680 kB	上位 15/16
0	1	1	0	0	16 ～ 127	100000h ～ 7FFFFFh	7 MB	上位 7/8
0	1	1	0	1	32 ～ 127	200000h ～ 7FFFFFh	5 MB	上位 3/4
0	1	1	1	0	64 ～ 127	400000h ～ 7FFFFFh	4 MB	上位 1/2
X	X	1	1	1	無	無	無	無
1	0	0	0	1	0 ～ 127	000000h ～ 7FEFFFh	8,188 kB	下位 2047/2048
1	0	0	1	0	0 ～ 127	000000h ～ 7FDFFFh	8,184 kB	下位 1023/1024
1	0	0	1	1	0 ～ 127	000000h ～ 7FBFFFh	8,176 kB	下位 511/512
1	0	1	0	X	0 ～ 127	000000h ～ 7F7FFFh	8,160 kB	下位 255/256
1	1	0	0	1	0 ～ 127	001000h ～ 7FFFFFh	8,188 kB	上位 2047/2048
1	1	0	1	0	0 ～ 127	002000h ～ 7FFFFFh	8,184 kB	上位 1023/1024
1	1	0	1	1	0 ～ 127	004000h ～ 7FFFFFh	8,176 kB	上位 511/512
1	1	1	0	X	0 ～ 127	008000h ～ 7FFFFFh	8,160 kB	上位 255/256

注
23.X = ドントケア。

7.6.2 個別ブロック ロック (IBL) 保護

個別ブロック ロック (IBL) ビットは揮発性であり、個々のセクタ / ブロックに 1 つのビットが対応し、個別に変更できます。IBL または GBL コマンドを発行すると、IBL ビットが「0」にセットされ、対応するセクタ / ブロックは保護されます。IBUL または GUL コマンドを発行すると、IBL ビットが「1」にクリアされ、対応するセクタ / ブロックは保護されません。IBLRD コマンドを発行することで各 IBL ビットの状態を読み出せます。この機能により、意図しない変更からソフトウェアで個別セクタ / ブロックを簡単に保護できますが、変更が必要な場合は簡単に保護を解除できます。IBL ビットは揮発性ビットであるため、何回でもセット / クリアできます。

各メイン 64KB ブロックおよび最下部と最上部ブロックの 4KB セクタには対応する揮発性個別ブロック ロック (IBL) ビットがあります。セクタ / ブロックの IBL ビットが「0」のとき、セクタ / ブロックはプログラムや消去動作から保護されます。

ポインター領域保護方式が有効である場合、保護された領域は IBL ビットとの論理和が取られます。

電源投入またはハードウェア / ソフトウェア リセット後、IBLLBB は「1」のデフォルト状態となり (Table 20 を参照してください)、すべての IBL ビットは「0」にセットされ、保護状態になります。アレイをプログラムまたは消去するために、グローバル IBL ロック解除またはセクタ / ブロック IBL ロック解除コマンドをプログラムまたは消去コマンドの前に発行しなければいけません。IBLLBB ビット =0 のとき、すべての IBL ビットは電源投入、ハードウェア / ソフトウェア リセットの後に「1」にセットされ、非保護状態になります。

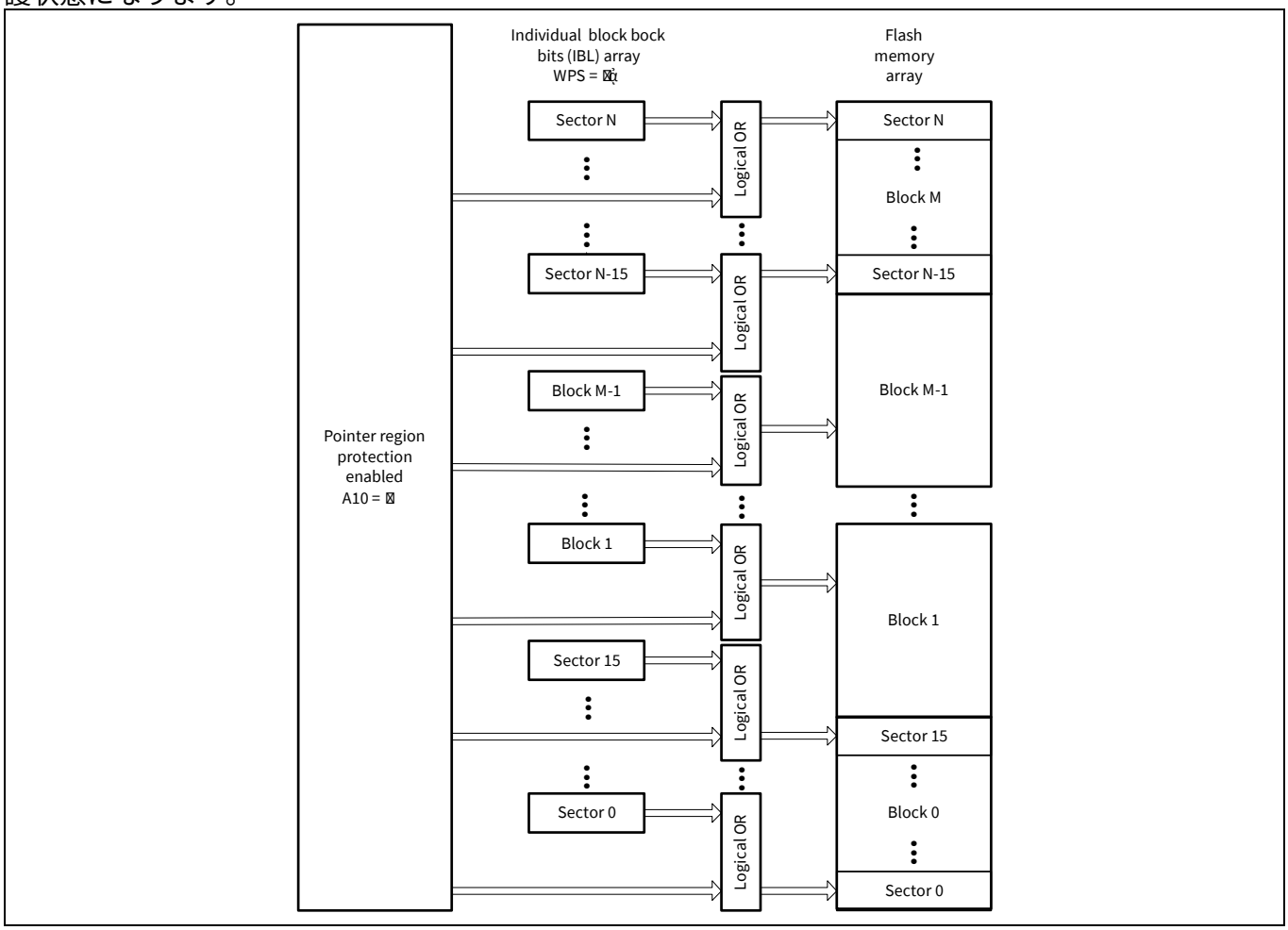


Figure 25 個別ブロック ロック / ポインター領域保護の制御

注

24.「M」は最上部の 64KB ブロックです。
25.「N」は最上部の 4KB セクタです。

7.6.3 ポインター領域保護 (PRP)

ポインター領域保護はメモリ内の保護領域と非保護領域間の境界に任意の 4KB セクタを選択する不揮発性アドレス ポインターで定義されます。パワー サイクルまたはリセット動作の後にも引き続き有効である、個別セクタを単位とした保護方式です。PRP 設定は次のパワー サイクルまで、またはパスワードが供給されるまで変更から保護することもでき、また永久的にロックすることもできます。PRP はレガシー ブロック保護または個別ブロック ロック保護方式と併用できます。PRP 保護は有効になったとき、WPS ビット (CR2V[2]) で選択された保護方式との論理和が取られます。

ポインター領域保護セット (SPRP FBh または 4SPRP E3h) コマンド (ポインター領域のコマンドを参照してください) または PRPR レジスタの書き込み用の任意レジスタ書き込み (WRAR 71h) コマンド (任意レジスタ書き込み (WRAR 71h) を参照してください) は PRP を有効 / 無効にし、ポインター値をセットするために使用されます。

ブロック / ポインター保護セット コマンドまたは PRPR レジスタの書き込み用の任意レジスタ書き込み (WRAR 71h) コマンドを発行した後、ポインター保護方式は A10 の値によって有効か無効になります。A10=1 の場合、ポインター保護領域は無効です。これはデフォルト状態で、残りのポインター値はドント ケアです。A10=0 の場合、ポインター保護領域は有効です。A10 の値は PRPR の不揮発性ポインター ビットに書き込まれます。RFU ビットのポインター アドレス値はドント ケアですが、ビット位置を読み出すと「1」が返されます。PRPR の詳細はポインター領域保護レジスタ (PRPR) を参照してください。

ポインター保護方式が有効な場合、メモリ内の保護領域と非保護領域間のブロック境界はポインター値で決まります。ポインター境界は PRPR の不揮発性のポインター値に書き込まれた 3 アドレス バイト (A23 ～ A12) または 4 アドレス バイト (A31 ～ A12) でセットされます。保護されないエリアはポインター値によって選択された 4KB セクタを含みます。

A9 の値により、保護されない領域はメモリ アレイの最上部 (最上位アドレス) からポインターの位置までか、または最下部 (最下位アドレス) からポインターの位置ま でであるかが決まります。A9=0 の場合、SPRP または 4SPRP コマンドに続いてアドレスを発行すると、アドレスを含む 4kB セクタおよび最下位から最上位までの (0 から大きいアドレスへの) すべてのセクタは保護されません。A9=1 の場合、SPRP または 4SPRP コマンドに続いてアドレスを発行すると、アドレスを含む 4kB セクタおよび最上位から最下位までの (最大アドレスからより小さいアドレスへの) すべてのセクタは保護されません。A9 の値は PRPR の不揮発性のポインター値に書き込まれています。

すべてのセクタを保護するために A11 ビットを使用できます。A11=1 の場合、すべてのセクタは保護されます。A11=0 の場合、非保護の範囲は Amax ～ A12 で決まります。A11 の値は PRPR の不揮発性のポインター値に書き込まれています。

一時停止動作のときは、ポインター値を消去 / 再プログラムできないため、SPRP または 4SPRP コマンドは無視されます。

NVLOCK PR[0]=0 の場合、SPRP または 4SPRP コマンドは無視されます。

任意レジスタ読み出し (65h) コマンド (任意レジスタ読み出し (RDAR 65h) を参照してください) は PRP アクセス レジスタの内容を読み出します。これにより、テストおよび検証のためにポインターの内容が読み出されます。

Table 30 PRP 表

A11	A10	A9	保護アドレス範囲	非保護アドレス範囲	備考
x	1	x	無	全部	A10=1 は PRP が無効であることを示します (これはデフォルト状態で、残りのポインター値はドント ケアです)。
0	0	0	1FFFFFF ～ (A[31:12]+1)	A[31:12] ～ 0000000	アドレスを含む 4kB セクタおよび下位から上位への (0 から大きいアドレスへの) 全セクタは保護されません。
0	0	1	(A[31;12]-1) ～ 0000000	1FFFFFF ～ A[31:12]	アドレスを含む 4kB セクタおよび上位から下位への (最大アドレスから小さいアドレスへの) 全セクタは保護されません。
1	0	x	1FFFFFF ～ 000000	該当なし	A10=0 および A11=1 は全セクタが保護され、Amax ～ A12 がドント ケアであることを示します。

ポインター保護方式が有効 (A10 = 0) のとき、ポインターが 保護している任意のアドレス空間に消去コマンドを適用すると、消去コマンドは失敗します。例えば、ポインター保護方式で保護しているアレイの 4KB にブロック消去コマンドを適用する場合、消去コマンドは失敗します。PRP が有効 (A10=0) の場合、チップ消去 (CEh) コマンドは無視され、E_ERR ステータス ビットがセットされます。

ポインター領域保護が有効であり、WPS CR2V[2]=0 の場合はレガシー ブロック保護領域との論理和、WPS CR2V[2]=1 の場合は個別ブロック ロック保護との論理和が取られます (Figure 24 を参照してください)。

7.7 個別および領域保護

個別および領域保護 (IRP) はセキュリティ領域 2、3 およびポインター領域保護レジスタ上のプログラムまたは消去動作を有効化 / 無効化するための一連の独立したハードウェアとソフトウェア方式のことを言います。

各方法は NVLOCK ビット (PR[0]) の状態を管理します。NVLOCK=1 のとき、セキュリティ領域 2 と 3 およびポインター領域保護レジスタ (PRPR) はプログラム / 消去ができます。NVLOCK=0 のとき、セキュリティ領域 2 と 3 およびポインター領域保護レジスタ (PRPR) はプログラムも消去もできません。セキュリティ領域 2 と 3 はそれぞれ LB2 と LB3=1 (CR1NV[4:5]) によっても保護ができることに注意してください。

電源ロックダウン保護がデフォルトの方式です。この方式では、POR またはハードウェア リセット時に NVLOCK ビットが「1」にセットされ、NVLOCK 関連の領域およびレジスタがデバイス リセットによって非保護となります。PRL (A6h) コマンドは NVLOCK ビットを「0」にクリアして NVLOCK 関連の領域およびレジスタを保護状態にします。電源ロックダウン方式では NVLOCK ビットを「1」にセットするコマンドがないため、次の電源切断またはハードウェア リセットまで NVLOCK ビットは「0」のままになります。電源ロックダウン方式では、ブートコードによりセキュリティ領域 2、3 または PRPR の値を変更することができます。つまり、これらの不揮発性領域をプログラムするか、または消去し、NVLOCK ビットを「0」にクリアすることでこれらの不揮発性領域を以降の通常のシステム動作から保護します。これはブート コード制御による保護とも呼ばれます。

パスワード方式では、NVLOCK 関連の領域およびレジスタを保護するために、POR またはハードウェア リセット中に保護レジスタの NVLOCK ビットを「0」にクリアし、SECRRP ビットを IRP[6] にセットします。SECRRP ビットはセキュリティ領域 3 が読み出し可能であるか否かを決定します。パスワード方式では、64 ビットのパスワードを永久的にプログラムし、隠すことができます。隠しパスワードと比較するためのパスワードを提供する PASSU (EAh) コマンドが使用されます。パスワードが一致した場合、NVLOCK 関連の領域およびレジスタの保護を解除するために、NVLOCK ビットが「1」にセットされます。PRL (A6h) コマンドは NVLOCK ビットを「0」にクリアし、保護を再度オンにするために使用されます。

永久的方式は永久的に SECRRP ビットを「1」にセットし、NVLOCK を「0」にクリアすることで、セキュリティ領域 2 と 3 および PRPR を永久的に保護します。NVLOCK ビット管理方式は、IRP レジスタの OTP ビット (IRP[2、1、0]) をプログラムすることによって永久的に選択されます。すべての方式の概要を Figure 26 に示します。

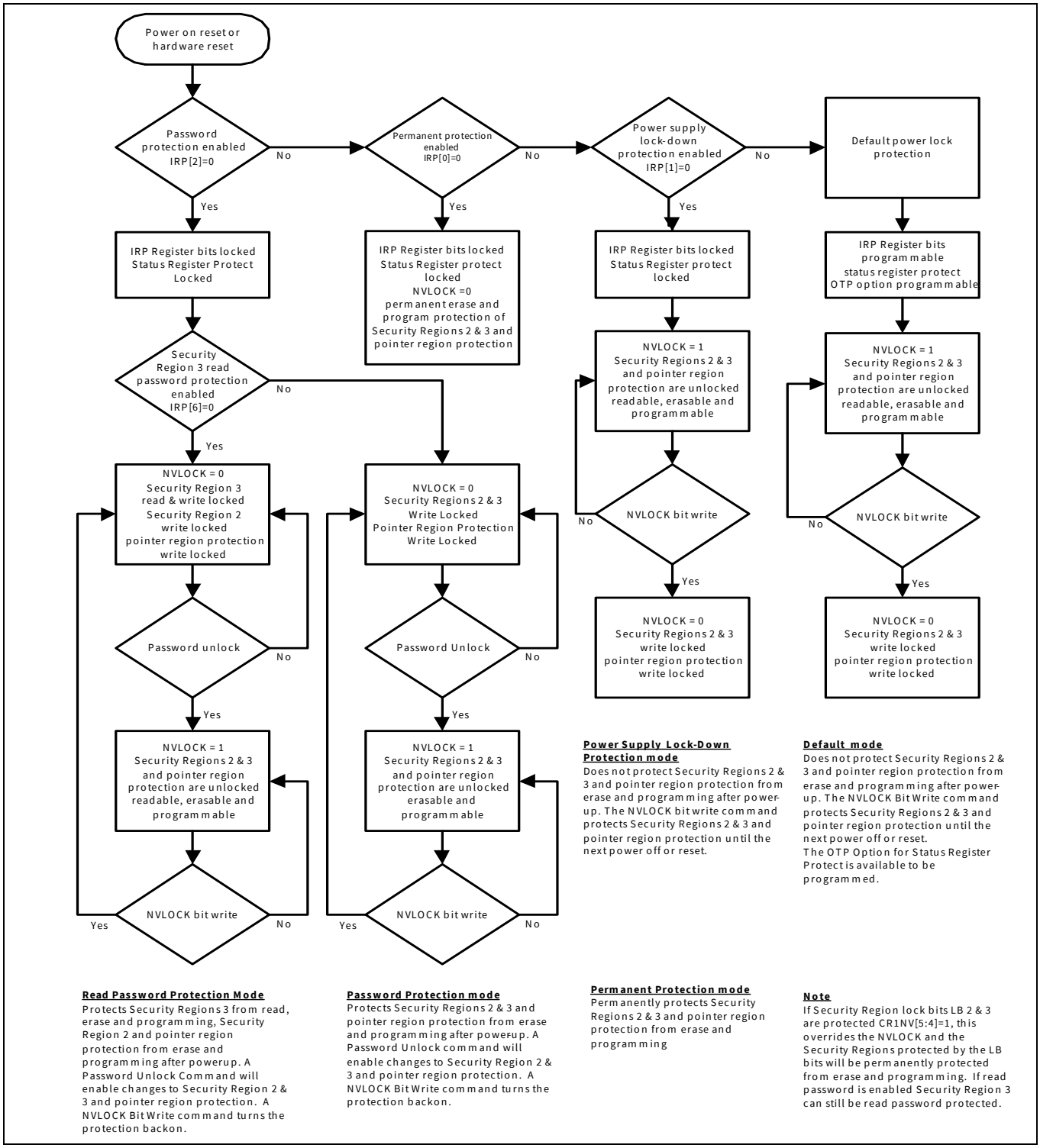


Figure 26 永久的保護、パスワード保護および電源ロックダウン保護の概要

7.7.1 IRP レジスタ

IRP レジスタは個別および領域保護 (IRP) 機能の動作を永久的に設定するために使用されます。Table 20 を参照してください。

工場出荷時、すべてのデバイスはデフォルトで電源ロックダウン保護モードになっており、すべての領域が非保護になっています。

その後、デバイス プログラマまたはホスト システムは、ワンタイム プログラマブル ビット , 永久的 , 電源ロックダウンまたはパスワード保護モードのいずれか 1 つをプログラムすることで、保護方式を選択しなければいけません。ビットのいずれか 1 つをプログラムすると、選択したモードでの部分を永久にロックします。

工場出荷時の IRP レジスタのデフォルト状態は以下のとおりです。

- IRP[6] = 「1」= 読み出しパスワード保護モードは無効です。
- IRP[4] = 「1」= 電源投入時の IBL ビットは保護状態です。
- IRP[2] = 「1」= パスワード保護モードは無効です。
- IRP[1] = 「1」= 電源ロックダウン保護モードは無効ですが、デフォルト モードです。
- IRP[0] = 「1」= 永久的保護モードは無効です。

IRP レジスタのプログラム ルールは以下のとおりです。

- 読み出しパスワード モードを選んだ場合、パスワード保護モード ロック ビット IRP[2] を設定する前または同時に、SECRRP ビットをプログラムしなければいけません。
- 電源投入時の IBL ビット非保護モードを選んだ場合、保護モード ロック ビット IRP[2:0] のいずれかを設定する前または同時に、IBLLBB ビットをプログラムしなければいけません。
- パスワード モードを選んだ場合、パスワード保護モード ロック ビット IRP[2] を設定する前に、パスワードをプログラムしなければいけません。
- 保護モードは相互排他的であり、選択できるのは 1 つだけです。いったん保護モードの中の 1 つが選択されと、IRP レジスタの OTP ビットである IRP[2:0] は永久的にプログラムおよび変更から保護されます。保護モードを選んだ後、それらのレジスタ ビットを変更しようとしても失敗し、P_ERR (SR2V[5]) が 1 にセットされます。

IRP レジスタのプログラム時間は通常のページ プログラムに要する時間と同じです。システムはステータス レジスタの WIP ビットを読み出すことで、IRP レジスタのプログラム動作の状態を判定できます。WIP の詳細はステータス レジスタ 1 を参照してください。パスワード保護モードを参照してください。

7.7.1.1 IBL ロック ブート ビット

デフォルトで IBL ロック ビット IRP[4]=1 の場合、電源投入時またはリセット時 (ハードウェア リセットまたはソフトウェア リセットの後) にすべての IBL ビットは「保護状態」になります。IBL ロック ビット IRP[4]=0 (プログラム済み) の場合、電源投入時またはリセット後の IBL ビットは「非保護状態」になります。

7.7.2 保護レジスタ (PR)

7.7.2.1 NVLOCK ビット (PR[0])

NVLOCK ビットは以下を保護するための揮発性ビットです。

- ポインター領域保護レジスタ
- セキュリティ領域 2 および 3

「0」にクリアされると、NVLOCK は関連領域をロックします。「1」にセットされると、関連領域を変更可能にします。詳細は保護レジスタ (PR) を参照してください。

PRL コマンドは NVLOCK ビットを「0」にクリアするために使用されます。NVLOCK ビットは、すべての関連領域を所望の設定に構成した後でのみ、「0」にクリアする必要があります。

電源ロックダウン保護モードでは POR またはハードウェア リセット時、NVLOCK が「1」にセットされます。ソフトウェア リセット コマンドは NVLOCK ビットに影響しません。「0」にクリアされると、NVLOCK ビットを「1」にセットするソフトウェアコマンド シーケンスはありません。別のハードウェア リセットまたは電源投入でのみ NVLOCK ビットをセットできます。

パスワード保護モードでは、POR またはハードウェア リセット時、NVLOCK ビットが「0」にクリアされます。NVLOCK ビットは、パスワード ロック解除コマンドによってのみ「1」にセットできます。

永久的方式は永久的に NVLOCK を 0 にクリアすることで、セキュリティ領域 2 と 3 および PRPR を永久的に保護します。

7.7.2.2 セキュリティ領域読み出しのパスワード ロック ビット (SECRRP, PR[6])

SECRRP ビットはセキュリティ領域 3 を読み出しから保護するための揮発性ビットです。SECRRP[6]=0 のとき、セキュリティ領域 3 は読み出せません。詳細は保護レジスタ (PR) を参照してください。

パスワード保護モードでは、SECRRP ビットは POR またはソフトウェア / ハードウェア リセット中に IRP[6] と同じようにセットされます。NVLOCK ビットはパスワード ロック解除コマンドによってのみ「1」にセットできます。ソフトウェア リセットは NVLOCK ビットに影響しません。

永久的方式は永久的に SECRRP ビットを 1 にセットすることで、永久的にセキュリティ領域 3 の読み出しを可能にします。

7.7.3 パスワード保護モード

パスワード保護モードを使用すると、NVLOCK ビットをロック解除するために 64 ビットのパスワードを必要とすることによって、電源ロックダウン保護モードよりも高いセキュリティ レベルを実現できます。このパスワード要件に加えて、電源投入またはリセット後、保護を確実にするためには、NVLOCK ビットを「0」にクリアします。完全なパスワードを入力してパスワード ロック解除コマンドを正常に完了すると、NVLOCK ビットが 1 にセットされ、セクタの NVLOCK 関連領域とレジスタの変更が可能になります。

パスワード保護の注意事項は以下のとおりです。

- パスワードをプログラムおよび検証した後、パスワードの読み出しを防ぐためにはパスワード モード (IRP[2]=0) をセットしなければいけません。
- パスワード プログラム コマンドでプログラムできるのは、「0」だけです。「0」にプログラムされたセルを「1」にプログラムしようとしても、セルは「0」のまま であり、プログラミング エラーがセットされません。
- インフィニオン出荷時のパスワードはすべて「1」です。パスワードは自身のメモリ空間内にあり、パスワード プログラム , パスワード読み出し , RDAR, および WRAR コマンドによりアクセス可能です。
- あらゆる 64 ビット パスワードの組合せがパスワードとして有効です。
- パスワード モードをプログラムすると、64 ビット パスワードの読み出しができなくなり、以降のパスワードのプログラムもできなくなります。これ以降、パスワード領域に対するプログラム コマンドや読み出しコマンドは無効になり、これらのコマンドは無視されるか、または未定義データが返されます。

パスワード モード ロック ビットが選択された後に、パスワードが何であるかを確認する方法はありません。パスワードの検証ができるのはパスワード保護モードを選択する前のときのみです。

- 保護モード ロック ビットは消去不可能です。
- アンロック機能を有効にするためには、正確なパスワードを入力する必要があります。パスワード ロック解除コマンドが提供したパスワードが、内部の隠しパスワードと一致しない場合は、保護されているセクタにおけるプログラム動作と同様に、ロック解除動作は失敗します。P_ERR ビットが 1 にセットされ、WIP ビットがセットされたままで、NVLOCK ビットが 0 にクリアされたままです。
- パスワード ロック解除コマンドを一度に 100µs ± 20µs より高速に実行できません。これによって、ハッカーがパスワードを正しく一致させるためにすべての 64 ビットの組合せを実行するには、非現実的な長さの時間 (5800 万年) かかります。ステータスレジスタ 1 読み出しコマンドを使用して WIP ビットを読み出すことで、デバイスがいつパスワード ロック解除コマンドを完了したか、またはいつ新しいパスワード コマンドを受け入れる準備ができたかを判断できます。有効なパスワードを提供すると、パスワード ロック解除コマンドは、WIP ビットをゼロに戻す前に 100µs の遅延を挿入しません。
- パスワード モード選択後にパスワードを失くした場合、NVLOCK ビットを 1 にセットする方法はありません。

7.7.4 セキュリティ領域読み出しパスワード保護

セキュリティ領域読み出しパスワード保護は、セキュリティ領域 3 を読み出し、プログラムおよび消去から保護します。

セキュリティ領域読み出しパスワード保護は、上述したパスワード保護モードの追加オプションです。ユーザーが SECRRP ビット IRP[6] を 0 にプログラムすると、セキュリティ領域読み出しパスワード保護が有効になります。パスワード保護モードロックビット IRP[2] を設定する前または同時に、SECRRP ビット IRP[6] をプログラムしなければいけません。

パスワードがプログラムされ、IRP[2] が 0 にプログラムされるまでは、セキュリティ領域読み出しパスワード保護はアクティブではありません。

SECRRP (PR[6]) ビットを 0 にセットすると、セキュリティ領域 3 からの読み出しは不可能です。これらの領域を読み出すと、無効で未定義なデータが返されます。

7.7.5 推奨の IRP 保護プロセス

システムの製作時には、フラッシュ デバイスのコンフィギュレーションは以下のように定義する必要があります。

- 必要に応じてセキュリティ領域をプログラムします。
- 必要に応じてポインター領域保護レジスタを設定します。
- パスワード保護を使用する場合、パスワード レジスタ (PASS) をプログラムします。
- 必要に応じて IRP レジスタをプログラムします (永久的, 電源ロックダウン, または IRP[2:0] でのパスワード IRP 保護モードの選択を含みます)。IRP レジスタのその後の偶発的な、あるいは故意的なプログラミングを防止するために、保護モードを明白に選ぶ必要があります。これにより、意図した保護機能だけが有効になっていることを確保できます。IRP レジスタのプログラム前またはプログラム中は、
  - IBLLBB ビット (IRP[4]) を使用することで、電源投入時にすべての IBL ビットを非保護の状態にできます。
  - SECRRP ビット (IRP[6]) をプログラムしてセキュリティ領域読み出しパスワード保護を選択することにより、パスワードでセキュリティ領域 3 への読み出しアクセスを制御できます。

システム電源投入時とブート コードの実行中に、電源ロックダウン保護モードが使用中であれば、信頼できるブート コードは NVLOCK 関連領域またはレジスタを変更する必要があるかどうかを判定できます。変更する必要がなければ、PRL コマンドを使用して NVLOCK ビットを 0 にクリアします。これにより、電源がオンの状態で、NVLOCK 関連領域またはレジスタは通常システム動作の残りの部分中に変更から保護されます。

8 コマンド

ホスト システムと FL-L ファミリ メモリ デバイスの間のすべての通信はコマンドの形で行われます。コマンド プロトコルの詳細はコマンド プロトコルを参照してください。

ホスト ソフトウェアが SPI インターフェース信号を直接制御するために使用される場合もありますが、一般的にはホスト システムとメモリ デバイスのハードウェア インターフェースは信号関係とタイミングを取り扱います。そのため、信号関係やタイミングは本資料のソフトウェア インターフェースについて記述する本節では詳細に記載されていません。その代わりに、信号タイミングとの関係よりも各コマンドでのビット転送の論理シーケンスに注目します。以下は覚えておく必要がある一般的な信号関係の説明です。コマンドのビット レベル フォーマットと信号タイミングの関係の詳細は、コマンド プロトコルを参照してください。

- ホストはシングル ビット幅の転送のために、常にチップ選択 (CS#), シリアル クロック (SCK), およびシリアル入力 (SI) を制御します。メモリはシングル ビット読み出し転送のためにシリアル出力 (SO) を駆動します。ホストとメモリはデュアルおよびクアッド転送中に交互に IO0 ～ IO3 信号を駆動します。
- すべてのコマンドはホストがSCKの最初の立ち上りエッジの前にCS#をLOWに駆動してメモリを選択することで始まります。CS# がコマンドを通じて LOW に維持され、HIGH に戻されるとコマンドが終了します。一般的に、バイト単位の情報を転送するために、CS# は 8 ビットの倍数での転送において LOW のままです。8 ビット境界でないときに CS# を HIGH に戻す場合、あらゆるコマンドは受け入れられません。

8.1 コマンド セットのまとめ

8.1.1 拡張アドレス指定

- 常に 4 バイトのアドレスを必要とし、32Gb までのメモリにアクセスするために使用される命令は下表のとおりです。

Table 31 拡張アドレス 4 バイトのアドレス コマンド

コマンド名	機能	命令 (16 進)
4READ	読み出し	13
4FAST_READ	高速読み出し	0C
4DOR	デュアル出力読み出し	3C
4QOR	クアッド出力読み出し	6C
4DIOR	デュアル I/O 読み出し	BC
4QIOR	クアッド I/O 読み出し	EC
4DDRQIOR	DDR クアッド I/O 読み出し	EE
4PP	ページ プログラム	12
4QPP	クアッドページ プログラム	34
4SE	セクタ消去	21
4HBE	ハーフ ブロック消去	53
4BE	ブロック消去	DC
4IBLRD	IBL 読み出し	E0
4IBL	IBL ロック	E1
4IBUL	IBL ロック解除	E2
4SPRP	ポインター領域保護セット	E3

- 3 バイト アドレス命令との下位互換性のための 4 バイト アドレス モード。標準的な 3 バイト命令はアドレス長設定ビット (CR2V[0]) で制御される 4 バイト アドレス モードとともに使用できます。デフォルトの 3 バイト (24 ビット) または 4 バイト (32 ビット) アドレス指定を有効にするために、CR2V[0] のデフォルト値は電源投入 , ハードウェア リセット , またはソフトウェア リセットの後に CR2NV[1] からロードされます。アドレス長 (CR2V[0]) を 1 にセットすると、レガシー コマンドはアドレス フィールドに 4 バイト (32 ビット) を必要とするように変更されます。アドレス フィールドを 3 バイトから 4 バイトに切り替えるために、以下の命令を 4 バイト アドレス モード設定とともに使用できます。

Table 32　3 バイト アドレス コマンドによる拡張アドレス 4 バイト アドレス モード

コマンド名	機能	命令 (16 進)
RSFDP	SFDP 読み出し	5A
READ	読み出し	03
FAST_READ	高速読み出し	0B
DOR	デュアル出力読み出し	3B
QOR	クアッド出力読み出し	6B
DIOR	デュアル I/O 読み出し	BB
QIOR	クアッド I/O 読み出し	EB
DDRQIOR	DDR クアッド I/O 読み出し	ED
PP	ページ プログラム	02
QPP	クアッド ページ プログラム	32
SE	セクタ消去	20
HBE	ハーフ ブロック消去	52
BE	ブロック消去	D8
RDAR	任意レジスタ読み出し	65
WRAR	任意レジスタ書き込み	71
SECRE	セキュリティ領域消去	44
SECRP	セキュリティ領域プログラム	42
SECRR	セキュリティ領域読み出し	48
IBLRD	IBL 読み出し	3D
IBL	IBL ロック	36
IBUL	IBL ロック解除	39
SPRP	ポインター領域保護セット	FB

8.1.2 機能別コマンドのまとめ

Table 33 FL-L ファミリ コマンド セット (機能別)

機能	コマンド名	コマンド説明	命令値 (16 進)	最大周波数 (MHz)	アドレス長 (バイト)	QPI
デバイス ID 読み出し	RDID	ID (JEDEC 準拠のメーカー ID) 読み出し	9F	108	0	有
	RSFDP	JEDEC シリアル フラッシュ検出可能パラメーター読み出し	5A	108	3 または 4	有
	RDQID	クアッド ID 読み出し	AF	108	0	有
	RUID	固有 ID 読み出し	4B	108	0	有
レジスタ アクセス	RDSR1	ステータス レジスタ 1 読み出し	05	108	0	有
	RDSR2	ステータス レジスタ 2 読み出し	07	108	0	無
	RDCR1	コンフィギュレーション レジスタ 1 読み出し	35	108	0	無
	RDCR2	コンフィギュレーション レジスタ 2 読み出し	15	108	0	無
	RDCR3	コンフィギュレーション レジスタ 3 読み出し	33	108	0	無
	RDAR	任意レジスタ読み出し	65	108	3 または 4	有
	WRR	レジスタ (ステータス 1 および コンフィギュレーション 1,2,3)	01	108	0	有
レジスタ アクセス	WREN	不揮発性データ変更用書き込みイネーブル	06	108	0	有
	WRENV	揮発性ステータスおよびコンフィギュレーション レジスタ用書き込みイネーブル	50	108	0	有
	WRAR	任意レジスタ書き込み	71	108	3 または 4	有
	CLSR	ステータス レジスタ クリア	30	108	0	有
	4BEN	4 バイト アドレス モード開始	B7	108	0	有
	4BEX	4 バイト アドレス モード終了	E9	108	0	有
	SBL	バースト長セット	77	108	0	有
	QPIEN	QPI 開始	38	108	0	No
	QPIEX	QPI 終了	F5	108	0	有
	DLPRD	データ ラーニング パターン読み出し	41	108	0	有
	PDLRNV	不揮発性データ ラーニング レジスタ プログラム	43	108	0	有
	WDLRV	揮発性データ ラーニング レジスタ書き込み	4A	108	0	有

注

26.デバイスが QPI モードのときに送信されると、QPI モードで対応されていないコマンドの動作は未定義です。

Table 33 FL-L ファミリ コマンド セット (機能別) *(continued)*

機能	コマンド名	コマンド説明	命令値 (16 進)	最大周波数 (MHz)	アドレス長 (バイト)	QPI
フラッシュ アレイ読み出し	READ	読み出し	03	50	3 または 4	無
	4READ	読み出し	13	50	4	無
	FAST_READ	高速読み出し	0B	108	3 または 4	無
	4FAST_READ	高速読み出し	0C	108	4	無
	DOR	デュアル出力読み出し	3B	108	3 または 4	無
	4DOR	デュアル出力読み出し	3C	108	4	無
	QOR	クアッド出力読み出し	6B	108	3 または 4	無
	4QOR	クアッド出力読み出し	6C	108	4	無
	DIOR	デュアル I/O 読み出し	BB	108	3 または 4	無
	4DIOR	デュアル I/O 読み出し	BC	108	4	無
	QIOR	クアッド I/O 読み出し (CR1V[1] = 1 または CR2V[3] = 1)	EB	108	3 または 4	有
	4QIOR	クアッド I/O 読み出し (CR1V[1] = 1 または CR2V[3] = 1)	EC	108	4	有
	DDRQIOR	DDR クアッド I/O 読み出し (CR1V[1] = 1 または CR2V[3] = 1)	ED	54	3 または 4	有
	4DDRQIOR	DDR クアッド I/O 読み出し (CR1V[1] = 1 または CR2V[3] = 1)	EE	54	4	有
フラッシュ アレイ プログラム	PP	ページ プログラム	02	108	3 または 4	有
	4PP	ページ プログラム	12	108	4	有
	QPP	クアッド ページ プログラム	32	108	3 または 4	無
	4QPP	クアッド ページ プログラム	34	108	4	無
フラッシュ アレイ消去	SE	セクタ消去	20	108	3 または 4	有
	4SE	セクタ消去	21	108	4	有
	HBE	ハーフ ブロック消去	52	108	3 または 4	有
	4HBE	ハーフ ブロック消去	53	108	4	有
	BE	ブロック消去	D8	108	3 または 4	有
	4BE	ブロック消去	DC	108	4	有
	CE	チップ消去	60	108	0	有
	CE	チップ消去 (代替命令)	C7	108	0	有
消去 / プログラム一時停止 / 再開	EPS	消去 / プログラム一時停止	75	108	0	有
	EPR	消去 / プログラム再開	7A	108	0	有
セキュリティ領域アレイ	SECRE	セキュリティ領域消去	44	108	3 または 4	有
	SECRP	セキュリティ領域プログラム	42	108	3 または 4	有
	SECRR	セキュリティ領域読み出し	48	108	3 または 4	有

注

26.デバイスが QPI モードのときに送信されると、QPI モードで対応されていないコマンドの動作は未定義です。

Table 33 FL-L ファミリ コマンド セット (機能別) *(continued)*

機能	コマンド名	コマンド説明	命令値 (16 進)	最大 周波数 (MHz)	アドレス 長 (バイト)	QPI
アレイ保護	IBLRD	IBL 読み出し	3D	108	3 または 4	有
	4IBLRD	IBL 読み出し	E0	108	4	有
	IBL	IBL ロック	36	108	3 または 4	有
	4IBL	IBL ロック	E1	108	4	有
	IBUL	IBL ロック解除	39	108	3 または 4	有
	4IBUL	IBL ロック解除	E2	108	4	有
	GBL	グローバル IBL ロック	7E	108	0	有
	GBUL	グローバル IBL ロック解除	98	108	0	有
	SPRP	ポインター領域保護セット	FB	108	3 または 4	有
	4SPRP	ポインター領域保護セット	E3	108	4	有
個別および領域保護	IRPRD	IRP レジスタ読み出し	2B	108	0	有
	IRPP	IRP レジスタ プログラム	2F	108	0	有
	PRRD	保護レジスタ 読み出し	A7	108	0	有
	PRL	保護レジスタ ロック (NVLOCK ビット書き込み)	A6	108	0	有
	PASSRD	パスワード読み出し	E7	108	0	有
	PASSP	パスワード プログラム	E8	108	0	有
	PASSU	パスワードロック解除	EA	108	0	有
リセット	RSTEN	ソフトウェア リセット イネーブル	66	108	0	有
	RST	ソフトウェア リセット	99	108	0	有
	MBR	モード ビット リセット	FF	108	0	有
ディープパワーダウン	DPD	ディープ パワーダウン	B9	108	0	有
	RES	ディープ パワーダウン終了 / デバイス ID	AB	108	0	有

注

26.デバイスが QPI モードのときに送信されると、QPI モードで対応されていないコマンドの動作は未定義です。

8.1.3 デバイス ID 読み出し

デバイスの製造元、デバイス タイプおよびデバイスの機能に関する情報を読み出すコマンドが複数あります。メモリについての情報を読み出すには、異なるベンダーからの SPI メモリは異なるコマンドとフォーマットを使用します。FL-L ファミリは 3 つのデバイス情報のコマンドに対応します。

8.1.4 レジスタ読み出し / 書き込み

組み込み動作ステータスを報告するか、またはデバイス設定オプションを制御するためのレジスタが複数あります。これらのレジスタを読み出すか、または書き込むためのコマンドがあります。レジスタには揮発性ビットと不揮発性ビットがあります。レジスタの不揮発性ビットは自動的に消去され、シングル (書き込み) 動作としてプログラムされます。

8.1.4.1 動作ステータス監視

ホスト システムは、ステータス レジスタの書き込み中 (WIP) ビットを監視することで、書き込み , プログラム , 消去 , 一時停止 , または他の組込み動作が完了したかどうかを判定できます。ステータス レジスタ 1 読み出しコマンドまたは任意レジスタ読み出しコマンドは WIP ビットの状態を提供します。ステータス レジスタ 2 読み出しコマンドまたは任意レジスタ読み出しコマンドはステータス レジスタのプログラム エラー (P_ERR) および消去エラー (E_ERR) ビットの状態を提供し、直前のプログラムまたは消去コマンドが正常に完了したかどうかを示します。P_ERR または E_ERR ビットが「1」にセットされると、WIP ビットは「1」にセットされたままで、デバイスがまだビジーの状態で新しい動作のコマンドを受信できないことを示します。P_ERR または E_ERR を 1 にセットしたとき、ステータス読み出し (RDSR1 05h, RDSR2 07h), 任意レジスタ読み出し (RDAR 65h), コンフィギュレーション読み出し (RDCR1, RDCR2, RDCR3), ステータス クリア (CLSR 30h), およびソフトウェア リセット (RSTEN 66h に続いて RST 99h) のコマンドだけが有効です。デバイスをスタンバイ状態に戻すには、ステータス レジスタ クリア (CLSR) コマンドを送信する必要があります。また、ハードウェア リセットまたはソフトウェア リセット (RSTEN 66h の後に RST 99h が続く) によりデバイスをスタンバイ状態に戻すこともできます。

8.1.4.2 コンフィギュレーション

インターフェース パス幅 , インターフェース タイミング , インターフェース アドレス長 , およびデータ保護のいくつかの点を制御するレジスタの読み出し , 書き込み , および保護するコマンドがあります。

8.1.5 フラッシュ アレイ読み出し

データは任意のバイト境界で開始するメモリから読み出せます。データ バイトはホストが CS# 入力を HIGH に駆動してデータ転送を完了させるまで、下位から上位のバイト アドレスから順次読み出されます。バイト アドレスがメモリ アレイの最大アドレスに達すると、読み出しはアレイのゼロ アドレスで継続します。

バースト長設定 (SBL 77h) コマンドにより、要求されるラップ読み出し長とアライメントでバースト ラップ読み出しを有効にできます。バースト長セット (SBL 77h) を参照してください。バースト ラップ読み出しはクアッド I/O と QPI モードに限られます。

異なるアクセス レイテンシとデータ パス幅を特定するためにいくつかの異なる読み出しコマンドがあります。ダブル データ レート (DDR) コマンドは SCK の両エッジに対するアドレスとデータ ビットの関係も定義します。

- 読み出しコマンドはSI/IO0信号上でSCKの立ち上りエッジごとに1アドレスビットを提供し、SO/IO1上で SCK の立ち下りエッジごとに 1 データ ビットを返します。このコマンドでは、アドレスと返しデータとの間のレイテンシがありませんが、最大 50MHz の SCK レートに制限されています。
- 他の読み出しコマンドはアドレスと返しデータとの間のレイテンシがありますが、より高いSCKの周波数で動作できます。レイテンシはコンフィギュレーション レジスタ読み出しレイテンシ値によって変わります。
- 高速読み出しコマンドはSI/IO0信号上でSCKの立ち上りエッジごとに1アドレスビットを提供し、SO/IO1上で SCK の立ち下りエッジごとに 1 データ ビットを返します。
- デュアルまたはクアッド出力読み出しコマンドは SCK の立ち上りエッジに SI / IO0 ピン上でアドレスを提供し、その読み出しデータは IO0 ～ IO3 信号上で SCK の立ち下りエッジごとに 2 ビットまたは 4 ビットのデータを返します。
- デュアルまたはクアッド I/O 読み出しコマンドはIO0～IO3信号上で、SCKの立ち上りエッジごとに2または 4 アドレス ビットを提供し、SCK の立ち下りエッジごとに 2 または 4 データ ビットを返します。モード ビットの値が Axh であれば、連続読み出し機能が有効になります。
- クアッド ダブル データ レート読み出しコマンドは IO0 ～ IO3 信号上で、SCK エッジごとに 4 アドレス ビットを提供し、SCK エッジごとに 4 データ ビットを返します。モード ビットの値が Axh であれば、連続読み出し機能が有効になります。

8.1.6 フラッシュ アレイ プログラム

データ プログラミングには、書き込みイネーブル (WREN) およびページ プログラム (PP, 4PP, QPP, 4QPP) の 2 つのコマンドが必要です。ページ プログラム コマンドでは、1 つの動作で 1 バイトから連続した 256 バイト (ページ) までのデータをプログラムできます。プログラムの意味は、ビットを 1 のまま にするか、または 1 から 0 にすることです。ビットを 0 から 1 にするには消去動作を行う必要があります。

8.1.7 フラッシュ アレイ消去

セクタ消去 , ハーフ ブロック消去 , ブロック消去 , またはチップ消去コマンドは 1 つのセクタまたはメモリ アレイ全体のすべてのビットを 1 にセットします。プログラムしてビットを 0 に変える前に、まずビットを 1 に消去する必要があります。ビットを個別に 1 から 0 にプログラムできますが、0 から 1 への消去はセクタ幅 , ハーフ ブロック幅 , ブロック幅 , またはアレイ幅 (チップ) レベルで行わなければいけません。消去コマンドの前に、書き込みイネーブル (WREN) コマンドを実行する必要があります。

8.1.8 セキュリティ領域 , レガシー ブロック保護 , 個別および領域保護

シリアル番号などの永久的に保護されたデータ用の別のワンタイム保護 (OTP) アレイを読み出すコマンドがあります。プログラムおよび消去動作から保護されるフラッシュ メモリ アレイ セクタの連続的なグループ (ブロック) を制御するコマンドがあります。どの個別のフラッシュ メモリ アレイ セクタがプログラムと消去動作から保護されるかを制御するコマンドがあります。パスワードが供給されるまでセキュリティ領域 3 の読み出しアクセスを制限するためのモードがあります。

8.1.9 リセット

電源投入後、デフォルトの状態にデバイスをリセットするためのコマンドがあります。しかし、ソフトウェア リセット コマンドは SRP1 または NVLOCK ビットの現時点の状態に影響しません。他のすべての点において、ソフトウェア リセットはハードウェアリセットと同じです。

連続読み出しモードをリセット (終了) するためのコマンドがあります。

8.1.10 予約済み

いくつかの命令は今後使用するために予約されています。FL-L ファミリのこの世代では、コマンド命令の一部が未使用でデバイスの動作に影響を与えない、または未定義の結果を返します。

いくつかのコマンドは、レガシーまたは代替ソース デバイス コマンドが影響なく実行できるために予約されています。その結果、レガシー ソフトウェアは予期しない動作を発生させないことを保証する形で、この世代の FL-L ファミリとは関係ないいくつかのコマンドを発行できます。

いくつかのコマンドは本資料で言及しない FL-L の特別バージョン、または次世代のために予約されています。これにより、新しいホスト メモリ コントローラー デザインではコマンド命令を柔軟に発行できます。コマンドの形式は本改訂版資料の公開時点で既知の場合、定義されています。

8.2 ID のコマンド

8.2.1 ID 読み出し (RDID 9Fh)

ID 読み出し (RDID) コマンドはメーカー ID, デバイス ID への読み出しアクセスを提供します。メーカー ID は JEDEC によって割り当てられます。デバイス ID 値はインフィニオンによって割り当てられます。

プログラム , 消去 , 書き込みサイクルの実行中に発行される RDID コマンドは無視され、それらの実行中のサイクルに影響を与えません。

RDID 命令は SI/IO0 でシフトされます。RDID 命令の最後のビットがデバイスへシフトインされた後、メーカー ID の 1 バイトとデバイス ID の 2 バイトは SO/IO1 上で順次にシフトアウトされます。この情報全体は ID と呼ばれます。ID コンテンツの詳細な説明はデバイス ID アドレス マップを参照してください。

定義された ID アドレス空間の終わりを超えて出力を継続的にシフトすると、未定義のデータが発生します。データ出力中に CS# を論理 HIGH に駆動すると、RDID コマンド シーケンスは終了します。RDID コマンドは 108MHz まで対応できます。

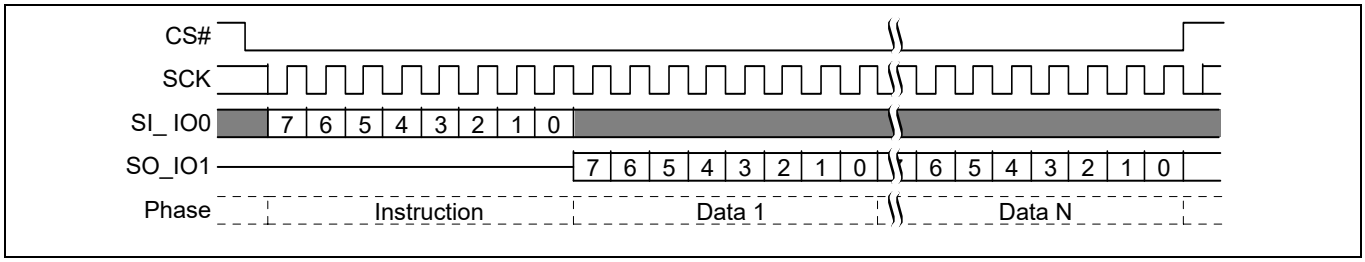


Figure 27 ID 読み出し (RDID) コマンド シーケンス

このコマンドは QPI モードでも対応します。QPI モードでは、命令のシフトインおよび返しデータのシフトアウトは IO0 ～ IO3 上で行われます。

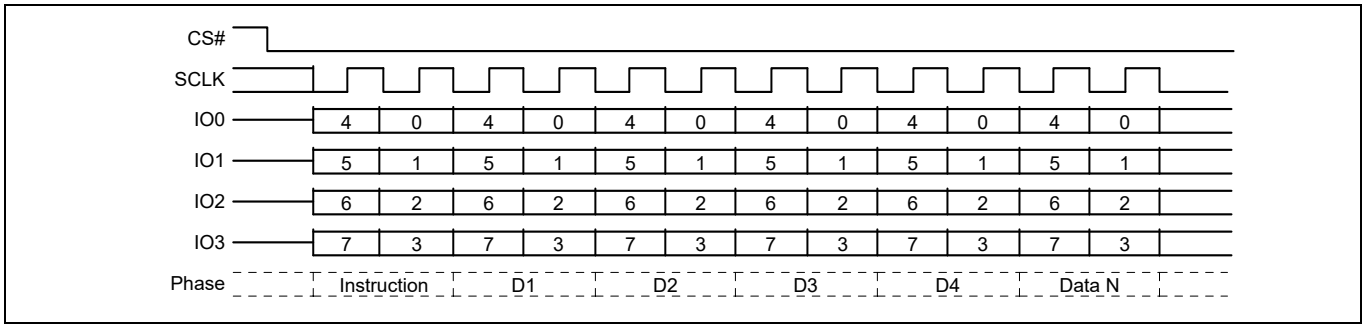


Figure 28 ID 読み出し (RDID) コマンド - QPI モード

8.2.2 クアッド ID 読み出し (RDQID AFh)

クアッド ID 読み出し (RDQID) コマンドはメーカー ID とデバイス ID への読み出しアクセスを提供します。コマンドは、RDID コマンドが提供する同じ情報を読み出す QPI モードでの別の方法です。他のあらゆる点において、コマンドは RDID コマンドと同様に動作します。

コマンドはデバイスが QPI モード (CR2V[3]=1) またはクアッド モード (CR1V[1]=1) である場合のみに認識されます。命令は QPI モードでは IO0 ～ IO3 上で、クアッド モードでは IO0 上でシフトインされます。命令の最後のビットがデバイスへシフトインされた後、メーカー ID の 1 バイトとデバイス ID の 2 バイトは IO0 ～ IO3 上で順次にシフトアウトされます。この情報全体は ID と呼ばれます。ID コンテンツの詳細な説明はデバイス ID アドレス マップを参照してください。

定義された ID アドレス空間の終わりを超えて出力を継続的にシフトすると、未定義のデータが発生します。データ出力中に CS# を論理 HIGH に駆動すると、コマンド シーケンスは終了します。

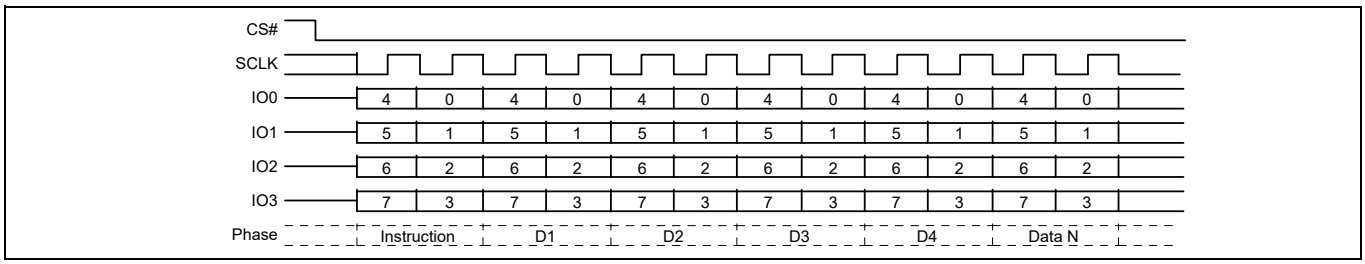


Figure 29 クアッド ID 読み出し (RDQID) コマンド シーケンス - QPI mode

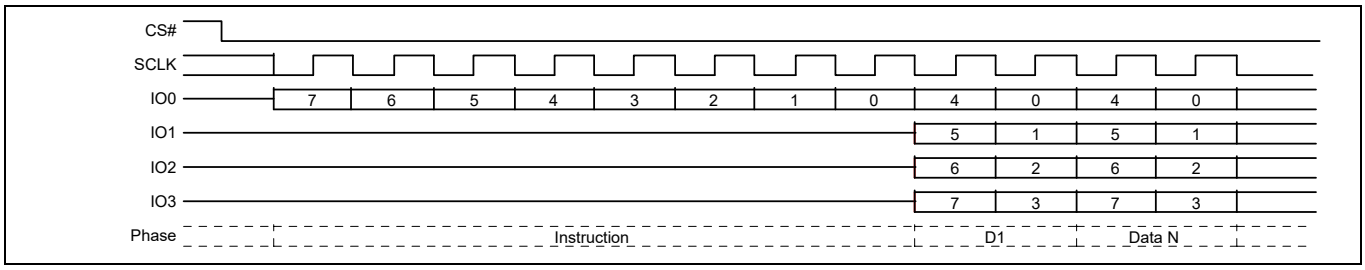


Figure 30 クアッド ID 読み出し (RDQID) コマンド シーケンス - クアッド モード

8.2.3 Read serial flash discoverable parameters (RSFDP 5Ah)

コマンドは、SI 上で「5Ah」の命令コードをシフトすることにより開始され、次に 24 ビット (3 バイト) アドレスまたは 32 ビット (4 バイト) アドレス (CR2V[0] でのアドレス長設定に応じて)、その後は CR3V[3:0] での可変読み出しレイテンシ設定でセットされた読み出しレイテンシ (ダミー サイクル) 数が続きます。

SFDP バイトは SO/IO1 上でダミー サイクル後の SCK の立ち下りエッジからシフトアウトされます。SFDP バイトのシフトアウトは常に MSb から行われます。24 ビット (3 バイト) アドレスまたは 32 ビット (4 バイト) アドレスが 0 以外の値にセットされる場合、SFDP 空間の選択された位置がデータ読み出しのスタート ポイントです。これにより、SFDP 空間の任意のパラメーターへランダムにアクセスできます。SPI モードでは、RSFDP コマンドは最大 108MHz まで対応できます。

JEDEC JESD216 SFDP 規格に準拠するために、可変読み出しレイテンシは 8 サイクルにセットする必要があります。デバイスがインフィニオンから出荷されるとき、CR3NV の不揮発性のデフォルト可変読み出しレイテンシは 8 ダミー サイクルにセットされています。ただし、RSFDP コマンドはその他の可変アドレス長とレイテンシの読み出しコマンドと同じ実装方法を使用するため、ユーザーは必要な場合にコマンドのアドレス長およびレイテンシを自由に変更できます。

連続 (順次) 読み出しは SFDP 読み出しコマンドによって対応します。

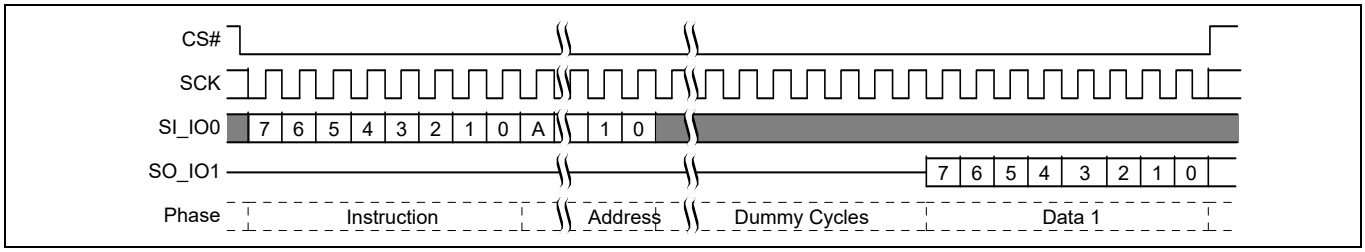


Figure 31 RSFDP コマンド シーケンス [27]

このコマンドは QPI モードでも対応します。QPI モードでは、命令のシフトインおよび返しデータのシフトアウトは IO0 ～ IO3 上で行われます。

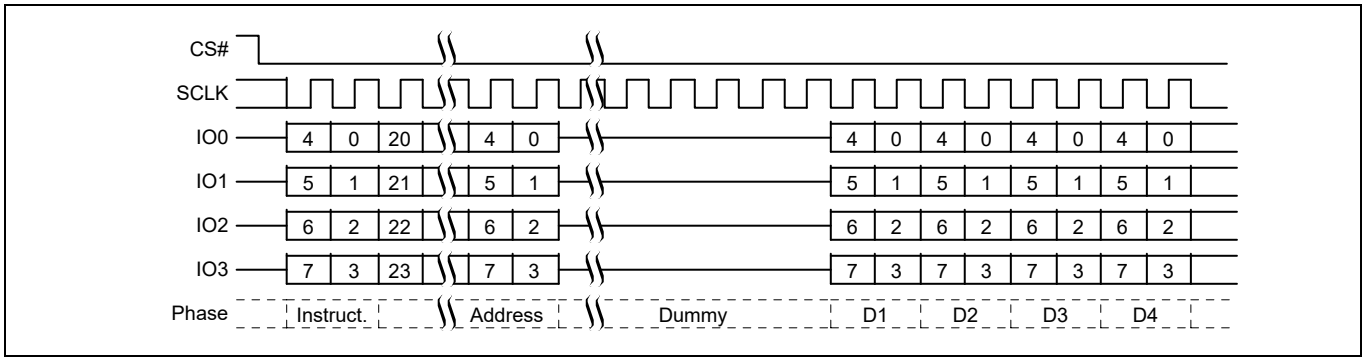


Figure 32 RSFDP コマンド シーケンス - QPI モード

注
27.A= アドレスの MSb は、CR2V[0]=0 の場合は 23、CR2V[0]=1 またはコマンド 13h の場合は 31 です。

8.2.4 固有 ID 読み出し (RUID 4Bh)

ID 読み出し (RUID) コマンドは工場で設定した読み出し専用の、デバイスに一意的な 64 ビット番号への読み出しアクセスを提供します。

RUID 命令は SI 上でシフトされ、その後に 4 ダミー バイトまたは 16 ダミー バイト QPI (32 クロック サイクル) が続きます。レイテンシ期間 (ダミー サイクル) により、デバイスの内部回路は初期アドレスでのデータにアクセスする十分な時間を取れます。レイテンシ サイクル中に、IO0 ～ IO3 上のデータ値は「ドント ケア」で、これらの信号は高インピーダンスであることがあります。

その後、固有 ID の 8 バイトは SO/IO1 上で順次にシフトアウトされます。

定義された固有 ID アドレス空間の終わりを超えて出力を継続にシフトすると、未定義のデータが発生します。データ出力中に CS# を論理 HIGH に駆動すると、RUID コマンド シーケンスは終了します。

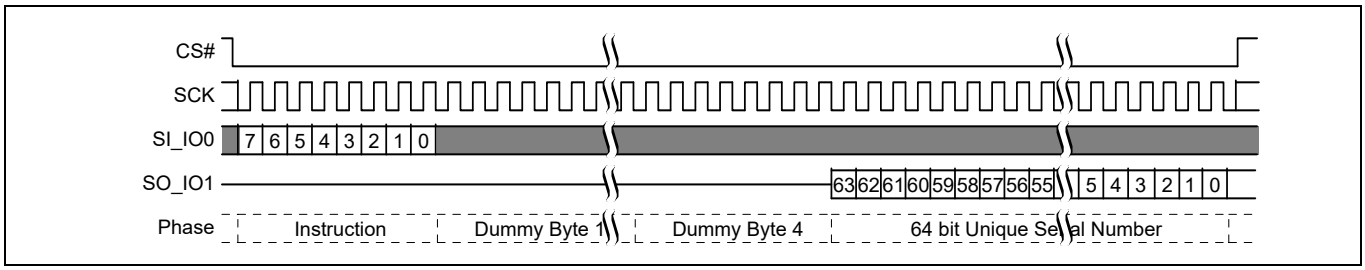


Figure 33 固有 ID 読み出し (RUID) コマンド シーケンス

このコマンドは QPI モードでも対応します。QPI モードでは、命令のシフトインおよび返しデータのシフトアウトは IO0 ～ IO3 上で行われます。

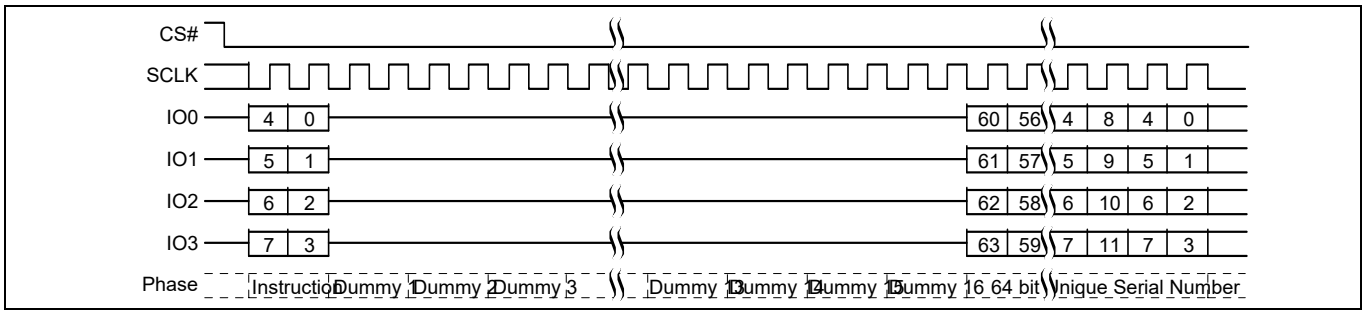


Figure 34 固有 ID 読み出し (RUID) コマンド - QPI モード

8.3 レジスタ アクセスのコマンド

8.3.1 ステータス レジスタ 1 読み出し (RDSR1 05h)

ステータス レジスタ 1 読み出し (RDSR1) コマンドにより、ステータス レジスタ 1 の内容は SO/IO1 から読み出されます。

ステータス レジスタ 1 (SR1V) の揮発性バージョンの内容は、プログラム , 消去 , 書き込み動作の実行中でも、いつでも読み出せます。8 の倍数のクロック サイクルを提供することでステータス レジスタ 1 を連続的に読み出せます。ステータスは各 8 サイクルの読み出しごとに更新されます。

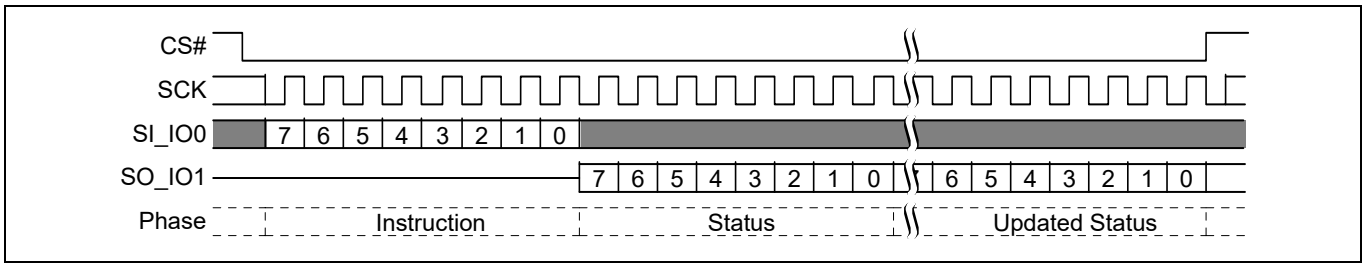


Figure 35 ステータス レジスタ 1 読み出し (RDSR1) コマンド シーケンス

このコマンドは QPI モードでも対応します。QPI モードでは、命令は IO0 ～ IO3 上でシフトインされ、返されるデータは IO0 ～ IO3 上でシフトアウトされます。

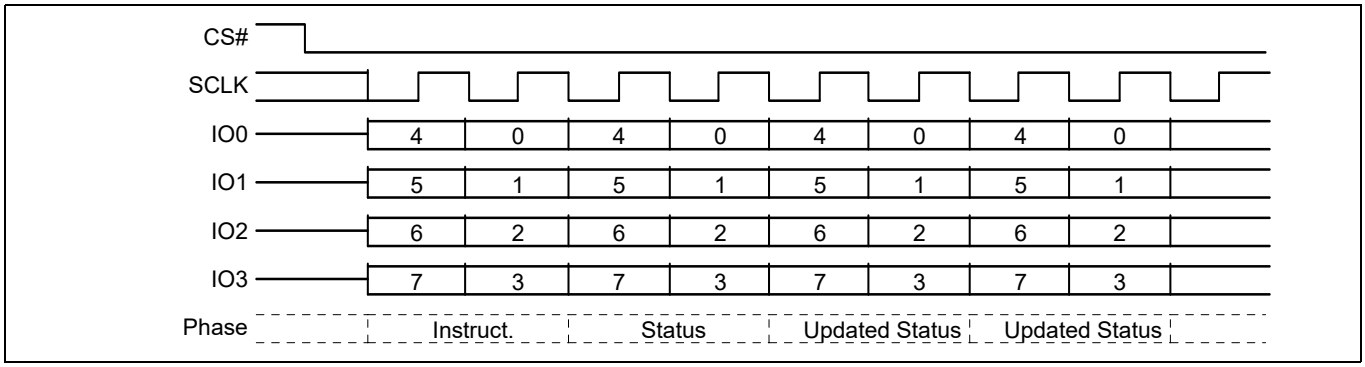


Figure 36 ステータス レジスタ 1 読み出し (RDSR1) コマンド - QPI モード

8.3.2 ステータス レジスタ 2 読み出し (RDSR2 07h)

ステータス レジスタ 2 読み出し (RDSR2) コマンドにより、ステータス レジスタ 2 の内容は SO/IO1 から読み出されます。揮発性ステータス レジスタ 2 (SR2V) の内容は、プログラム , 消去 , 書き込み動作の実行中でも、いつでも読み出せます。8 の倍数のクロック サイクルを提供することでステータス レジスタ 2 を連続的に読み出せます。ステータスは各 8 サイクルの読み出しごとに更新されます。

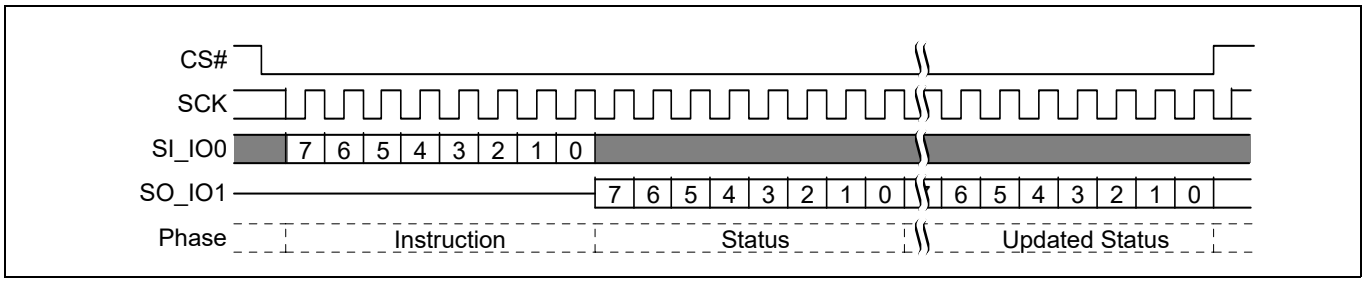


Figure 37 ステータス レジスタ 2 読み出し (RDSR2) コマンド

QPI モードでは、ステータス レジスタ 2 は任意レジスタ読み出しコマンドで読み出されます。任意レジスタ読み出し (RDAR 65h) を参照してください。

8.3.3 コンフィギュレーション レジスタ読み出し (RDCR1 35h) (RDCR2 15h) (RDCR3 33h)

コンフィギュレーション レジスタ読み出し (RDCR1, RDCR2, RDCR3) コマンドにより、揮発性コンフィギュレーション レジスタ (CR1V, CR2V, CR3V) の内容が SO/IO1 から読み出されます。

8 の倍数のクロック サイクルを提供することで CR1V, CR2V, および CR3V を連続的に読み出せます。コンフィギュレーション レジスタの内容はプログラム , 消去 , または書き込み動作の実行中でも常に読み出せます。

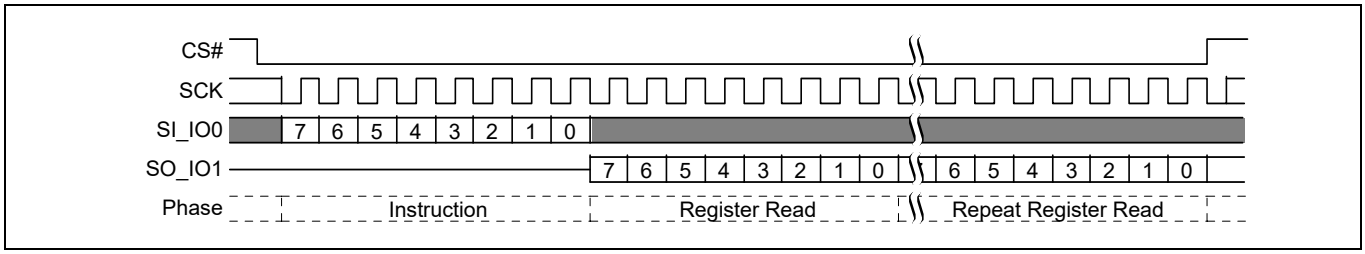


Figure 38 コンフィギュレーション レジスタ読み出し (RDCR1) (RDCR2) (RDCR3) コマンド シーケンス

QPI モードでは、コンフィギュレーション レジスタ 1, 2, および 3 は任意レジスタ読み出しコマンドで読み出されます。任意レジスタ読み出し (RDAR 65h) を参照してください。

8.3.4 レジスタ書き込み (WRR 01h)

レジスタ書き込み (WRR) コマンドにより、新しい値がステータス レジスタ 1, コンフィギュレーション レジスタ 1, コンフィギュレーション レジスタ 2, およびコンフィギュレーション レジスタ 3 に書き込まれます。デバイスはレジスタ書き込み (WRR) コマンドを受け入れる前に、書き込みイネーブル (WREN) または揮発性レジスタの書き込みイネーブル (WRENV) コマンドを受け入れなければいけません。書き込みイネーブル (WREN) コマンドを正常に復号した後、デバイスはステータス レジスタの書き込みイネーブル ラッチ (WEL) をセットし、不揮発性書き込み動作を有効化し、後続する WRR コマンドの値を不揮発性 SR1NV, CR1NV, CR2NV, および CR3NV レジスタへ移動させます。揮発性レジスタの書き込みイネーブル (WRENV) コマンドを正常に復号した後、デバイスは次の WRR コマンドの値を揮発性 SR1V, CR1V, CR2V, および CRV3 レジスタへ移動させます。

レジスタ書き込み (WRR) コマンドは命令およびデータ バイトを SI /IO0 上でシフトすることで入力されます。ステータス レジスタの長さは 1 データ バイトです。

WREN コマンドの実行後に不揮発性レジスタを対象にする WRR動作は、まず不揮発性レジスタを消去し、シングル動作として新しい値をプログラムしてから、新しい不揮発性の値をレジスタの揮発性バージョンにコピーします。WRENV コマンドの実行後に揮発性レジスタを対象にする WRR 動作は、関連する不揮発性レジスタ値に影響を与えずに揮発性レジスタを更新します。WRR 動作にエラーがある場合、レジスタ書き込み (WRR) コマンドは P_ERR または E_ERR のビットをセットします。エラー ビットの説明は揮発性ステータス レジスタ 2 (SR2V) を参照してください。ステータス レジスタ クリア (CLSR) コマンドでエラーと WIP ビットがクリアされ、スタンバイ状態に戻されるまで、デバイスはビジーの状態のままです。将来のために予約されるステータスまたはコンフィギュレーション レジスタ ビットには「0」を書き込む必要があります。

CS# はデータの 8 ビット目 , 16 ビット目 , 24 ビット目 , または 32 ビット目がラッチされた後に論理 HIGH に駆動する必要があります。そうしない場合、レジスタ書き込み (WRR) コマンドは実行されません。CS# が、

- 8 サイクル目の後に HIGH に駆動される場合、ステータス レジスタ 1 のみが書き込まれます。
- 16 サイクル目の後に HIGH に駆動される場合、ステータス 1 およびコンフィギュレーション 1 の両レジスタが書き込まれます。

- 24 サイクル目の後に HIGH に駆動される場合、ステータス 1、コンフィギュレーション 1 と 2 のレジスタが書き込まれます。
- 32 サイクル目の後に HIGH に駆動される場合、ステータス 1、コンフィギュレーション 1, 2, 3 のレジスタが書き込まれます。

CS# が論理 HIGH に駆動されると、セルフタイムのレジスタ書き込み (WRR) 動作は直ちに開始されます。レジスタ書き込み (WRR) 動作の進行中でも、ステータス レジスタを読み出して書き込み中 (WIP) ビット値を確認できます。書き込み中 (WIP) ビットは、セルフタイムのレジスタ書き込み (WRR) 動作中に「1」で、動作が完了すると「0」になります。レジスタ書き込み (WRR) 動作が終了すると、書き込みイネーブル ラッチ (WEN) は「0」にセットされます。

WRR コマンドはハードウェアとソフトウェア リセットから保護されます。ハードウェア リセットおよびソフトウェア リセットコマンドは無視され、WRR コマンドの実行に影響を与えません。

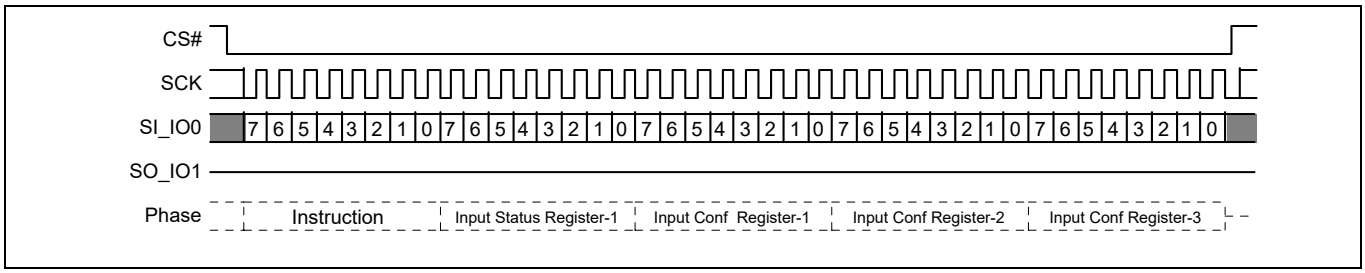


Figure 39　　レジスタ書き込み (WRR) コマンド シーケンス

このコマンドは QPI モードでも対応します。QPI モードでは、命令およびデータは IO0 ～ IO3 上でシフトインされます。

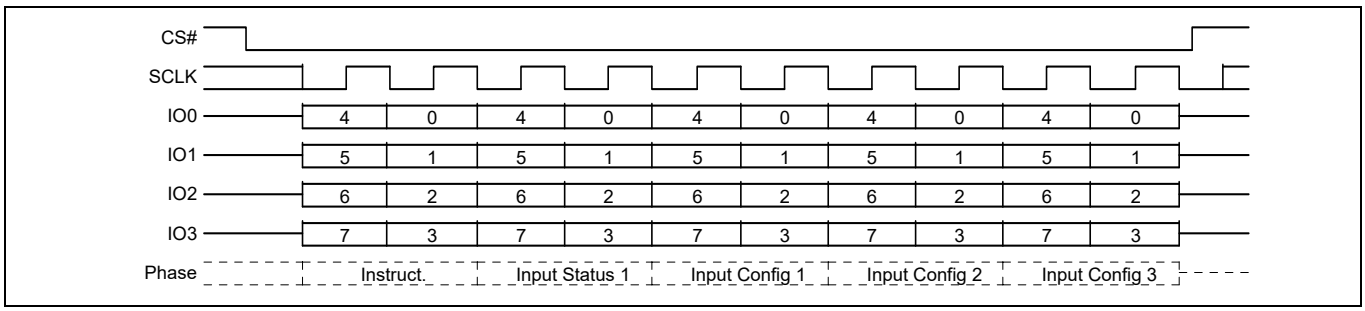


Figure 40　　書き込みレジスタ (WRR) コマンド シーケンス - QPI モード

レジスタ書き込み (WRR) コマンドにより、ユーザーは読み出し専用領域のサイズを定義するために、不揮発性ステータス レジスタ 1 あるいは揮発性ステータス レジスタ 1 のレガシー ブロック保護ビットの値を変更できます。

また、レジスタ書き込み (WRR) コマンドにより、ユーザーはステータス レジスタ保護 0 (SRP0) ビットを「1」または「0」にセットすることもできます。ステータス レジスタ保護 0 (SRP0) ビットおよび書き込み保護 (WP#) 信号により、BP ビットはハードウェアにより保護されます。

ステータス レジスタ保護 0 (SRP0 SR1V[7]) ビットが「0」である場合、書き込み保護 (WP#) 信号が論理 HIGH か論理 LOW にかかわらず、WREN または WRENV コマンドがすでに送信された後であれば、ステータス レジスタは書き込みできます。

ステータス レジスタ保護 0 (SRP0) ビットが「1」にセットされる場合、書き込み保護 (WP#) の状態によって、以下の 2 ケースを検討する必要があります。

- 書き込み保護 (WP#) 信号が論理 HIGH に駆動される場合、WREN または WRENV コマンドが WRR コマンドの前に送信されれば、ステータスおよびコンフィギュレーション レジスタは書き込みできます。

- 書き込み保護 (WP#) 信号が論理 LOW に駆動される場合、WREN または WRENV コマンドが WRR コマンドの前に送信されても、ステータスおよびコンフィギュレーション レジスタは書き込めません。ステータスおよびコンフィギュレーション レジスタに書き込もうとしても拒否され、実行不可になり、エラー表示はありません。結果として、ステータス レジスタのレガシー ブロック保護ビットにより保護されるメモリ領域のすべてのデータ バイトも WP# によってハードウェアで保護されます。

注 : WP# のハードウェア保護は以下の方法で提供されます。

- 書き込み保護 (WP#) 信号を論理 LOW に駆動した後に、ステータス レジスタ保護 0 (SRP0) ビットをセットします。
- ステータス レジスタ保護 0 (SRP0) ビットを「1」にセットした後に、書き込み保護 (WP#) 信号を論理 LOW に駆動します。

ハードウェア保護を解除するためには、書き込み保護 (WP#) 信号を論理 HIGH にプルアップすることが唯一の方法です。WP# が永久的に HIGH である場合、BP ビットのハードウェア保護は有効化されません。

クアッド モードが有効 (CR1V[1]=1)、または QPI モードが有効 (CR2V[3]=1) のときに WP# が IO2 になるため、ハードウェア保護は無効化され、利用できません。

ステータス レジスタ保護 (SRP1, SRP0) はステータスおよびコンフィギュレーション保護の SRP と WP# の制御を示します。

8.3.5 書き込みイネーブル (WREN 06h)

書き込みイネーブル (WREN) コマンドは、ステータス レジスタ 1 の書き込みイネーブル ラッチ (WEL) ビット (SR1V[1]) を「1」にセットします。書き込み , プログラム , および消去のコマンドを有効化するために、書き込みイネーブル (WREN) コマンドを発行して、書き込みイネーブル ラッチ (WEL) ビットを「1」にセットする必要があります。

命令バイトの 8 ビット目が SI/IO0 上にラッチインされた後、CS# を論理 HIGH に駆動する必要があります。命令バイトの 8 ビット目が SI/IO0 上にラッチインされた後、CS# を論理 HIGH に駆動しない場合、書き込みイネーブル動作は実行されません。

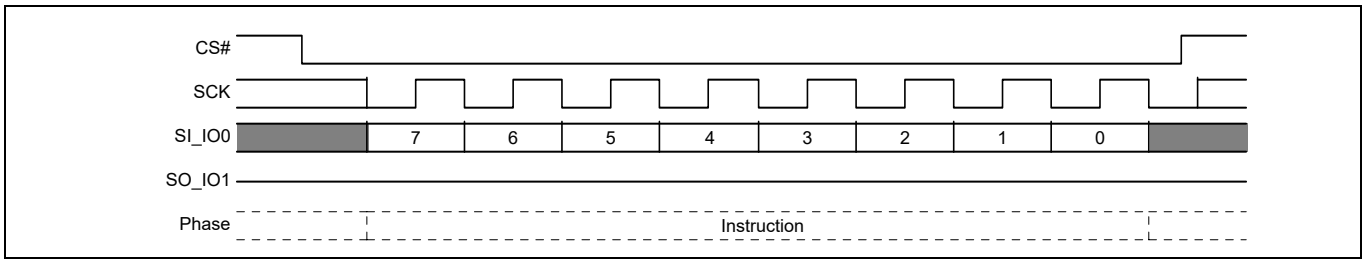


Figure 41 書き込みイネーブル (WREN) コマンド シーケンス

このコマンドは QPI モードでも対応します。QPI モードでは、命令は IO0 ～ IO3 上でシフトインされます。

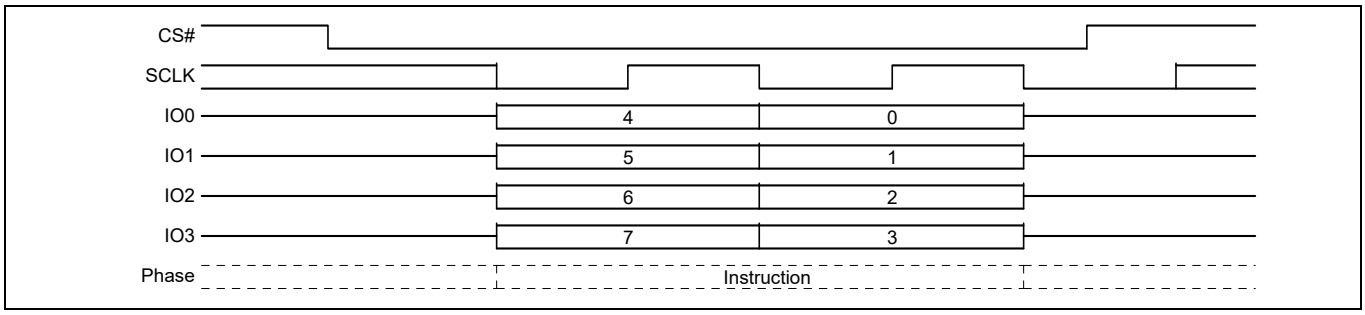


Figure 42 書き込みイネーブル (WREN) コマンド シーケンス - QPI モード

8.3.6 書き込みディセーブル (WRDI 04h)

書き込みディセーブル (WRDI) コマンドはステータス レジスタ 1 の書き込みイネーブル ラッチ (WEL) ビット (SR1V[1]) を「0」にクリアします。

書き込みイネーブル ラッチ (WEL) ビットは、実行のために WEL を「1」にセットする必要があるページ プログラム (PP, 4PP, QPP, 4QPP), セクタ消去 (SE), ハーフ ブロック消去 (HBE), ブロック消去 (BE), チップ消去 (CE), レジスタ書き込み (WRR または WRAR), セキュリティ領域消去 (SECRE), セキュリティ領域プログラム (SECRP), および他のコマンドを無効化するために、書き込みディセーブル (WRDI) コマンドを発行することで「0」にクリアされます。メモリの内容を破損する可能性がある不注意な書き込みからメモリ領域を保護するために、ユーザーは WRDI コマンドを使用できます。WIP ビット =1 の場合、組込み動作中に WRDI コマンドは無視されます。

命令バイトの 8 ビット目が SI/IO0 上にラッチインされた後、CS# を論理 HIGH に駆動する必要があります。命令バイトの 8 ビット目が SI/IO0 上にラッチインされた後、CS# を論理 HIGH に駆動しない場合、書き込みディセーブル動作は実行されません。

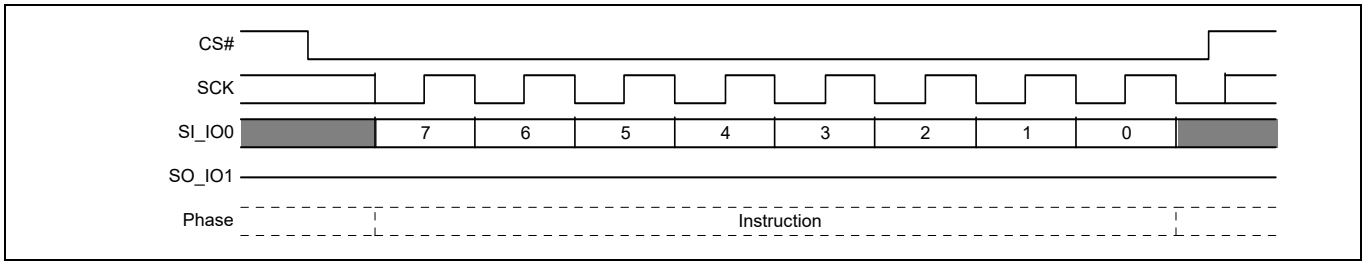


Figure 43 書き込みディセーブル (WRDI) コマンド シーケンス

このコマンドは QPI モードでも対応します。QPI モードでは、命令は IO0 ～ IO3 上でシフトインされます。

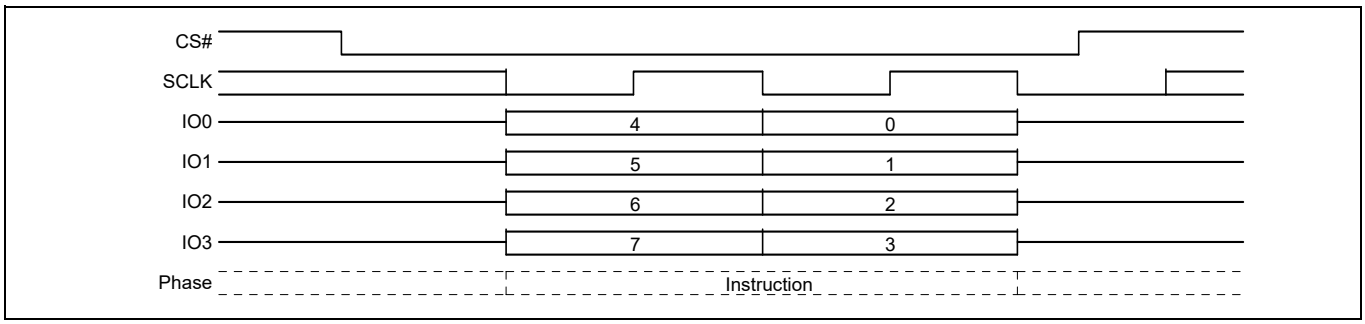


Figure 44 書き込みディセーブル (WRDI) コマンド シーケンス - QPI モード

8.3.7 揮発性レジスタの書き込みイネーブル (WRENV 50h)

レジスタで説明される揮発性の SR1V, CR1V, CR2V, および CR3V レジスタは WRR コマンドに続いて WRENV コマンドを送信することにより書き込まれます。これにより、典型的な不揮発性ビット書き込みサイクルを待機させたり、不揮発性ステータスまたはコンフィギュレーション レジスタ ビットの書き換え可能回数に影響を与えたりせず、システム コンフィギュレーションおよびメモリ保護方式は迅速かつ柔軟に変更できます。WRENV コマンドは書き込みイネーブル ラッチ (WEL) ビットをセットせず、後続する WRR コマンドに揮発性ステータスおよびコンフィギュレーション レジスタ ビット値を変更させるためだけに使用されます。

命令バイトの 8 ビット目が SI/IO0 上にラッチインされた後、CS# を論理 HIGH に駆動する必要があります。命令バイトの 8 ビット目が SI/IO0 上にラッチインされた後、CS# を論理 HIGH に駆動しない場合、書き込みイネーブル動作は実行されません。

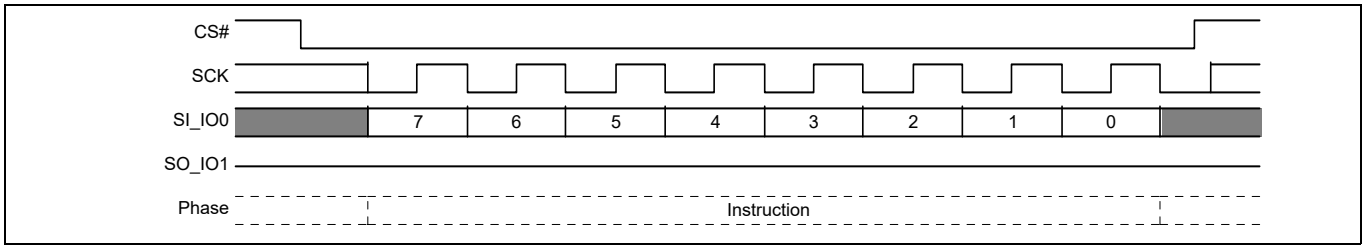


Figure 45　揮発性レジスタの書き込みイネーブル (WRENV) コマンド シーケンス

このコマンドは QPI モードでも対応します。QPI モードでは、命令は IO0 ～ IO3 上でシフトインされます。

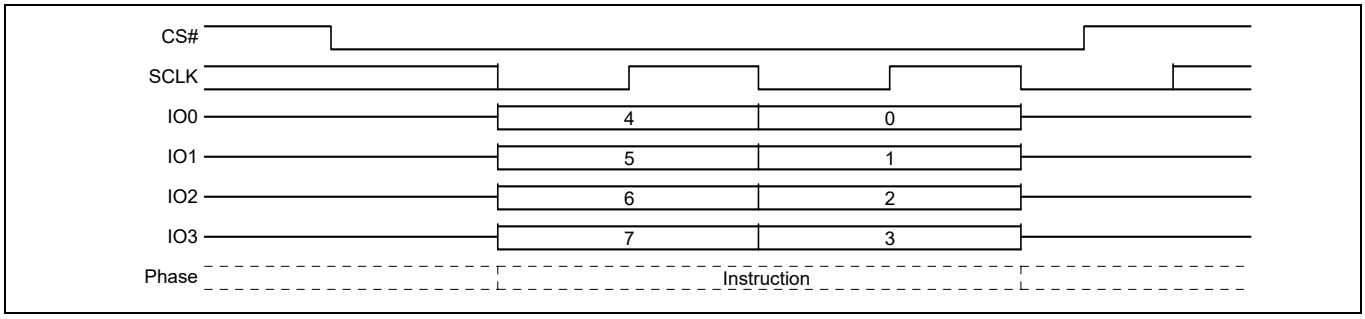


Figure 46　揮発性レジスタの書き込みイネーブル (WRENV) コマンド シーケンス - QPI モード

8.3.8　ステータス レジスタ クリア (CLSR 30h)

ステータス レジスタ クリア コマンドは WIP (SR1V[0]), WEL (SR1V[1]), P_ERR (SR2V[5]), および E_ERR (SR2V[6]) ビットを「0」にクリアします。ステータス レジスタ クリア コマンドを実行する前に、WEL ビットをセットする必要はありません。いずれかのエラー ビットがセットされてもデバイスはビジーの状態を維持するため、WIP が「1」にセットされデバイスがビジーの状態であっても、ステータス レジスタ クリア コマンドは受け入れられます。

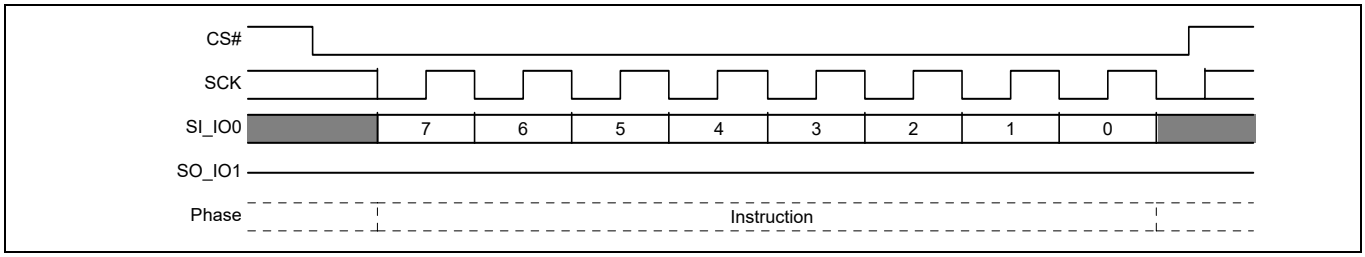


Figure 47　ステータス レジスタ クリア (CLSR) コマンド シーケンス

このコマンドは QPI モードでも対応します。QPI モードでは、命令は IO0 ～ IO3 上でシフトインされます。

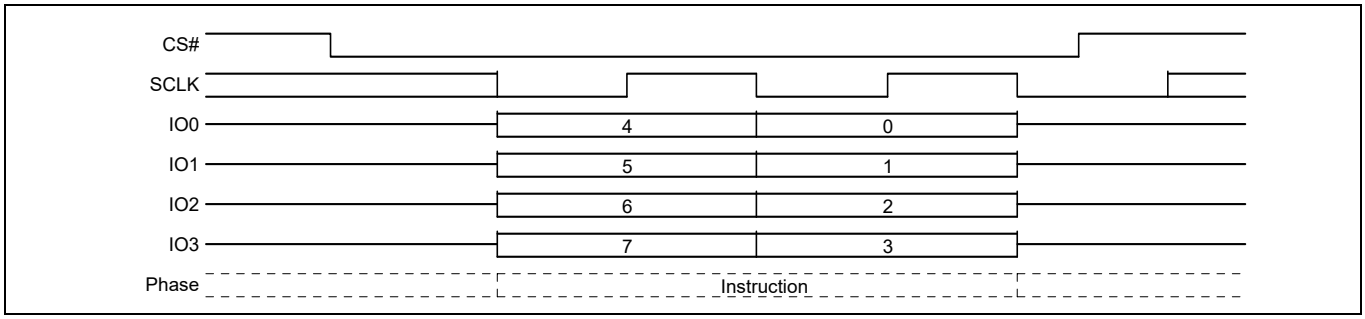


Figure 48　ステータス レジスタ クリア (CLSR) - QPI モード

8.3.9 DLRNV プログラム (PDLRNV 43h)

デバイスは DLRNV プログラム (PDLRNV) コマンドを受け入れる前に、書き込みイネーブル (WREN) コマンドを発行して復号しなければいけません。書き込みイネーブル (WREN) コマンドを正常に復号した後、デバイスは書き込みイネーブル ラッチ (WEL) をセットして PDLRNV 動作を有効にします。

PDLRNV コマンドは命令およびデータ バイトを SI/IO0 上でシフトすることで入力されます。

CS# はデータの 8 ビット目がラッチされた後に論理 HIGH に駆動する必要があります。そうしない場合、PDLRNV コマンドは実行されません。CS# が論理 HIGH に駆動されると、セルフタイムの PDLRNV 動作は直ちに開始されます。PDLRNV 動作の進行中に、ステータス レジスタを読み出して書き込み中 (WIP) ビット値を確認できます。書き込み中 (WIP) ビットはセルフタイムの PDLRNV サイクルの間で「1」であり、サイクルが完了すると「0」になります。PDLRNV 動作はステータス レジスタの P_ERR ビットでプログラム エラーをレポートできます。PDLRNV 動作が完了すると、書き込みイネーブル ラッチ (WEL) は「0」にセットされます。PDLRNV コマンドの最大クロック周波数は 108MHz です。

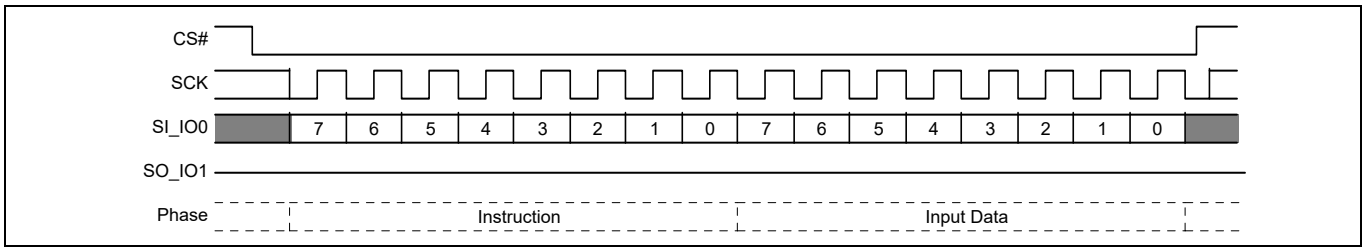


Figure 49 DLRNV プログラム (PDLRNV) コマンド シーケンス

このコマンドは QPI モードでも対応します。QPI モードでは、命令およびデータは IO0 ～ IO3 上でシフトインされます。

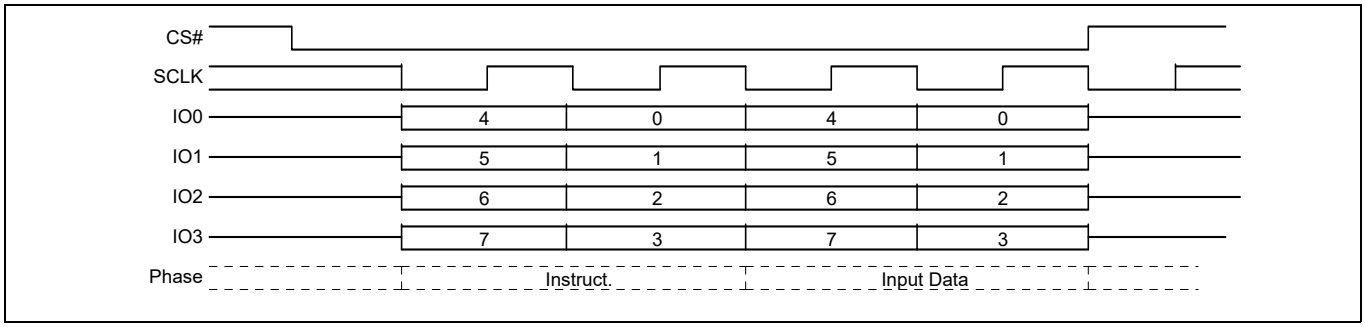


Figure 50 DLRNV プログラム (PDLRNV) コマンド シーケンス – QPI モード

8.3.10 DLRV 書き込み (WDLRV 4Ah)

デバイスは DLRV 書き込み (WDLRV) コマンドを受け入れる前に、書き込みイネーブル (WREN) コマンドを発行して復号しなければいけません。書き込みイネーブル (WREN) コマンドを正常に復号した後、デバイスは書き込みイネーブル ラッチ (WEL) をセットして WDLRV 動作を有効にします。

WDLRV コマンドは命令およびデータ バイトを SI/IO0 上でシフトすることで入力されます。

CS# はデータの 8 ビット目がラッチされた後に論理 HIGH に駆動する必要があります。そうしない場合、WDLRV コマンドは実行されません。CS# が論理 HIGH に駆動されると、WDLRV 動作は直ちに開始されます。WDLRV コマンドの最大クロック周波数は 108MHz です。

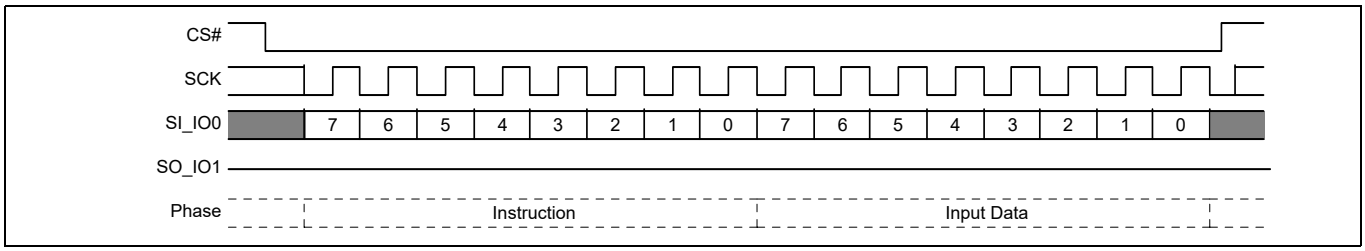


Figure 51 DLRV 書き込み (WDLRV) コマンド シーケンス

このコマンドは QPI モードでも対応します。QPI モードでは、命令およびデータは IO0 ～ IO3 上でシフトインされます。

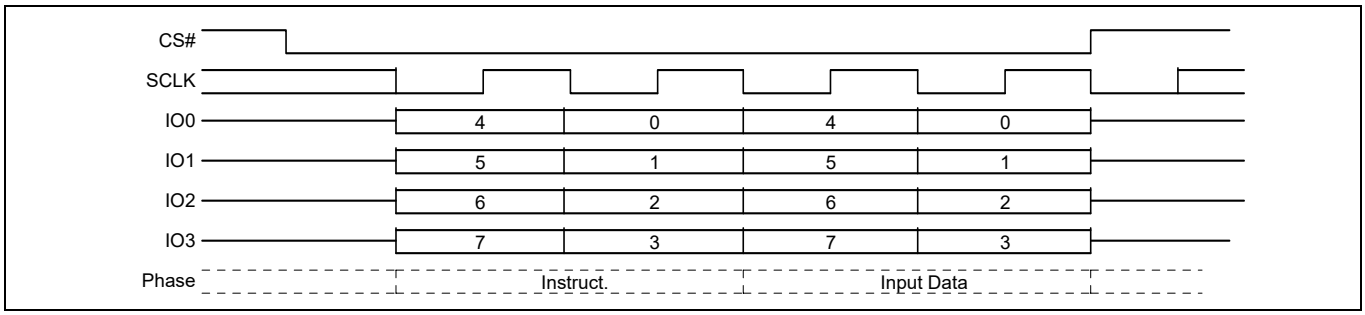


Figure 52 DLRV 書き込み (WDLRV) コマンド シーケンス – QPI モード

8.3.11 データ ラーニング パターン読み出し (DLPRD 41h)

命令 41h は SCK 信号の立ち上りエッジで SI/IO0 上でシフトインされ、その後 1 ダミー サイクルが続きます。レイテンシ期間により、デバイスの内部回路は初期アドレスでのデータにアクセスする十分な時間を取れます。レイテンシ サイクル中に、IO0 ～ IO3 上のデータ値は「ドント ケア」で、高インピーダンスであることがあります。その後、8 ビットの DLP は SO/IO1 でシフトアウトされます。8 の倍数のクロックサイクルを提供することで DLP を連続的に読み出せます。DLPRD コマンドの最大動作クロック周波数は 108MHz です。

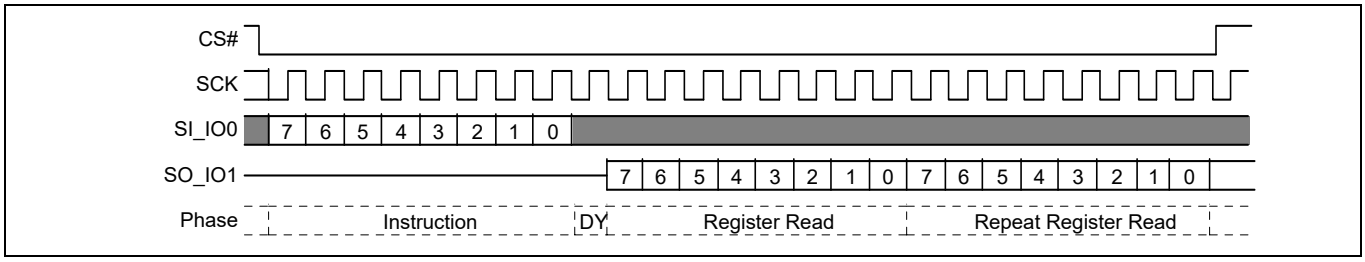


Figure 53 DLP 読み出し (DLPRD) コマンド シーケンス

このコマンドは QPI モードでも対応します。QPI モードでは、命令のシフトインと返されるデータのシフトアウトは IO0 ～ IO3 上で行われます。

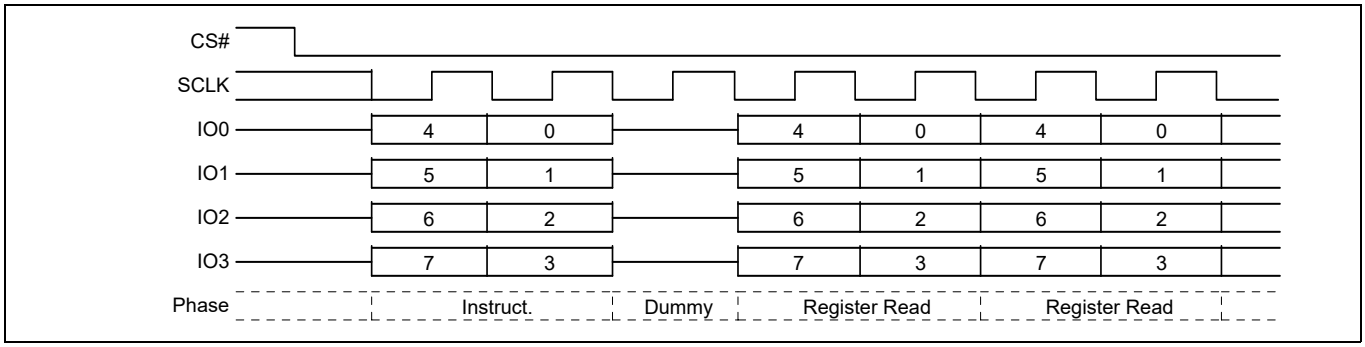


Figure 54 DLP 読み出し (DLPRD) コマンド シーケンス – QPI モード

8.3.12 Enter 4-byte Address mode (4BEN B7h)

4 バイト アドレス モード開始 (4BEN) コマンドは揮発性アドレス長ステータス (ADS) ビット (CR2V[0]) を「1」にセットし、すべての 3 バイト アドレス コマンドを 4 バイト アドレスを要求するように変更します。このコマンドは、4 アドレス バイトを継続的に予期する 4 バイトのみのコマンドには影響を与えません。

3 バイト アドレス モードに戻るために、4BEX コマンドは揮発性アドレス長ビット CR2V[0] を 0 にクリアします。WRAR コマンドも揮発性アドレス長ビット CR2V[0] を 0 にクリアできます。さらに、不揮発性アドレス長ビット CR2NV[1]=0 である場合、3 バイト アドレス モードに戻るために、ハードウェアまたはソフトウェア リセットも使用できます。

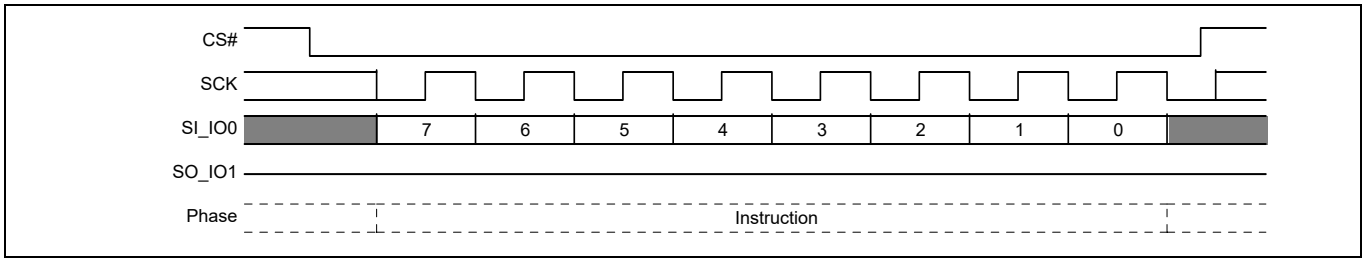


Figure 55 4 バイト アドレス モード開始 (4BEN B7h) コマンド シーケンス

このコマンドは QPI モードでも対応します。QPI モードでは、命令は IO0 ～ IO3 上でシフトインされます。

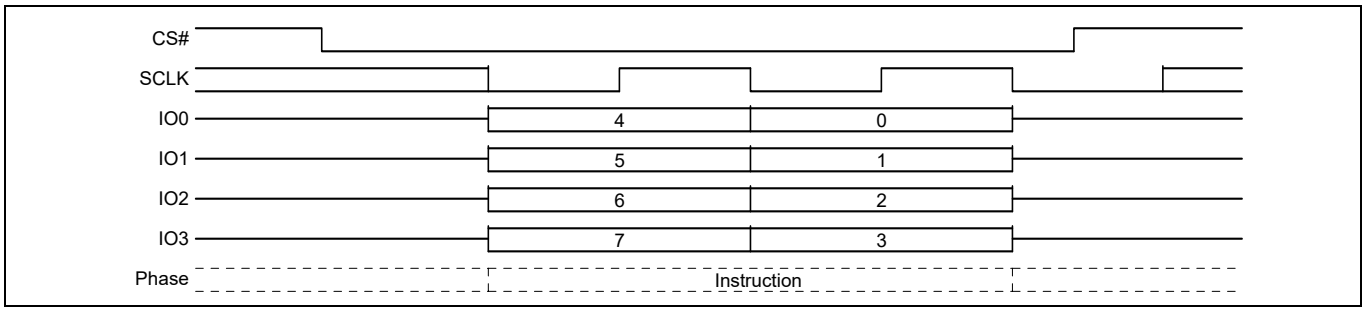


Figure 56 4 バイト アドレス モード開始 - QPI モード

8.3.13 4 バイト アドレス モード終了 (4BEX E9h)

4 バイト アドレス モード終了 (4BEX) コマンドは揮発性アドレス長ステータス (ADS) ビット (CR2V[0]) を「0」にセットし、大部分の 4 バイト アドレス コマンドを 3 バイト アドレスを要求するように変更します。このコマンドは、4 アドレス バイトを継続的に予期する 4 バイトのみのコマンドには影響を与えません。

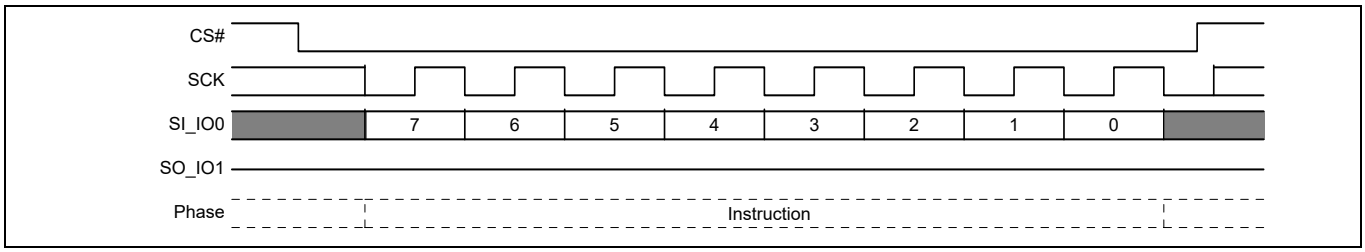


Figure 57 4 バイト アドレス モード終了 (4BEX E9h) コマンド シーケンス

このコマンドは QPI モードでも対応します。QPI モードでは、命令は IO0 ～ IO3 上でシフトインされます。

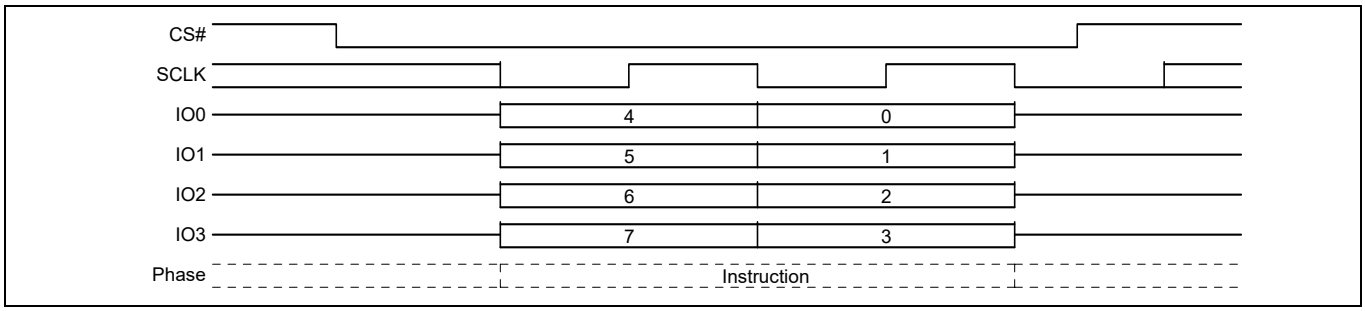


Figure 58 4 バイト アドレス モード終了 - QPI モード

8.3.14 任意レジスタ読み出し (RDAR 65h)

任意レジスタ読み出し (RDAR) コマンドはデバイス レジスタを読み出す方法を提供します。命令の後に、3 または 4 バイト アドレス (アドレス長コンフィギュレーション CR2V[0] に応じて) が続き、その次に CR3V[3:0] でセットされたレイテンシ (ダミー) サイクル数が続きます。そして、選択されたレジスタ内容が返されます。読み出しアクセスが継続する場合、選択された同じレジスタの内容がコマンドが終了するまで返されます。それぞれの RDAR コマンドは 1 つのレジスタのみを読み出します。

未定義位置の読み出しは未定義のデータが出力されます。

ステータス レジスタ 1 (SR1V) を読み出すために RDAR コマンドは組み込み動作中に使用できます。

RDAR コマンドはより大きいアレイへのウィンドウとなるレジスタ (IBLAR) の読み出しには使用されません。アクセスしたアレイの位置を選択し、読み出すために個別のコマンドが必要です。

Table 34 レジスタ アドレス マップ

バイトアドレス (16 進)	レジスタ名	説明
000000	SR1NV	不揮発性ステータスおよびコンフィギュレーション レジスタ不揮発性ステータスおよびコンフィギュレーション レジスタの読み出しは、実際に揮発性レジスタを読み出します。
000001	該当なし	
000002	CR1NV	
000003	CR2NV	
000004	CR3NV	
000005	NVDLP	
...	該当なし	–
000020	PASS[7:0]	不揮発性パスワード レジスタ
000021	PASS[15:8]	
000022	PASS[23:16]	
000023	PASS[31:24]	
000024	PASS[39:32]	
000025	PASS[47:40]	
000026	PASS[55:48]	
000027	PASS[63:56]	
...	該当なし	–
000030	IRP[7:0]	不揮発性
000031	IRP[15:8]	
...	該当なし	–
000039	PRPR[A15:A8]	ポインター領域保護レジスタ A15:A8
00003A	PRPR[A23:A16]	ポインター領域保護レジスタ A23:A16
00003B	該当なし	–
...	該当なし	–
800000	SR1V	揮発性ステータスおよびコンフィギュレーション レジスタ
800001	SR2V	
800002	CR1V	
800003	CR2V	
800004	CR3V	
800005	VDLP	
...	該当なし	–
800040	PR	揮発性保護レジスタ
...	該当なし	–

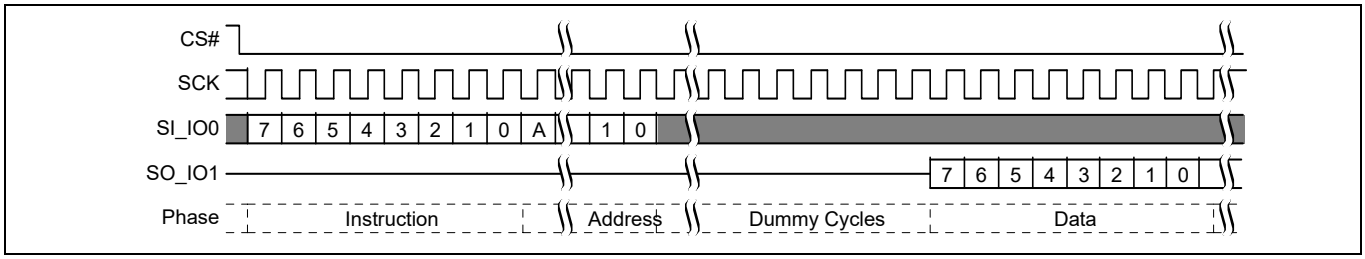


Figure 59　　任意レジスタ読み出しコマンド シーケンス [28]

このコマンドは QPI モードでも対応します。QPI モードでは、命令とアドレスのシフトインおよび返されるデータのシフトアウトは IO0 ～ IO3 上で行われます。

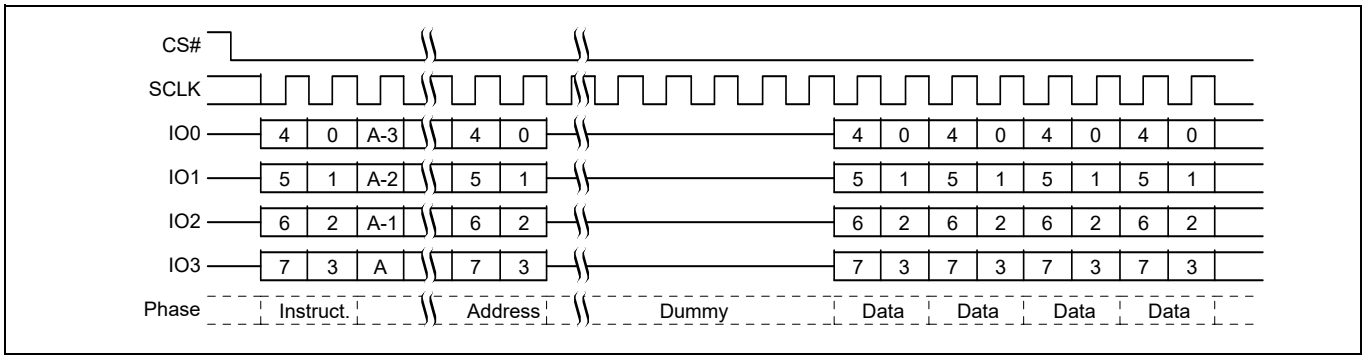


Figure 60　　任意レジスタ読み出しコマンド シーケンス - QPI モード [28]

注
28.A= アドレスの MSb は、CR2V[0]=0 の場合は 23、CR2V[0]=1 またはコマンド 13h の場合は 31 です。

8.3.15 任意レジスタ書き込み (WRAR 71h)

任意レジスタ書き込み (WRAR) コマンドはすべての不揮発性と揮発性デバイス レジスタを書き込む方法を提供します。命令の後に、3 または 4 バイト アドレス (アドレス長コンフィギュレーション CR2V[0] に応じて) およびアドレスで指定されたレジスタに書き込む 1 データ バイトが続きます。

デバイスは WRAR コマンドを受け入れる前に、書き込みイネーブル (WREN) コマンドを発行して復号する必要があります。これにより、ステータス レジスタの書き込みイネーブル ラッチ (WEL) がセットされ、すべての書き込み動作は実行可能になります。動作完了を判定するために、SR1V の WIP ビットをチェックできます。動作中にエラーが発生したかを確認するために、SR2V の P_ERR および E_ERR ビットを確認できます。

混合したビット タイプおよびどのビットを修正するかを制御する個別のルールを持つレジスタがあります。読み出し専用ビットもあり、OTP ビットもあります。

読み出し専用ビットは変更できず、WRAR コマンド データ バイト内の対応するビットは無視され、プログラム / 消去エラーの表示 (SR2V の P_ERR または E_ERR) がセットされません。したがって、WRAR データ バイト内のこれらのビット値は重要ではありません。

OTP ビットはデフォルト状態の逆のレベルにのみプログラムできます。OTP ビットをデフォルト状態に復帰させるための書き込みは無視され、エラーはセットされません。

WRAR データで変更された不揮発性ビットを更新するには不揮発性レジスタ書き込み時間 (t_W) を要します。更新プロセスは不揮発性レジスタ ビットに対する消去およびプログラム動作を含みます。更新プロセスの消去またはプログラム部分が失敗した場合、SR2V 内の対応するエラー ビットおよび SR1V の WIP は 1 にセットされます。

WRAR データで変更された揮発性ビットを更新するには揮発性レジスタ書き込み時間 (t_{CS}) を要します。

レジスタ書き込みがいつ完了するかを判定するためにステータス レジスタ 1 を繰り返し読み出して (ポーリングして) 書き込み中 (WIP) ビット (SR1V[0]) を監視し、書き込みエラーがあるかどうかを判定するためにステータス レジスタ 2 を繰り返し読み出して (ポーリングして) エラー ビット (SR2V[6,5]) を監視します。書き込みが失敗した場合、ステータス クリア コマンドを使用してエラー ステータスをクリアし、デバイスをスタンバイ状態に復帰させます。WRAR 動作が完了すると、書き込みイネーブル ラッチ (WEN) は「0」にセットされます。

しかし、WRAR コマンドで PR レジスタに書き込むことはできません。PR レジスタ内容は読み出し専用ビットとして扱われます。NVLOCK ビット書き込み (PRL) コマンドのみで PR レジスタに書き込めます。

SR1NV, CR1NV, CR2NV, および CR3NV に書き込む WRAR コマンドはハードウェア / ソフトウェア リセットから保護される一方、他のすべてのレジスタに書き込む WRAR コマンドはハードウェア / ソフトウェア リセットでリセットされます。

WRAR コマンドのシーケンスおよび動作は PP または 4PP コマンドと同じですが、1 データ バイトのみが提供されます。ページ プログラム (PP 02h または 4PP 12H) を参照してください。

レジスタのアドレス マップは Table 34 に示されます。

8.3.16 バースト長セット (SBL 77h)

バースト長セット (SBL) コマンドはバースト ラップ機能を設定するために使用します。QIO または QPI モードで、バースト ラップはクアッド I/O 読み出しおよび DDR クアッド I/O 読み出しと併用して固定長で整列されたデータにアクセスします。特定のアプリケーションはこの機能の利点を活用して全体のシステム コード実行性能を改善できます。バースト ラップ機能により、キャッシュを用いたアプリケーションは複数の読み出しコマンドを発行せず、まずクリティカルなアドレスからの命令またはデータをキャッシュ ラインに書き込んでから、固定長 (8/16/32/64 バイト) のデータをキャッシュ ラインの残りに書き込めます。

バースト長セット コマンドは CS# ピンを LOW に駆動してから命令コード「77h」に続いて 24 ダミー ビットおよび 8 ラップ長ビット (WL[7] ～ WL[0]) をシフトすることで開始します。コマンド シーケンスを Figure 61 および Figure 62 に示します。ラップ長ビット WL[7] および下位ニブル WL[3:0] を使用しません。コンフィギュレーション レジスタ 3 (CR3V[6:4]) での WL[6] ～ WL[4] のエンコーディングはコンフィギュレーション レジスタ 3 を参照してください。

バースト長セット コマンドで WL[6:4] がセットされると、それ以降のすべてのクアッド I/O 読み出しコマンドは WL[6:4] 設定を使用して 8/16/32/64 バイトのデータ セクションにアクセスします。クアッド I/O 読み出しおよびバースト長セット コマンドを使用するために、コンフィギュレーション レジスタ 1 のクアッド ビット CR1V[1] またはコンフィギュレーション レジスタ 2 の QPI ビット CR2V[3] を 1 にセットする必要があることに注意してください。「ラップ アラウンド」機能を終了して通常の読み出し動作に戻るために、別のバースト ラップ セット コマンドを発行して WL4 を 1 にセットする必要があります。電源投入 , ハードウェア リセット , またはソフトウェア リセットのときに WL[6:4] のデフォルト値は CR2NV[6:4] でセットされます。WRR または WRAR コマンドを使用して CR2NV[6:4] でデフォルトのラップ長をセットします。

バースト長セット (SBL) コマンドはラップ読み出し機能を有効 / 無効にし、ラップ境界をセットするために CR3V[6:4] ビットのみに書き込みます。CR3V[3:0] での読み出しレイテンシをセットするには SBL コマンドは使用できません。CR3V または CR3NV での読み出しレイテンシをセットするために、WRAR コマンドを使用しなければいけません。

ラップ境界および開始アドレスは Table 35 での CR3V[6:5] の値を参照してください。ラップ読み出し機能が有効にされると、関連する読み出しコマンドはコマンドが終了するまでの順次読み出しから、バイト グループ内でラップされる順次読み出しに変更されます。

ラップ モードが有効でない場合 (Table 16 と Table 19)、無限長の順次読み出しが実行されます。

ラップ モードが有効になった場合 (Table 16 と Table 19)、固定長の 8/16/32/64 バイトに整列されるグループは、読み出しコマンドで提供されたバイト アドレスから読み出され、グループのアライメント境界でラップアラウンドします。

バイト グループは 8, 16, 32, または 64 バイトの長さで、それぞれの境界に整列されます。CR3V[6:5] は境界を選択します。揮発性コンフィギュレーション レジスタ 3 (CR3V) を参照してください。

読み出しコマンドの開始アドレスはバイト グループを選択し、最初に返されるデータはアドレス指定されたバイトです。次に、グループ境界の終わりに至るまでバイトは順次読み出されます。読み出しが継続すると、アドレスはグループの始まりにラップし、順次読み出しを続けます。ラップ読み出しシーケンスは CS# が HIGH に戻り、コマンドが終了するまで続きます。

Table 35　バースト ラップ シーケンス例

CR3V値 (16 進)	ラップ境界 (バイト)	開始アドレス (16 進)	アドレス シーケンス (16 進)
1X	シーケンシャル	XXXXXX03	03, 04, 05, 06, 07, 08, 09, 0A, 0B, 0C, 0D, 0E, 0F, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, ...
00	8	XXXXXX00	00, 01, 02, 03, 04, 05, 06, 07, 00, 01, 02, ...
00	8	XXXXXX07	07, 00, 01, 02, 03, 04, 05, 06, 07, 00, 01, ...
01	16	XXXXXX02	02, 03, 04, 05, 06, 07, 08, 09, 0A, 0B, 0C, 0D, 0E, 0F, 00, 01, 02, 03, ...
01	16	XXXXXX0C	0C, 0D, 0E, 0F, 00, 01, 02, 03, 02, 03, 04, 05, 06, 07, 08, 09, 0A, 0B, 0C, 0D, 0E, ...
02	32	XXXXXX0A	0A, 0B, 0C, 0D, 0E, 0F, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 1A, 1B, 1C, 1D, 1E, 1F, 00, 01, 02, 03, 04, 05, 06, 07, 08, 09, 0A, 0B, 0C, 0D, 0E, 0F, ...
02	32	XXXXXX1E	1E, 1F, 00, 01, 02, 03, 04, 05, 06, 07, 08, 09, 0A, 0B, 0C, 0D, 0E, 0F, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 1A, 1B, 1C, 1D, 1E, 1F, 00, ...
03	64	XXXXXX03	03, 04, 05, 06, 07, 08, 09, 0A, 0B, 0C, 0D, 0E, 0F, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 1A, 1B, 1C, 1D, 1E, 1F, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 2A, 2B, 2C, 2D, 2E, 2F, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 3A, 3B, 3C, 3D, 3E, 3F, 00, 01, 02, ...
03	64	XXXXXX2E	2E, 2F, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 3A, 3B, 3C, 3D, 3E, 3F, 00, 01, 02, 03, 04, 05, 06, 07, 08, 09, 0A, 0B, 0C, 0D, 0E, 0F, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 1A, 1B, 1C, 1D, 1E, 1F, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 2A, 2B, 2C, 2D,, ...

WRAR コマンドを使用して CR3NV を所望の値にプログラムすることにより、パワーオン リセット , ハードウェア リセット , またはソフトウェア リセットのデフォルト バースト長を変更できます。

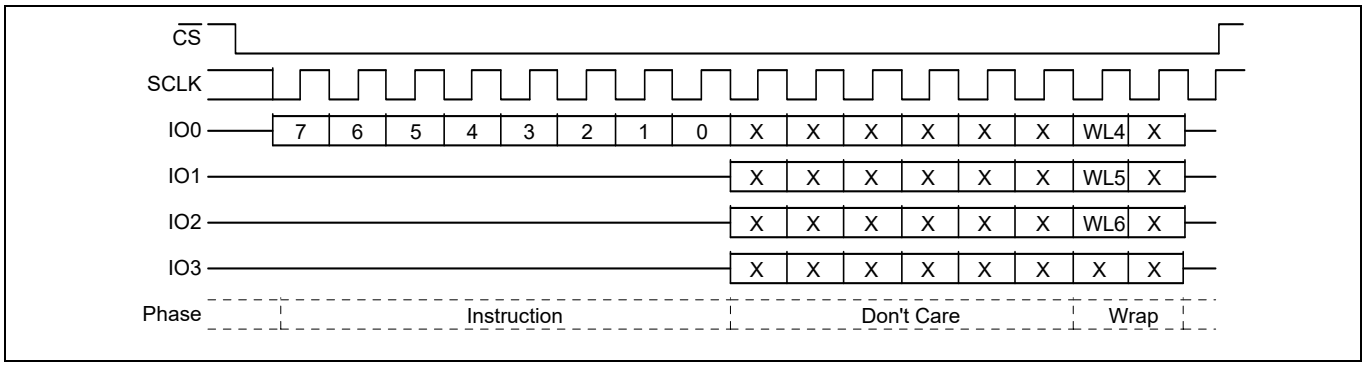


Figure 61　バースト長セット コマンド シーケンス - クアッド I/O モード

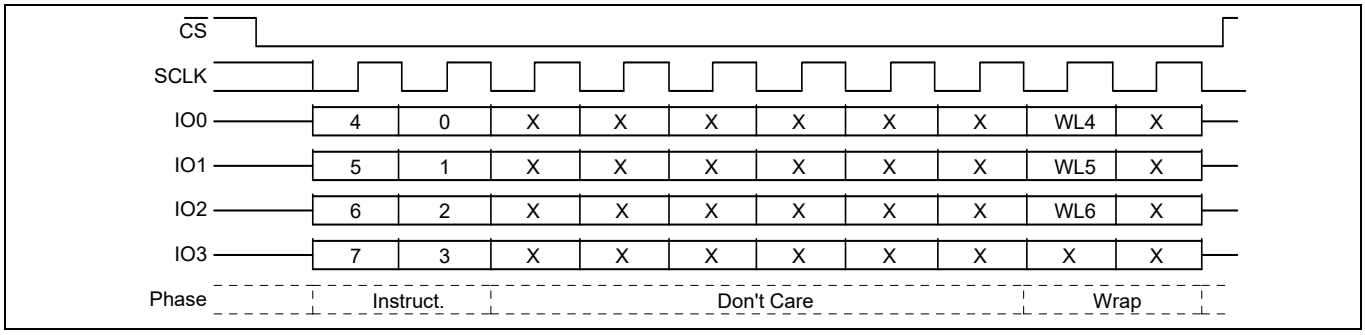


Figure 62　バースト長セット コマンド シーケンス - QPI モード

8.3.17 QPI モード開始 (QPIEN 38h)

QPI モード開始 (QPIEN) コマンドは揮発性 QPI ビット CR2V[3] を 1 にセットして QPI モードを有効にします。Table 14 を参照してください。QPI モードを開始するために要する時間は t_{QEN} です (Table 54 を参照してください)。遷移時間 t_{QEN} の間、他のコマンドは許可されません。

SPI モードに戻るために、QPIEX コマンドまたはレジスタへの書き込み (CR2V[3]=0) が必要です。不揮発性 QPI ビット CR2NV[3]=0 の場合、パワーオン リセット , ハードウェア / ソフトウェア リセットもデバイスを SPI モードに復帰させます。Table 12 を参照してください。

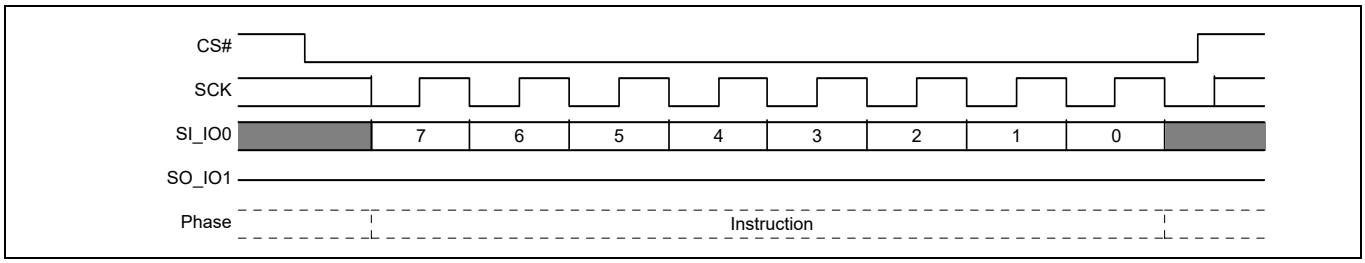


Figure 63 QPI モード開始 (QPIEN 38h) コマンド シーケンス

8.3.18 QPI モード終了 (QPIEX F5h)

QPI モード終了 (QPIEX) コマンドは揮発性 QPI ビット CR2V[3] を 0 にセットして QPI モードを無効にし、デバイスを SPI モードに復帰させます。Table 14 を参照してください。QPI モードを終了するのに要する時間は t_{QEX} です (Table 54 を参照してください)。遷移時間 t_{QEX} の間、他のコマンドは許可されません。

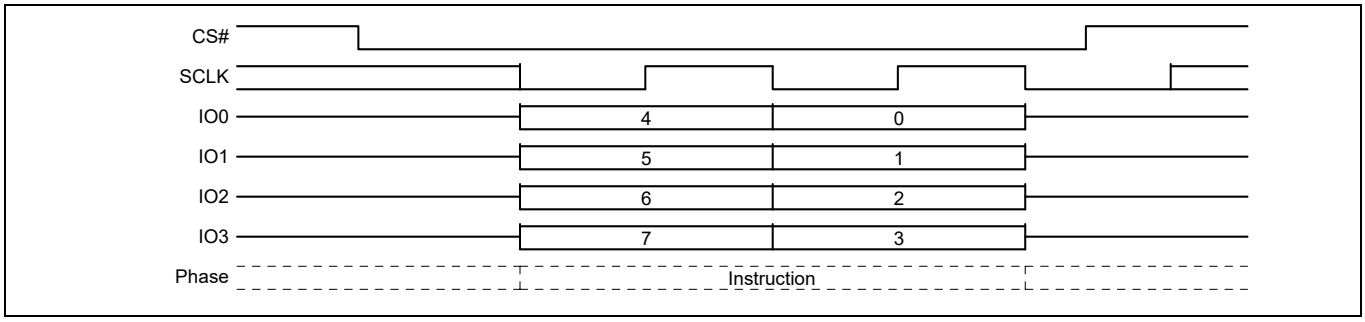


Figure 64 QPI モード終了 (QPIEX F5h) コマンド シーケンス

8.4 メモリ アレイの読み出しコマンド

メイン フラッシュ アレイの読み出しコマンドは前世代の SPI 互換性または性能強化 SPI に多くのオプションを提供しています。

- SCK の立ち上りエッジごとにアドレス / データを転送するコマンドがあります。シングル データ レート (SDR) コマンドと呼ばれます。
- SDR コマンドには、SCK の立ち下りエッジごとに 1 アドレス ビットを転送し、SCK の立ち上りエッジごとに 1 データ ビットを返すものがあります。シングル幅コマンドと呼ばれます。
- SDR コマンドには、SCK の立ち上りエッジごとにアドレスとデータの 2 または 4 ビットを転送するものがあります。2 ビットの場合はデュアル I/O、4 ビットの場合はクアッド I/O、QPI と呼ばれます。また、QPI は立ち上りエッジごとに命令の 4 ビットを転送します。
- SCK の立ち上りと立ち下りの両エッジでアドレスとデータを転送するものがあります。ダブル データ レート (DDR) コマンドと呼ばれます。
- DDR コマンドには、SCK エッジごとにアドレス / データの 4 ビットを転送するものがあります。エッジごとの 4 ビット転送のクアッド I/O DDR および QPI DDR と呼ばれます。

QPI 読み出しを除くすべてのコマンドは、SCK の立ち上りエッジごとに 1 ビットが転送される命令コードで始まります。QPI 読み出しコマンドは SCK の立ち上りエッジごとに命令の 4 ビットを転送します。命令の後に続いて 3 または 4 バイト アドレスが SDR または DDR で転送されます。クロック エッジごとにアドレスまたはデータの 2 または 4 ビットを転送するコマンドはマルチ I/O (MIO) コマンドと呼ばれます。256Mb またはそれより高容量の FL-L ファミリ デバイスでは、従来の SPI 3 バイト アドレスはメモリ アレイですべての位置を直接アドレス指定できません。アドレス空間全体にアクセスするために、別の 4 バイト アドレス読み出しコマンドが提供されています。デバイスは従来の 3 バイト アドレス コマンドを使用してホスト システムからの 4 バイトアドレスを受信するように設定できます。従来のコマンドの 4 バイト アドレス モードを有効にするために、コンフィギュレーション レジスタ 2 のアドレス長ビットを「1」にセットします。S25FL128L では、フラッシュ アレイのサイズが 64Mb しかないため、4 バイト アドレス コマンド、すなわち 4 バイト アドレス モードを使用したコマンドでの A22 より上位アドレス ビットは該当せずに無視されます。

デュアル I/O, クアッド I/O, および QPI コマンドは性能を改善するオプションを提供します。このオプションはアドレス ビットに続いて送信されるモード ビットにより制御されます。モード ビットは、読み出しの前に命令なしで、進行中の読み出しの終了後に続くコマンドが同じタイプの読み出しであるかを示します。モード ビットは一連のデュアル / クアッド読み出しアクセスを実行しているとき命令サイクルを除去するオプションを提供します。

メモリ アレイにアクセスする時間を取れるようアドレスまたはモード ビットの後に続く読み出しレイテンシという遅延サイクルを必要とします。遅延 (読み出しレイテンシ) サイクルは従来からダミー サイクルと呼ばれます。ダミー サイクルがメモリに無視されるため、これらのサイクル中にホストが提供するデータはすべて「ドント ケア」になります。ダミー サイクル中に、ホストは SI 信号を高インピーダンスのままにすることがあります。MIO コマンドを使用する場合、ホストは最後のダミー サイクルが終了する前に IO 信号 (出力が高インピーダンス) の駆動を停止する必要があります。DDR コマンドを使用する場合、ホストはダミーサイクル中に I/O 信号を駆動してはいけません。ダミー サイクルの数は SCK 周波数またはコンフィギュレーション レジスタ 2 のレイテンシ コード (CR3V[3:0]) で選択された性能オプションによって異なります。ダミー サイクルは SCK の立ち下りエッジから次の立ち下りエッジまで測定されます。通常、SPI 出力は各 SCK の立ち下りエッジで新しい値に駆動されます。ゼロ ダミーサイクルは、ホストがアドレスまたはモード ビットの駆動を停止する同じ SCK の立ち下りエッジで、返りデータがメモリによって駆動されることを意味します。

DDR コマンドにはデータの始まりの直前のダミー サイクル中に、すべてのデータ出力上でメモリによって駆動された 8 エッジのデータ ラーニング パターン (DLP) を持つオプションがあります。ホスト メモリ コントローラーは DLP を使って SCK からデータエッジへの位相シフトを判定し、データ アイの中心でデータの取り込みを実現できます。

より高い SCK 周波数 (> 50MHz) で SDR I/O コマンドを使用する場合、1 ダミー サイクル以上を提供する LC を選択する必要があります。これにより、メモリがデータの駆動を開始する前にホストが駆動を停止するための追加時間が取れ、I/O ドライバー衝突を最小限にできます。DLP が有効になった DDR I/O コマンド

を使用する場合、5 ダミー サイクル以上を提供する LC を選択し、メモリが 4 サイクル DLP の駆動を開始する前にホストが駆動を停止するための 1 サイクルの追加時間が取れるようにします。

データを返す間に CS# が HIGH に戻ると、各読み出しコマンドが終了します。モード ビットが正しく取り込まれず、デバイスが連続読み出しモードのままであるかを確認できないことを回避するために、データが返される前にモードまたはダミー サイクル中に CS# は HIGH に戻ってはいけません。

8.4.1 読み出し (READ 03h または 4READ 13h)

- 03h 命令 (CR2V[0] = 0) に続いて 3 バイト アドレス (A23 ～ A0)、または
- 03h 命令 (CR2V[0] = 1) に続いて 4 バイト アドレス (A31 ～ A0)、または
- 13h 命令に続いて 4 バイト アドレス (A31 ～ A0) が転送されます。

その後、与えられたアドレスでのメモリ内容は SO/IO1 上でシフトアウトされます。

アドレスはメモリ アレイの任意のバイト位置から開始できます。各データ バイトがシフトアウトされた後、アドレスは次の上位アドレスに自動的にインクリメントします。したがって、単一の読み出し命令および与えられた 000000h アドレスでメモリ全体を読み出せます。最高位アドレスに到達すると、アドレス カウンターはラップアラウンドして 000000h に戻り、読み出しシーケンスは無制限に続行できます。

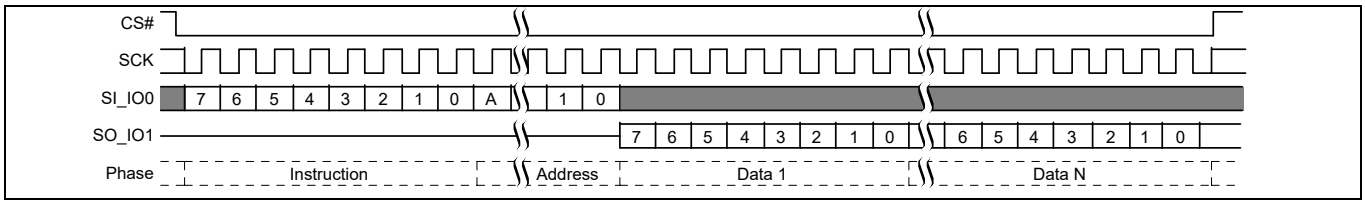


Figure 65 読み出しコマンド シーケンス [29]

8.4.2 高速読み出し (FAST_READ 0Bh or 4FAST_READ 0Ch)

- 0Bh 命令 (CR2V[0] = 0) に続いて 3 バイト アドレス (A23 ～ A0)、または
- 0Bh 命令 (CR2V[0] = 1) に続いて 4 バイト アドレス (A31 ～ A0)、または
- 0Ch 命令に続いて 4 バイト アドレス (A31 ～ A0) が転送されます。

アドレスの後には、コンフィギュレーション レジスタ CR3V[3:0] で設定されたレイテンシ コードに応じたダミー サイクルが続きます。デバイスの内部回路が初期アドレス位置にアクセスするために、ダミー サイクルによって追加時間を取れます。ダミー サイクル中に、SO/IO1 上のデータ値は「ドント ケア」で、これらの信号は高インピーダンスであることがあります。その後、与えられたアドレスでのメモリ内容は SO/IO1 上でシフトアウトされます。

アドレスはメモリ アレイの任意のバイト位置から開始できます。各データ バイトがシフトアウトされた後、アドレスは次の上位アドレスに自動的にインクリメントします。したがって、単一の読み出し命令および与えられた 000000h アドレスでメモリ全体を読み出せます。最高位アドレスに到達すると、アドレス カウンターはラップアラウンドして 000000h に戻り、読み出しシーケンスは無制限に続行できます。

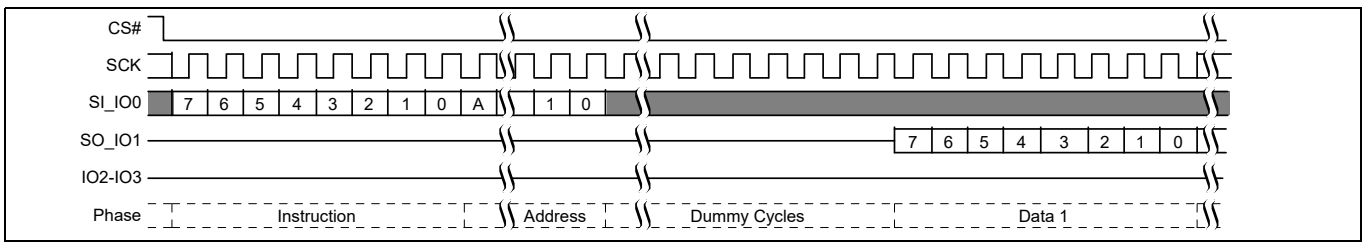


Figure 66 高速読み出し (FAST_READ) コマンド シーケンス

注

29.A= アドレスの MSb は、CR2V[0]=0 の場合は 23、CR2V[0]=1 またはコマンド 13h の場合は 31 です。

8.4.3 デュアル出力読み出し (DOR 3Bh or 4DOR 3Ch)

- 3Bh 命令 (CR2V[0] = 0) に続いて 3 バイト アドレス (A23 ～ A0)、または
- 3Bh 命令 (CR2V[0] = 1) に続いて 4 バイト アドレス (A31 ～ A0)、または
- 3Ch 命令に続いて 4 バイト アドレス (A31 ～ A0) が転送されます。

アドレスの後には、コンフィギュレーション レジスタ CR3V[3:0] で設定されたレイテンシ コードに応じたダミー サイクルが続きます。デバイスの内部回路が初期アドレス位置にアクセスするために、ダミー サイクルによって追加時間を取れます。ダミー サイクル中に、IO0 (SI) と IO1 (S0) 上のデータ値は「ドントケア」で、これらの信号は高インピーダンスであることがあります。

その後、与えられたアドレスでのメモリ内容は IO0 (SI) と IO1 (SO) 上で一度に 2 ビットずつシフトアウトされます。SCK 信号の立ち下りエッジごとに SCK 周波数で 2 ビットがシフトアウトされます。

アドレスはメモリ アレイの任意のバイト位置から開始できます。各データ バイトがシフトアウトされた後、アドレスは次の上位アドレスに自動的にインクリメントします。したがって、単一の読み出し命令および与えられた 000000h アドレスでメモリ全体を読み出せます。最高位アドレスに到達すると、アドレス カウンターはラップアラウンドして 000000h に戻り、読み出しシーケンスは無制限に続行できます。

デュアル出力読み出しコマンドでは、最後のアドレス ビットを IO0 (SI) にシフトインした後、データを IO0 と IO1 上でシフトアウトし始める前にダミー サイクルが必要です。

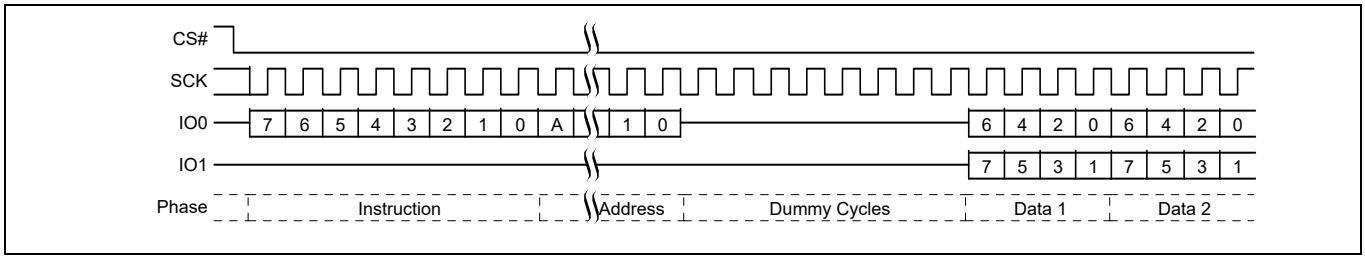


Figure 67 デュアル出力読み出しコマンド シーケンス [30]

注

30.A= アドレスの MSb は、CR2V[0]=0 の場合は 23、CR2V[0]=1 またはコマンド 3Ch の場合は 31 です。

8.4.4 クアッド出力読み出し (QOR 6Bh または 4QOR 6Ch)

- 6Bh 命令 (CR2V[0] = 0) に続いて 3 バイト アドレス (A23 ～ A0)、または
- 6Bh 命令 (CR2V[0] = 1) に続いて 4 バイト アドレス (A31 ～ A0)、または
- 6Ch 命令に続いて 4 バイト アドレス (A31 ～ A0) が転送されます。

アドレスの後には、コンフィギュレーション レジスタ CR3V[3:0] で設定されたレイテンシ コードに応じたダミー サイクルが続きます。デバイスの内部回路が初期アドレス位置にアクセスするために、ダミー サイクルによって追加時間を取れます。ダミー サイクル中に、IO0 ～ IO3 上のデータ値は「ドント ケア」で、これらの信号は高インピーダンスであることがあります。

その後、与えられたアドレスでのメモリ内容は IO0 ～ IO3 上で一度に 4 ビットずつシフトアウトされます。SCK 信号の立ち下りエッジごとに SCK 周波数で各ニブル (4 ビット) がシフトアウトされます。

アドレスはメモリ アレイの任意のバイト位置から開始できます。各データ バイトがシフトアウトされた後、アドレスは次の上位アドレスに自動的にインクリメントします。したがって、単一の読み出し命令および与えられた 000000h アドレスでメモリ全体を読み出せます。最高位アドレスに到達すると、アドレス カウンターはラップアラウンドして 000000h に戻り、読み出しシーケンスは無制限に続行できます。

クアッド出力読み出しコマンドでは、最後のアドレス ビットを IO0 にシフトインした後、データを IO0 ～ IO3 上でシフトアウトし始める前にダミー サイクルが必要です。

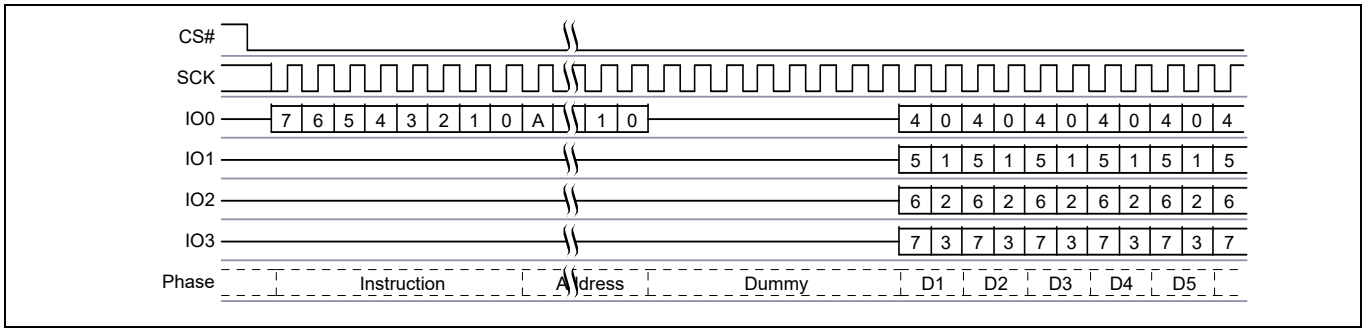


Figure 68 出力読み出しコマンド シーケンス [31]

注
31.A= アドレスの MSb は、CR2V[0]=0 の場合は 23、CR2V[0]=1 またはコマンド 3Ch の場合は 31 です。

8.4.5 デュアル I/O 読み出し (DIOR BBh または 4DIOR BCh)

- BBh 命令 (CR2V[0] = 0) に続いて 3 バイト アドレス (A23 ～ A0)、または
- BBh 命令 (CR2V[0] = 1) に続いて 4 バイト アドレス (A31 ～ A0)、または
- BCh 命令 に続いて 4 バイト アドレス (A31 ～ A0) が転送されます。

デュアル I/O 読み出しコマンドは IO0 (SI) と IO1 (SO) の 2 本の I/O 信号によりスループットを向上させます。コマンドはアドレスの入力を受け入れ、SCK の立ち上りエッジごとに読み出しデータの 2 ビットを返します。アプリケーションによっては、短縮されたアドレス入力およびデータ出力時間により、コードの XIP (Execution In Place; すなわち、メモリ デバイスからの直接実行) が可能になる場合があります。

デュアル I/O 読み出しコマンドは、アドレスの後に続く連続読み出しモード ビットを持っています。これにより、一連のデュアル I/O 読み出しコマンドでは、最初のデュアル I/O 読み出しコマンドが、次のコマンドもデュアル I/O 読み出しコマンドであることを示すモード ビット パターン Axh を送信した後、8 ビット命令を除去できます。一連のデュアル I/O 読み出しコマンドの最初のコマンドは、8 ビット命令で始まり、その後にアドレス , モード ビットの 4 サイクル , およびオプションのレイテンシ期間が続きます。モード ビット パターンが Axh であれば、次のコマンドは命令ビットを持たないもう 1 つのデュアル I/O 読み出しコマンドであると期待されます。コマンドはアドレスで始まり、その後にモード ビットおよびオプションのレイテンシが続きます。

モード ビットを SI と SO 上でシフトインした後、データを IO0 と IO1 上でシフトアウトし始める前に、可変レイテンシを加えることがあります。このレイテンシ期間 (ダミー サイクル) により、デバイスの内部回路は初期アドレスでのデータにアクセスする十分な時間を取れます。ダミー サイクル中に、SI と SO 上のデータ値は「ドント ケア」で、これらの信号は高インピーダンスであることがあります。ダミー サイクル数は SCK の周波数によって異なります。レイテンシは CR3V[3:0] で設定されます。

連続読み出し機能により、一連の読み出しアクセスの命令ビットが不要になり、コード実行 (XIP) 性能を大幅に向上させます。モード ビットの上位ニブル (ビット 7 ～ 4) には最初のバイトの命令コードが含まれるか否かに応じて、次のデュアル I/O 読み出し命令の長さを制御します。モード ビットの下位ニブル (ビット 3 ～ 0) は「ドント ケア」(「x」) であり、高インピーダンスであることがあります。モード ビットが Axh であれば、Figure 70 に示すように、デバイスはデュアル I/O 連続読み出しモードのままにあり、BBh または BCh 命令なしで、(CS# が HIGH にされてから LOW にアサートされた後) 次のアドレスを入力できます。このように、コマンド シーケンスから 8 サイクルが除去されます。以下のシーケンスで、デバイスはデュアル I/O 連続読み出しモードから解放されます。その後、デバイスは標準の SPI コマンドを受け入れられます。

- デュアル I/O 連続読み出しコマンド シーケンス中に、モード ビットが Axh でなければ、次回 CS# が HIGH にされるときにデバイスはデュアル I/O 連続読み出しモードから解放されます。
- モード リセット コマンドを送信します。

4 モード ビット サイクルは最後のアドレス サイクルが IO0 (SI) と IO1 (SO) にクロックインされた後にデバイスの内部回路が初期アドレスにアクセスするためのレイテンシ時間に含まれることに注意してください。

最初のデータ出力クロックの立ち下りエッジ、またはその前に I/O 信号を高インピーダンスに設定することが重要です。より高いクロック速度では、メモリ デバイスが駆動 (バス ターンアラウンド) を開始する前にホスト出力をオフにするのに要する時間は短縮されます。これにより、I/O 信号の競合を防止できるため、ホスト システムは最後の 2 つの「ドント ケア」モード サイクルまたは任意のダミー サイクル中に I/O 信号の出力をオフ (高インピーダンス) にできます。

レイテンシ期間が経過した後、与えられたアドレスでのメモリ内容は IO0 (SI) と IO1 (SO) 上で一度に 2 ビットずつシフトアウトされます。SCK 信号の立ち下りエッジで SCK 周波数で 2 ビットがシフトアウトされます。

アドレスはメモリ アレイの任意のバイト位置から開始できます。各データ バイトがシフトアウトされた後、アドレスは次の上位アドレスに自動的にインクリメントします。したがって、単一の読み出し命令および与えられた 000000h アドレスでメモリ全体を読み出せます。最高位アドレスに到達すると、アドレス カウンターはラップアラウンドして 000000h に戻り、読み出しシーケンスは無制限に続行できます。

モード ビットが不定にならないように、モード ビットまたはダミー ビットの間に CS# を HIGH に駆動しないでください。

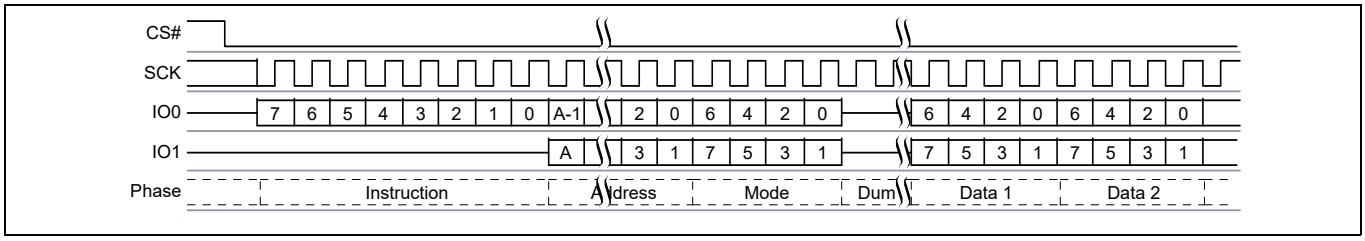


Figure 69 **デュアル I/O 読み出しコマンド シーケンス** [32, 33]

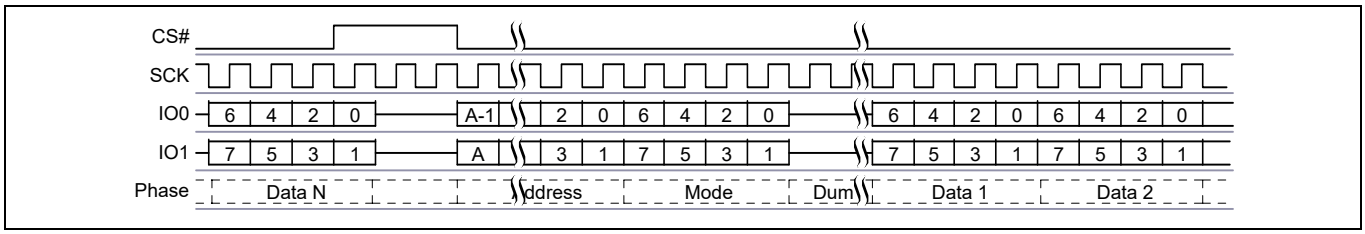


Figure 70 **デュアル I/O 連続読み出しコマンド シーケンス** [32]

注

32.A= アドレスの MSb は、CR2V[0]=0 の場合は 23、CR2V[0]=1 またはコマンド BCh の場合は 31 です。

33.最下位 4 モード ビットは「ドント ケア」で、ホストがこれらのビットを駆動することは任意です。これらのサイクル中に、ホストからのモード ビットとメモリからの返りデータ間のバス ターンアラウンドを増やすためにホストは駆動をオフにできます。

8.4.6 クアッド I/O 読み出し (QIOR EBh または 4QIOR ECh)

- EBh 命令 (CR2V[0] = 0) に続いて 3 バイト アドレス (A23 ～ A0)、または
- EBh 命令 (CR2V[0] = 1) に続いて 4 バイト アドレス (A31 ～ A0)、または
- ECh 命令 に続いて 4 バイト アドレス (A31 ～ A0) が転送されます。

クアッド I/O 読み出しコマンドは IO0 ～ IO3 の 4 本の I/O 信号を使用してスループットを向上させます。これにより、SCK シリアル クロックごとに 4 アドレス ビットを入力できます。アプリケーションによっては、縮小された命令オーバーヘッドにより FL-L ファミリ デバイスからの直接コード実行 (XIP) が可能になる場合があります。FL-L ファミリ デバイスのクアッド機能を有効にするためには、コンフィギュレーション レジスタ 1 の QUAD ビットをセットする (CR1V[1]=1) か、またはコンフィギュレーション レジスタ 2 の QPI ビットをセット (CR2V[1]=1) しなければいけません。

クアッド I/O 読み出しコマンドでは、データを IO0 ～ IO3 上でシフトアウトし始める前に、モード ビット (以下で説明) の後にはレイテンシが必要です。レイテンシ期間 (ダミー サイクル) により、デバイスの内部回路は初期アドレスでのデータにアクセスする十分な時間を取れます。レイテンシ サイクル中に、IO0 ～ IO3 上のデータ値は「ドント ケア」で、これらの信号は高インピーダンスであることがあります。ダミー サイクル数は SCK の周波数によって異なります。レイテンシは CR3V[3:0] で設定されます。

レイテンシ期間が経過した後、与えられたアドレスでのメモリ内容は IO0 ～ IO3 上で一度に 4 ビットずつシフトアウトされます。SCK 信号の立ち下りエッジごとに SCK 周波数で各ニブル (4 ビット) がシフトアウトされます。

アドレスはメモリ アレイの任意のバイト位置から開始できます。各データ バイトがシフトアウトされた後、アドレスは次の上位アドレスに自動的にインクリメントします。したがって、単一の読み出し命令および与えられた 000000h アドレスでメモリ全体を読み出せます。最高位アドレスに到達すると、アドレス カウンターはラップアラウンドして 000000h に戻り、読み出しシーケンスは無制限に続行できます。

アドレスのジャンプは追加のクアッド I/O 読み出し命令なしで実現できます。Figure 71 に示すように、アドレス シーケンス実行後のモード ビットの設定で制御されます。追加機能は命令シーケンスを不要にし、コード実行 (XIP) 性能を大幅に向上させます。モード ビットの上位ニブル (ビット 7 ～ 4) に最初のバイトの命令コードが含まれるか否かに応じて、次のクアッド I/O 命令の長さを制御します。モード ビットの下位ニブル (ビット 3 ～ 0) は「ドント ケア」(「x」) です。モード ビットが Axh であれば、Figure 73 に示すように、デバイスはクアッド I/O 高性能読み出しモードのままにあり、EBh または ECh 命令なしで、(CS# が HIGH にされてから LOW にアサートされた後) 次のアドレスを入力できます。このように、コマンド シーケンスから 8 サイクルが除去されます。以下のシーケンスで、デバイスはクアッド I/O 高性能読み出しモードから解放されます。その後、デバイスは標準の SPI コマンドを受け入れられます。

- クアッド I/O 読み出しコマンド シーケンス中に、モード ビットが Axh でなければ、CS# が次に HIGH になるときにデバイスはクアッド I/O 高性能読み出しモードから解放されます。
- モード リセット コマンドを送信します。

2 つのモード ビット サイクルおよび追加のウェイトステート (すなわち、ダミー サイクル) により、最後のアドレスが IO0 ～ IO3 にクロックされた後にデバイスの内部回路が初期アドレスにアクセスするためのレイテンシ時間を取れることに注意してください。

IO0 ～ IO3 信号は最初のデータ出力クロックの立ち下りエッジで、またはその前に高インピーダンスに設定することが重要です。

より高いクロック速度では、メモリ デバイスが駆動 (バス ターンアラウンド) を開始する前にホスト出力をオフにするのに要する時間は短縮されます。これにより、IO0 ～ IO3 信号の競合を防止できるため、ホスト システムは最後の「ドント ケア」モード サイクルまたは任意のダミー サイクル中に IO0 ～ IO3 信号の出力をオフ (高インピーダンス) にできます。

モード ビットが不定にならないように、モード ビットまたはダミー ビットの間に CS# を HIGH に駆動しないでください。

QPI モード (CR2V[3]=1) では、クアッド I/O 命令は SCK の立ち上りエッジごとに 4 ビットずつ送信されます。コマンド プロトコルの残りはクアッド I/O コマンドと同じです。

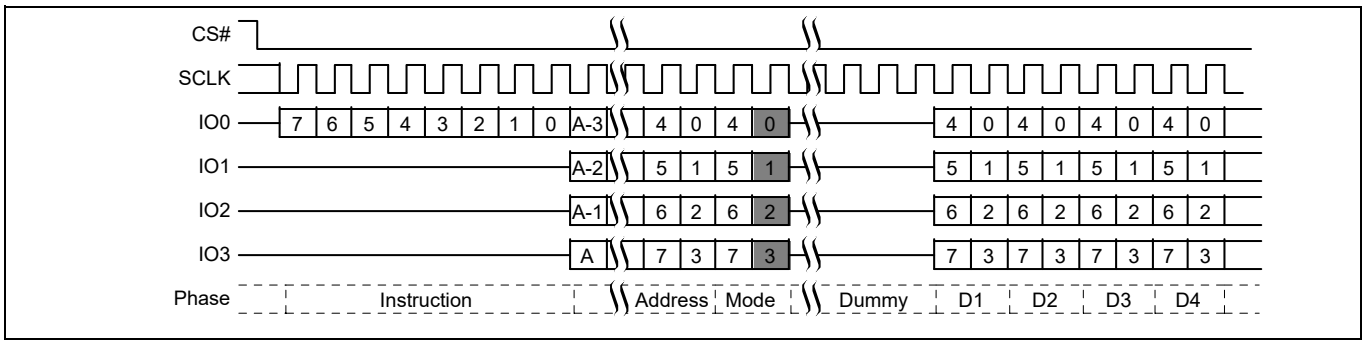


Figure 71 クアッド I/O 読み出しの初期アクセス コマンド シーケンス [34]

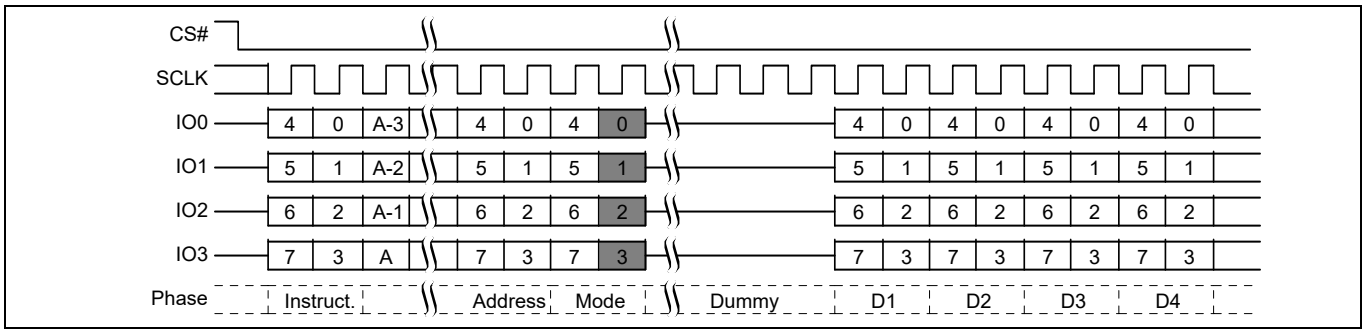


Figure 72 クアッド I/O 読み出しの初期アクセス コマンド シーケンス - QPI モード [34]

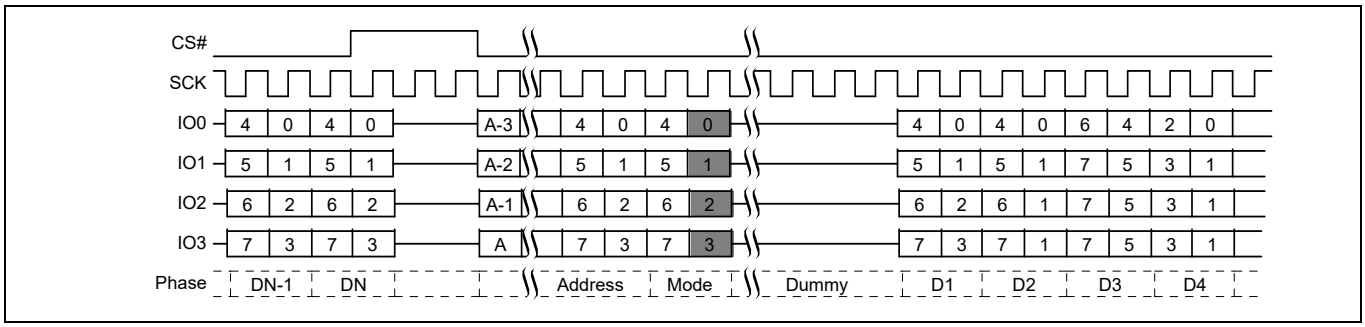


Figure 73 クアッド I/O 連続読み出しコマンド シーケンス [34, 35]

注
34.A= アドレスの MSb は、CR2V[0]=0 の場合は 23、CR2V[0]=1 またはコマンド ECh の場合は 31 です。
35.QPI モードで同じシーケンスを使用します。

8.4.7 DDR クアッド I/O 読み出し (EDh, EEh)

DDR クアッド I/O 読み出しコマンドは IO0 ～ IO3 の 4 本の I/O 信号を使用してスループットを向上させます。コマンドはクアッド I/O 読み出しコマンドに似ていますが、クロックのエッジごとに 4 アドレス ビットを入力できます。アプリケーションによっては、縮小された命令オーバーヘッドにより FL-L ファミリ デバイスからの直接コード実行 (XIP) が可能になる場合があります。FL-L ファミリ デバイスのクアッド機能を有効にするためには、コンフィギュレーション レジスタ 1 の QUAD ビットをセットする (CR1V[1]=1) か、またはコンフィギュレーション レジスタ 2 の QPI ビットをセット (CR2V[1]=1) しなければいけません。

- EDh 命令 (CR2V[0] = 0) に続いて 3 バイト アドレス (A23 ～ A0)、または
- EDh 命令 (CR2V[0] = 1) に続いて 4 バイト アドレス (A31 ～ A0)、または
- EEh 命令 に続いて 4 バイト アドレス (A31 ～ A0) が転送されます。

アドレスの後にはモード ビットが続きます。その後、与えられたアドレスでのメモリ内容は IO0 ～ IO3 上で DDR 方式でクロックエッジごとに一度に 4 ビット シフトアウトされます。

DDR クアッド I/O 読み出しコマンドの最大動作クロック周波数は 54MHz です。

DDR クアッド I/O 読み出しでは、データを IO0 ～ IO3 上でシフトアウトし始める前に、最後のアドレスとモード ビットが IO0 ～ IO3 信号にシフトインされた後にレイテンシが必要です。レイテンシ期間 (ダミー サイクル) により、デバイスの内部回路は初期アドレスでのデータにアクセスする十分な時間を取れます。レイテンシ サイクル中に、IO0 ～ IO3 上のデータ値は「ドント ケア」で、高インピーダンスであることがあります。データ ラーニング パターン (DLP) が有効になっている場合、ホスト システムはダミー サイクル中に IO 信号を駆動してはいけません。メモリ デバイスがダミー サイクル中に DLP を駆動できるように、ホストは IO 信号を高インピーダンスのままにする必要があります。

ダミー サイクル数は SCK の周波数によって異なります。レイテンシは CR3V[3:0] で設定されます。

モード ビットにより、最初のコマンドが補完的モード ビット パターンを送信した後、一連のクアッド I/O DDR コマンドから 8 ビット命令を除去できます。この機能により、8 ビット SDR 命令シーケンスを不要にし、初期アクセス時間を著しく短縮させます (XIP 性能を向上させます)。モード ビットに最初のバイトの命令コードが含まれるか否かに応じて、次の DDR クアッド I/O 読み出しの長さを制御します。モード ビットの上位ニブル (IO[7:4]) と下位ニブル (IO[3:0]) は相補的であれば (すなわち 5h と Ah)、EDh または EEh 命令を必要とせずにデバイスは DDR クアッド I/O 連続読み出しモードに移行し、(CS# が HIGH にされてから LOW にアサートされた後) 次のアドレスを入力できます。このように、コマンド シーケンスから 8 サイクルが除去されます。以下のシーケンスで、デバイスは DDR クアッド I/O 連続読み出しモードから解放されます。その後、デバイスは標準の SPI コマンドを受け入れられます。

- DDR クアッド I/O 読み出しコマンド シーケンス中に、モード ビットが相補的ではない場合、次回 CS# が HIGH にされてから LOW にアサートされるときにデバイスは DDR クアッド I/O 読み出しモードから解放されます。
- モード リセット コマンドを送信します。

アドレスはメモリ アレイの任意のバイト位置から開始できます。各データ バイトがシフトアウトされた後、アドレスは次の上位アドレスに自動的にインクリメントします。したがって、単一の読み出し命令および与えられた 000000h アドレスでメモリ全体を読み出せます。最高位アドレスに到達すると、アドレス カウンターはラップアラウンドして 000000h に戻り、読み出しシーケンスは無制限に続行できます。

モード ビットが不定にならないように、モード ビットまたはダミー ビットの間に CS# を HIGH に駆動しないでください。メモリデバイスは最初のデータ値の前にプリアンブルを IO に駆動することがあることに注意してください。プリアンブルは、より高い周波数でデータ キャプチャを最適化するためにホスト コントローラーによって使用されるデータ ラーニング パターン (DLP) です。プリアンブルはデータが出力される直前に 4 クロック サイクルの間 IO バスを駆動します。ホストはメモリがプリアンブルを出力し始める前に IO バスの駆動を停止することを確認する必要があります。

プリアンブルの目的は、ホストがクロック エッジを駆動してからメモリ デバイスが対応するデータ値を返すまでのラウンド トリップ時間についての指示をホスト コントローラーに与えることです。ホスト コントローラーはタイミング マージンを最適化するためにプリアンブル期間中にデータ キャプチャ ポイントをスキューしてから、読み出し動作の残りの期間中に同一のスキュー時間を使用してデータを取り込みます。最適化されたキャプチャ ポイントは各読み出し動作のプリアンブル期間中に判定されます。

この最適化の目的は、メモリ デバイスとホスト コントローラー両方の PVT (プロセス , 電圧 , 温度) および PCB 上の伝播時間に起因したすべてのシステム レベル遅延を補正することです。

データ ラーニング パターン (DLP) はプログラム可能ですが、以下の例には DLP 34h を示します。DLP 34h (00110100) はアクティブな出力 (すなわち、すべての 4 本の IO) のそれぞれの上で駆動されます。パターンは「DC」と「AC」両方のデータ遷移シナリオに対応できるように選択されます。2 つの DC 遷移シナリオは、データが長期間 (2 ハーフ クロック) LOW になってから HIGH に遷移 (001) することと、補数が LOW に遷移 (110) することです。2 つの AC 遷移シナリオは、データが短期間 (1 ハーフ クロック) LOW になってから HIGH に遷移 (101) することと、補数が LOW に遷移 (010) することです。通常、DC 遷移は安定状態 (DC) レベルに完全に整合しない可能性がある AC 遷移よりも、電源ラインに近いスタート ポイントに発生します。多くの場合、DC 遷移はデータ有効期間の始まりに関連し、AC 遷移はデータ有効期間の終わりに関連します。遷移により、ホスト コントローラーは有効なデータ アイの始まりと終わりを識別できます。データ アイが特長付けされると、最適なデータ キャプチャ ポイントを選択できます。詳細は DDR データ ラーニング レジスタを参照してください。

QPI モード (CR2V[3]=1) では、DDR クアッド I/O 命令は SCK の立ち上りエッジで 4 ビット送信されます。コマンド プロトコルの残りは DDR クアッド I/O コマンドと同じです。

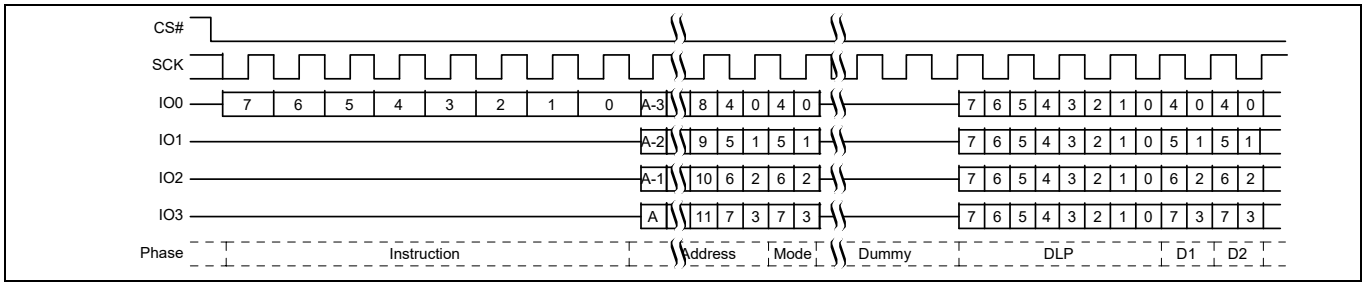


Figure 74 DDR クアッド I/O 読み出しの初期アクセス [36, 37]

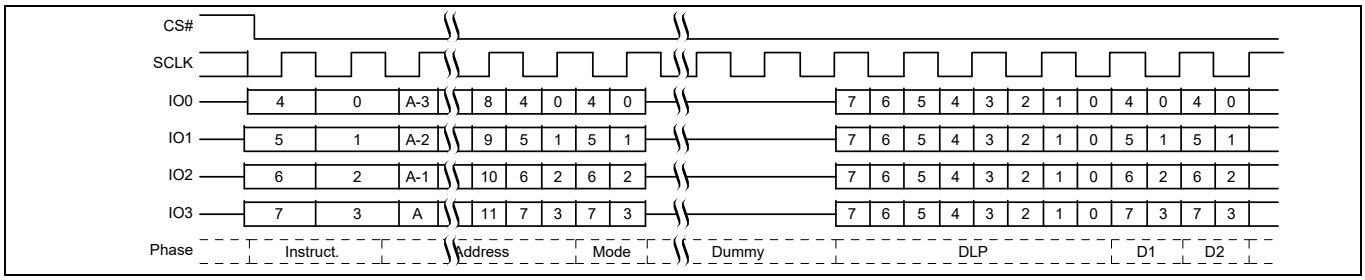


Figure 75 DDR クアッド I/O 読み出しの初期アクセス - QPI モード [36, 37]

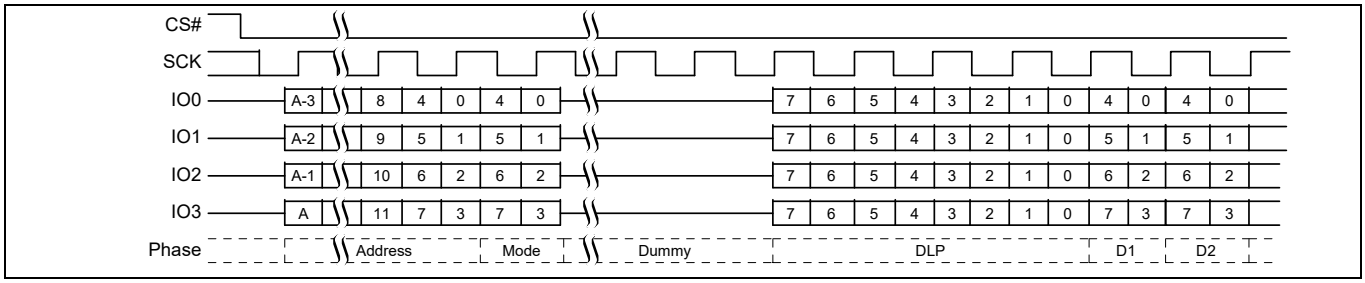


Figure 76 DDR クアッド I/O 連続読み出しの後続アクセス [36, 37, 38]

注

36.A= アドレスの MSb は、CR2V[0]=0 の場合は 23、CR2V[0]=1 またはコマンド EEh の場合は 31 です。
37.34h (00110100) の DLP 例。
38.QPI モードで同じシーケンスを使用します。

8.5 プログラム フラッシュ アレイのコマンド

8.5.1 プログラムの粒度

8.5.1.1 ページ プログラム

ページ プログラムはプログラムされるデータをページ バッファにロードし、データをバッファからメモリ アレイへ転送するプログラム コマンドを発行することで行われます。単一のプログラム コマンドでプログラムできるデータ量に上限を設定します。ページ プログラムでは、1 つの動作で 256 バイトまでのページ サイズをプログラムできます。ページはページ サイズのアドレス境界に整列されます。各ページ プログラム動作で 1 ビットからページ サイズまでプログラムできます。最高の性能を得るために、プログラムは 256 バイト境界に整列された 256 バイトのフル ページに対して行い、各ページを一度だけプログラムする必要があります。

8.5.1.2 シングル バイト プログラム

シングル バイト プログラムは 1 バイトをメモリ アレイ内の任意の位置にプログラムできるようにし、レガシーの標準 SPI ページプログラム (PP) コマンドへ完全に下位互換性があります。

8.5.2 ページ プログラム (PP 02h または 4PP 12H)

ページ プログラム (PP) コマンドでは、バイトをメモリにプログラム (ビットを 1 から 0 に変更) できます。デバイスはページ プログラム (PP) コマンドを受け入れる前に、書き込みイネーブル (WREN) コマンドを発行して復号する必要があります。書き込みイネーブル (WREN) コマンドを正常に復号した後、デバイスはステータス レジスタの書き込みイネーブル ラッチ (WEL) をセットしてすべての書き込み動作を有効にします。

- 02h 命令 (CR2V[0] = 0) に続いて 3 バイト アドレス (A23 ～ A0)、または
- 02h 命令 (CR2V[0] = 1) に続いて 4 バイト アドレス (A31 ～ A0)、または
- 12h 命令 に続いて 4 バイト アドレス (A31 ～ A0)、および

少なくとも 1 データ バイトが SI/IO0 上で転送されます。02h 命令と 3 バイト アドレスまたは 12h 命令と 4 バイト アドレスが転送された後、SI/IO0 上でページまで転送できます。書き込みおよび消去コマンドと同じように、最後のバイトの 8 ビット目がラッチされた後、CS# ピンを HIGH に駆動する必要があります。そうしないと、ページ プログラム コマンドは実行されません。CS# が HIGH に駆動された後、セルフタイムのページ プログラム コマンドは t_{PP} の時間実行されます。

ページ プログラム (PP) コマンドを使用してページ境界内にページ全体をロードすることは、プログラム バッファに 1 ページ未満をロードすることに比べて総プログラム時間を節約できます。

プログラム プロセスはフラッシュ メモリ デバイスの内部制御ロジックで制御されます。プログラム コマンドが発行された後、ステータス レジスタ 1 読み出しコマンドを使用してプログラム動作のステータスを確認できます。WIP ビット (SR1V[0]) はプログラム動作が完了したかどうかを示します。P_ERR ビット (SR2V[5]) はプログラムを正常に完了させないエラーがプログラム動作に発生したかどうかを示します。これには、保護された領域をプログラムすることが含まれます。

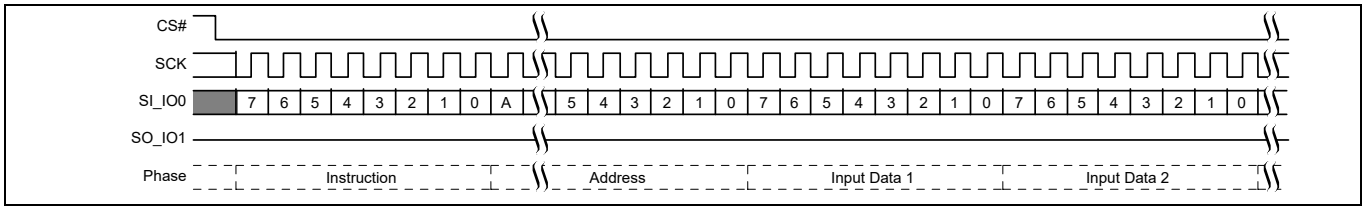


Figure 77 ページ プログラム (PP 02h または 4PP 12h) コマンド シーケンス [39]

注

39.A= アドレスの MSb は、CR2V[0]=0 で PP 02h の場合は A23、CR2V[0]=1 で PP 02h または 4PP 12h の場合は A 31 です。

このコマンドは QPI モードでも対応します。QPI モードでは、命令 , アドレス , およびデータは IO0 ～ IO3 上でシフトインされます。

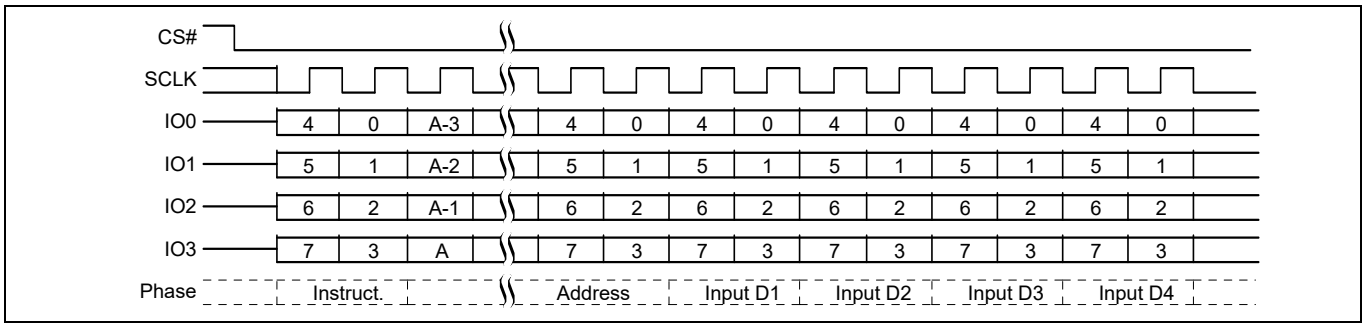


Figure 78 **ページ プログラム (PP 02h または 4PP 12h) コマンド シーケンス - QPI モード** [40]

8.5.3 クアッド ページ プログラム (QPP 32h または 4QPP 34h)

クアッド入力ページ プログラム (QPP) コマンドでは、バイトをメモリにプログラム (ビットを 1 から 0 に変更) できます。クアッド入力ページ プログラム (QPP) コマンドにより、IO0 ～ IO3 の 4 本の信号を使用してページ バッファに 1 ページまでのデータをロードできます。QPP はクロック サイクルごとに 4 データ ビットをロードすることで、遅いクロック速度 (< 12MHz) で動作する PROM プログラマおよびアプリケーションの性能を改善できます。より速いクロック速度で動作するシステムでは、固有のページプログラム時間がデータ クロックイン時間より長くなるため、QPP コマンドからの利点はあまり得られません。QPP コマンドの最大周波数は 108MHz です。

クアッド ページ プログラムを使用するために、コンフィギュレーション レジスタのクアッド イネーブル ビットをセットする (QUAD = 1) 必要があります。デバイスは QPP コマンドを受け入れる前に、書き込みイネーブル コマンドを実行する必要があります (ステータス レジスタ 1 の WEL=1)。

- 32h 命令 (CR2V[0] = 0) に続いて 3 バイト アドレス (A23 ～ A0)、または
- 32h 命令 (CR2V[0] = 1) に続いて 4 バイト アドレス (A31 ～ A0)、または
- 34h 命令 に続いて 4 バイト アドレス (A31 ～ A0) および

少なくとも 1 データ バイトが IO 信号に転送されます。データは以前に消去された (FFh) メモリ位置にプログラムしなければいけません。

QPP の他のすべての機能はページ プログラムと同じです。QPP コマンド シーケンスを以下の図に示します。

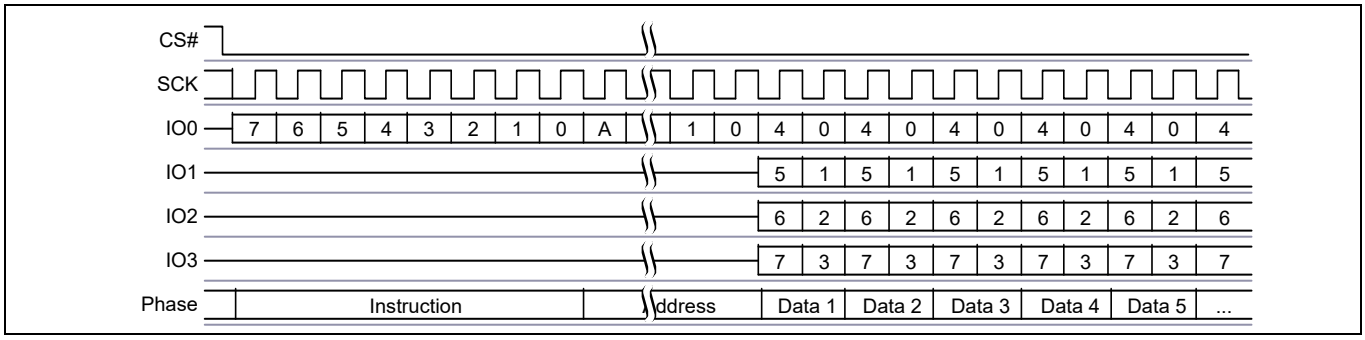


Figure 79 **クアッド ページ プログラム コマンド シーケンス** [40]

注

40. A= アドレスの MSb は、CR2V[0]=0 で QPP 32h の場合は A23、CR2V[0]=1 で QPP 32h または 4QPP 34h の場合は A 31 です。

8.6 フラッシュ アレイ消去のコマンド

8.6.0.1 セクタ消去 (SE 20h または 4SE 21h)

セクタ消去 (SE) コマンドはアドレス指定されたセクタの全ビットを 1 にセットします (全バイト値は FFh です)。デバイスはセクタ消去 (SE) コマンドを受け入れられる前に、書き込みイネーブル (WREN) コマンドを発行して復号する必要があります。これにより、ステータス レジスタの書き込みイネーブル ラッチ (WEL) がセットされ、すべての書き込み動作は実行可能になります。

- 20h 命令 [CR2V[0] = 0] に続いて 3 バイト アドレス (A23 ～ A0)、または
- 20h 命令 [CR2V[0] = 1] に続いて 4 バイト アドレス (A31 ～ A0)、または
- 21h 命令 に続いて 4 バイト アドレス (A31 ～ A0) が転送されます。

アドレスの 24 または 32 ビット目が SI/IO0 上でラッチインされた後、CS# を論理 HIGH 状態に駆動する必要があります。これにより、フラッシュ メモリ アレイの選択されたセクタのプリプログラムと消去を含む内部消去サイクルが開始されます。最後のアドレス ビットの後に CS# が HIGH に駆動されない場合、セクタ消去動作は実行されません。

CS# が HIGH に駆動されると、内部消去サイクルは直ちに開始されます。進行中の内部消去サイクルで、ユーザーは書き込み中 (WIP) ビットの値を読み出し、動作が完了したかを確認できます。WIP ビットは、消去サイクルが進行中の場合「1」であり、消去サイクルが完了した場合「0」です。

レガシー ブロック保護 , 個別ブロック ロック保護 , またはポインター領域保護により書き込みから保護されたセクタに SE または 4SE コマンドを適用すると、コマンドは実行されず、E_ERR ステータスがセットされます。

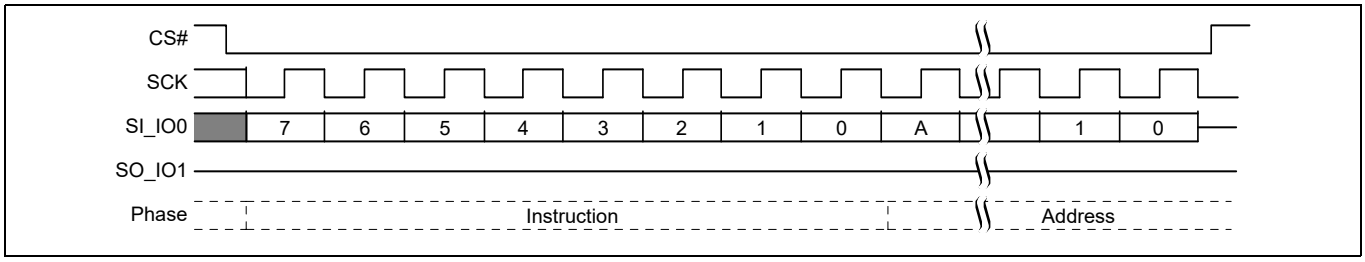


Figure 80 セクタ消去 (SE 20h または 4SE 21h) コマンド シーケンス [41]

このコマンドは QPI モードでも対応します。QPI モードでは、命令およびアドレスは IO0 ～ IO3 上でシフトインされます。

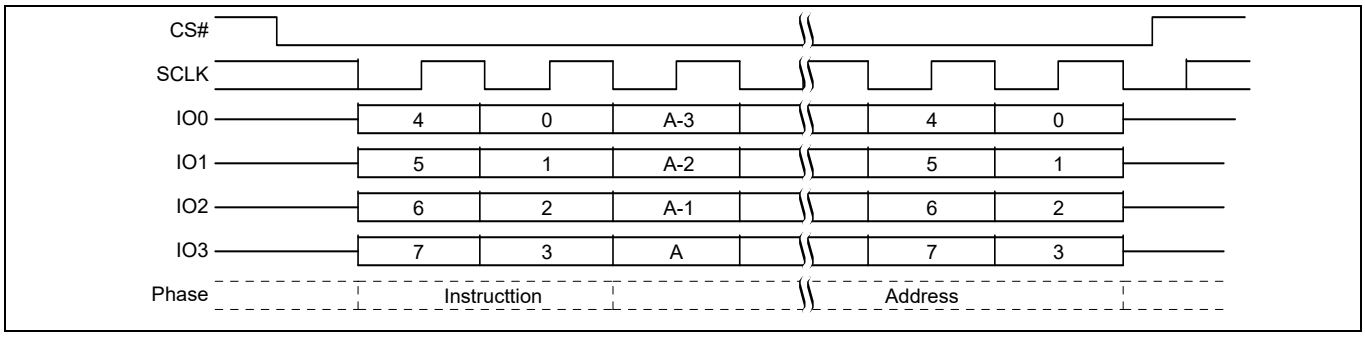


Figure 81 セクタ消去 (SE 20h または 4SE 21h) コマンド シーケンス - QPI モード [41]

注

41.A= アドレスの MSb は、CR2V[0]=0 で SE 20h の場合は A23、CR2V[0]=1 で SE 20h または 4SE 21h の場合は A 31 です。

8.6.1 ハーフ ブロック消去 (HBE 52h または 4HBE 53h)

ハーフ ブロック消去 (HBE) コマンドでは、アドレス指定されたハーフ ブロックの全ビットを 1 にセットします (全バイト値は FFh です)。デバイスはハーフ ブロック消去 (HBE) コマンドを受け入れる前に、書き込みイネーブル (WREN) コマンドを発行して復号しなければいけません。これにより、ステータス レジスタの書き込みイネーブル ラッチ (WEL) がセットされ、すべての書き込み動作は実行可能になります。

- 52h 命令 [CR2V[0] = 0] に続いて 3 バイト アドレス (A23 ～ A0)、または
- 52h 命令 [CR2V[0] = 1] に続いて 4 バイト アドレス (A31 ～ A0)、または
- 53h 命令 に続いて 4 バイト アドレス (A31 ～ A0) が転送されます。

アドレスの 24 または 32 ビット目が SI/IO0 上でラッチインされた後、CS# を論理 HIGH 状態に駆動する必要があります。これにより、選択されたブロックの各セクタのプリプログラムと消去を含む消去サイクルが開始されます。最後のアドレス ビットの後に CS# が HIGH に駆動されない場合、ハーフ ブロック消去動作は実行されません。

CS# が論理 HIGH 状態に駆動されると、内部消去サイクルは直ちに開始されます。進行中の内部消去サイクルにより、ユーザーは書き込み中 (WIP) ビットの値を読み出し、動作が完了したかを確認できます。WIP ビットは消去サイクルが進行中の場合「1」であり、消去サイクルが完了した場合「0」です。

レガシー ブロック保護 , 個別ブロック ロック保護 , またはポインター領域保護により書き込みから保護されたブロックにハーフ ブロック消去 (HBE) コマンドを適用すると、コマンドは実行されず、E_ERR ステータスがセットされます。

ハーフ ブロック消去コマンドを適用し、ハーフ ブロック消去エリア内の領域 , セクタ , またはブロックが保護されている場合、消去は 32KB 範囲で実行されず、E_ERR ステータスがセットされます。

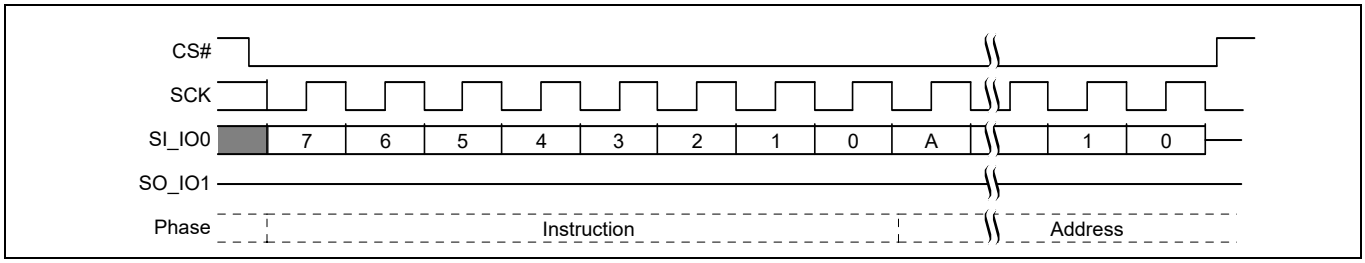


Figure 82 ハーフ ブロック消去 (HBE 52h または 4HBE 53h) コマンド シーケンス [42, 43]

このコマンドは QPI モードでも対応します。QPI モードでは、命令およびアドレスは IO0 ～ IO3 上でシフトインされます。

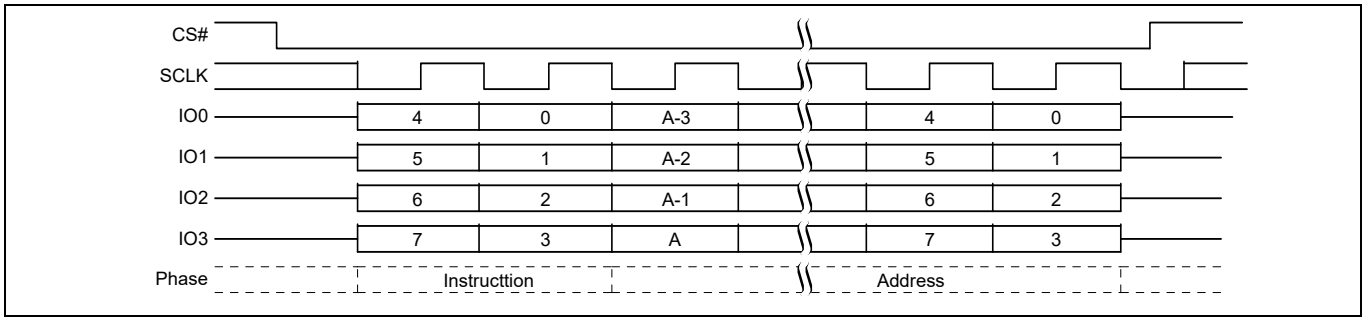


Figure 83 ハーフ ブロック消去 (HBE 52h または 4HBE 53h) コマンド シーケンス - QPI モード [42, 43]

注

42. A= アドレスの MSb は、CR2V[0]=0 で HBE 52h の場合は A23、CR2V[0]=1 で HBE 52h または 4HBE 53h の場合は A 31 です。
43. A[15]=0 の場合はブロックのセクタ 0 ～ 7 が消去され、A[15]=1 の場合にはブロックのセクタ 8 ～ 15 が消去されます。

8.6.2 ブロック消去 (BE D8h または 4BE DCh)

ブロック消去 (BE) コマンドでは、アドレス指定されたブロックの全ビットを 1 にセットします (すべてのバイト値は FFh です)。デバイスはブロック消去 (BE) コマンドを受け入れる前に、書き込みイネーブル (WREN) コマンドを発行して復号しなければいけません。これにより、ステータス レジスタの書き込みイネーブル ラッチ (WEL) がセットされ、すべての書き込み動作は実行可能になります。

- D8h 命令 [CR2V[0] = 0] に続いて 3 バイト アドレス (A23 ～ A0)、または
- D8h 命令 [CR2V[0] = 1] に続いて 4 バイト アドレス (A31 ～ A0)、または
- DCh 命令 に続いて 4 バイト アドレス (A31 ～ A0) が転送されます。

アドレスの 24 または 32 ビット目が SI/IO0 上でラッチインされた後、CS# を論理 HIGH 状態に駆動する必要があります。これにより、選択されたブロックの各セクタのプリプログラムと消去を含む消去サイクルが開始されます。最後のアドレス ビットの後に CS# が HIGH に駆動されない場合、ブロック消去動作は実行されません。

CS# が論理 HIGH 状態に駆動されると、内部消去サイクルは直ちに開始されます。進行中の内部消去サイクルにより、ユーザーは書き込み中 (WIP) ビットの値を読み出し、動作が完了したかを確認できます。WIP ビットは消去サイクルが進行中の場合「1」であり、消去サイクルが完了した場合「0」です。

レガシー ブロック保護 , 個別ブロック ロック保護 , またはポインター領域保護により書き込みから保護されたブロックにブロック消去 (BE) コマンドを適用すると、コマンドは実行されず、E_ERR ステータスがセットされます。

ブロック消去コマンドを適用し、領域やセクタ エリアが保護されている場合、消去は 64KB 範囲で実行されず、E_ERR ステータスがセットされます。

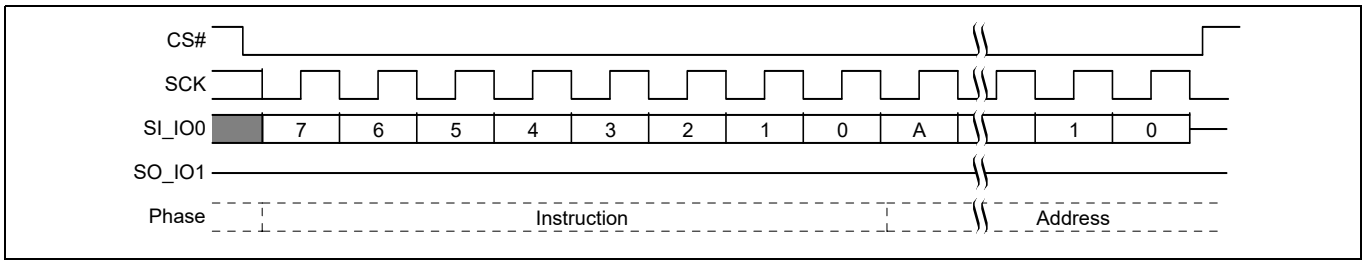


Figure 84 ブロック消去 (BE D8h または 4BE DCh) コマンド シーケンス [44]

このコマンドは QPI モードでも対応します。QPI モードでは、命令およびアドレスは IO0 ～ IO3 上でシフトインされます。

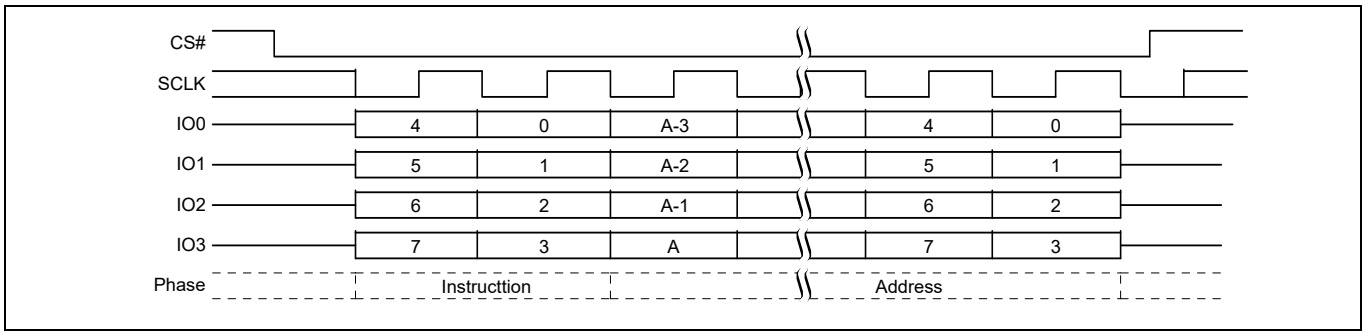


Figure 85 ブロック消去 (BE D8h または 4BE DCh) コマンド シーケンス - QPI モード [44]

注

44.A= アドレスの MSb は、CR2V[0]=0 で BE D8h の場合は A23、CR2V[0]=1 で BE D8h または 4BE DCh の場合は A 31 です。

8.6.3 チップ消去 (CE 60h または C7h)

チップ消去 (CE) コマンドはフラッシュ メモリ アレイの全ビットを 1 にセットします (全バイト値は FFh です)。デバイスは CE コマンドを受け入れる前に、書き込みイネーブル (WREN) コマンドを発行して復号しなければいけません。これにより、ステータス レジスタの書き込みイネーブル ラッチ (WEL) がセットされ、すべての書き込み動作は実行可能になります。

命令バイトの 8 ビット目が SI/IO0 上にラッチインされた後、CS# を論理 HIGH に駆動する必要があります。これにより、フラッシュ メモリ アレイ全体のプリプログラムと消去を含む消去サイクルが開始されます。命令の最後ビットの後に、CS# が HIGH に駆動されない場合、CE 動作は実行されません。

CS# が論理 HIGH に駆動されると、消去サイクルは直ちに開始されます。進行中の消去サイクルで、ユーザーは書き込み中 (WIP) ビットの値を読み出して、動作が完了したかどうかを確認できます。WIP ビットは消去サイクルが進行中の場合「1」であり、消去サイクルが完了した場合「0」です。

レガシー ブロック保護 , 個別ブロック ロック , またはポインター領域保護がすべてのセクタまたはブロックを保護するためにセットされているとき、CE コマンドは実行されず、E_ERR ステータス ビットがセットされます。

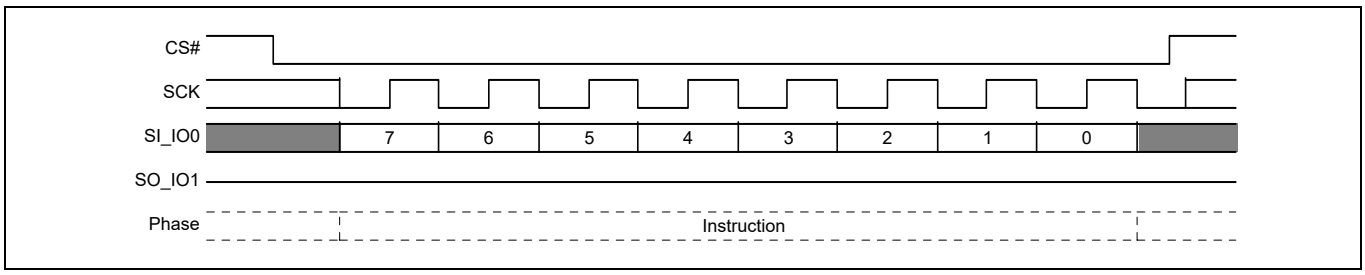


Figure 86 チップ消去コマンド シーケンス

このコマンドは QPI モードでも対応します。QPI モードでは、命令は IO0 ～ IO3 上でシフトインされます。

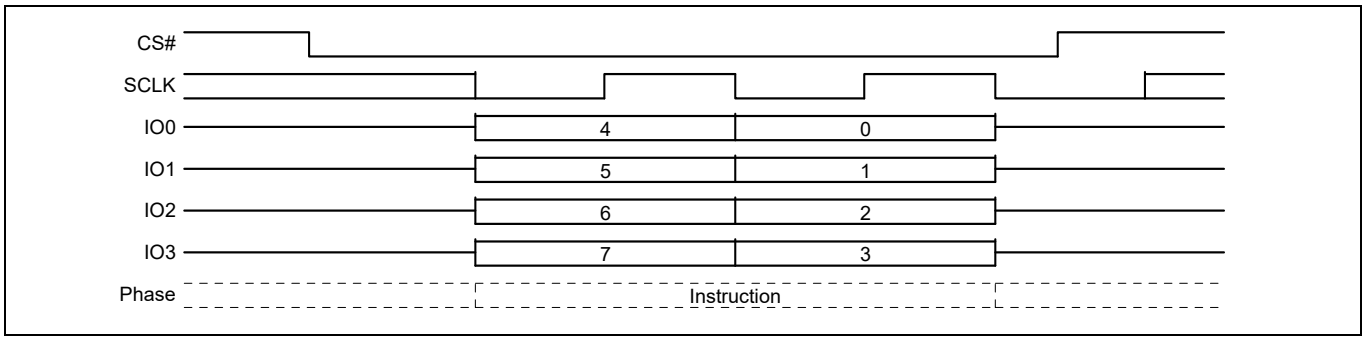


Figure 87 チップ消去コマンド シーケンス - QPI モード

8.6.4 プログラムまたは消去一時停止 (PES 75h)

PES コマンドでは、システムはプログラムまたは消去動作を割り込んでから、消去が一時停止されないセクタまたはプログラムが一時停止されないページから読み出せます。プログラムまたは消去一時停止は、プログラム , セクタ消去 , ハーフ ブロック消去 , またはブロック消去が進行中のときにのみ有効です。チップ消去動作を一時停止できません。

いつプログラムまたは消去動作が停止されるかを判定するために、ステータス レジスタ 1 の書き込み中 (WIP) ビット (SR1V[0]) を確認する必要があります。ステータス レジスタ 2 のプログラム一時停止ステータス ビット (SR2[0]) を使用して、WIP が 0 となるときにプログラム動作が一時停止されたか完了したかを確定できます。ステータス レジスタ 2 の消去一時停止ステータス ビット (SR2[1]) を使用して、WIP が 0 となるときに消去動作が一時停止されたか完了したかを確定できます。一時停止動作が完了するのに要する時間は t_{SL} です。Table 57 を参照してください。

プログラム動作または読み出し動作を実行するために消去を一時停止できます。消去一時停止中に、IBL アレイはセクタ保護を確認するために読み出され、プログラムするセクタの保護を削除または復元するために書き込まれることがあります。動作が再開されたときに保護ビットが再確認されないため、行ったすべての変更は進行中の動作に影響を与えません。

読み出し動作を実行するためにプログラム動作を一時停止できます。

既に一時停止した消去またはプログラム動作では新しいサスペンド動作を行えません。この状況では一時停止コマンドは無視されます。

Table 36 プログラム / 消去一時停止中に実行可能なコマンド

命令名	命令コード (16 進)	消去一時停止中に実行可能	プログラム一時停止中に実行可能	説明
READ	03	X	X	一時停止中にすべてのアレイ読み出しは実行可能
RDSR1	05	X	X	WIP を読み出して一時停止プロセスの終了を判定するために必要
RDAR	65	X	X	WIP を読み出して一時停止プロセスの終了を判定するための代替方法
RDSR2	07	X	X	一時停止ステータスを読み出して動作が一時停止中であるか完了したかを判定するために必要
RDCR1	35	X	X	コンフィギュレーション レジスタ 1 を読み出すために必要
RDCR2	15	X	X	コンフィギュレーション レジスタ 2 を読み出すために必要
RDCR3	33	X	X	コンフィギュレーション レジスタ 3 を読み出すために必要
RUID	4B	X	X	固有 ID を読み出すために必要
RDID	9F	X	X	デバイス ID を読み出すために必要
RDQID	AF	X	X	クアッド デバイス ID を読み出すために必要
RSFDP	5A	X	X	SFDP を読み出すために必要
SBL	77	X	X	バースト長をセットするために必要
WREN	06	X	X	消去一時停止中のプログラム コマンドに必要
WRDI	04	X	X	消去一時停止中のプログラム コマンドに必要
PP	02	X	–	消去一時停止中のアレイ プログラム コマンドに必要です。プログラムが一時停止中のプログラム動作がない (SR2V[0]=0) 場合にのみ実行可能です。一時停止中のプログラムがあるとき、プログラム コマンドは無視されます。消去が一時停止中のセクタにプログラム コマンドを送信すると、プログラム動作は失敗し、P_ERR ビットがセットされます。

注

45. 一時停止状態では WRR/WRAR コマンドが許可されないため、初期のプログラムおよび消去の前に、すべてのクアッド コマンドに対してクアッド イネーブル CR1V[1] ビット (Table 11 を参照してください) を 1 にセットする必要があります。

Table 36 プログラム / 消去一時停止中に実行可能なコマンド *(continued)*

命令名	命令コード (16 進)	消去一時停止中に実行可能	プログラム一時停止中に実行可能	説明
QPP	32	X	–	消去一時停止中のアレイ プログラム コマンドに必要です。プログラムが一時停止中のプログラム動作がない (SR2V[0]=0) 場合にのみ実行可能です。一時停止中のプログラムがあるとき、プログラム コマンドは無視されます。消去が一時停止中のセクタにプログラム コマンドを送信すると、プログラム動作は失敗し、P_ERR ビットがセットされます。
CLSR	30	X	X	プログラム動作が消去一時停止中に失敗した場合、ステータス クリア コマンドを使用できます。
EPR	7A	X	X	一時停止中の消去 / プログラムを再開するために必要
RSTEN	66	X	X	リセットはいつでも実行可能
RST	99	X	X	リセットはいつでも実行可能
FAST_READ	0B	X	X	一時停止中にすべてのアレイ読み出しは実行可能
DOR	3B	X	X	一時停止中にすべてのアレイ読み出しは実行可能
DIOR	BB	X	X	一時停止中にすべてのアレイ読み出しは実行可能
IBLRD	3D	X	X	消去一時停止中にプログラムを許可するために、個別ブロック ロックの解除と復元が必要となる場合があります。
IBL	36	X	X	消去一時停止中にプログラムを許可するために、個別ブロック ロックの復元が必要となる場合があります。
IBUL	39	X	X	消去一時停止中にプログラムを許可するために、個別ブロック ロックの解除が必要となる場合があります。
QOR	6B	X	X	クアッド出力読み出し (3 バイト アドレス)[45]
QIOR	EB	X	X	一時停止中にすべてのアレイ読み出しは実行可能 [45]
MBR	FF	X	X	一時停止中に読み出し動作をリセットすることが必要となる場合があります。
SECRP	42	X	–	消去一時停止中にすべてのセキュリティ領域プログラムは実行可能
SECRR	48	X	X	一時停止中にすべてのセキュリティ領域読み出しは実行可能

注

45. 一時停止状態では WRR/WRAR コマンドが許可されないため、初期のプログラムおよび消去の前に、すべてのクアッド コマンドに対してクアッド イネーブル CR1V[1] ビット (Table 11 を参照してください) を 1 にセットする必要があります。

Table 36 に含まれないすべてのコマンドは消去またはプログラム一時停止中に許可されません。WRR, WRAR, または SPRP コマンドが消去またはプログラム一時停止中に許可されないため、消去一時停止中にレガシー ブロック保護ビットおよびポインター領域保護は変更できません。

消去が一時停止されたセクタまたはプログラムが一時停止されたページ内の任意のアドレスを読み出すと、不確定なデータが返されます。

消去一時停止中のプログラム動作が完了した後、デバイスは消去一時停止モードに戻ります。通常のプログラム動作と同じように、システムはステータス レジスタの WIP ビットを読み出すことでプログラム動作の状態を確認できます。

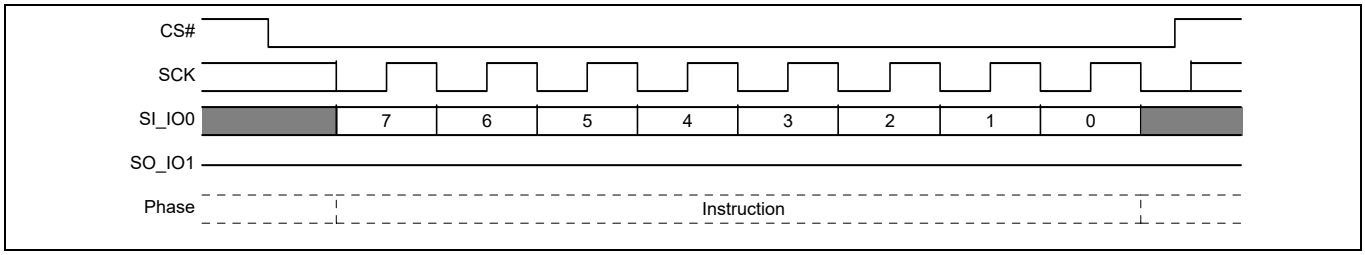


Figure 88　消去 / プログラム一時停止コマンド シーケンス

このコマンドは QPI モードでも対応します。QPI モードでは、命令は IO0 ～ IO3 上でシフトインされます。

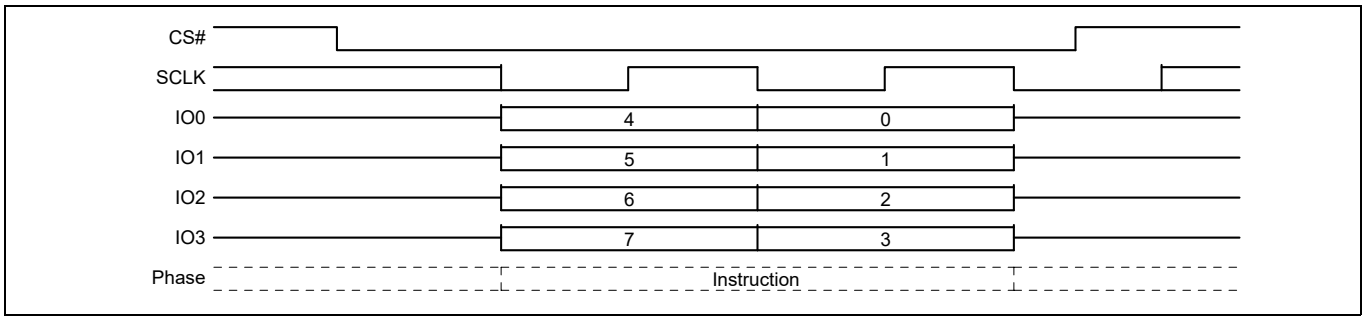


Figure 89　消去 / プログラム一時停止コマンド シーケンス - QPI モード

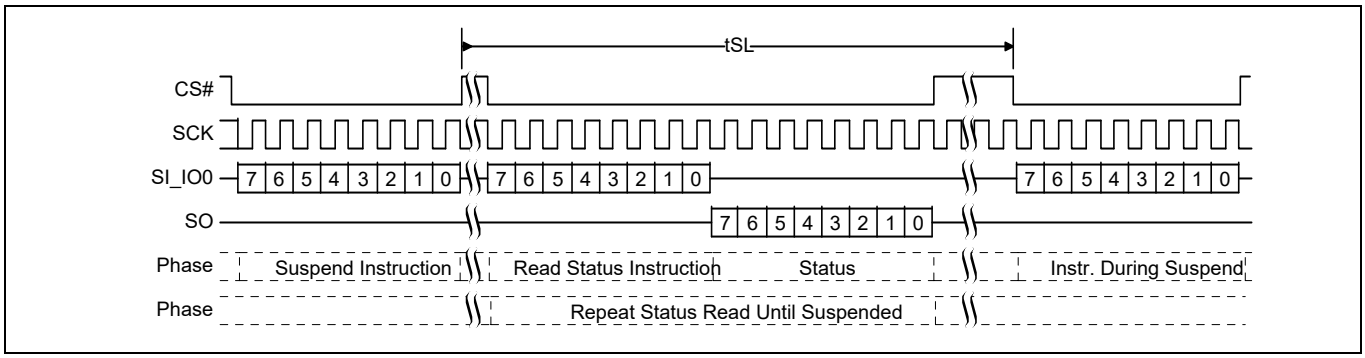


Figure 90　消去 / プログラム一時停止コマンドに続く命令コマンド シーケンス

8.6.5 消去 / プログラム再開 (EPR 7Ah)

消去またはプログラム一時停止中にプログラムまたは読み出し動作が完了した後、一時停止された動作を継続するために消去 / プログラム再開コマンドが送信されます。

消去 / プログラム再開コマンドが発行された後、ステータス レジスタ 1 の WIP ビットが 1 にセットされ、一時停止されたプログラム動作が再開されます。一時停止されたプログラムまたは消去動作がない場合、再開コマンドは無視されます。

プログラムまたは消去動作は、必要に応じて何度も中断できます (例えば、プログラム一時停止コマンドがプログラム再開コマンドの直後に続くことができます)。ただし、プログラムまたは消去動作が完了するために、再開コマンドと次の一時停止コマンドの間には tRNS 以上の時間を要します。Table 57 を参照してください。

ステータス レジスタ 2 のプログラム一時停止ステータス ビット (SR2[0]) を使用して、WIP が 0 となるときにプログラム動作が一時停止されたか完了したかを確定できます。ステータス レジスタ 2 の消去一時停止ステータス ビット (SR2[1]) を使用して、WIP が 0 となるときに消去動作が一時停止されたか完了したかを確定できます。揮発性ステータス レジスタ 2 (SR2V) を参照してください。

一時停止された動作を再開するために消去 / プログラム再開コマンドを書き込む必要があります。

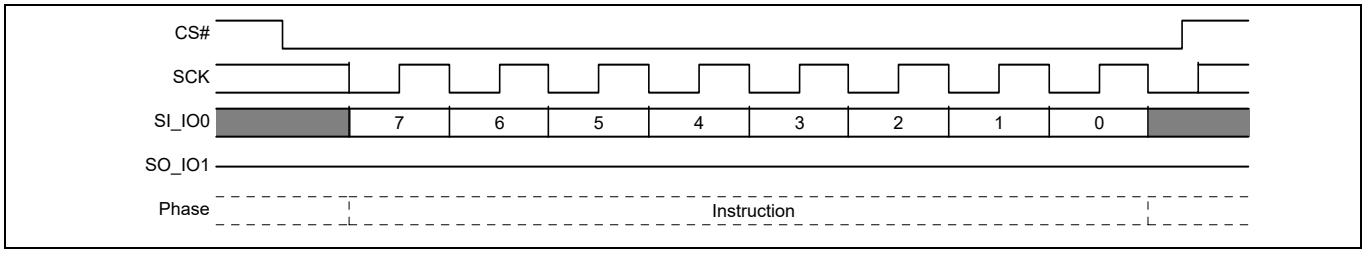


Figure 91 消去 / プログラム再開コマンド シーケンス

このコマンドは QPI モードでも対応します。QPI モードでは、命令は IO0 ～ IO3 上でシフトインされます。

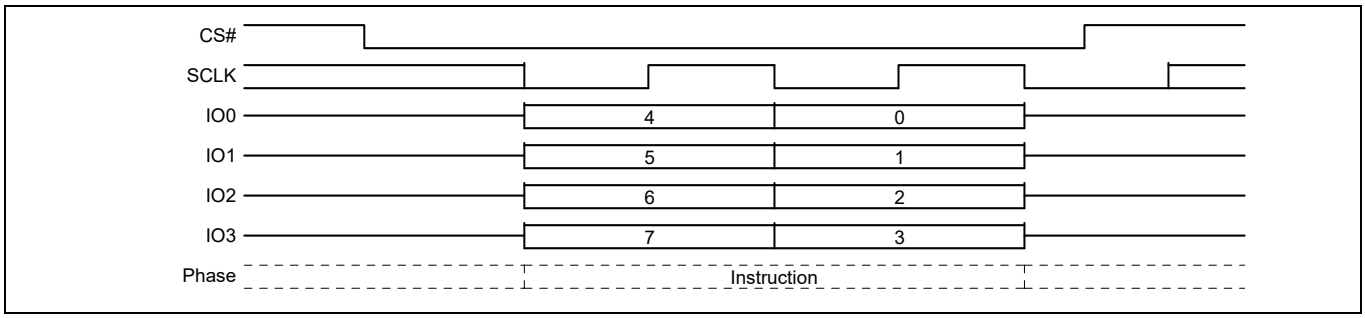


Figure 92 消去 / プログラム再開コマンド シーケンス - QPI モード

8.7 セキュリティ領域アレイのコマンド

セキュリティ領域は以下に示すように、A15 ～ A8 のアドレスにより、使用する領域を選択します。

- セキュリティ領域 0: A23 ～ 16 = 00h; A15 ～ 8 = 00h; A7 ～ 0 = バイト アドレス
- セキュリティ領域 1: A23 ～ 16 = 00h; A15 ～ 8 = 01h; A7 ～ 0 = バイト アドレス
- セキュリティ領域 2: A23 ～ 16 = 00h; A15 ～ 8 = 02h; A7 ～ 0 = バイト アドレス
- セキュリティ領域 3: A23 ～ 16 = 00h; A15 ～ 8 = 03h; A7 ～ 0 = バイト アドレス

8.7.1 セキュリティ領域消去 (SECRE 44h)

セキュリティ領域消去コマンドはメイン アレイ データとは異なるアドレス空間にあるセキュリティ領域のデータを消去します。セキュリティ領域は 1024 バイトであり、このコマンドで S25FL064L のアドレス ビット (A22 ～ A10) はゼロでなければいけません。それぞれの領域は個別に消去できます。セキュリティ領域の詳細はセキュリティ領域アドレス空間を参照してください。

デバイスはセキュリティ領域消去コマンドを受け入れる前に、書き込みイネーブル (WREN) コマンドを発行して復号しなければいけません。これにより、ステータス レジスタの書き込みイネーブル ラッチ (WEL) がセットされ、すべての書き込み動作は実行可能になります。動作完了を判定するために、SR1V の WIP ビットをチェックできます。動作中にエラーが発生したかを確認するために、SR2V の E_ERR ビットを確認できます。

コンフィギュレーション レジスタ 1 のセキュリティ領域ロック ビット (CR1NV[2 ～ 5]) を使用して、セキュリティ領域を消去から保護できます。ロック ビットを「1」にセットすると、対応するセキュリティ領域は永久的にロックされます。ロックされている領域を消去しようとすると、動作は失敗し、SR2V[6] での E_ERR ビットが「1」にセットされます。

保護レジスタの NVLOCK ビットが「0」の場合、セキュリティ領域 2 と 3 はプログラムまたは消去から保護されます。ロックされている領域を消去しようとすると、動作は失敗し、SR2V[6] での E_ERR ビットが「1」にセットされます。NVLOCK ビット (PR[0]) を参照してください。

パスワード保護モード ロック ビット (IRP[2]) は、正しいパスワードが提供されて領域 2 と 3 の消去を可能にするまで、これらのセキュリティ領域を消去から保護できます。パスワードでロックされている領域を消去しようとすると、動作は失敗し、SR2V[6] での E_ERR ビットが「1」にセットされます。

セキュリティ領域消去コマンドのプロトコルはセクタ消去コマンドと同じです。コマンド シーケンスはセクタ消去 (SE 20h または 4SE 21h) を参照してください。QPI モードは対応します。

8.7.2 セキュリティ領域プログラム (SECRP 42h)

セキュリティ領域プログラム コマンドはメインアレイ のデータとは異なるアドレス空間にあるセキュリティ領域のデータをプログラムします。セキュリティ領域は 1024 バイトであり、このコマンドで S25FL064L のアドレス ビット (A22 ～ A10) はゼロでなければいけません。セキュリティ領域の詳細はセキュリティ領域アドレス空間を参照してください。

デバイスはセキュリティ領域プログラム コマンドを受け入れる前に、書き込みイネーブル (WREN) コマンドを発行して復号しなければいけません。これにより、ステータス レジスタの書き込みイネーブル ラッチ (WEL) がセットされ、すべての書き込み動作は実行可能になります。動作完了を判定するために、SR1V の WIP ビットをチェックできます。動作中にエラーが発生したかを確認するために、SR2V の P_ERR ビットをチェックできます。

ビット単位でセキュリティ領域アレイをプログラムするために、データ バイト内の残りのビットを「1」にセットできます。

セキュリティ領域メモリ空間の各領域はロックされていない限り、1 回または複数回プログラムできます。ただし、最高のデータ完全性のために、1 つ以上の 16 バイト長の整列したバイト グループを一緒にプログラムし、各領域内の消去動作の間に一度だけプログラムすることを推奨します。

コンフィギュレーション レジスタ 1 のセキュリティ領域ロック ビット (CR1NV[2 ～ 5]) を使用して、セキュリティ領域をプログラムから保護できます。ロック ビットを 1 にセットすると、対応するセキュリティ領域は永久的にロックされます。ロック (保護) されている領域で 0 または 1 をプログラムしようとすると、動作は失敗し、SR2V[5] での P_ERR ビットが 1 にセットされます。非保護の領域で 1 をプログラム

してもエラーが発生せず、P_ERR もセットされません (詳細はコンフィギュレーション レジスタ 1 を参照してください)。

保護レジスタの NVLOCK ビットが「0」の場合、セキュリティ領域 2 と 3 はプログラムまたは消去から保護されます。ロックされている領域でプログラムしようとすると、動作は失敗し、SR2V[5] での P_ERR ビットが 1 にセットされます。NVLOCK ビット (PR[0]) を参照してください。

パスワード保護モード ロック ビット (IRP[2]) は、正しいパスワードが提供されセキュリティ領域 2 と 3 のプログラム動作が可能になるまで、それらの領域をプログラム動作から保護できます。パスワードでロックされている領域でプログラムしようとすると、動作は失敗し、SR2V[5] での P_ERR ビットが 1 にセットされます。パスワード保護モードを参照してください。

セキュリティ領域プログラム コマンドのプロトコルはページ プログラム コマンドと同じです。コマンド シーケンスはページ プログラムを参照してください。QPI モードに対応します。

8.7.3 セキュリティ領域読み出し (SECRR 48h)

セキュリティ領域読み出し (SECRR) コマンドはセキュリティ領域からデータを読み出す手段を提供します。セキュリティ領域は 1024 バイトであり、このコマンドで S25FL064L のアドレス ビット (A22 ～ A10) はゼロでなければいけません。セキュリティ領域の詳細はセキュリティ領域アドレス空間を参照してください。

命令の後に、3 または 4 バイト アドレス (アドレス長コンフィギュレーション CR2V[0] に応じて) が続き、その次に CR3V[3:0] でセットされたレイテンシ (ダミー) サイクル数が続きます。そして、選択されたレジスタ データが返されます。セキュリティ領域読み出しコマンドのプロトコルはセキュリティ領域アドレスが最大値になった後、開始アドレスにラップしません。その代わりに、最高位のアドレス値を超えたデータは未定義となります。セキュリティ領域読み出しコマンドの読み出しレイテンシは CR3V[3:0] でのレイテンシ値によりセットされます。

セキュリティ領域読み出しパスワード モード イネーブル ビット (IRP[6]) により、正しいパスワードが提供されて領域 3 の読み出しが可能になるまで、このセキュリティ領域は読み出し動作から保護されます。パスワードでロックされている領域 3 を読み出そうとすると、無効かつ未定義のデータが返されます。セキュリティ領域読み出しパスワード保護を参照してください。

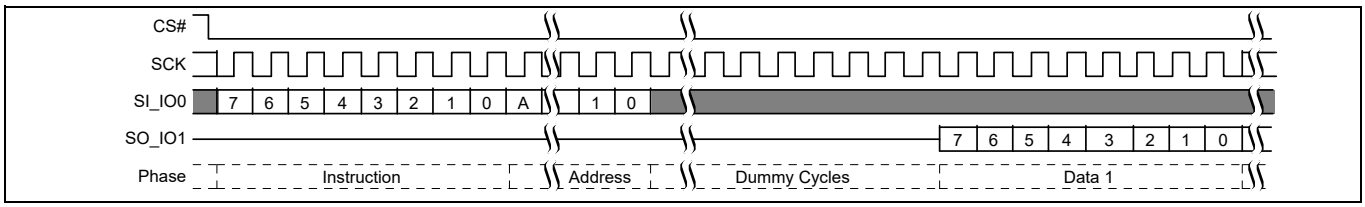


Figure 93 セキュリティ領域読み出しコマンド シーケンス [46]

このコマンドは QPI モードでも対応します。QPI モードでは、命令とアドレスのシフトインおよび返されるデータのシフトアウトは IO0 ～ IO3 上で行われます。

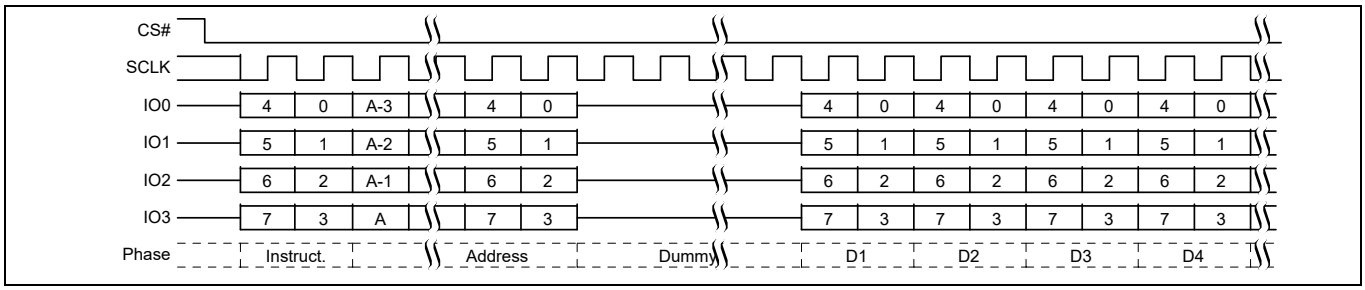


Figure 94 セキュリティ領域読み出しコマンド シーケンス - QPI モード [47]

46.A= アドレスの MSb は、アドレス長 CR2V[0]=0 の場合は 23、CR2V[0]=1 の場合は 31 です。
47.A= アドレスの MSb は、CR2V[0]=0 の場合は 23、CR2V[0]=1 の場合は 31 です。

8.8 個別ブロック ロックのコマンド

個別ブロック ロックを使用するために、コンフィギュレーション レジスタ 2 の WPS ビットで IBL 保護方式を選択する必要があります (CR2V[2]=1)。IBL 保護方式を選択しない場合 (CR2V[2]=0)、IBL コマンドは無視されます。

個別ブロック ロック (IBL) ビットは揮発性であり、個々のセクタ / ブロックに 1 つのビットが対応し、個別に変更できます。IBL または GBL コマンドを発行すると、IBL ビットが「0」にセットされ、対応するセクタ / ブロックは保護されます。IBUL または GUL コマンドを発行すると、IBL ビットが「1」にクリアされ、対応するセクタ / ブロックは保護されません。IBLRD コマンドの発行で各 IBL ビット保護の状態を読み出せます。

8.8.1 IBL 読み出し (IBLRD 3Dh または 4IBLRD E0h)

IBLRD/4IBLRD コマンドにより、各 IBL ビット保護の状態は読み出せます。

命令は SCK 信号の立ち上りエッジで SI にラッチされます。命令の後に、24 または 32 ビット アドレス (アドレス長コンフィギュレーション CR2V[0] に応じて) が続き、対象のセクタ内のロケーション 0 が選択されます。

その次に、8 ビット IBL アクセス レジスタ内容はシリアル出力 SO/IO1 上でシフトアウトされます。SCK 信号の立ち下りエッジごとに SCK 周波数で各ビットがシフトアウトされます。8 の倍数のクロック サイクルを提供することで同じ IBL アクセス レジスタを連続的に読み出せます。IBL レジスタのアドレスはインクリメントしないため、IBL アレイ全体を読み出す手段となりません。各ロケーションは別々の IBL 読み出しコマンドで読み出さなければいけません。

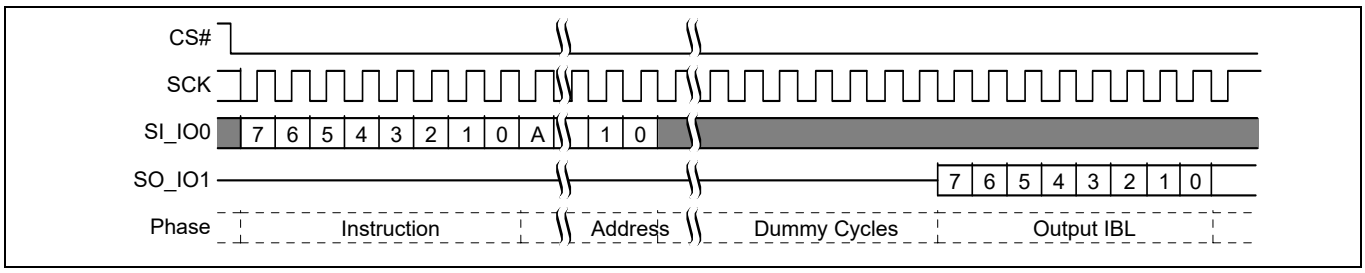


Figure 95 IBLRD コマンド シーケンス [48, 49]

このコマンドは QPI モードでも対応します。QPI モードでは、命令とアドレスのシフトインおよび返されるデータのシフトアウトは IO0 ～ IO3 上で行われます。

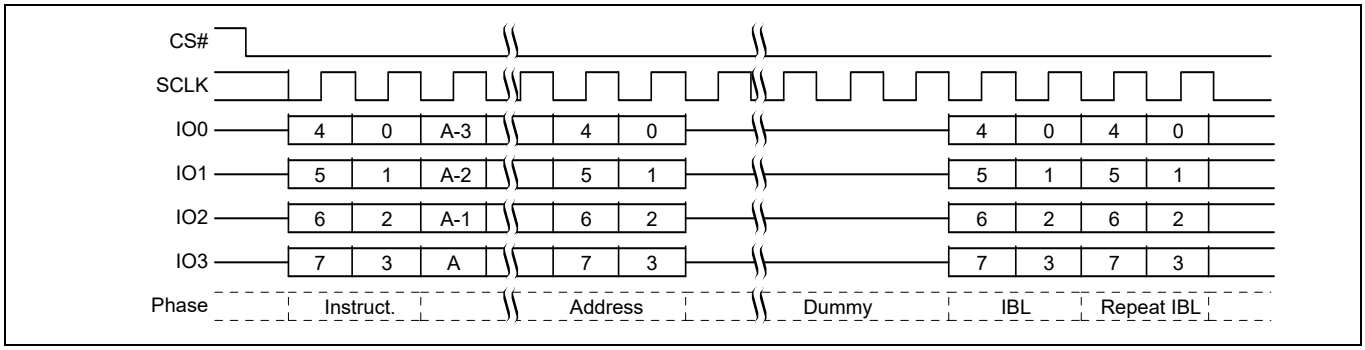


Figure 96 IBLRD コマンド シーケンス - QPI モード [48, 49]

注

48.A= アドレスの MSb は、アドレス長 CR2V[0]=0 の場合は 23、コマンド 3Dh で CR2V[0]=1 の場合は 31 です。

49.A= アドレスの MSb は、コマンド E0h の場合は 31 です。

8.8.2 IBL ロック (IBL 36h または 4IBL E1h)

IBL/4IBL コマンドは選択された IBL ビットを「0」にセットし、対応するセクタ / ブロックを保護します。

CS# を論理 LOW に駆動してから、命令、そして 24 または 32 ビット アドレス (アドレス長コンフィギュレーション CR2V[0] に応じて) を送信することで IBL コマンドが実行されます。IBL コマンドは他のプログラム動作と同じようにステータスおよびコンフィギュレーション レジスタの WIP ビットに影響します。

アドレス長コンフィギュレーション CR2V[0] に応じて、24 または 32 ビット アドレスがラッチインされた後、CS# を論理 HIGH に駆動する必要があります。CS# が論理 HIGH に駆動されると、セルフタイムの IBL 動作は直ちに開始されます。IBL 動作の進行中に、ステータス レジスタを読み出して書き込み中 (WIP) ビット値を確認できます。書き込み中 (WIP) ビットはセルフタイムの IBL 動作の間で「1」で、動作が完了すると「0」になります。

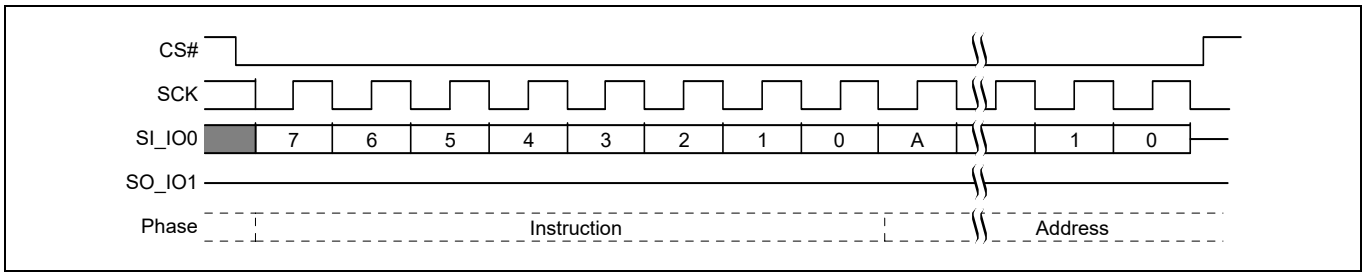


Figure 97 IBL コマンド シーケンス [50, 51]

このコマンドは QPI モードでも対応します。QPI モードでは、命令およびアドレスは IO0 ～ IO3 上でシフトインされます。

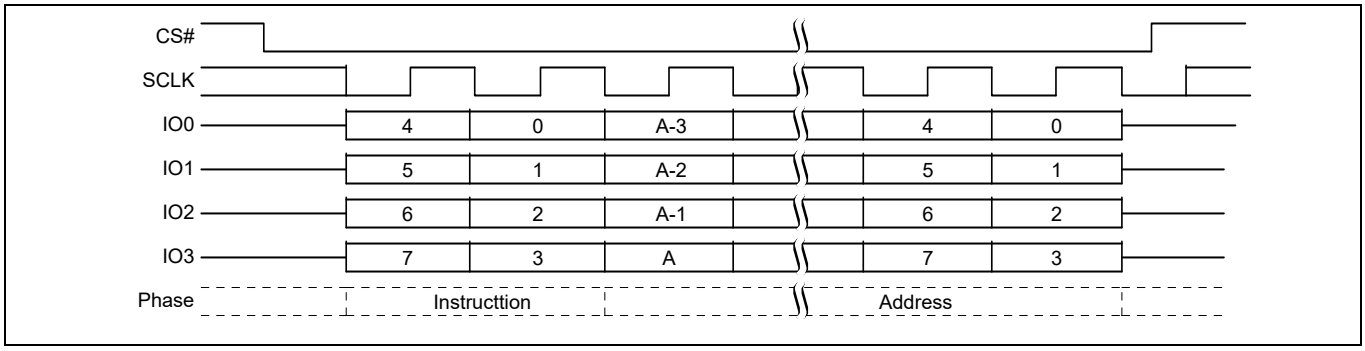


Figure 98 IBL コマンド シーケンス - QPI モード [50, 51]

注

50.A= アドレスの MSb は、アドレス長 CR2V[0]=0 の場合は 23、コマンド 36h で CR2V[0]=1 の場合は 31 です。

51.A= アドレスの MSb は、コマンド E1h の場合は 31 です。

8.8.3 IBL ロック解除 (IBUL 39h または 4IBUL E2h)

IBL/4IBL コマンドは選択された IBL ビットを「1」にクリアし、対応するセクタ / ブロックが保護されなくなります。

CS# を論理 LOW に駆動してから、命令、そして 24 または 32 ビット アドレス (アドレス長コンフィギュレーション CR2V[0] に応じて) を送信することで IBUL コマンドが実行されます 。IBUL コマンドは他のプログラム動作と同じようにステータスおよびコンフィギュレーション レジスタの WIP ビットに影響します。

アドレス長コンフィギュレーション CR2V[0] に応じて、24 または 32 ビット アドレスがラッチインされた後、CS# を論理 HIGH に駆動する必要があります。CS# が論理 HIGH に駆動されると、セルフタイムの IBL 動作は直ちに開始されます。IBUL 動作の進行中に、ステータス レジスタを読み出して書き込み中 (WIP) ビット値を確認できます。書き込み中 (WIP) ビットはセルフタイムの IBUL 動作の間「1」で、動作が完了すると「0」になります。

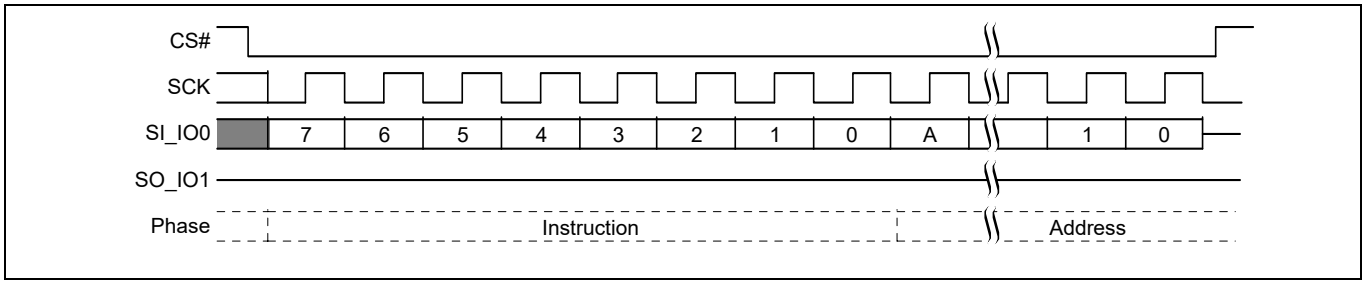


Figure 99 IBUL コマンド シーケンス [51, 52]

このコマンドは QPI モードでも対応します。QPI モードでは、命令およびアドレスは IO0 ～ IO3 上でシフトインされます。

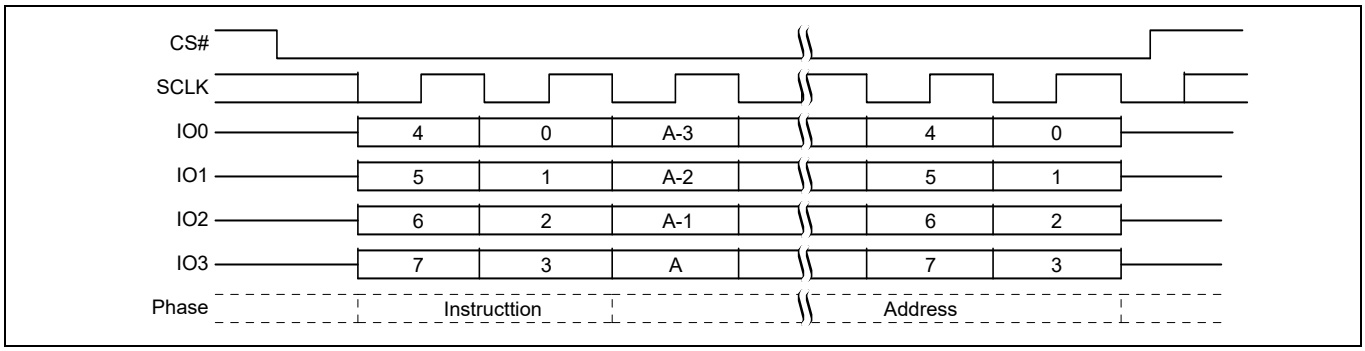


Figure 100 IBUL コマンド シーケンス - QPI モード [52, 53]

注

52.A= アドレスの MSb は、アドレス長 CR2V[0]=0 の場合は 23、コマンド 39h で CR2V[0]=1 の場合は 31 です。

53.A= アドレスの MSb は、コマンド E2h の場合は 31 です。

8.8.4 グローバル IBL ロック (GBL 7Eh)

GBL コマンドはすべての IBL ビットを「0」にセットし、すべてのセクタ / ブロックを保護します。

命令バイトの 8 番目のビットが SI 上でラッチインされた後、CS# を論理 HIGH に駆動する必要があります。これにより、GBL が開始されます。命令の最後ビットの後に CS# が HIGH に駆動されない場合、GBL 動作は実行されません。

CS# が論理 HIGH に駆動されると、GBL は直ちに開始されます。GBL の進行中に、ユーザーは書き込み中 (WIP) ビットの値を読み出して、動作が完了したかどうかを確認できます。WIP ビットは、GBL が進行中の場合「1」で、GBL が完了した場合「0」です。

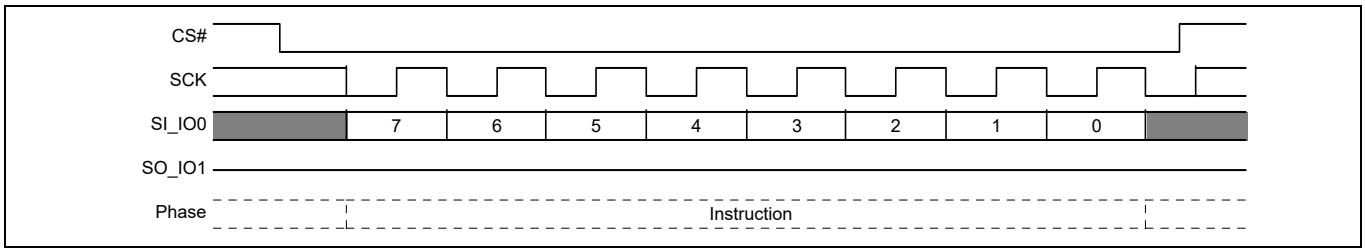


Figure 101 グローバル IBL ロック (GBL) コマンド シーケンス

このコマンドは QPI モードでも対応します。QPI モードでは、命令は IO0 ～ IO3 上でシフトインされます。

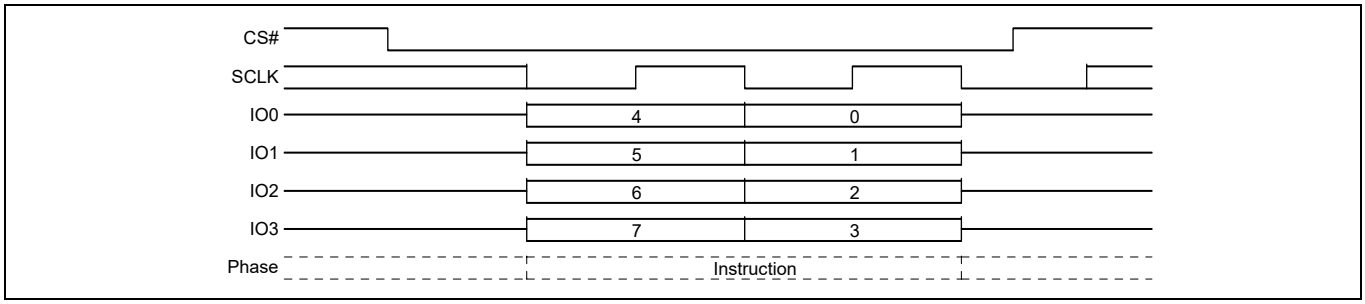


Figure 102 グローバル IBL ロック (GBL) コマンド シーケンス - QPI モード

8.8.5 グローバル IBL ロック解除 (GBUL 98h)

GBUL コマンドはすべての IBL ビットを「1」にクリアし、すべてのセクタ / ブロックが保護されなくなります。

命令バイトの 8 番目のビットが SI 上でラッチインされた後、CS# を論理 HIGH に駆動する必要があります。これにより、GBUL が開始されます。命令の最後ビットの後に CS# が HIGH に駆動されない場合、GBUL 動作は実行されません。

CS# が論理 HIGH に駆動されると、GBL は直ちに開始されます。GBL の進行中に、ユーザーは書き込み中 (WIP) ビットの値を読み出して、動作が完了したかどうかを確認できます。WIP ビットは、GBUL が進行中の場合「1」で、GBUL が完了した場合「0」です。

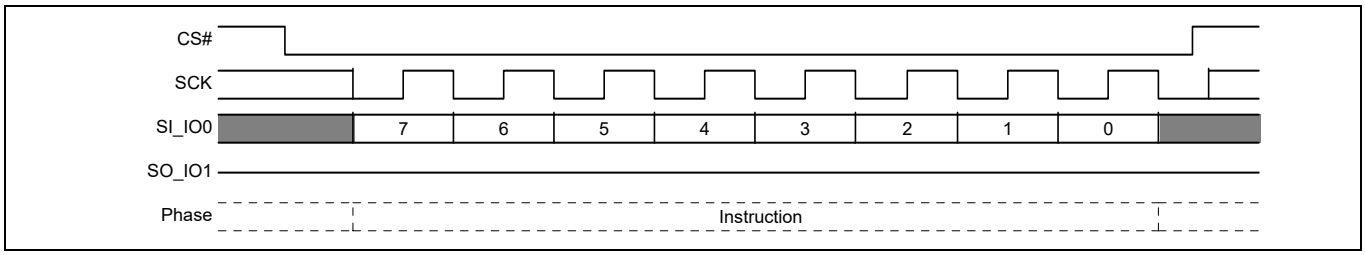


Figure 103 グローバル IBL ロック解除 (GBUL) コマンド シーケンス

このコマンドは QPI モードでも対応します。QPI モードでは、命令は IO0 ～ IO3 上でシフトインされます。

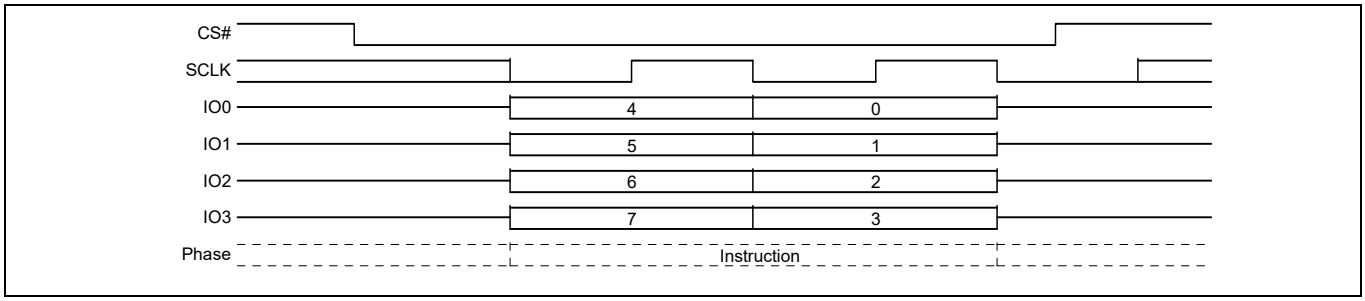


Figure 104 グローバル IBL ロック解除 (GBUL) コマンド シーケンス - QPI モード

8.9 ポインター領域のコマンド

8.9.1 ポインター領域保護セット (SPRP FBh または 4SPRP E3h)

一時停止動作のときは、ポインター値を消去 / 再プログラムできないため、SPRP または 4SPRP コマンドは無視されます。

デフォルト電源ロックダウン保護 NVLOCK PR[0]=0 であるか、電源ロックダウン保護が有効になる (IRP[1]=0) か、またはパスワード保護が有効になり (IRP[2]=0) かつ NVLOCK PR[0]=0 の場合、SPRP または 4SPRP コマンドは無視されます。

デバイスは SPRP または 4SPRP コマンドを受け入れる前に、書き込みイネーブル (WREN) コマンドを発行する必要があります。書き込みイネーブル (WREN) コマンドを復号した後、デバイスはステータス レジスタの書き込みイネーブル ラッチ (WEL) をセットしてすべての書き込み動作を有効にします。

CS# を論理 LOW に駆動してから、命令、そして 24 または 32 ビット アドレス (アドレス長コンフィギュレーション CR2V[0] に応じて) を送信することで SPRP または 4SPRP コマンドが実行されます。保護オプションを選択するためのアドレス値の詳細はポインター領域保護 (PRP) を参照してください。

アドレスの最後のビットがラッチインされた後、CS# を論理 HIGH に駆動する必要があります。そうしないと、SPRP コマンドは実行されません。CS# が論理 HIGH に駆動されると、セルフタイムの SPRP 動作は直ちに開始されます。SPRP 動作の進行中に、ステータス レジスタを読み出すことで書き込み中 (WIP) ビット値を確認できます。書き込み中 (WIP) ビットはセルフタイムの SPRP 動作の間「1」で、動作が完了すると「0」になります。SPRP 動作が完了すると、書き込みイネーブル ラッチ (WEL) は「0」にセットされます。ポインター領域保護セット動作にエラーがある場合、SPRP または 4SPRP コマンドは P_ERR または E_ERR のビットをセットします。

メモリの保護領域と非保護領域間のセクタ境界を定義するアドレス ポインターの詳細はポインター領域保護 (PRP) を参照してください。

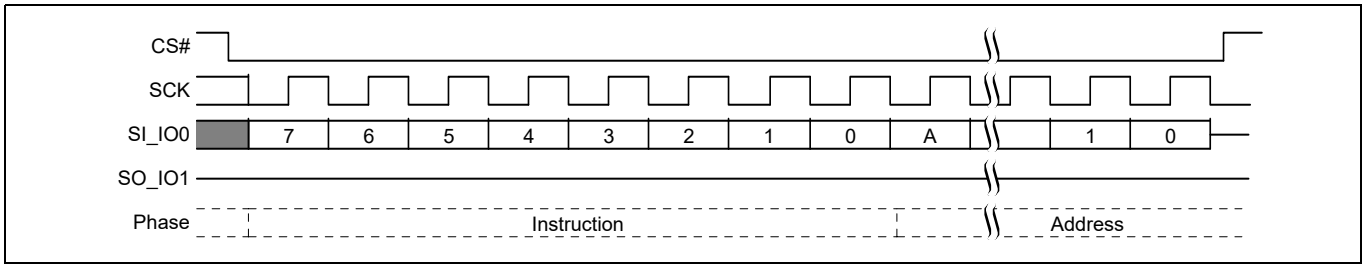


Figure 105 SPRP コマンド シーケンス [54, 55]

このコマンドは QPI モードでも対応します。QPI モードでは、命令およびアドレスは IO0 ～ IO3 上でシフトインされます。

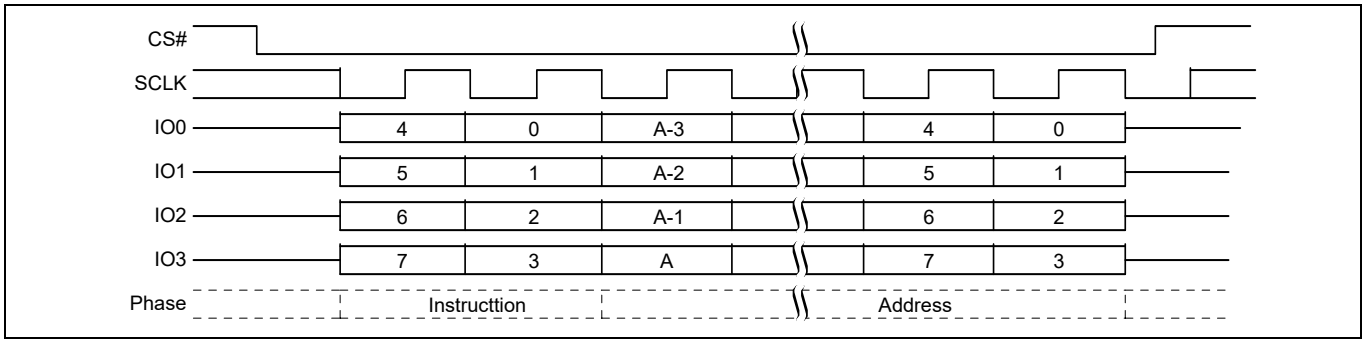


Figure 106 SPRP コマンド シーケンス - QPI モード [54, 55]

注

54.A= アドレスの MSb は、アドレス長 CR2V[0]=0 の場合は 23、コマンド FDh で CR2V[0]=1 の場合は 31 です。

55.A= アドレスの MSb は、コマンド E3h の場合は 31 です。

8.10 個別および領域保護 (IRP) のコマンド

8.10.1 IRP レジスタ読み出し (IRPRD 2Bh)

IRP レジスタ読み出し命令 2Bh は SCK 信号の立ち上りエッジで SI/IO0 にシフトされ、その後 1 ダミー サイクルが続きます。

レイテンシ期間により、デバイスの内部回路は初期アドレスでのデータにアクセスする十分な時間を取れます。レイテンシ サイクル中に、IO0 ～ IO3 上のデータ値は「ドント ケア」で、高インピーダンスであることがあります。

次に、16 ビット IRP レジスタ内容はシリアル出力 S0/IO1 上で最下位バイトから先にシフトアウトされます。SCK 信号の立ち下りエッジごとに SCK 周波数で各ビットがシフトアウトされます。16 の倍数のクロック サイクルを提供することで IRP レジスタを連続的に読み出せます。

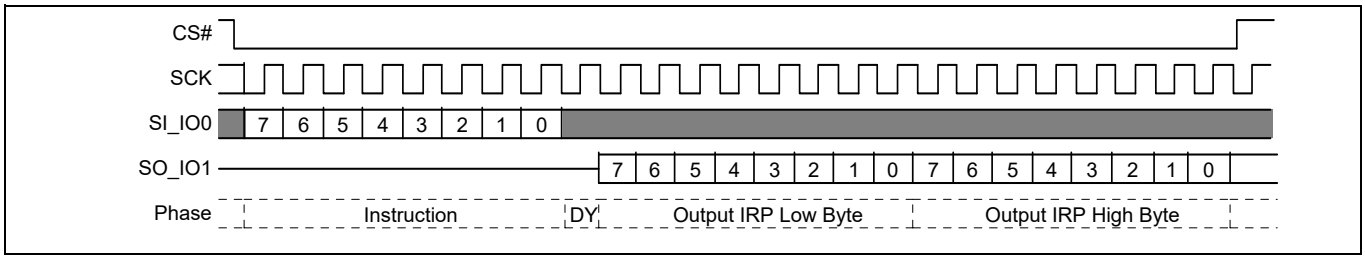


Figure 107 IRPRD コマンド シーケンス

このコマンドは QPI モードでも対応します。QPI モードでは、命令のシフトインと返されるデータのシフトアウトは IO0 ～ IO3 上で行われます。

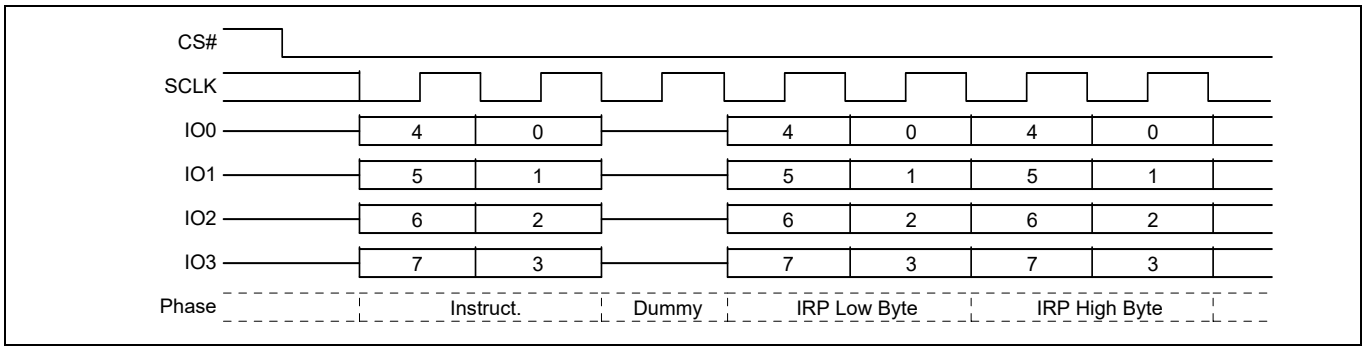


Figure 108 IRPRD コマンド シーケンス – QPI モード

8.10.2 IRP プログラム (IRPP 2Fh)

デバイスは IRP プログラム (IRPP) コマンドを受け入れる前に、書き込みイネーブル (WREN) コマンドを発行する必要があります。

書き込みイネーブル (WREN) コマンドを復号した後、デバイスはステータス レジスタの書き込みイネーブル ラッチ (WEL) をセットしてすべての書き込み動作を有効にします。

IRPP コマンドは、CS# を論理 LOW に駆動してから命令と 2 データ バイトを SI 上で最下位バイトから先に送信することで実行されます。IRP レジスタの長さは 2 データ バイトです。

IRPP コマンドは他のプログラム動作と同じようにステータスおよびコンフィギュレーション レジスタの P_ERR および WIP ビットに影響します。

データの 16 ビット目がラッチインされた後、CS# 入力を論理 HIGH に駆動する必要があります。そうしないと、IRPP コマンドは実行されません。CS# が論理 HIGH に駆動されると、セルフタイムの IRPP 動作は直ちに開始されます。IRPP 動作の進行中に、ステータス レジスタを読み出して書き込み中 (WIP) ビット値を確認できます。書き込み中 (WIP) ビットはセルフタイム IRPP 動作の間「1」で、動作が完了すると「0」になります。IRPP 動作が完了すると、書き込みイネーブル ラッチ (WEL) は「0」にセットされます。

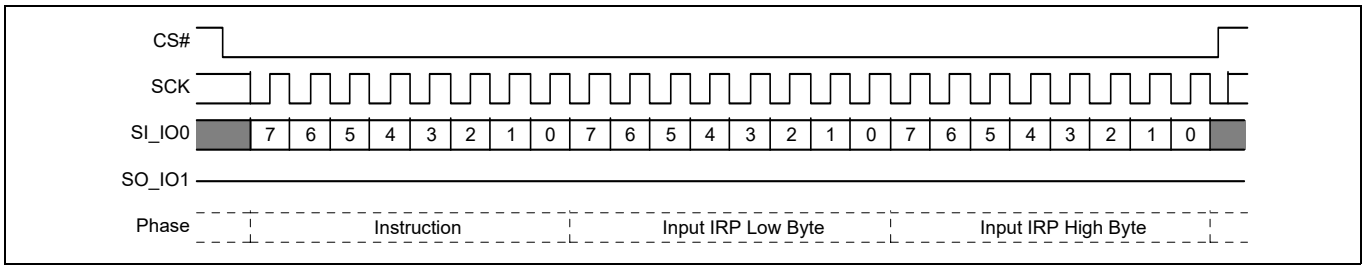


Figure 109 IRP プログラム (IRPP) コマンド

このコマンドは QPI モードでも対応します。QPI モードでは、命令およびデータは IO0 ～ IO3 上でシフトインされます。

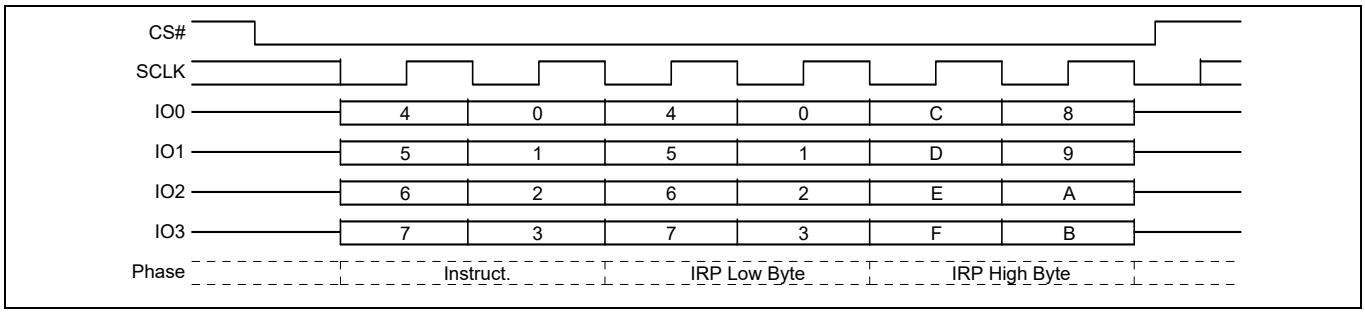


Figure 110 IRP プログラム (IRPP) コマンド - QPI モード

8.10.3 保護レジスタ読み出し (PRRD A7h)

保護レジスタ読み出し (PRRD) コマンドにより、保護レジスタの内容を SO/IO1 から読み出せます。読み出し命令 A7h は SCK 信号の立ち上りエッジで SI にシフトされ、その後 1 ダミー サイクルが続きます。レイテンシ期間により、デバイスの内部回路は初期アドレスでのデータにアクセスする十分な時間を取れます。レイテンシ サイクル中に、IO0 ～ IO3 上のデータ値は「ドントケア」で、高インピーダンスであることがあります。

次に、8 ビット保護レジスタの内容はシリアル出力 SO/IO1 上でシフトアウトされます。SCK 信号の立ち下りエッジごとに SCK 周波数で各ビットがシフトアウトされます。8 の倍数のクロック サイクルを提供することで保護レジスタを連続的に読み出せます。

デバイスがスタンバイ状態であり、進行中の他の動作がない場合にのみ、保護レジスタの内容は読み出せます。

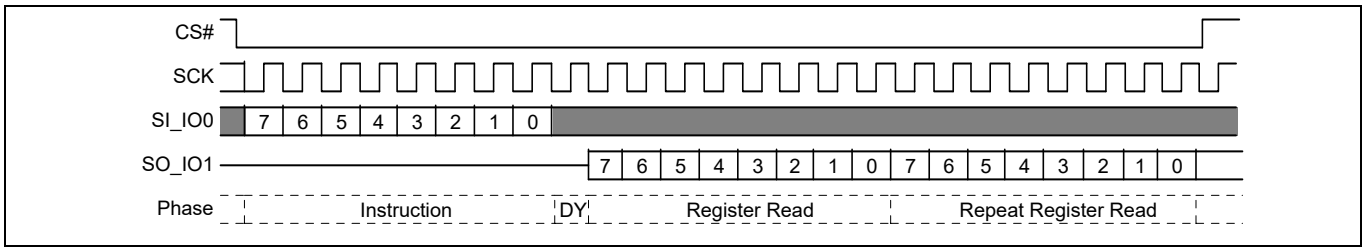


Figure 111 保護レジスタ読み出し (PRRD) コマンド シーケンス

このコマンドは QPI モードでも対応します。QPI モードでは、命令のシフトインと返されるデータのシフトアウトは IO0 ～ IO3 上で行われます。

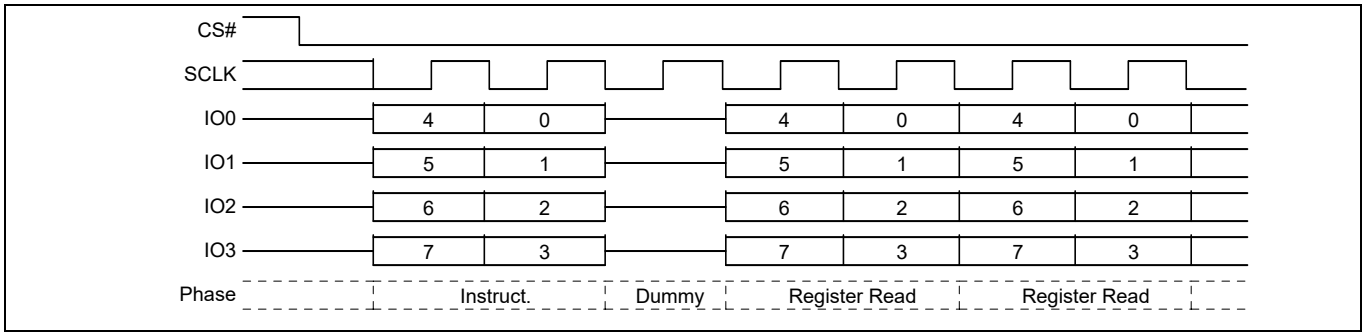


Figure 112 保護レジスタ読み出し (PRRD) コマンド シーケンス – QPI モード

8.10.4 保護レジスタ ロック (PRL A6h)

保護レジスタ ロック (PRL) コマンドは NVLOCK ビット (PR[0]) を「0」にクリアし、IRP[6] 値を SECRRP (PR[6]) にロードします。保護レジスタ (PR) を参照してください。デバイスは PRL コマンドを受け入れる前に、書き込みイネーブル (WREN) コマンドを発行して復号する必要があります。これにより、ステータス レジスタの書き込みイネーブル ラッチ (WEL) がセットされ、すべての書き込み動作は有効になります。

PRL コマンドは、CS# を論理 LOW に駆動してから命令を送信することで実行されます。

命令の 8 番目のビットがラッチインされた後、CS# を論理 HIGH に駆動する必要があります。そうしないと、PRL コマンドは実行されません。CS# が論理 HIGH に駆動されると、セルフタイムの PRL 動作は直ちに開始されます。PRL 動作の進行中に、ステータス レジスタを読み出して書き込み中 (WIP) ビット値を確認することがまだ可能です。書き込み中 (WIP) ビットはセルフタイムの PRL 動作の間「1」で、動作が完了すると「0」になります。PRL 動作が完了すると、書き込みイネーブル ラッチ (WEL) は「0」にセットされます。

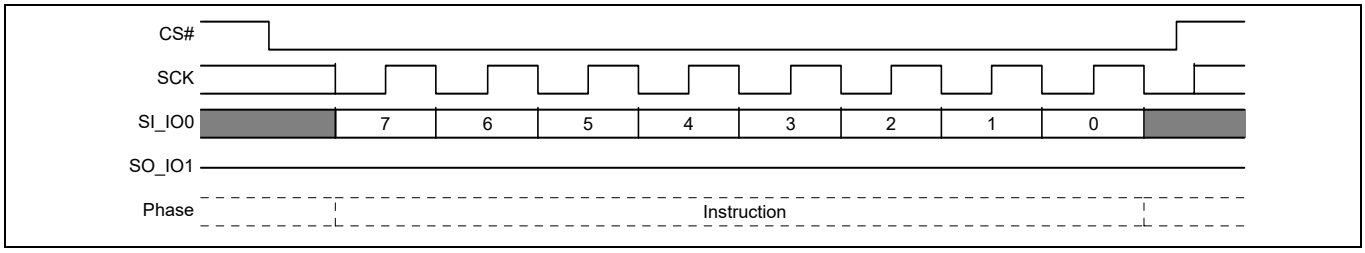


Figure 113 保護レジスタ ロック (PRL) コマンド シーケンス

このコマンドは QPI モードでも対応します。QPI モードでは、命令は IO0 ～ IO3 上でシフトインされます。

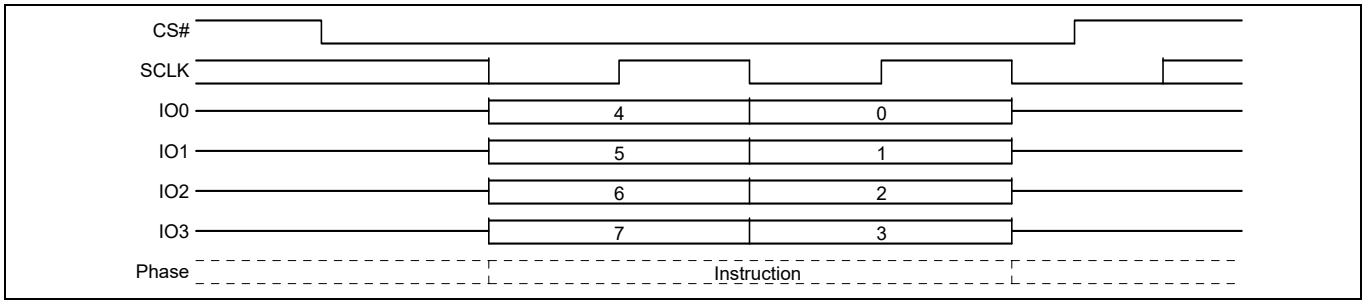


Figure 114 保護レジスタ ロック (PRL) コマンド シーケンス – QPI モード

8.10.5 パスワード 読み出し (PASSRD E7h)

パスワード値をプログラムした後、IRP レジスタのパスワード保護モード ビット (IRP[2]) を「0」にプログラムすることでパスワード モードを選択する前にのみ、正しいパスワード値を読み出せます。パスワード保護モードが選択されると、パスワードはもはや読み出し可能でなくなり、PASSRD コマンドは未定義のデータを出力します。

PASSRD コマンドが SI にシフトインされてから、1 ダミー サイクルが続きます。レイテンシ期間により、デバイスの内部回路は初期アドレスでのデータにアクセスする十分な時間を取れます。レイテンシ サイクル中に、上のデータ値は「ドント ケア」で、これらの信号は高インピーダンスであることがあります。

その後、64 ビット パスワードはシリアル出力で最下位バイトから先に、各バイトの最上位ビットから先にシフトアウトされます。SCK 信号の立ち下りエッジごとに SCK 周波数で各ビットがシフトアウトされます。64 の倍数のクロック サイクルを提供することでパスワードを連続的に読み出せます。

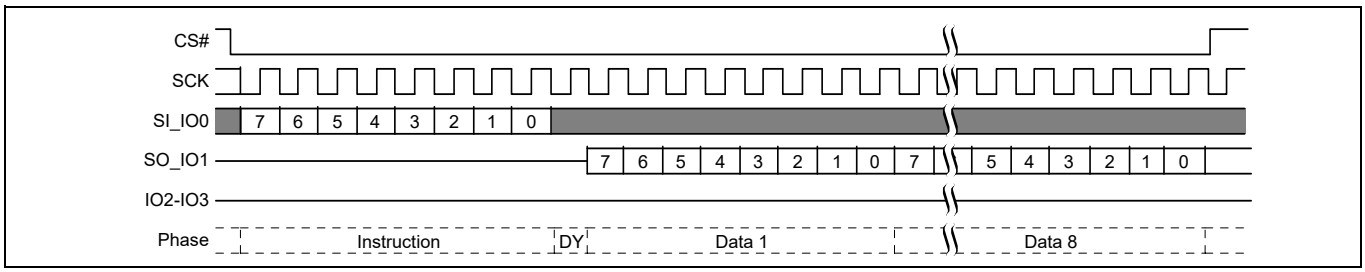


Figure 115 パスワード読み出し (PASSRD) コマンド シーケンス

このコマンドは QPI モードでも対応します。QPI モードでは、命令のシフトインと返されるデータのシフトアウトは IO0 ～ IO3 上で行われます。

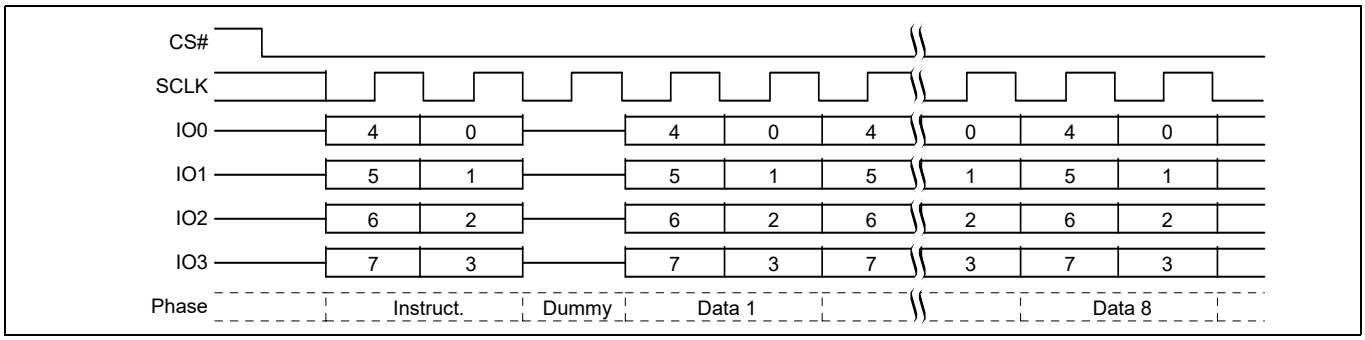


Figure 116 パスワード読み出し (PASSRD) コマンド シーケンス – QPI モード

8.10.6 パスワード プログラム (PASSP E8h)

デバイスはパスワード プログラム (PASSP) コマンドを受け入れる前に、書き込みイネーブル (WREN) コマンドを発行して復号する必要があります。書き込みイネーブル (WREN) コマンドを復号した後、デバイスは書き込みイネーブル ラッチ (WEL) をセットして PASSP 動作を有効にします。

IRP レジスタのパスワード保護モード ビット (IRP[2]) を「0」にプログラムすることでパスワード モードを選択する前にのみ、パスワードをプログラムできます。パスワード保護モードが選択された後、PASSP コマンドは無視されます。

PASSP コマンドは、CS# を論理 LOW に駆動してから命令とパスワード データを SI/IO0 上で最下位バイトから先に、各バイトの最上位ビットから先に送信することで実行されます。パスワードは 64 ビット長です。

データの 64 ビット目がラッチされた後、CS# を論理 HIGH に駆動する必要があります。そうしないと、PASSP コマンドは実行されません。CS# が論理 HIGH に駆動されると、セルフタイムの PASSP 動作は直ちに開始されます。PASSP 動作の進行中、ステータス レジスタを読み出して書き込み中 (WIP) ビット値を確認できます。書き込み中 (WIP) ビットはセルフタイムの PASSP サイクルの間「1」で、サイクルが完了すると「0」になります。PASSP コマンドはステータス レジスタの P_ERR ビットでプログラム エラーをレポートできます。PASSP 動作が完了すると、書き込みイネーブル ラッチ (WEL) は「0」にセットされます。

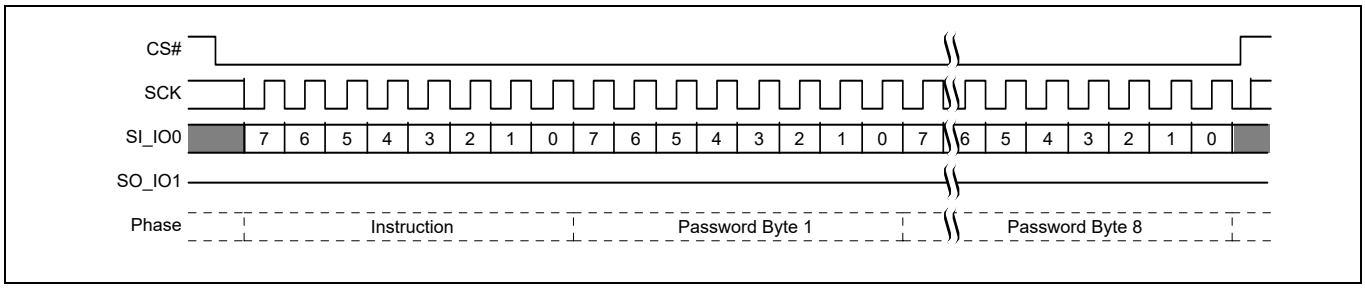


Figure 117 パスワード プログラム (PASSP) コマンド シーケンス

このコマンドは QPI モードでも対応します。QPI モードでは、命令およびデータは IO0 ～ IO3 上でシフトインされます。

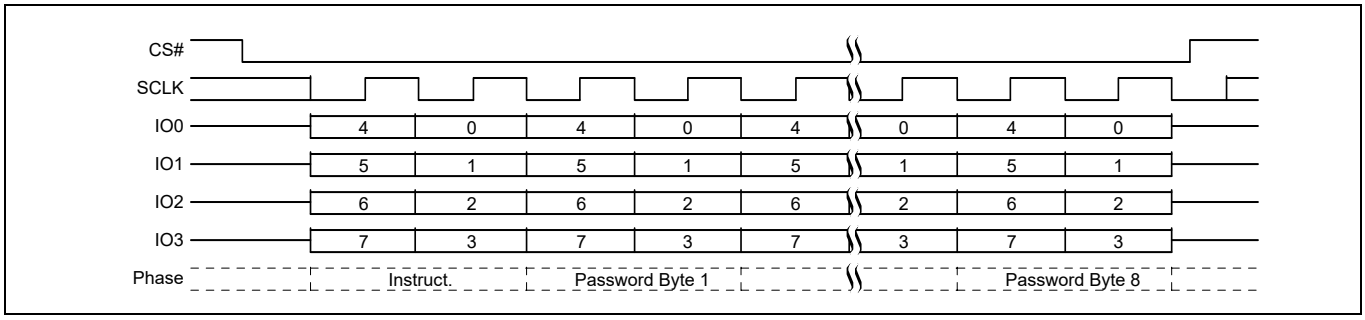


Figure 118 パスワード プログラム (PASSP) コマンド シーケンス - QPI モード

8.10.7 パスワード ロック解除 (PASSU EAh)

PASSU コマンドは、CS# を論理 LOW に駆動してから命令とパスワード データを SI 上で、最下位バイトから先に、各バイトの最上位ビットから先に送信することで実行されます。パスワードは 64 ビット長です。

データの 64 ビット目がラッチされた後、CS# を論理 HIGH に駆動する必要があります。そうしないと、PASSU コマンドは実行されません。CS# が論理 HIGH に駆動されると、セルフタイムの PASSU 動作は直ちに開始されます。PASSU 動作の進行中、ステータス レジスタを読み出して書き込み中 (WIP) ビット値を確認できます。書き込み中 (WIP) ビットはセルフタイムの PASSU サイクルの間「1」で、サイクルが完了すると「0」になります。

PASSU コマンドで提供されたパスワードがパスワード レジスタの隠しパスワードと一致しない場合、P_ERR ビットが「1」にセットされ、エラーがレポートされます。ステータス レジスタの WIP ビットも「1」にセットされたままです。P_ERR と WIP ビットを「0」に戻すために、CLSR コマンドを使用しステータス レジスタをクリアするか、ソフトウェア リセット コマンド (RSTEN 66h に続いて RST 99h) を使用してデバイスをリセットするか、または RESET# か IO3/RESET# 入力を駆動してハードウェア リセットを開始する必要があります。これにより、デバイスはスタンバイ状態に戻り、PASSU コマンドの再試行など新しいコマンドを実行できるようになります。

パスワードが一致した場合、NVLOCK ビットは「1」にセットされます。

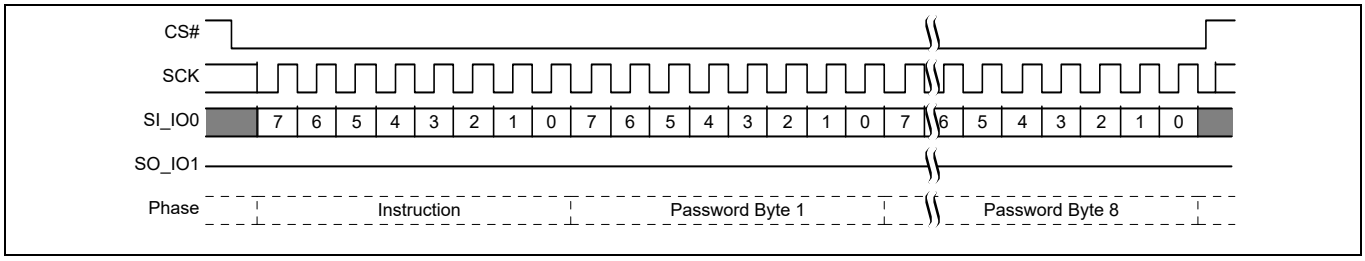


Figure 119 パスワード ロック解除 (PASSU) コマンド シーケンス

このコマンドは QPI モードでも対応します。QPI モードでは、命令およびデータは IO0 ～ IO3 上でシフトインされます。

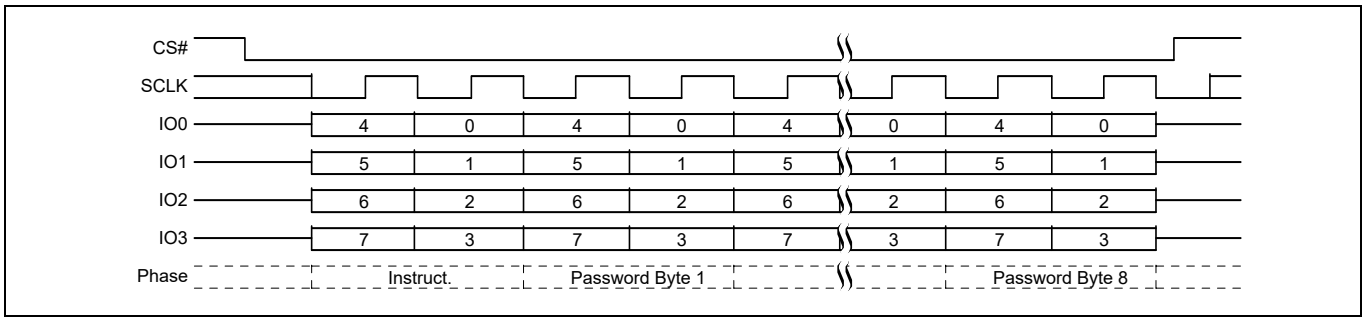


Figure 120 パスワード ロック解除 (PASSU) コマンド シーケンス - QPI モード

8.11 リセット コマンド

ソフトウェアで制御されるリセット コマンドは不揮発性のデフォルト値を揮発性レジスタにリロードすることでデバイスを初期の電源投入状態に復帰させます。消去 , プログラム , またはレジスタの書き込み動作中にソフトウェア リセットが開始される場合、セクタ , ページ , またはレジスタのデータは安定せず、中断された動作は再び開始する必要があります。

しかし、コンフィギュレーション レジスタの揮発性 SRP1 ビット CR1V[0] および保護レジスタの揮発性 NVLOCK ビットはソフトウェア リセットで変更されません。ソフトウェア リセットは、他のセキュリティ コンフィギュレーション ビットに対する SRP1 または NVLOCK ビットを回避するためには使用できません。

SRP1 ビットと NVLOCK ビットはソフトウェア リセット前の最後の値にセットされたままです。SRP1 ビットをクリアし、NVLOCK ビットを保護モードによって選択された電源投入時の状態にセットするために、完全なパワーオン リセット シーケンスまたはハードウェア リセットを実行する必要があります。

ソフトウェア リセット コマンド (RSTEN 66h に続いて RST 99h) は、CS# が命令の終了時に HIGH にされたときに実行され、完了には t_{RPH} を要します。

前のパワーオン リセット (POR) が正常に完了できなかった場合、リセット コマンドは完全な電源投入シーケンスをトリガーし、完了するには t_{PU} を要します。

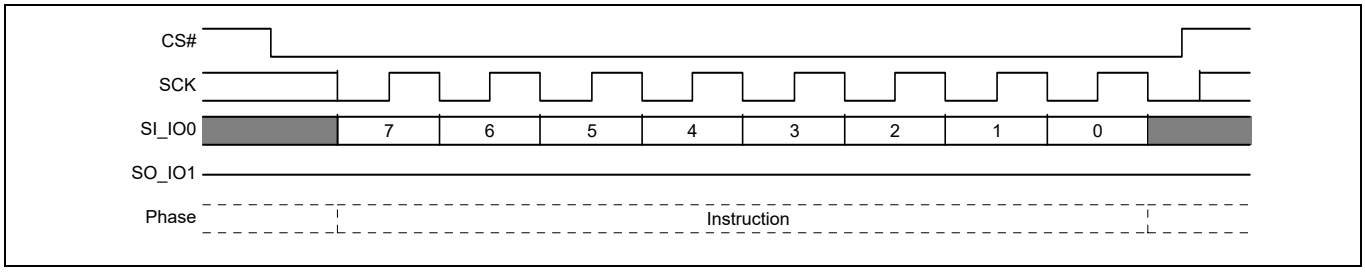


Figure 121 ソフトウェア / モード ビット リセット コマンド シーケンス

このコマンドは QPI モードでも対応します。QPI モードでは、命令は IO0 ～ IO3 上でシフトインされます。

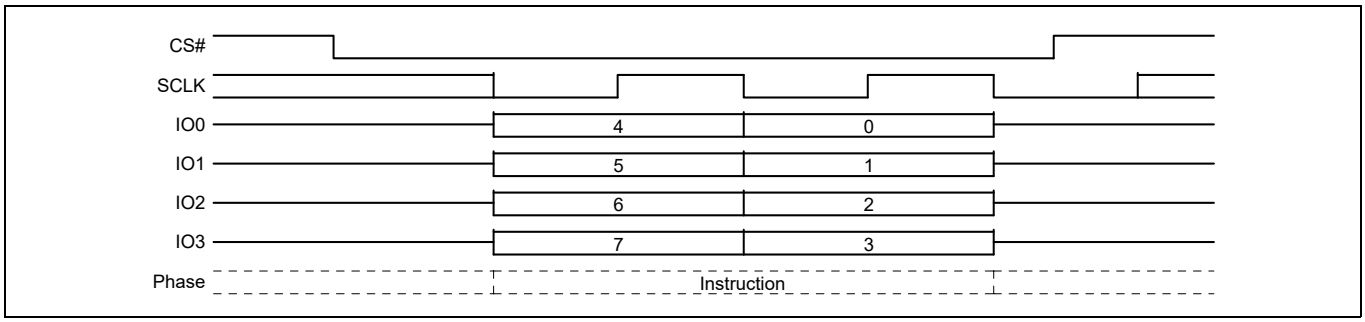


Figure 122 ソフトウェア / モード ビット リセット コマンド シーケンス – QPI モード

8.11.1 ソフトウェア リセット イネーブル (RSTEN 66h)

リセット イネーブル (RSTEN) コマンドは、ソフトウェア リセットが 2 つのコマンドから成るシーケンスとなるために、ソフトウェア リセット コマンド (RST 99h) の直前に実行する必要があります。RST を除き、RSTEN コマンドに続くすべてのコマンドはリセット イネーブル状態をクリアし、後の RST コマンドが認識されないようにします。

8.11.2 ソフトウェア リセット (RST 99h)

RSTEN コマンドの直後にリセット (RST) コマンドを実行すると、ソフトウェア リセット プロセスが開始されます。RST を除き、RSTEN コマンドに続くすべてのコマンドはリセット イネーブル状態をクリアし、後の RST コマンドが認識されないようにします。

8.11.3 モード ビット リセット (MBR FFh)

モード ビット リセット (MBR) コマンドでは、デバイスを連続高性能読み出しモードから新しいコマンドを受け入れられる通常スタンバイ モードに復帰させます。ハードウェア RESET# 入力が無効で、連続高性能読み出しモードにあるデバイスが通常の SPI コマンドを認識しない場合もあるため、デバイスはハードウェア / ソフトウェア リセット コマンドを認識しないことがあります。

デバイスが連続高性能読み出しモードから確実に解放されるように、MBR コマンドを、RESET# 信号が使用できないときにシステム リセットの実行後、またはソフトウェア リセットの発行前に使用することが推奨されます。

MBR コマンドでは、8 SCK サイクルの間 SI/IO0 上で「1」を送信します。IO1 ～ IO3 はこれらのサイクルの間「ドント ケア」です。

8.12 ディープ パワー ダウンのコマンド

8.12.1 ディープ パワー ダウン (DPD B9h)

通常動作時のスタンバイ電流は比較的低いですが、ディープ パワー ダウン コマンドを使うとさらに減少できます。低消費電力により、ディープ パワー ダウン (DPD) コマンドは特にバッテリー駆動アプリケーションに役立ちます (DC 特性の I_{CC1} と I_{CC2} を参照してください)。コマンドは CS# ピンを LOW に駆動してから、命令コード「B9h」をシフトすることで開始します。

CS# ピンは 8 ビット目がラッチされた後に HIGH に駆動する必要があります。そうしないと、ディープ パワー ダウン コマンドは実行できません。CS# を HIGH に駆動した後、t_{DP} の時間内にデバイスはパワー ダウン状態に入ります (Table 54 を参照してください)。パワーダウン状態の間、デバイスを通常動作に復帰させるディープ パワー ダウン終了 / デバイス ID コマンドのみが認識されます。その他のすべてのコマンドは無視されます。通常動作中に常に使用可能なステータス レジスタ読み出しコマンドも無視されます。1 つのみを除くすべてのコマンドを無視することにより、パワー ダウン状態は最大限の書き込み保護を保証する状態となります。

ディープ パワー ダウン モードで、デバイスは通常動作に復帰させるパワーオン リセットを開始するハードウェア リセットのみを受け入れます。電源投入後、デバイスは常に通常動作状態になり、I_{CC1} のスタンバイ電流を消費します。

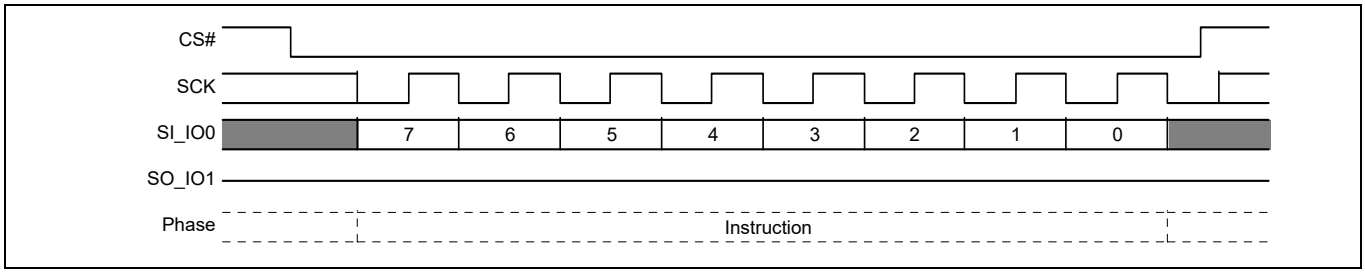


Figure 123 ディープ パワー ダウン (DPD) コマンド シーケンス

このコマンドは QPI モードでも対応します。QPI モードでは、命令は IO0 ～ IO3 上でシフトインされます。

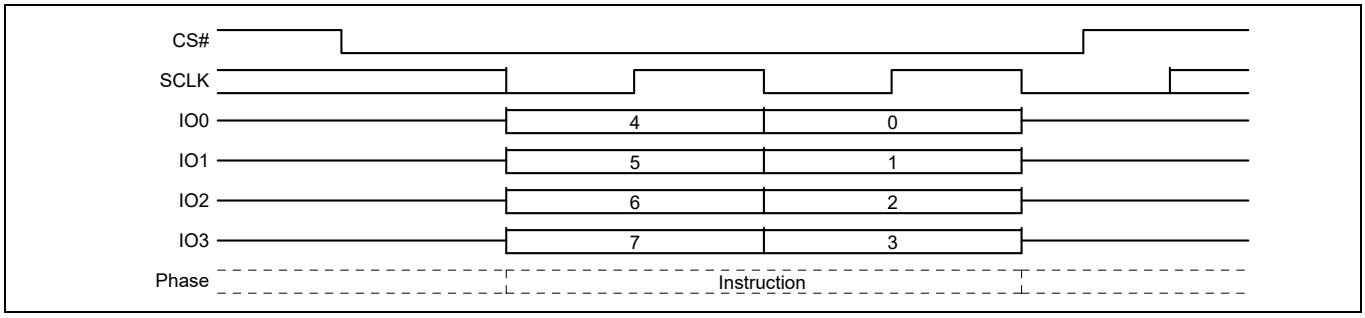


Figure 124 ディープ パワー ダウン (DPD) コマンド シーケンス – QPI モード

8.12.2 ディープ パワー ダウン終了 / デバイス ID (RES ABh)

ディープ パワー ダウン終了 / デバイス ID コマンドは多目的のコマンドです。これを使うことで、デバイスをディープ パワー ダウン状態から復帰させたり、デバイスの電子識別子 (ID) 番号を取得したりします。

デバイスをディープ パワー ダウン状態から解放するために、CS# ピンを LOW に駆動し、命令コード「ABh」をシフトしてから CS# ピンを HIGH に駆動することでコマンドを発行します。ディープ パワー ダウン状態終了コマンドは、デバイスが通常動作を再開して他のコマンドを受け入れるまで t_{RES} (Table 54) を要します。CS# ピンは t_{RES} の間は HIGH のままでなければいけません。

ディープ パワー ダウン状態でないときにデバイス ID を取得するためのみに用いる場合、CS# ピンを LOW に駆動し、命令コード「ABh」に続いて 3 ダミー バイトをシフトすることでコマンドを開始します。その後、デバイス ID ビットは CLK の立ち下りエッジで最上位ビット (MSb) から先にシフトアウトされます。S25FL-L ファミリのデバイス ID 値を Table 43 に示します。定義された ID アドレス空間の終わりを超えて出力を継続的にシフトすると、未定義のデータが発生します。CS# を HIGH に駆動してコマンドを完了します。

デバイスをディープ パワー ダウンから復帰させてデバイス ID を取得するために使用する場合、コマンドは前述および Figure 127 と Figure 128 に示すようになりますが、CS# は t_{RES} の間 HIGH に駆動されたままである必要があります。この時間が経過した後、デバイスは通常動作を再開し、他のコマンドを受け入れることができます。消去やプログラム、書き込みサイクルの間 (BUSY=1) ディープ パワー ダウン終了 / デバイス ID コマンドを発行しても、コマンドは無視され、実行中のサイクルに何の影響も与えません。

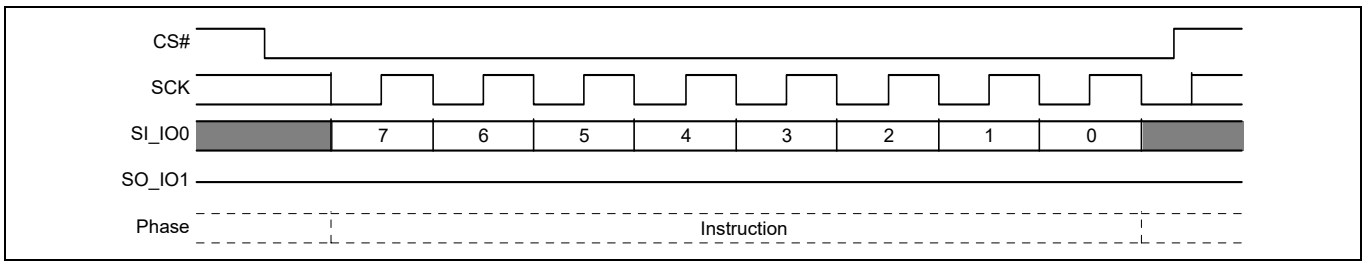


Figure 125 ディープ パワー ダウン終了 (RES) コマンド シーケンス

このコマンドは QPI モードでも対応します。QPI モードでは、命令は IO0 ～ IO3 上でシフトインされます。

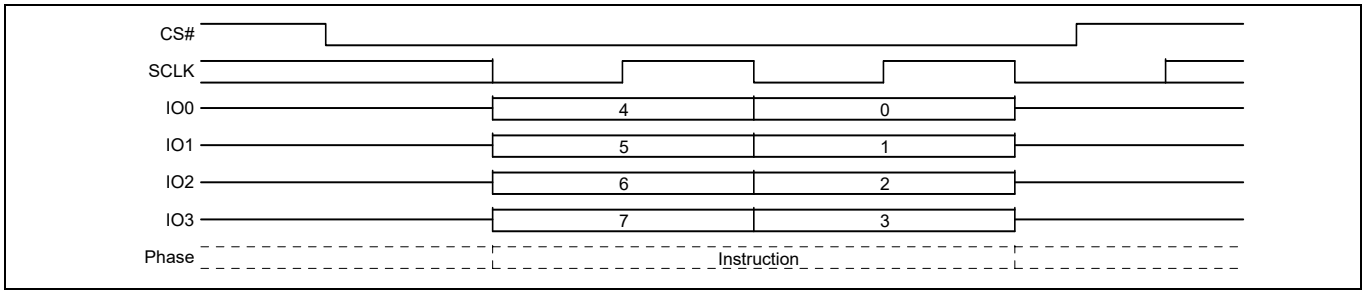


Figure 126 ディープ パワー ダウン終了 (RES) コマンド シーケンス – QPI モード

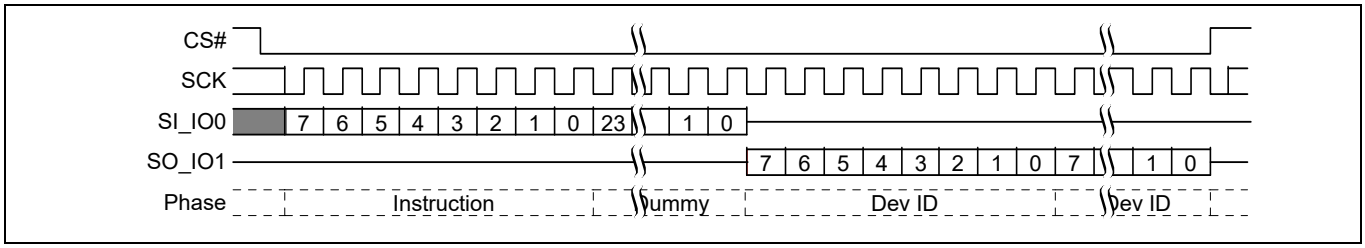


Figure 127 ID 読み出し (RES) コマンド シーケンス

このコマンドは QPI モードでも対応します。QPI モードでは、命令のシフトインおよび返しデータのシフトアウトは IO0 ～ IO3 上で行われます。

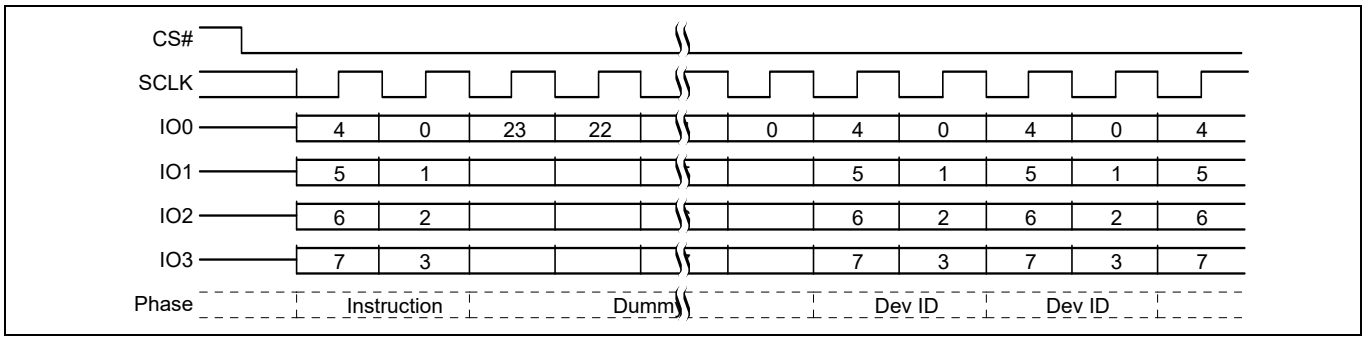


Figure 128　ID 読み出し (RES) コマンド - QPI モード

9 データの完全性

9.1 消去可能回数

Table 37 消去可能回数

パラメーター	Min	単位
メイン フラッシュ アレイ セクタのプログラム / 消去サイクル数	100 K	PE サイクル
セキュリティ領域または不揮発性レジスタ アレイのプログラム / 消去サイクル数 [56]	1 K	PE サイクル

注

56.不揮発性レジスタへの書き込みコマンドを実行するたびに、不揮発性レジスタ アレイ全体には PE サイクルが発生します。

9.2 データ保持

Table 38 データ保持

パラメーター	テスト条件	最小時間	単位
データ保持期間	1 万回のプログラム / 消去サイクル	20	年
	10 万回のプログラム / 消去サイクル	2	年

データの完全性に関する詳細についてはインフィニオン営業または FAE までお問い合わせください。アプリケーション ノートは下記の URL から入手していただけます。

www.infineon.com/support

10 ソフトウェア インターフェース リファレンス

10.1 JEDEC JESD216B シリアル フラッシュ検出可能パラメーター

本資料は、以下のインフィニオン シリアル フラッシュ デバイスで使用するシリアル フラッシュ 検出可能パラメーター (SFDP) Rev. B のデータ構造を定義します。

- S25FL-L ファミリ

これらのデータ構造は上記のデバイスに存在している古いリビジョンの SFDP データ構造の更新版です。

SFDP 読み出し (RSFDP) コマンド (5Ah) はシリアル フラッシュ検出可能パラメーター向けの JEDEC JESD216B 規格に準拠し、デバイス ID, 機能 , およびコンフィギュレーション情報を取得するために独立したフラッシュ メモリ アドレス空間から情報を読み出します。

SFDP データ構造には、対応された JESD216 ヘッダ フォーマットのリビジョンを識別し、提供された SFDP パラメーター テーブルのリビジョン番号およびポインターを提供するヘッダ テーブルを含んでいます。パラメーター テーブルは SFDP ヘッダの後に続きます。ただし、パラメーター テーブルは SFDP アドレス空間内にどの物理的位置および順序でも配置できます。テーブルは隣接する必要もなく、ヘッダ テーブル エントリと同じ順序である必要もありません。

SFDP ヘッダは以下のパラメーター テーブルを指します。

- 基本フラッシュ
  - オリジナルの SFDP テーブルです。いくつかの変更されたフィールドおよび最後に追加された新しいフィールドがあります。
- 4 バイト アドレス命令
  - オリジナルの SFDP テーブルです。いくつかの変更されたフィールドおよび最後に追加された新しいフィールドがあります。

SFDP アドレス空間内の物理的な順序は次のとおりです。SFDP ヘッダ , 基本フラッシュ セクタ マップ , 4 バイト命令

SFDP アドレス空間はインフィニオンによってプログラムされ、ホスト システムからは読み出し専用です。

10.1.1 シリアル フラッシュ検出可能パラメーター (SFDP) アドレス マップ

SFDP アドレス空間には、SFDP データ構造を識別し、各パラメーターへのポインターを提供するアドレス 0 から始まるヘッダが含まれています。1 つの基本フラッシュ パラメーターは JEDEC JESD216B 規格に準拠します。4 バイト アドレス命令用のオプションのパラメーター テーブルが基本フラッシュ テーブルの後に続きます。

Table 39 SFDP 概要マップ

バイト アドレス	説明
0000h	JEDEC JESD216B SFDP 空間のロケーション 0: SFDP ヘッダの開始
...	SFDP ヘッダの残りの部分に続いて未定義の空間
0300h	SFDP パラメーターの開始
...	SFDP JEDEC パラメーターの残りの部分に続いて未定義の空間

10.1.2 SFDP ヘッダ フィールドの定義

Table 40 SFDP ヘッダ

SFDP バイト アドレス	SFDP Dword 名	データ	説明
00h	SFDP ヘッダ 第 1 DWORD	53h	SFDP 読み出し (5Ah) コマンドのエントリ ポイントで、すなわち SFDP 空間内のロケーション 0 です。 ASCII 「S」
01h		46h	ASCII 「F」
02h		44h	ASCII 「D」
03h		50h	ASCII 「P」
04h	SFDP ヘッダ 第 2 DWORD	06h	SFDP マイナー リビジョン (06h=JEDEC JESD216 Rev. B) - このリビジョンはすべての以前のマイナー リビジョンと後方互換性があります。SFDP 読み出しおよび構文解析ソフトウェアは、設計されたマイナー リビジョンよりも高いリビジョンに対応できます。より高いリビジョンに対応するよう設計されたソフトウェアはより低いリビジョンに対応する必要があります。例 : マイナー リビジョン 0 向けの SFDP 読み出しおよび構文解析ソフトウェアはリビジョン 6 にも対応しています。マイナー リビジョン 6 向けの SFDP 読み出しおよび構文解析ソフトウェアはマイナー リビジョン 0 または 5 を読み出せるように設計する必要があります。マイナー リビジョン番号を単純に比較せず、ソフトウェアが対応する必要があるリビジョン番号との一致のみをお探しください。より高い番号のマイナー リビジョンを使用しても問題はありません。
05h		01h	SFDP メジャー リビジョン オリジナルのメジャー リビジョンです。あらゆる SFDP 読み出しおよび構文解析ソフトウェアと互換性があります。
06h		01h	パラメーター ヘッダの数 (0 オリジン、01h=2 パラメーター)
07h		FFh	未使用
08h	パラメーター ヘッダ 0 第 1 DWORD	00h	パラメーター ID LSB (00h=JEDEC SFDP 基本 SPI フラッシュ パラメーター)
09h		06h	パラメーター マイナー リビジョン (06h=JESD216 Rev. B)
0Ah		01h	パラメーター メジャー リビジョン (01h= オリジナル メジャー リビジョン)。あらゆる SFDP ソフトウェアはこのメジャー リビジョンと互換性があります。
0Bh		10h	パラメーター テーブル長 (ダブル ワード =DWORD=4 バイト単位) 10h=16 DWORD
0Ch	パラメーター ヘッダ 0 第 2 DWORD	00h	パラメーター テーブル ポインター バイト 0 (DWORD=4 バイト整列)JEDEC 基本 SPI フラッシュ パラメーター バイト オフセット =0300h アドレス
0Dh		03h	パラメーター テーブル ポインター バイト 1
0Eh		00h	パラメーター テーブル ポインター バイト 2
0Fh		FFh	パラメーター ID MSB (FFh=JEDEC で定義されたパラメーター)

Table 40 SFDP ヘッダ *(continued)*

SFDP バイト アドレス	SFDP Dword 名	データ	説明
10h	パラメーター ヘッダ 1 第 1 DWORD	84h	パラメーター ID LSB (84h=SFDP 4 バイト アドレス命令パラメーター)
11h		00h	パラメーター マイナー リビジョン (00h=JESD216 Rev. B で定義された初期バージョン)
12h		01h	パラメーター メジャー リビジョン (01h= オリジナルのメジャー リビジョンです。このパラメーター ID を認識するあらゆる SFDP ソフトウェアはこのメジャー リビジョンと互換性があります。)
13h		02h	パラメーター テーブル長 (ダブル ワード =DWORD=4 バイト単位) (2h=2v DWORD)
14h	パラメーター ヘッダ 1 第 2 DWORD	40h	パラメーター テーブル ポインター バイト 0 (DWORD=4 バイト整列) JEDEC パラメーター バイト オフセット =0340h
15h		03h	パラメーター テーブル ポインター バイト 1
16h		00h	パラメーター テーブル ポインター バイト 2
17h		FFh	パラメーター ID MSB (FFh=JEDEC で定義されたパラメーター)

10.1.3 JEDEC SFDP 基本 SPI フラッシュ パラメーター

Table 41 基本 SPI フラッシュ パラメーター、JEDEC SFDP Rev B

SFDP パラメーター 関連のバイト アドレス	SFDP Dword 名	データ	説明
00h	JEDEC 基本フラッシュパラメーター Dword 1	E5h	SFDP JEDEC パラメーターの開始 ビット 7:5= 未使用 =111b ビット 4:3=05h は揮発性ステータス レジスタ書き込み命令、ステータス レジスタはデフォルトで不揮発性 =00b ビット 2= プログラム バッファ >64 バイト =1 ビット 1:0= ユニフォーム 4KB 消去がデバイス全体で対応 =01b
01h		20h	ビット 15:8= ユニフォーム 4KB 消去命令 =20h
02h		FBh	ビット 23= 未使用 =1b ビット 22=QOR (1-1-4) 読み出し対応 = 有 =1b ビット 21=QIO (1-4-4) 読み出し対応 = 有 =1b ビット 20=DIO (1-2-2) 読み出し対応 = 有 =1b ビット 19=DDR 対応 = 有 =1b ビット 18:17= アドレス バイト数 (3 または 4) =01b ビット 16 = 高速読み出し SIO と DIO に対応 = 1b
03h		FFh	ビット 31:24= 未使用 =FFh
04h	JEDEC 基本フラッシュパラメーター Dword 2	FFh	ビット単位での容量 (0 オリジン) 64Mb=03FFFFFFh
05h		FFh	
06h		FFh	
07h		03h 64Mb	
08h	JEDEC 基本フラッシュパラメーター Dword 3	48h	ビット 7:5=QIO モード サイクル数 =010b ビット 4:0= 高速読み出し QIO ダミー サイクル数 =01000b (デフォルトのレイテンシ コード)
09h		EBh	高速読み出し QIO 命令コード
0Ah		08h	ビット 23:21= クアッド出力モード サイクル数 =000b ビット 20:16= クアッド出力ダミー サイクル数 =01000b (デフォルトのレイテンシ コード)
0Bh		6Bh	クアッド出力命令コード
0Ch	JEDEC 基本フラッシュパラメーター Dword 4	08h	ビット 7:5= デュアル出力モード サイクル数 =000b ビット 4:0= デュアル出力ダミー サイクル数 =01000b (デフォルトのレイテンシ コード)
0Dh		3Bh	デュアル出力命令コード
0Eh		88h	ビット 23:21= デュアル I/O モード サイクル数 =100b ビット 20:16= デュアル I/O ダミー サイクル数 =01000b (デフォルトのレイテンシ コード)
0Fh		BBh	デュアル I/O 命令コード

Table 41 基本 SPI フラッシュ パラメーター、JEDEC SFDP Rev B *(continued)*

SFDP パラメーター 関連のバイト アドレス	SFDP Dword 名	データ	説明
10h	JEDEC 基本フラッシュパラメーター Dword 5	FEh	ビット 7:5=RFU=111b ビット 4=QPI に対応 =1b ビット 3:1=RFU=111b ビット 0= デュアル オールに非対応 =0b
11h		FFh	ビット 15:8=RFU=FFh
12h		FFh	ビット 23:16=RFU=FFh
13h		FFh	ビット 31:24=RFU=FFh
14h	JEDEC 基本フラッシュパラメーター Dword 6	FFh	ビット 7:0=RFU=FFh
15h		FFh	ビット 15:8=RFU=FFh
16h		FFh	ビット 23:21= デュアル オール モード サイクル数 =111b ビット 20:16= デュアル オール ダミー サイクル数 =11111b
17h		FFh	デュアル オール命令コード
18h	JEDEC 基本フラッシュパラメーター Dword 7	FFh	ビット 7:0=RFU=FFh
19h		FFh	ビット 15:8=RFU=FFh
1Ah		48h	ビット 23:21=QPI モード サイクル数 =010b ビット 20:16=QPI ダミー サイクル数 =01000b (デフォルトのレイテンシ コード)
1Bh		EBh	QPI 高速読み出し命令コード (QPI が有効の場合、QIO と同じ)
1Ch	JEDEC 基本フラッシュパラメーター Dword 8	0Ch	セクタ タイプ 1、サイズ 2^N バイト =4KB=0Ch (ユニフォーム 4KB)
1Dh		20h	セクタ タイプ 1 命令
1Eh		0Fh	セクタ タイプ 2、サイズ 2^N バイト =32KB=0Fh (ユニフォーム 32KB)
1Fh		52h	セクタ タイプ 2 命令
20h	JEDEC 基本フラッシュパラメーター Dword 9	10h	セクタ タイプ 3、サイズ 2^N バイト =64KB=10h (ユニフォーム 64KB)
21h		D8h	セクタ タイプ 3 命令
22h		00h	セクタ タイプ 4、サイズ 2^N バイト = 非対応 =00h
23h		FFh	セクタ タイプ 4 命令 = 非対応 =FFh

Table 41 基本 SPI フラッシュ パラメーター、JEDEC SFDP Rev B *(continued)*

SFDP パラメーター 関連のバイトアドレス	SFDP Dword 名	データ	説明
24h	JEDEC 基本 フラッシュ パラメーター Dword 10	31h	ビット 31:30= セクタ タイプ 4 消去、標準時間単位 (00b: 1ms、01b: 16ms、10b: 128ms、11b: 1s) =RFU=11b ビット 29:25= セクタ タイプ 4 消去、標準時間カウント =RFU=1_1111b (標準消去時間 = カウント +1* 単位 =RFU=11111) ビット 24:23= セクタ タイプ 3 消去、標準時間単位 (00b: 1ms、01b: 16ms、10b: 128ms、11b: 1s) =16mS=10b ビット 22:18= セクタ タイプ 3 消去、標準時間カウント =0_0011b (標準消去時間 = カウント +1* 単位 =4*128ms=512ms) ビット 17:16= セクタ タイプ 2 消去、標準時間単位 (00b: 1ms、01b: 16ms、10b: 128ms、11b: 1s) =16ms=01b ビット 15:11= セクタ タイプ 2 消去、標準時間カウント =1_0010b (標準消去時間 = カウント +1* 単位 =19*16ms=304mS) ビット 10:9= セクタ タイプ 1 消去、標準時間単位 (00b: 1ms、01b: 16ms、10b: 128ms、11b: 1s) =16ms=01b ビット 8:4= セクタ タイプ 1 消去、標準時間カウント =0_0011b (標準消去時間 = カウント +1* 単位 =4*16mS=64ms) ビット 3:0= カウント = (最大消去時間 /(2* 標準消去時間))-1=0001b 最大消去時間 =4x 標準消去時間 最大消去時間 =2*(カウント +1)* 標準消去時間 2 進フィールド : 11-11111-10-00011-01-10010-01-00011-0001 ニブル フォーマット : 1111_1111_0000_1101_1001_0010_0011_0001 16 進フォーマット : FF_0D_92_31
25h		92h	
26h		0Dh	
27h		FFh	

Table 41 基本 SPI フラッシュ パラメーター、JEDEC SFDP Rev B *(continued)*

SFDP パラメーター 関連のバイト アドレス	SFDP Dword 名	データ	説明
28h	JEDEC 基本フラッシュ パラメーター Dword 11	81h	ビット 23= バイト プログラム標準時間、追加のバイト単位 (0b: 1us、1b: 8us) =1us=0b ビット 22:19= バイト プログラム標準時間、追加のバイト カウント、(カウント +1)* 単位、カウント =1001b (標準プログラム時間 = カウント +1* 単位 =10*1us=10us) ビット 18= バイト プログラム標準時間、最初のバイト単位 (0b: 1us、1b: 8us) =1us=1b ビット 17:14= バイト プログラム標準時間、最初のバイト カウント、(カウント +1)* 単位、カウント =1001b (標準プログラム時間 = カウント +1* 単位 =10*8us=80us) ビット 13= ページ プログラム標準時間単位 (0b: 8us、1b: 64us) =64us=1b ビット 12:8= ページ プログラム標準時間カウント、(カウント +1)* 単位、カウント =00110b (標準プログラム時間 = カウント +1* 単位 =7*64us=450us) ビット 7:4=N=1000b、ページ サイズ =2^N=256B ページ ビット 3:0= カウント =0001b= (最大ページ プログラム時間 /(2* 標準ページ プログラム時間))-1 最大ページ プログラム時間 =4x 標準ページ プログラム時間 最大ページ プログラム時間 =2*(カウント +1)* 標準ページ プログラム時間 2 進フィールド : 0-1001-1-1001-1-00110-1000-0001 ニブル フォーマット : 0100_1110_0110_0110_1000_0001 16 進フォーマット : 4E_66_81
29h		66h	
2Ah		4Eh	
2Bh		CDh 64Mb	64Mb=1100_1101=CD ビット 31= 予約済み =1b ビット 30:29= チップ消去、標準時間単位 (00b: 16ms、01b: 256ms、10b: 4s、11b: 64s) =4s=10b ビット 28:24= チップ消去、標準時間カウント、(count+1)*units、カウント =01100b、(標準プログラム時間 = カウント +1* 単位 =14*4s=56s)

Table 41 基本 SPI フラッシュ パラメーター、JEDEC SFDP Rev B *(continued)*

SFDP パラメーター 関連のバイト アドレス	SFDP Dword 名	データ	説明
2Ch	JEDEC 基本 フラッシュ パラメーター Dword 12	CCh	ビット 31= 一時停止および再開に対応 =0b ビット 30:29= 進行中の消去の最大一時停止レイテンシ単位 (00b: 128ns、01b: 1us、10b: 8us、11b: 64us) =8us=10b ビット 28:24= 進行中の消去の最大一時停止レイテンシカウント =00100b、最大消去一時停止レイテンシ = カウント +1* 単位 =5*8us=40us ビット 23:20= 消去再開から一時停止までの間隔カウント =0001b、間隔 = カウント +1*64us=2*64us=128us ビット 19:18= 進行中のプログラムの最大一時停止レイテンシ単位 (00b: 128ns、01b: 1us、10b: 8us、11b: 64us) =8us=10b ビット 17:13= 進行中のプログラムの最大一時停止レイテンシ カウント =00100b、最大消去一時停止レイテンシ = カウント +1* 単位 =5*8us=40us ビット 12:9= プログラム再開から一時停止までの間隔カウント =0001b、間隔 = カウント +1*64us=2*64us=128us ビット 8=RFU=1b ビット 7:4= 消去一時停止中の禁止動作 =xxx0b: どこでも新しい消去を開始できません (消去ネスティングが許可されません)。 + xx0xb: どこでもページ プログラムを開始できません。 + x1xxb: 消去一時停止中のセクタ サイズ内で読み出しを開始できません。 + 1xxxb: ビット 5:4 の消去およびプログラム制限は十分です。 =1100b ビット 3:0= プログラムが一時停止中に禁止される動作 =xxx0b: どこでも新しい消去を開始できない (消去ネスティングが非許可) + xx0xb: どこでも新しいページ プログラムを開始できません (プログラム ネスティングが許可されません)。 + x1xxb: プログラム一時停止中のページ サイズ内で読み出しを開始できません。 + 1xxxb: ビット 1:0 の消去およびプログラム制限は十分です。 =1100b 2 進フィールド : 0-10-00100-0001-10-00100-0001-1-1100-1100 ニブル フォーマット : 0100_0100_0001_1000_1000_0011_1100_1100 16 進フォーマット : 44_18_83_CC
2Dh		83h	
2Eh		18h	
2Fh		44h	
30h	JEDEC 基本 フラッシュ パラメーター Dword 13	7Ah	ビット 31:24= 消去一時停止命令 =75h ビット 23:16= 消去再開命令 =7Ah ビット 15:8= プログラム一時停止命令 =75h ビット 7:0= プログラム再開命令 =7Ah
31h		75h	
32h		7Ah	
33h		75h	

Table 41 基本 SPI フラッシュ パラメーター、JEDEC SFDP Rev B *(continued)*

SFDP パラメーター 関連のバイト アドレス	SFDP Dword 名	データ	説明
34h	JEDEC 基本 フラッシュ パラメーター Dword 14	F7h	ビット 31= ディープ パワー ダウン対応 = 対応 =0 ビット 30:23= ディープ パワー ダウン開始命令 =B9h=1011_1001b ビット 22:15= ディープ パワー ダウン終了命令 =ABh=1010_1011b ビット 14:13= ディープ パワー ダウン終了から次の動作までの遅延単位 = (00b: 128ns、01b: 1us、10b: 8us、11b: 64us) =1us=01b ビット 12:8= ディープ パワー ダウン終了から次の動作までの遅延カウント =00010b (ディープ パワー ダウン終了から次の動作までの遅延 = (カウント +1)* 単位 =3*1us=3us) ビット 7:4=RFU=Fh ビット 3:2= デバイス ビジー確認用ステータス レジスタ ポーリング =01b: 従来のステータス ポーリングに対応 =05h 命令でステータス レジスタを読み出し、WIP ビット [0] を確認する (0= レディ ; 1= ビジー) ことで従来のポーリングを使用します。 ビット 1:0=RFU=11b 2 進フィールド : 0-10111001-10101011-01-00010-1111-01-11 ニブル フォーマット : 0101_1100_1101_0101_1010_0010_1111_0111 16 進フォーマット : 5C_D5_A2_F7
35h		A2h	
36h		D5h	
37h		5Ch	
38h	JEDEC 基本 フラッシュ パラメーター Dword 15	22h	ビット 31:24=RFU=FFh ビット 23= 保持および WP ディセーブル = 非対応 =0b ビット 22:20= クアッド イネーブル要件 =101b: QE はステータス レジスタ 2 のビット 1 です。ステータス レジスタ 1 はステータス読み出し命令 05h で読み出されます。ステータス レジスタ 2 は命令 35h で読み出されます。QE は 2 バイト目のビット 1 が「1」である 2 データ バイトのステータス書き込み命令 01h でセットされます。QE は、2 バイト目のビット 1 が「0」である 2 データ バイトのステータス書き込み命令でクリアされます。 ビット 19:16=0-4-4 モード開始方法 =xxx1b: モード ビット [7:0]=A5h 注 : モードを使用する前に QE をセットする必要があります。 + x1xxb: モード ビット [7:0]=Axh + 1xxxb: RFU =1101b ビット 15:10=0-4-4 モード終了方法 =xx_xxx1b: モード ビット [7:0]=00h は実行中の読み出し動作の終了時にモードを終了します。 + xx_1xxxb: 8 クロックの間 DQ0 ～ DQ3 に Fh (モード ビット リセット) を入力します。これにより、モードは次の読み出し動作の前に終了されます。 + 11_x1xx: RFU =111101 ビット 9=0-4-4 モードに対応 =1 ビット 8:4=4-4-4 モード イネーブル シーケンス =0_0010b: 38h 命令を発行します。 ビット 3:0=4-4-4 モード ディセーブル シーケンス =0010b: 4-4-4 F5h 命令を発行します。 2 進フィールド : 11111111-0-101-1101-111101-1-00010-0010 ニブル フォーマット : 1111_1111_0101_1101_1111_0110_0010_0010 16 進フォーマット : FF_5D_F6_22
39h		F6h	
3Ah		5Dh	
3Bh		FFh	

Table 41 基本 SPI フラッシュ パラメーター、JEDEC SFDP Rev B *(continued)*

SFDP パラメーター 関連のバイト アドレス	SFDP Dword 名	データ	説明
3Ch	JEDEC 基本フラッシュ パラメーター Dword 16	E8h	ビット 31:24=4 バイト アドレッシング開始 =xxxx_xxx1b: B7 命令を発行します (その前の書き込みイネーブルは必要ありません)。 =xxxx_1xxxb: A[30:24] ビットを定義するための 8 ビットの揮発性バンク レジスタです。MSb (ビット [7]) は 4 バイト アドレス モードを有効 / 無効にするために使用されます。MSb を「1」にセットすると、4 バイト アドレス モードがアクティブになり、A[30:24] ビットはドント ケアです。16h 命令で読み出されます。書き込み命令は 1 データ バイトの 17h 命令です。MSb を「0」にクリアすると、適切な A[30:24] ビットをセットすることでアクティブな 128Mb セグメントを選択し、3 バイト アドレッシングを使用します。 + xx1x_xxxxb: 専用の 4 バイト アドレス命令セットに対応します。命令セット定義は、ベンダーのデータシートを参照してください。あるいは、4 バイト アドレス パラメーター表をお探しください。 + 1xxx_xxxxb: 予約済み =10100001b ビット 23:14=4 バイト アドレッシング終了 =xx_xxxx_xxx1b: 命令 E9h を発行して 4 バイト アドレス モードを終了します (書き込みイネーブル命令 06h は必要ありません)。 =xx_xxxx_1xxxb: A[30:24] ビットを定義するための 8 ビット揮発性バンク レジスタです。MSb (ビット [7]) は 4 バイト アドレス モードを有効 / 無効にするために使用されます。MSb を「0」にクリアすると、3 バイト アドレス モードがアクティブになり、A30:A24 がアクティブな 128Mb メモリ セグメントを選択するために使用されます。16h 命令で読み出されます。書き込み命令は 1 データ バイト長の命令 17h です。 + xx_xx1x_xxxxb: ハードウェア リセット + xx_x1xx_xxxxb: ソフトウェア リセット (この DWORD のビット 13:8 を参照してください) + xx_1xxx_xxxxb: パワー サイクル + x1_xxxx_xxxxb: 予約済み +1x_xxxx_xxxxb: 予約済み =1111100001b ビット 13:8= ソフト リセットおよび回復シーケンス対応 =x1_xxxxb: リセット イネーブル命令 66h に続いてリセット命令 99h を発行します。リセット イネーブルおよびリセット シーケンスは、デバイスの動作モードに応じて 1, 2, または 4 ワイヤ上で発行します。 =010000b ビット 7=RFU=1 ビット 6:0= 揮発性または不揮発性レジスタおよびステータス レジスタ 1 の書き込みイネーブル命令 =xxx_1xxxb: 不揮発性 / 揮発性ステータス レジスタ 1 の電源投入後の値は不揮発性ステータス レジスタに書き込まれた直前の値です。命令 06h を使用して不揮発性ステータス レジスタへの書き込みを有効にします。電源投入後、揮発性ステータス レジスタは不揮発性ステータス レジスタをオーバーライドするためにアクティブにされる可能性があります。50h 命令を使用して書き込みを有効にし、揮発性ステータス レジスタをアクティブにします。 +x1x_xxxxb: 予約済み +1xx_xxxxb: 予約済み =1101000b 2 進フィールド : 10100001-1111100001-010000-1-1101000 ニブル フォーマット : 1010_0001_1111_1000_0101_0000_1110_1000 16 進フォーマット : A1_F8_60_E8
3Dh		50h	
3Eh		F8h	
3Fh		A1h	

10.1.4 JEDEC SFDP 4 バイト アドレス命令テーブル

Table 42 4 バイト アドレス命令、JEDEC SFDP Rev B

SFDP パラメーター関連のバイトアドレス	SFDP Dword 名	データ	説明
40h	JEDEC 4 バイト アドレス 命令 パラメーター Dword-1h	FBh	対応 =1、非対応 =0 ビット 31:20=RFU=FFFh ビット 19= 不揮発性個別セクタ ロック書き込みコマンドの対応、命令 =E3h=0 ビット 18= 不揮発性個別セクタ ロック読み出しコマンドの対応、命令 =E2h=0 ビット 17= 揮発性個別セクタ ロック書き込みコマンドの対応、命令 =E1h=1 ビット 16= 揮発性個別セクタ ロック読み出しコマンドの対応、命令 =E0h=1 ビット 15= (1-4-4) DTR_Read コマンドの対応、命令 =EEh=1 ビット 14= (1-2-2) DTR_Read コマンドの対応、命令 =BEh=0 ビット 13= (1-1-1) DTR_Read コマンドの対応、命令 =0Eh=0 ビット 12= 消去コマンド タイプ 4 の対応 =0 ビット 11= 消去コマンド タイプ 3 の対応 =1 ビット 10= 消去コマンド タイプ 2 の対応 =1 ビット 9= 消去コマンド タイプ 1 の対応 =1 ビット 8= (1-4-4) ページ プログラム コマンドの対応、命令 =3Eh=0 ビット 7= (1-1-4) ページ プログラム コマンドの対応、命令 =34h=1 ビット 6= (1-1-1) ページ プログラム コマンドの対応、命令 =12h=1 ビット 5= (1-4-4) FAST_READ コマンドの対応、命令 =ECh=1 ビット 4= (1-1-4) FAST_READ コマンドの対応、命令 =6Ch=1 ビット 3= (1-2-2) FAST_READ コマンドの対応、命令 =BCh =1 ビット 2= (1-1-2) FAST_READ コマンドの対応、命令 =3Ch=0 ビット 1= (1-1-1) FAST_READ コマンドの対応、命令 =0Ch=1 ビット 0= (1-1-1) READ コマンドの対応、命令 =13h=1 ニブル フォーマット : 1111_1111_1111_0011_1000_1110_1111_1011 16 進フォーマット : FF_F3_8E_FB
41h		8Eh	
42h		F3h	
43h		FFh	
44h	JEDEC4 バイト アドレス命令 パラメーター Dword-2h	21h	ビット 31:24=FFh= 消去タイプ 4 用命令 : RFU ビット 23:16=DCh= 消去タイプ 3 用命令 : ブロック ビット 15:8=52h= 消去タイプ 2 用命令 : ハーフ ブロック ビット 7:0=21h= 消去タイプ 1 用命令 : セクタ
45h		52h	
46h		DCh	
47h		FFh	

10.2 デバイス ID アドレス マップ

10.2.1 フィールドの定義

Table 43 メーカー デバイス タイプ

バイト アドレス	データ	説明
00h	01h	インフィニオンのメーカー ID
01h	60h	デバイス ID の最上位バイト - メモリ インターフェース タイプ
02h	17h (64 Mb)	デバイス ID の最下位バイト - 容量および機能
03h	未定義	将来使用するために予約済み

Table 44 固有デバイス ID

バイト アドレス	データ	説明
00h ～ 07	8 バイト 固有デバイス ID	64 ビット 固有 ID 番号です。 固有デバイス ID を参照してください。

10.3 工場出荷時の初期状態

デバイスは不揮発性ビットが以下のように設定されている状態でインフィニオンから出荷されます。

- メモリ アレイ全体が消去されている、すなわち全ビットが「1」にセットされています (各バイトの値は FFh です)。
- セキュリティ領域アドレス空間は全バイトが FFh に消去されています。
- SFDP アドレス空間は SFDP アドレス空間の記述で定義された値を含んでいます。
- ID アドレス空間は ID アドレス空間の記述で定義された値を含んでいます。
- 不揮発性ステータス レジスタ 1 の値は 00h です (全 SR1NV ビットは「0」にクリアされています)。
- 不揮発性コンフィギュレーション レジスタ 1 の値は 00h です。
- 不揮発性コンフィギュレーション レジスタ 2 の値は 60h です。
- 不揮発性コンフィギュレーション レジスタ 3 の値は 78h です。
- パスワード レジスタの値は FFFFFFFF-FFFFFFFFh です。
- IRP レジスタ ビットは、標準デバイスは FFFDh、高セキュリティのデバイスは FFFFh です。
- PRPR レジスタ ビットは FFFFFFh です。

11 電気的仕様

11.1 絶対最大定格 [59]

プラスチック パッケージの保管温度 ..... –65°C ～ +150°C
通電時の周囲温度 ..... –65°C ～ +125°C
V_{CC} ..... –0.5 V ～ +4.0 V
グランド (VSS) を基準にした入力電圧 [58] ..... –0.5 V ～ V_{CC} + 0.5 V
出力短絡電流 [57] ..... 100 mA

11.2 ラッチアップ特性

Table 45 ラッチアップ仕様 [60]

説明	Min	Max	単位
すべての入力接続での、V_{SS} を基準とした入力電圧	–1.0	V_{CC} + 1.0	V
すべての入出力接続での、V_{SS} を基準とした入力電圧	–1.0	V_{CC} + 1.0	V
V_{CC} 電流	–100	+100	mA

11.3 熱抵抗

Table 46 熱抵抗

パラメーター	説明	テスト条件	SL3016	SOC008	FAB024	FAC024	WND008	UNF008	単位
Theta JA	熱抵抗 (接合部から周囲)	試験条件は、静止空気 (0 m/s) で EIA/JESD51 に準拠して熱インピーダンスを測定するための標準的な試験方法および手順に従います。	45.7	65.8	46.9	46.9	32.9	34.0	°C/W
Theta JB	熱抵抗 (接合部から基板)		26.6	39.6	30.4	30.4	9.1	8.0	°C/W
Theta JC	熱抵抗 (接合部からケース)		13.1	33.8	20.9	20.9	25.2	28.0	°C/W

注

57. 信号遷移時に許可された最大値は入力信号オーバーシュートを参照してください。
58. 複数の出力を同時にグランドに短絡することはできません。短絡時間は 1 秒を超えてはいけません。
59. デバイスは、絶対最大定格 [59] に記載されている動作範囲を超えて動作させると、回復不能な損傷を受ける場合があります。ただし、これはストレスのみに対する定格です。上記の条件あるいは本データシートの動作説明の各節に記載されている条件を超える条件におけるデバイスの機能動作は保証されません。長時間にわたってデバイスを絶対最大定格条件に放置すると、デバイスの信頼性に影響を与えます。
60. 電源電圧 V_{CC} を除外します。テスト条件 : V_{CC}=3.0V、一度に 1 つの接続をテストし、テストされていないピンは V_{SS} です。

11.4 動作範囲

動作範囲は、デバイスの正常な機能が保証される範囲を定めたものです。

11.4.1 電源電圧

V_{CC} ..... 2.7 V ～ 3.6 V

11.4.2 温度範囲

パラメーター	記号	デバイス	仕様		単位
			Min	Max	
周囲温度	T_A	産業用 (I)	–40	+85	°C
		産業用 プラス (V)	–40	+105	°C
		車載用、AEC-Q100 グレード 3 (A)	–40	+85	°C
		車載用、AEC-Q100 グレード 2 (B)	–40	+105	°C
		車載用、AEC-Q100 グレード 1 (M)	–40	+125	°C

11.4.3 入力信号オーバーシュート

DC 条件において、入力または I/O 信号は V_{SS} と V_{CC} の電圧範囲内にあることが必要です。電圧変動中、入力または I/O は最大 20ns の間 V_{SS}-1.0V または V_{CC}+1.0V にオーバーシュートする可能性があります。

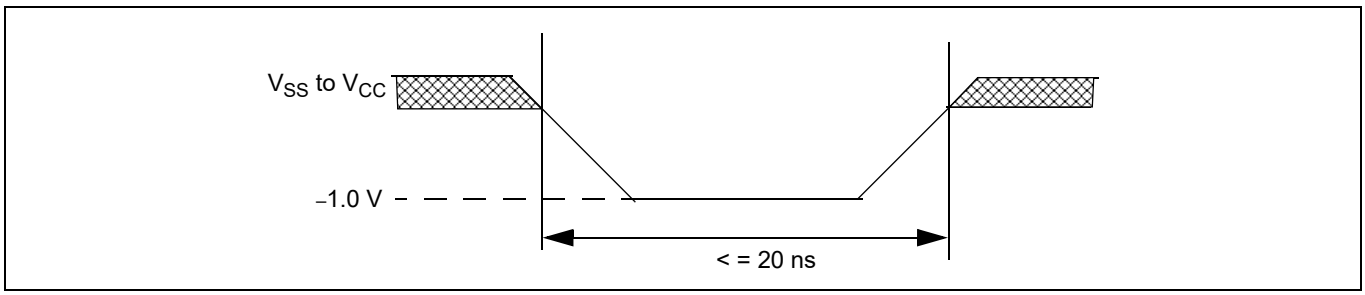


Figure 129 最大負オーバーシュート波形

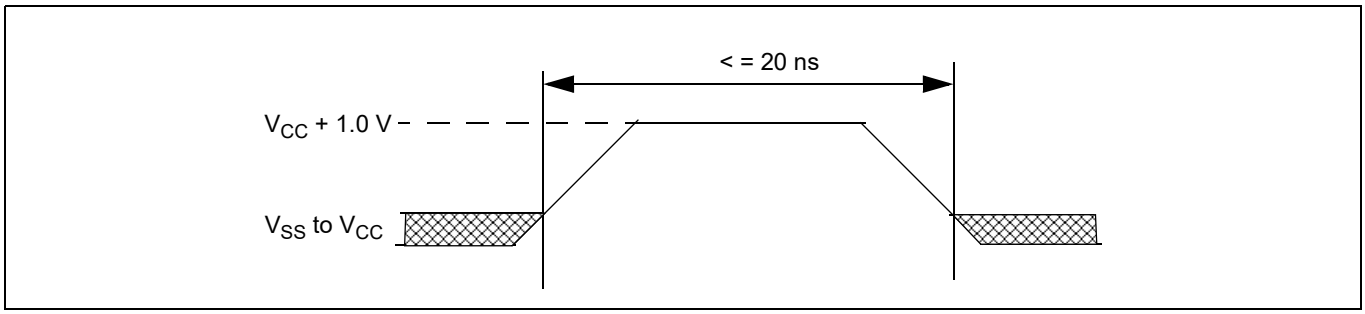


Figure 130 最大正オーバーシュート波形

11.5 電源投入および電源切断

電源投入および電源切断時に、以下のように V_{CC} が正しい値に達するまでデバイスを選択してはいけません (すなわち、CS# は V_{CC} に印加する電圧に応じる必要があります)。

- 電源投入後、t_{PU} の遅延時間が経過した後に V_{CC} (Min)
- 電源切断時に V_{SS}

ユーザーは、V_{CC} が最小 V_{CC} 閾値を超えてから t_{PU} の有効遅延が経過するまで、あらゆるコマンドを入力してはいけません。Figure 131 を参照してください。ただし、t_{PU} 中に V_{CC} が V_{CC} (Min) を下回った場合、デバイスの正常な動作は保証されません。t_{PU} の終了まで、コマンドをデバイスに送信しないようにしてください。

デバイスは t_{PU} 中に I_{POR} を消費します。電源投入 (t_{PU}) の後、デバイスはスタンバイ モードにあり、CMOS スタンバイ電流 (I_{SB}) を消費し、WEL ビットがリセットされます。

電源切断中または電圧が V_{CC} (Cut-off) を下回っている間、電圧は t_{PD} 時間の間 V_{CC} (Low) を下回る必要があります。これにより、デバイスは電源投入時に正常に初期化できます。Figure 132 を参照してください。電圧低下中に、V_{CC} が V_{CC} (Cut-off) を上回ったままの場合は、デバイスは初期化状態のままとなり、V_{CC} が再度 V_{CC} (Min) を上回ったとき、正常に動作します。電源投入後にパワーオン リセット (POR) が正常に完了しない場合、RESET# のアサートまたはソフトウェア リセット コマンド (RSTEN 66h の後に RST 99h が続く) を受信することにより、POR プロセスが再起動されます。

組込みプログラムまたは消去の実行中に V_{CC} が V_{CC} (Cut-off) を下回った場合、組込み動作は中止され、メモリ領域にあるデータは正しくないことがあります。

デバイスで V_{CC} の電源を安定させるための電源レールのデカップリングは、注意して行ってください。システム内の各のデバイスには、パッケージ電源接続に近接する適切なコンデンサ (通常、約 0.1 µF) によりデカップリングされた V_{CC} レールが必要です。

Table 47 電源投入 / 電源切断の電圧とタイミング

記号	パラメーター	Min	Max	単位
V_{CC} (min)	V_{CC} (最小動作電圧)	2.7	–	V
V_{CC} (cut-off)	V_{CC} (再初期化が必要となるカットオフ電圧)	2.4[61]	–	
V_{CC} (low)	V_{CC} (初期化が起こる低電圧)	1.0[62]	–	
t_{PU}	V_{CC}(min) から読み出し動作までの時間	–	300	µs
t_{PD}	V_{CC}(low) 時間	10.0	–	

注

61.V_{CC} が 2.4V 以下に低下した場合再初期化が必要です。
62.初期化を行うためには V_{CC} を 1.0V 以下に下げる必要があります。

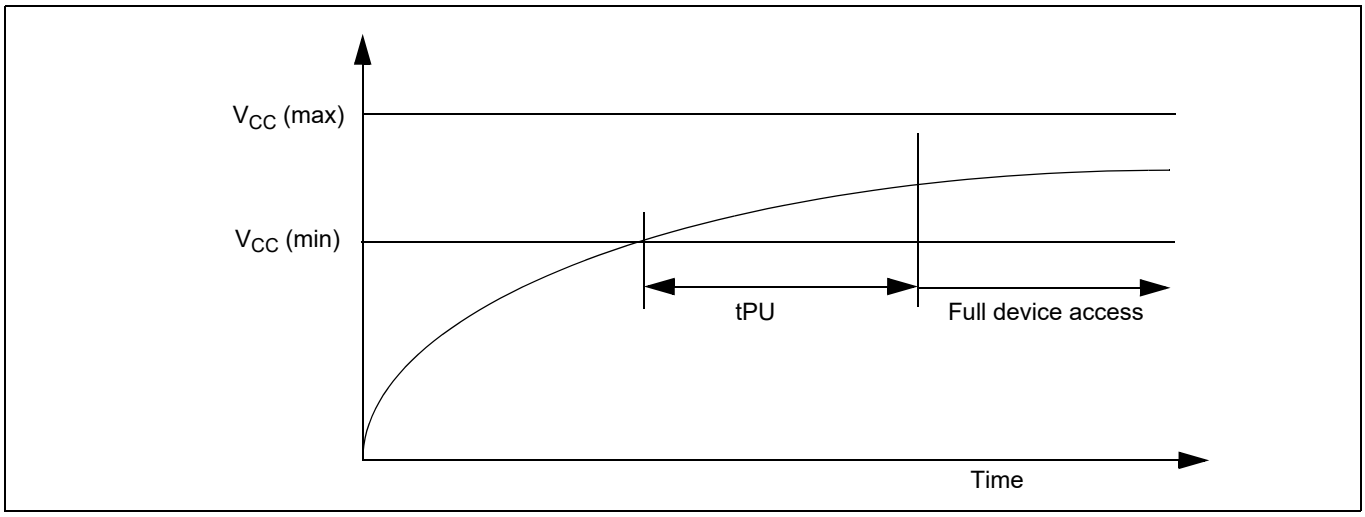


Figure 131　電源投入 [63, 64]

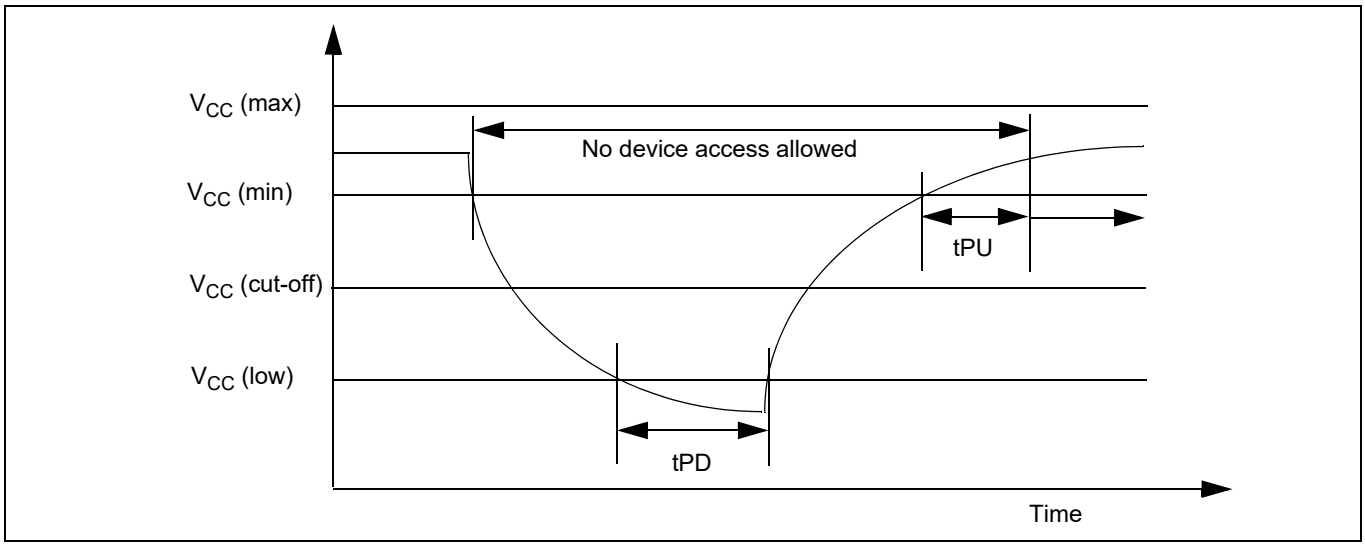


Figure 132　電源切断と電圧低下

注
63.V_{CC} が 2.4V 以下に低下した場合再初期化が必要です。
64.初期化を行うためには V_{CC} を 1.0V 以下に下げる必要があります。

11.6 DC 特性

Table 48 DC 特性 — 動作温度範囲 –40°C ～ +85°C

記号	パラメーター	テスト条件	Min	Typ[65]	Max	単位
V_{IL}	入力 Low 電圧		–0.5	–	0.3 × V_{CC}	V
V_{IH}	入力 High 電圧		0.7 × V_{CC}	–	V_{CC} + 0.4	V
V_{OL}	出力 Low 電圧	I_{OL} = 0.1 mA, V_{CC} = V_{CC} min	–	–	0.2	V
V_{OH}	出力 High 電圧	I_{OH} = –0.1 mA	V_{CC} – 0.2	–		V
I_{LI}	入力リーク電流	V_{CC} = V_{CC} Max, V_{IN} = V_{IH} または V_{SS}, CS# = V_{IH}	–	–	±2	µA
I_{LO}	出力リーク電流	V_{CC} = V_{CC} Max, V_{IN} = V_{IH} または V_{SS}, CS# = V_{IH}	–		±2	µA
I_{CC1}	アクティブ電源電流 (READ)[66]	5MHz でのシリアル SDR 10MHz でのシリアル SDR 20MHz でのシリアル SDR 50MHz でのシリアル SDR 108MHz でのシリアル SDR 108MHz での QIO/QPI SDR 30MHz での QIO/QPI DDR 54MHz での QIO/QPI DDR	–	10 10 10 15 20 20 15 17	15 15 15 20 25 30 20 25	mA
I_{CC2}	アクティブ電源電流 (ページ プログラム)	CS# = V_{CC}	–	17	25	mA
I_{CC3}	アクティブ電源電流 (WRR または WRAR)	CS# = V_{CC}	–	11	20	mA
I_{CC4}	アクティブ電源電流 (SE)	CS# = V_{CC}	–	17	25	mA
I_{CC5}	アクティブ電源電流 (HBE, BE)	CS# = V_{CC}	–	15	25	mA
I_{SB}	スタンバイ電流	RESET#, CS# = V_{CC}; SI, SCK = V_{CC} または V_{SS}: SPI, デュアル I/O, クアッド I/O モード	–	20	30	µA
		RESET#, CS# = V_{CC}; SI, SCK = V_{CC} または V_{SS}: QPI モード	–	35	55	µA
I_{DPD}	ディープ パワー ダウン電流	RESET#, CS# = V_{CC}, V_{IN} = GND または V_{CC}	–	2	20	µA
I_{POR}[67]	パワーオン リセット電流	RESET#, CS# = V_{CC}; SI, SCK = V_{CC} または V_{SS}	–	3	5	mA

注
65.Typ 値は T_{AI}=25°C および V_{CC} =3.0V のときです。
66.読み出しデータの返しの間、出力は未接続です。出力スイッチング電流は含まれていません。
67.IPOR のときには、指定された平均時間 t_{PU} の間、突入 / ピーク電流は最大 25mA です。

Table 49 DC 特性 — 動作温度範囲 –40°C ～ +105°C

記号	パラメーター	テスト条件	Min	Typ[68]	Max	単位
V_{IL}	入力 Low 電圧	–	–0.5	–	$0.3 \times V_{CC}$	V
V_{IH}	入力 High 電圧	–	$0.7 \times V_{CC}$	–	V_{CC}+0.4	V
V_{OL}	出力 Low 電圧	I_{OL} = 0.1 mA, V_{CC} = V_{CC} min		–	0.2	V
V_{OH}	出力 High 電圧	I_{OH} = –0.1 mA	V_{CC} - 0.2	–		V
I_{LI}	入力リーク電流	V_{CC} = V_{CC} Max, V_{IN} = V_{IH} または V_{SS}, CS# = V_{IH}	–	–	±4	µA
I_{LO}	出力リーク電流	V_{CC} = V_{CC} Max, V_{IN} = V_{IH} または V_{SS}, CS# = V_{IH}	–	–	±4	µA
I_{CC1}	アクティブ電源電流 (READ)[69]	5MHz でのシリアル SDR 10MHz でのシリアル SDR 20MHz でのシリアル SDR 50MHz でのシリアル SDR 108MHz でのシリアル SDR 108MHz での QIO ／ QPI SDR 30MHz での QIO ／ QPI DDR 54MHz での QIO ／ QPI DDR	–	10 10 10 15 20 20 15 17	15 15 20 25 30 30 15 25	mA
I_{CC2}	アクティブ電源電流 (ページ プログラム)	CS# = V_{CC}	–	17	25	mA
I_{CC3}	アクティブ電源電流 (WRR または WRAR)	CS# = V_{CC}	–	11	20	mA
I_{CC4}	アクティブ電源電流 (SE)	CS# = V_{CC}	–	17	25	mA
I_{CC5}	アクティブ電源電流 (HBE, BE)	CS# = V_{CC}	–	15	25	mA
I_{SB}	スタンバイ電流	RESET#, CS# = V_{CC}; SI, SCK = V_{CC} または V_{SS}: SPI, デュアル I/O, クアッド I/O モード	–	20	40	µA
		RESET#, CS# = V_{CC}; SI, SCK = V_{CC} または V_{SS}: QPI モード	–	35	70	µA
I_{DPD}	ディープ パワー ダウン電流	RESET#, CS# = V_{CC}, V_{IN} = GND または V_{CC}	–	2	30	µA
I_{POR}[70]	パワーオン リセット電流	RESET#, CS# = V_{CC}; SI, SCK = V_{CC} または V_{SS}	–	3	7	mA

注

68.Typ 値は T_{AI}=25°C および V_{CC} =3.0V のときです。
69.読み出しデータの返しの間、出力は未接続です。出力スイッチング電流は含まれていません。
70.POR のときには、指定された平均時間 t_{PU} の間、突入 / ピーク電流は最大 25mA です。

Table 50 DC 特性 — 動作温度範囲 –40°C ～ +125°C

記号	パラメーター	テスト条件	Min	Typ[71]	Max	単位
V_{IL}	入力 Low 電圧	–	–0.5	–	0.3 × V_{CC}	V
V_{IH}	入力 High 電圧	–	0.7 × V_{CC}	–	V_{CC} + 0.4	V
V_{OL}	出力 Low 電圧	I_{OL} = 0.1 mA, V_{CC} = V_{CC} min		–	0.2	V
V_{OH}	出力 High 電圧	I_{OH} = –0.1 mA	V_{CC} – 0.2	–		V
I_{LI}	入力リーク電流	V_{CC} = V_{CC} Max, V_{IN} = V_{IH} または V_{SS}, CS# = V_{IH}	–	–	±4	µA
I_{LO}	出力リーク電流	V_{CC} = V_{CC} Max, V_{IN} = V_{IH} または V_{SS}, CS# = V_{IH}	–	–	±4	µA
I_{CC1}	アクティブ電源電流 (READ)[72]	5MHz でのシリアル SDR 10MHz でのシリアル SDR 20MHz でのシリアル SDR 50MHz でのシリアル SDR 108MHz でのシリアル SDR 108MHz での QIO/QPI SDR 30MHz での QIO/QPI DDR 54MHz での QIO/QPI DDR	–	10 10 10 15 20 20 15 17	15 15 20 25 30 30 15 25	mA
I_{CC2}	アクティブ電源電流 (ページ プログラム)	CS# = V_{CC}	–	17	25	mA
I_{CC3}	アクティブ電源電流 (WRR または WRAR)	CS# = V_{CC}	–	11	20	mA
I_{CC4}	アクティブ電源電流 (SE)	CS# = V_{CC}	–	17	25	mA
I_{CC5}	アクティブ電源電流 (HBE, BE)	CS# = V_{CC}	–	15	25	mA
I_{SB}	スタンバイ電流	RESET#, CS# = V_{CC}; SI, SCK = V_{CC} または V_{SS}: SPI, デュアル I/O, クアッド I/O モード	–	20	60	µA
		RESET#, CS# = V_{CC}; SI, SCK = V_{CC} または V_{SS}: QPI モード	–	35	70	µA
I_{DPD}	ディープ パワーダウン電流	RESET#, CS# = V_{CC}, V_{IN} = GND または V_{CC}	–	2	40	µA
I_{POR}[73]	パワーオン リセット電流	RESET#, CS# = V_{CC}; SI, SCK = V_{CC} または V_{SS}	–	3	9	mA

注

71.Typ 値は T_{AI}=25°C および V_{CC} =3.0V のときです。
72.読み出しデータの返しの間、出力は未接続です。出力スイッチング電流は含まれていません。
73.POR のときには、指定された平均時間 t_{PU} の間、突入 / ピーク電流は最大 25mA です。

11.6.1 アクティブ電力モードおよびスタンバイ電力モード

チップ セレクト (CS#) が LOW のとき、デバイスは有効になっており、アクティブ消費電力モードになります。CS# が HIGH のとき、デバイスは無効になっていますが、すべてのプログラム , 消去 , および書き込み動作が完了するまではアクティブ消費電力モードのままです。その後、デバイスはスタンバイ電力モードに移行し、消費電力は I_{SB} に低下します。

11.6.2 ディープ パワー ダウン電力モード (DPD)

コマンド命令コード「B9h」を入力することでディープ パワー ダウン電力モードは有効になり、電力消費量は I_{DPD} に低下します。DPD モードでは、デバイスは DPD 終了コマンド (RES ABh) とハードウェア リセット (RESET# および IO3/RESET#) のみに応答します。他のコマンドは DPD モードの間無視されます。

12 タイミング仕様

12.1 スイッチング波形

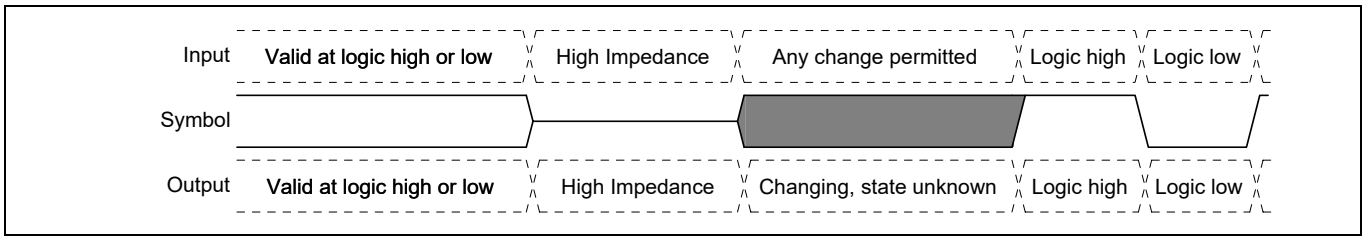


Figure 133 波形要素の意味

12.2 AC テスト条件

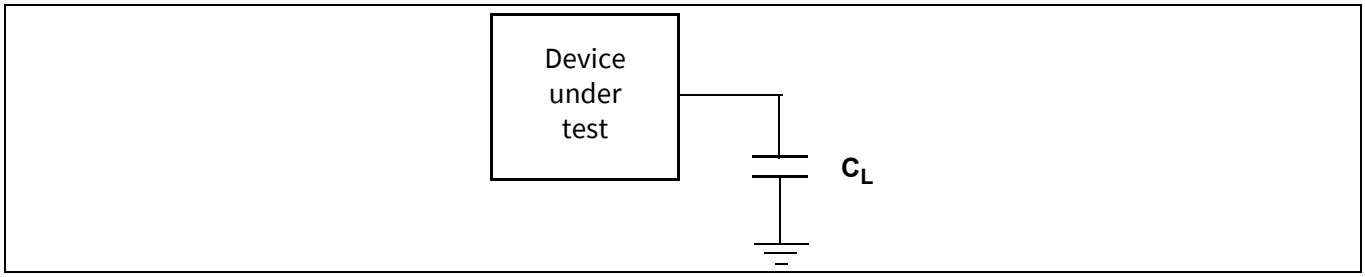


Figure 134 テスト セットアップ

Table 51 AC 測定条件

記号	パラメーター	Min	Max	単位
C_L	負荷容量	–	15 / 30[74]	pF
–	入力パルス電圧	0.2 × V_{CC}	0.8 × V_{CC}	V
–	入力タイミング参照電圧	0.5 × V_{CC}		
–	出力タイミング参照電圧	0.5 × V_{CC}		

74.負荷容量は動作周波数または動作モードによって異なります。
75.AC 特性表ではクロックおよびデータ信号が同じスルー レート (スロープ) を持っていることを想定しています。動作周波数でのスルー レートは SDR AC 特性 [79] の注 84 を参照してください。

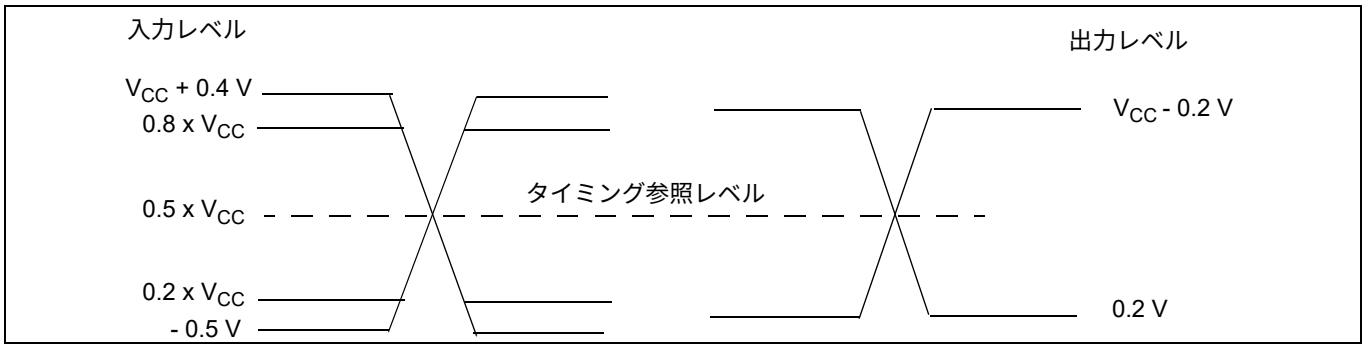


Figure 135 入力 , 出力 , およびタイミング参照レベル

12.2.1 静電容量特性

Table 52 静電容量

記号	パラメーター	テスト条件	Min	Max	単位
C_{IN}	入力静電容量 (SCK、CS#、RESET#、IO3/RESET# に適用)	1 MHz	–	8	pF
C_{OUT}	出力静電容量 (全 I/O に適用)	1 MHz	–	8	pF

12.3 リセット

消去 , プログラムまたはレジスタの書き込み動作中にハードウェア リセットが開始される場合、セクタ , ページまたはレジスタのデータは安定せず、中断された動作は再び始めから開始する必要があります。ソフトウェア リセット実行中にハードウェア リセットが開始されると、無視されることがあります。

12.3.1 パワーオン (コールド) リセット

デバイスは、V_{CC} が最小 V_{CC} 閾値を超えてから t_{PU} の遅延時間が経過するまで、パワーオン リセット (POR) プロセスを実行します。Figure 131 と Table 47 を参照してください。電源投入 (t_{PU}) 中にデバイスは選択してはいけません (CS# が V_{CC} の立ち上りとともに HIGH になります)。すなわち、t_{PU} の終わりまでデバイスに送られるコマンドはありません。

POR 中には RESET# および IO3/RESET# リセット機能は無視されます。RESET# または IO3/RESET# が POR 中に LOW であり、t_{PU} 時間中およびこの時間が経過した後でも LOW のままであれば、CS# は、RESET# と IO3/RESET# が HIGH に戻った後の t_{RH} まで HIGH に維持する必要があります。LOW に戻ってハードウェア リセットを開始する前に、RESET# と IO3/RESET# は、t_{RS} より長い時間 HIGH である必要があります。

IO3/RESET# 入力は、CS# が t_{CS} 値より長い時間で HIGH である場合、またはクアッド / QPI モードが有効でない (CR1V[1]=0 または CR2V[3]=0) 場合、RESET# 信号として機能します。

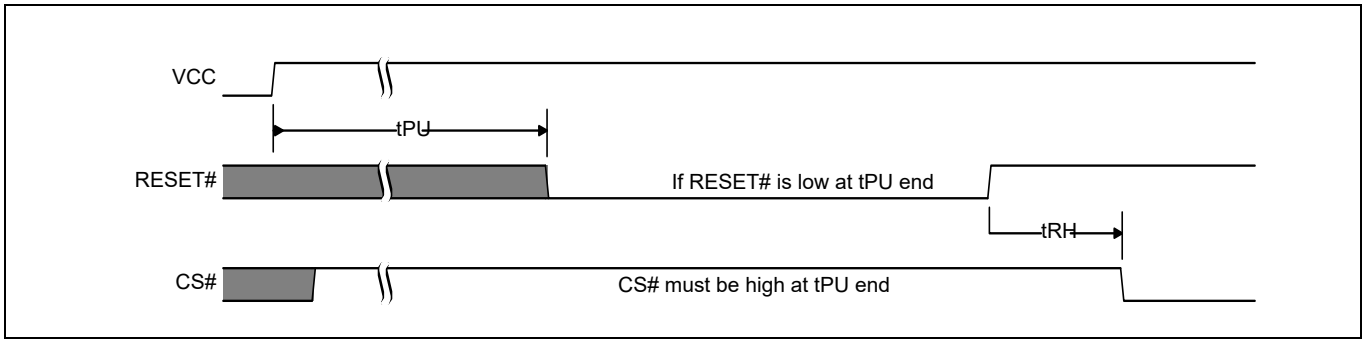


Figure 136 POR 終了時に Reset# LOW

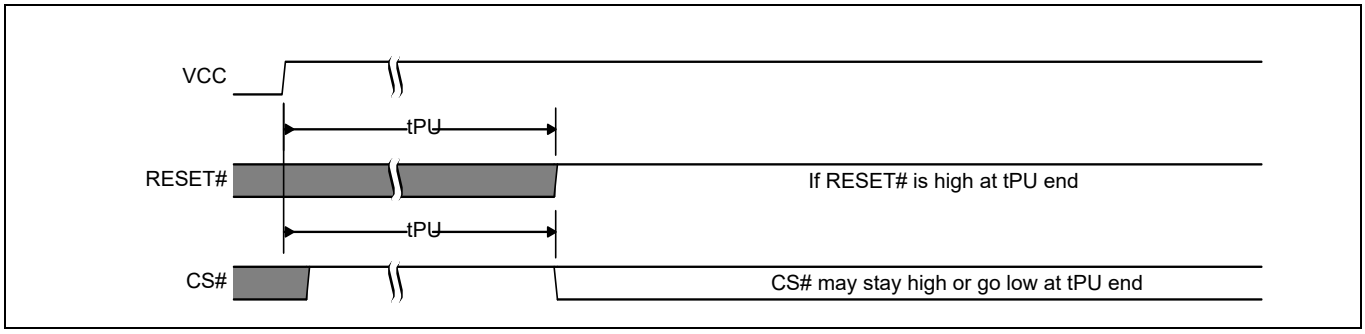


Figure 137 POR 終了時に Reset# HIGH

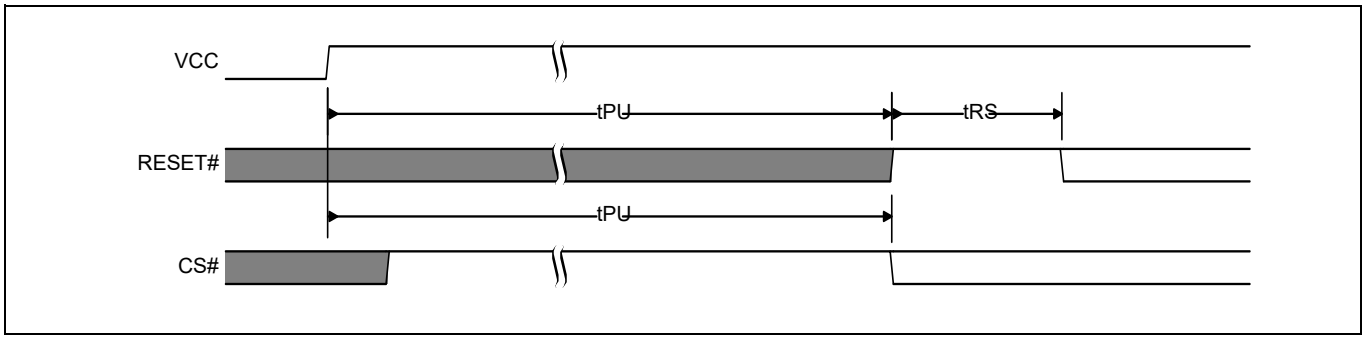


Figure 138 POR 後にハードウェア リセットが続く

12.3.2 RESET# および IO3/RESET# 入力により開始されるハードウェア (ウォーム) リセット

RESET# および IO3/RESET# 入力は RESET# 信号として機能できます。双方の入力は一定の条件下でリセット動作を開始できます。

V_{IH} から V_{IL} へ遷移する時間が t_{RP} より長い場合、RESET# 入力はリセット動作を開始し、デバイスはパワーオン リセット (POR) と同じ方法でレジスタの状態をリセットしますが、POR 中に行われる完全なリセット プロセスは実行しません。ハードウェア リセット プロセスは完了するのに t_{RPH} の時間を要します。RESET# 入力は 16 リード SOIC パッケージと BGA ボール パッケージのみで使用可能です。

IO3/RESET# 入力は CS# が t_{CS} より長い時間 HIGH である場合、またはクアッドまたは QPI モードが有効でない (CR1V[1]=0 または CR2V[3]=0) 場合、リセット動作を開始します。IO3/RESET# 入力は V_{CC} に接続する内部プルアップ抵抗を備えており、クアッドまたは QPI モードが使用されない場合は開放のままにできます。CS# が HIGH になった後の t_{CS} 遅延により、メモリまたはホスト システムは、CS# が LOW の間 IO3 をクアッドまたは QPI モードの I/O 信号として使用した後、HIGH に駆動する時間を取れます。その後、V_{CC} に接続する内部プルアップはホスト システムが IO3/RESET# を駆動し始めるまで IO3/RESET# を HIGH に保持します。意図しないリセット動作を回避するために、CS# が HIGH である t_{CS} 時間の間、IO3/RESET# 入力は無視されます。新しいコマンドを開始するために CS# が LOW に駆動された場合、IO3/RESET# は IO3 として使用されます。

デバイスがクアッド / QPI モードでない場合、または CS# が HIGH になり、かつ t_{CS} の後に IO3/RESET# が V_{IH} から V_{IL} へ遷移する時間が t_{RP} より長い場合、デバイスはパワーオン リセットと同じ方法でレジスタの状態をリセットしますが、POR 中に行われる完全なリセット プロセスは実行しません。

ハードウェア リセット プロセスは完了するのに t_{RPH} の時間を要します。電源投入 (t_{PU}) 中にパワーオン リセット (POR) プロセスが何らかの理由で正常に完了しない場合、RESET# が LOW になると、ハードウェア リセット プロセスの代わりに完全な POR プロセスが開始され、POR プロセスを完了するのに t_{PU} 時間を要します。

ソフトウェア リセット コマンド (RSTEN 66h の後に RST 99h が続く) は RESET# および IO3/RESET# の状態と無関係です。RESET# および IO3/RESET# が HIGH または未接続になり、ソフトウェア リセットの命令が発行された場合、デバイスはソフトウェア リセットを行います。

追加の注意事項は以下のとおりです。

- RESET#とIO3/RESET#入力の両方が選択可能な場合、お使いのシステムに1つのみのリセット オプションを使用してください。CR2NV[7] を 0 にセットし (Table 12 を参照してください)、IO3 のみとして動作するよう IO3_RESET を設定することで、IO3/RESET# 入力によるリセット動作を無効にできます。RESET# 入力を V_{IH} に接続しないことにより、RESET# 入力を無効にできます。RESET# および IO3/RESET# は LOW に戻してハードウェア リセットを開始する前に、t_{PU}/t_{RPH} の後の t_{RS} の間、HIGH にしなければいけません。
- IO3/RESET# が t_{CS} の後、少なくとも t_{RP} の間 LOW に駆動された場合、デバイスは実行中の動作をすべて終了させ、すべての出力を高インピーダンスにし、t_{RPH} の間読み出し / 書き込みコマンドをすべて無視します。デバイスはインターフェースをスタンバイ状態にリセットします。
- クアッドまたは QPI モードおよび IO3/RESET# 機能が有効な場合、IO3 でのドライバーの競合を避けるために、ホスト システムは t_{CS} の間 IO3 を LOW に駆動してはいけません。クアッドまたは QPI モードで

データをホストに転送するコマンド (クアッド I/O 読み出しなど) の直後に、意図的でないリセット動作を回避するために、メモリは t_{CS} の間 IO3/RESET# を HIGH に駆動します。クアッド モードでデータをメモリに転送するコマンド (ページ プログラムなど) の直後、意図的でないリセット動作を回避するために、ホスト システムは t_{CS} の間 IO3/RESET# を HIGH に駆動する必要があります。

- クアッドまたは QPI モードが有効でなく、かつ IO3/RESET# が LOW にアサートされているときに CS# が LOW の場合、CS# は t_{RH} 後に再度 LOW にアサートされる前に、t_{RPH} の間 HIGH に戻さなければいけません。

Table 53　ハードウェア リセット パラメーター [76, 77, 78]

パラメーター	説明	限界	時間	単位
t_{RS}	リセット セットアップ時間 : 先行のリセット終了かつ RESET# HIGH から RESET# LOW までの時間	Min	50	ns
t_{RPH}	リセット パルス ホールド時間 : RESET# LOW から CS# LOW までの時間	Min	100	µs
t_{RP}	RESET# パルス幅	Min	200	ns
t_{RH}	リセット ホールド時間 : CS# LOW までの RESET#HIGH 時間	Min	150	ns

76.電源投入 (t_{PU}) 中は、RESET# および IO3/RESET# LOW が無視されます。t_{PU} の終わりに RESET# がアサートされた場合、デバイスはリセット状態のままとなり、CS# が LOW になる時点は t_{RH} によって決まります。
77.クアッドまたは QPI モードが有効な場合、t_{CS} の間 IO3/RESET# の LOW は無視されます。
78.t_{RP} と t_{RH} の和は t_{RPH} 以上でなければいけません。

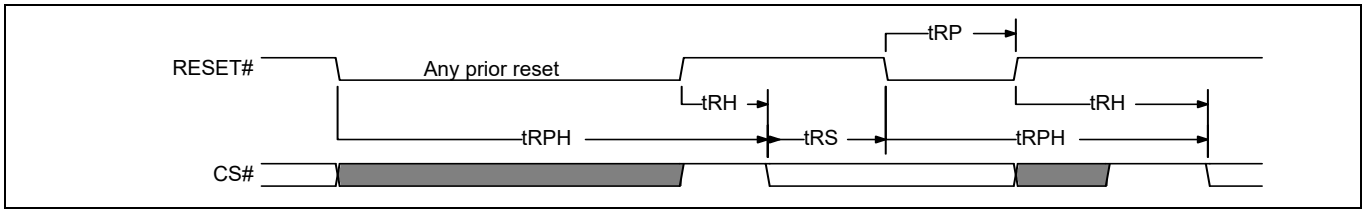


Figure 139　RESET# 入力によるハードウェア リセット

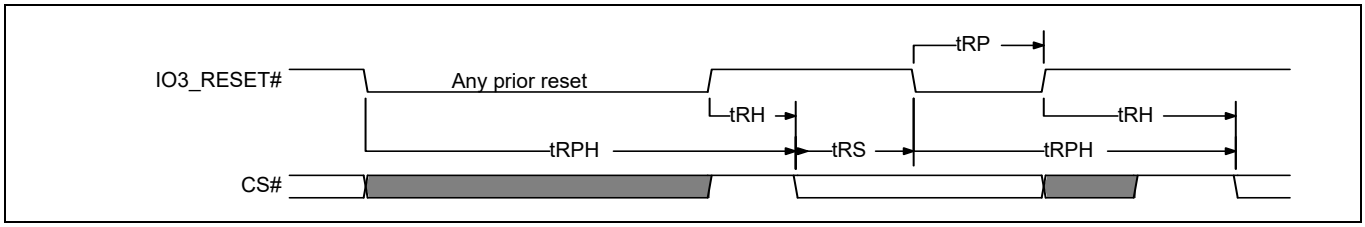


Figure 140　クアッドまたは QPI モードが無効で、IO3/RESET# が有効な場合のハードウェア リセット

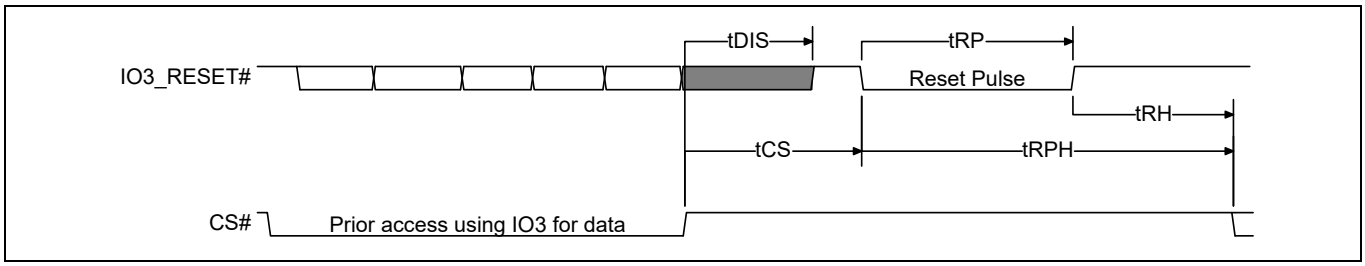


Figure 141　クアッドまたは QPI モードおよび IO3/RESET# が有効な場合のハードウェア リセット

12.4 SDR AC 特性

Table 54 SDR AC 特性 [79]

記号	パラメーター	Min	Max	単位
$F_{SCK, R}$	READ および 4READ 命令用 SCK クロック周波数	DC	50	MHz
$F_{SCK, C}$	QOR, 4QOR, DIOR, 4DIOR, QIOR, 4QIOR のデュアルおよびクアッド コマンド用 SCK クロック周波数	DC	108	MHz
P_{SCK}	SCK クロック周期	1/ F_{SCK}	–	MHz
t_{WH}, t_{CH}	クロック High 時間	50% P_{SCK} – 5%	–	ns
t_{WL}, t_{CL}	クロック Low 時間	50% P_{SCK} – 5%	–	ns
t_{CRT}, t_{CLCH}	クロック立ち上り時間 (スルーレート)[80]	0.1	–	V/ns
t_{CFT}, t_{CHCL}	クロック立ち下り時間 (スルーレート)[80]	0.1	–	V/ns
t_{CS}	CS# High 時間 (任意の読み出し命令)	20	–	ns
	CS# High 時間 (読み出し以外のすべての命令)	50	–	ns
t_{CSS}	CS# アクティブ セットアップ時間 (SCK を基準とする)	3	–	ns
t_{CSH}	CS# アクティブ ホールド時間 (SCK を基準とする)	5	–	ns
t_{SU}	データ入力セットアップ時間	3	–	ns
t_{HD}	データ入力ホールド時間	2	–	ns
t_V	クロック Low から出力有効までの時間		8[80] 6[81]	ns
t_{HO}	出力ホールド時間	1		ns
t_{DIS}	出力無効時間 [82] 出力無効時間 (リセット機能とクアッド モードの両方が有効)	–	8 20[83]	ns
t_{WPS}	WP# セットアップ時間 [84]	20	–	ns
t_{WPH}	WP# ホールド時間 [84]	100	–	ns
T_{DP}	CS# High からディープ パワー ダウン モードまでの時間	–	3	µs
T_{RES}	CS# High からディープ パワー ダウン モード終了までの時間	–	5	µs
t_{QEN}	QIO または QPI モード開始時間 (次のコマンドを発行するのに要する時間)	–	1.5	µs
t_{QEXN}	QIO または QPI モード終了時間 (次のコマンドを発行するのに要する時間)	–	1	µs

注

79. クロック立ち上りと立ち下りの最小スルー レート (t_{CRT}, t_{CLCH}) は、高速クロック (108 MHz) の場合、1.5V/ns で、低速クロック (50 MHz) の場合、1.0V/ns です。
80. V_{CC} 範囲全体、CL = 30 pF
81. V_{CC} 範囲全体、CL = 15 pF
82. 出力 HI-Z はデータがもはや駆動されなくなる点として定義されます。
83. リセット機能およびクアッド モードを有効にする場合 (CR2V[7]=1, CR1V[1]=1)、t_{DIS} は追加の時間を必要とします。
84. SRP0 に 1 をセットした場合、WRR または WRAR 命令の制約としてのみ適用可能です。

12.4.1 クロック タイミング

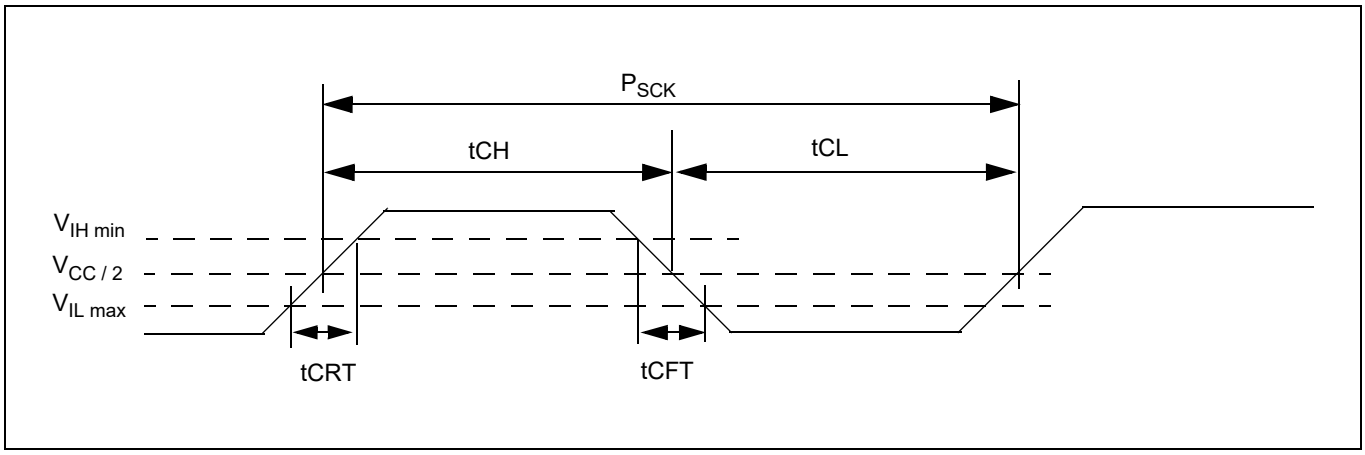


Figure 142 クロック タイミング

12.4.2 入力 / 出力タイミング

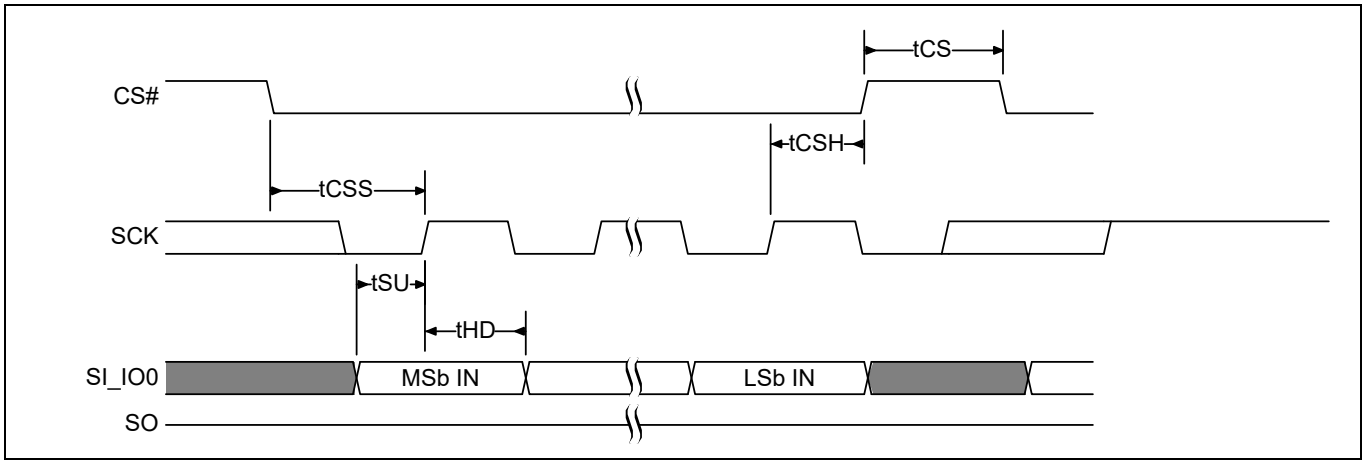


Figure 143 SPI シングル ビットの入力タイミング

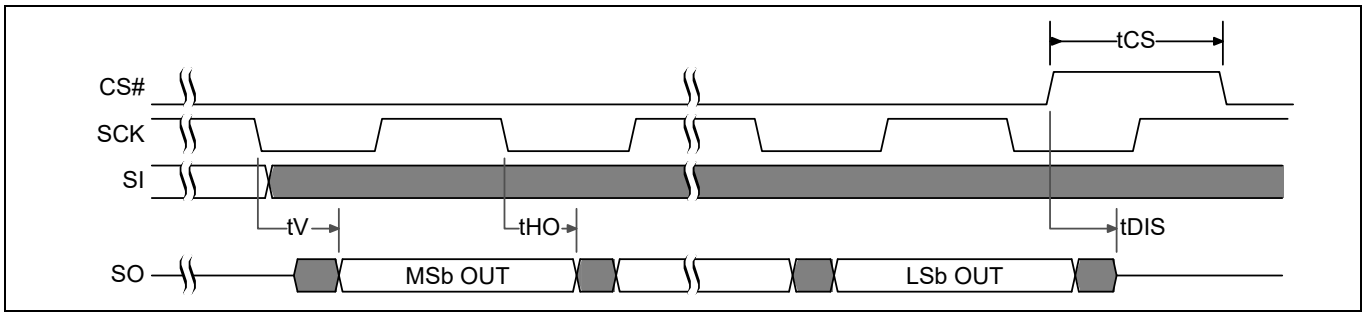


Figure 144 SPI シングル ビットの出力タイミング

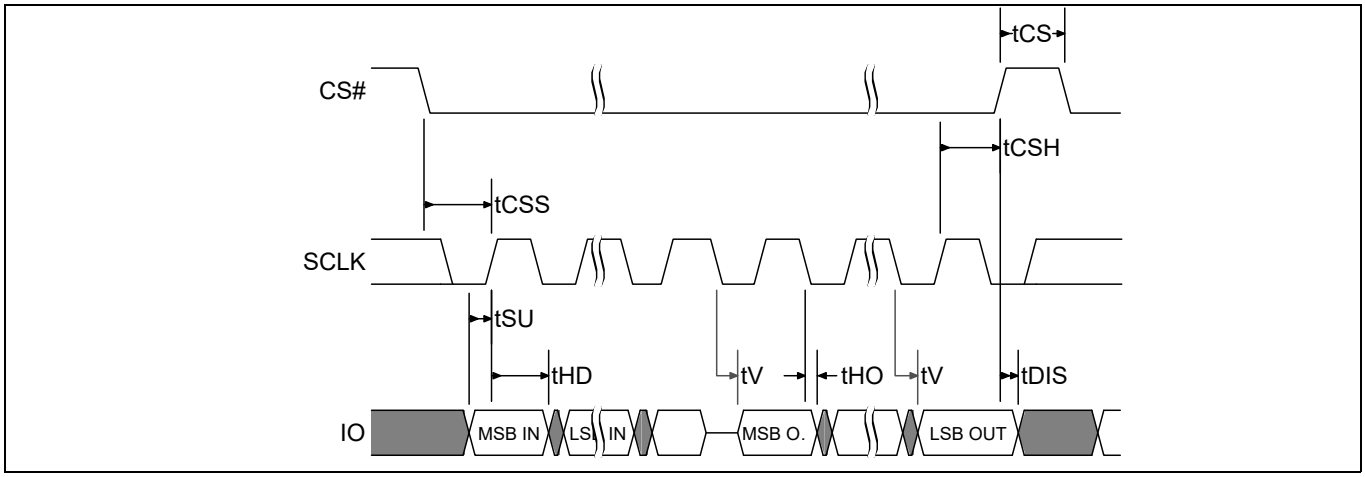


Figure 145　　SDR MIO タイミング

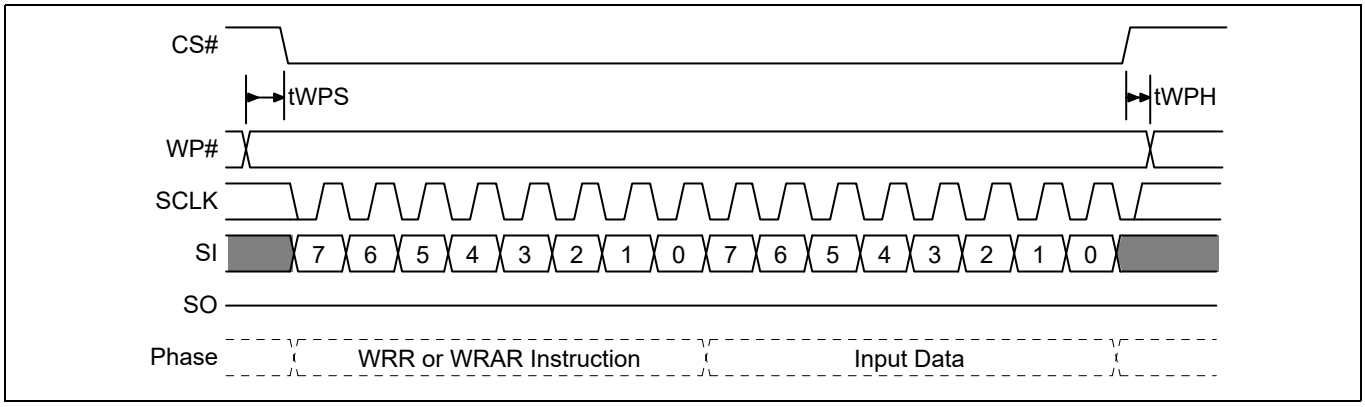


Figure 146　　WP# 入力タイミング

12.5 DDR AC 特性

Table 55 DDR AC 特性 - 54 MHz 動作

記号	パラメーター	Min	Max	単位
$F_{SCK, R}$	DDR READ 命令用 SCK クロック周波数	DC	54	MHz
$P_{SCK, R}$	DDR READ 命令用 SCK クロック周期	1/ F_{SCK}	–	ns
t_{crt}	クロック立ち上り時間 (スルー レート)	1.5	–	V/ns
t_{cft}	クロック立ち下り時間 (スルー レート)	1.5	–	V/ns
t_{WH}, t_{CH}	クロック High 時間	50% P_{SCK} – 5%	–	ns
t_{WL}, t_{CL}	クロック Low 時間	50% P_{SCK} – 5%	–	ns
t_{CS}	CS# HIGH 時間 (読み出し命令) CS# HIGH 時間 (リセット機能が有効なときの読み出し命令)	20 50	–	ns
t_{CSS}	CS# アクティブ セットアップ時間 (SCK を基準とする)	3	–	ns
t_{SU}	IO 入力セットアップ時間	3	–	ns
t_{HD}	IO 入力ホールド時間	2	–	ns
t_V	クロック LOW から出力有効までの時間	–	8[85] 6[86]	ns
t_{HO}	出力ホールド時間	1	–	ns
t_{DIS}	出力無効時間 出力無効時間 (リセット機能が有効)	–	8 20	ns
t_{O_skew}	最初の IO から最後の IO までのデータ有効時間	–	600[87]	ps

注
85.V_{CC} 範囲全体、CL = 30 pF。
86.V_{CC} 範囲全体、CL = 15 pF。
87.テストは行われていません。

12.5.1 DDR 入力タイミング

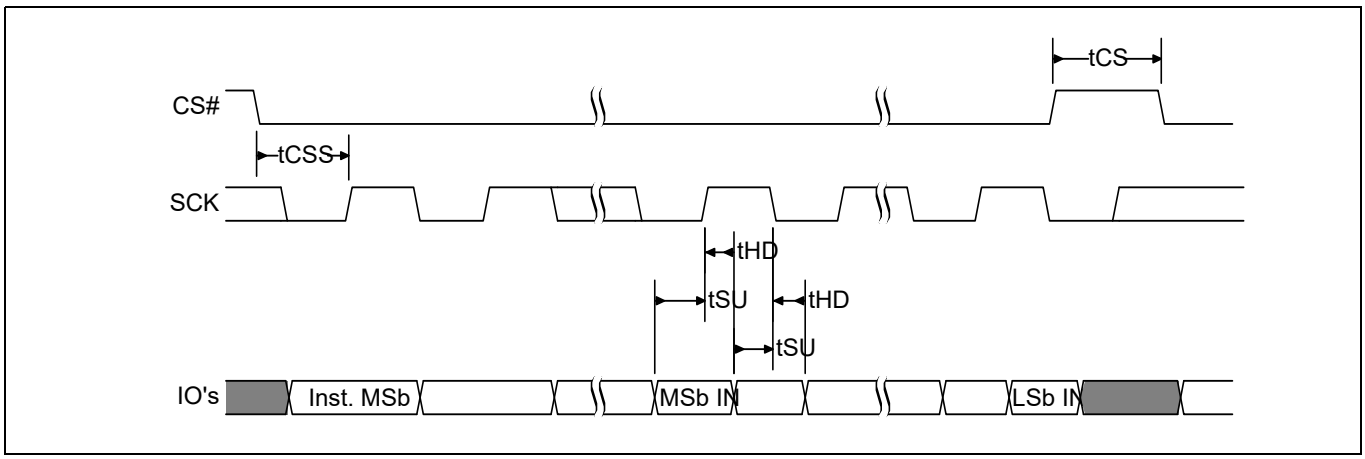


Figure 147 SPI DDR 入力タイミング

12.5.2 DDR 出力タイミング

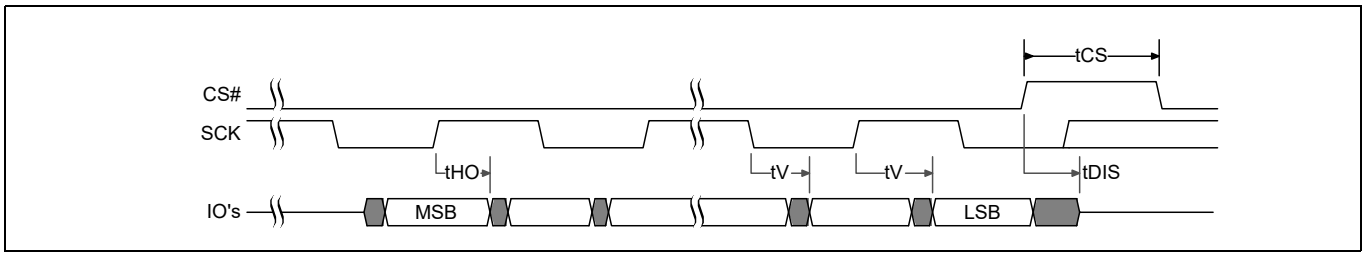


Figure 148 SPI DDR 出力タイミング

12.5.3 DLP 使用時の DDR データ有効時間

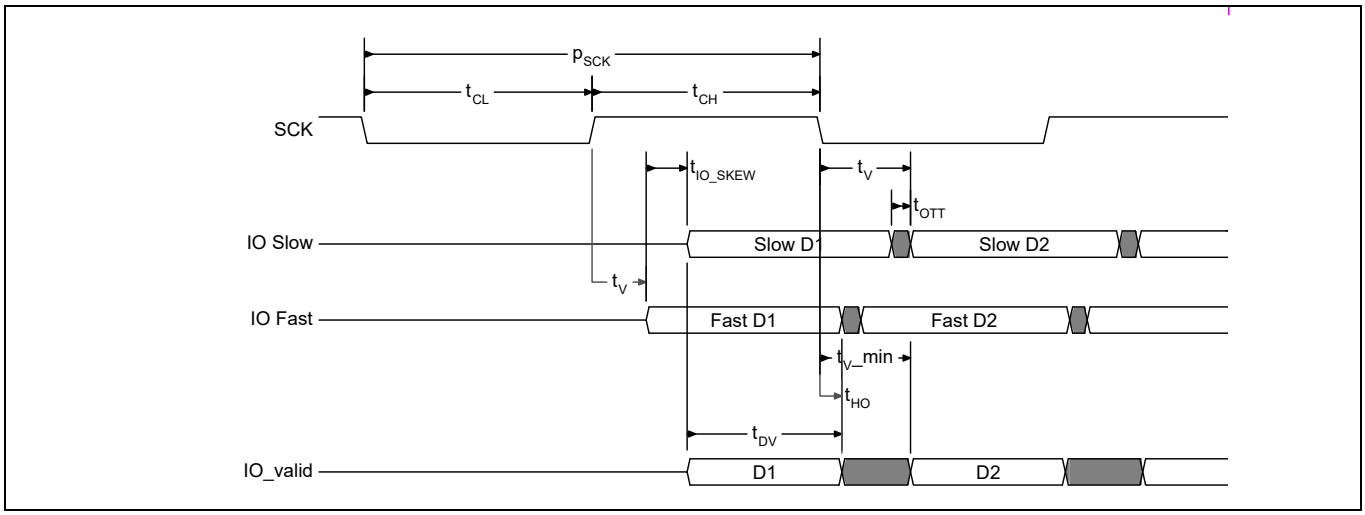


Figure 149 SPI DDR データ有効ウィンドウ

データ有効ウィンドウの最小値 (tDV) および最小 tV は以下のように計算します。

t_{DV} = 最小ハーフ クロック サイクル時間 (t_{CLH}[88]) - t_{OTT}[90] - t_{IO_SKEW}[89]

t_V _min = t_{HO} + t_{IO_SKEW} + t_{OTT}

例 :

- 66 MHz のクロック周波数 = 15 ns のクロック周期 , DDR 動作 , および 45% 以上のデューティ比を前提にします。
  - t_{CLH} = 0.45 × PSCK = 0.45 × 15 ns = 6.75 ns
- t_{OTT} 計算 [91] は、バス インピーダンス 45 Ω, 静電容量 37 pf, タイミング リファレンス 0.75 V_{CC} を前提として、0 から 1 までの立ち上り時間または 1 から 0 までの立ち下り時間は、1.4[94] × RC 時定数 (Tau)[93] = 1.4 × 1.67 ns = 2.34 ns
  - t_{OTT} = 立ち上り時間または立ち下り時間 = 2.34 ns
- データ有効ウィンドウ
  - t_{DV} = t_{CLH} – t_{IO_SKEW} – t_{OTT} = 6.75 ns – 600 ps – 2.34ns = 3.81ns
- t_V の最小値
  - t_V _min = t_{HO} + t_{IO_SKEW} + t_{OTT} = 1.0 ns + 600 ps + 2.34 ns = 3.94 ns

注

88. t_{CLH} は、t_{CL} または t_{CH} より短い期間です。
89. t_{IO_SKEW}、すべての IO 信号にわたる、t_V (出力有効時間) の Min と Max の間の最大差 (デルタ) です。
90. t_{OTT} は、各 IO 上の 1 つの有効なデータ値から次の有効なデータ値への最大出力遷移時間です。
91. t_{OTT} は以下のシステム レベルの項目に依存しています。
    a. メモリ デバイスの出力インピーダンス (駆動能力)。
    b. IO 上のシステム レベル寄生容量 (主にバス容量)。
    c. 0 から 1 への遷移および 1 から 0 への遷移が認識される V_{IH} および V_{IL} レベルでのホスト メモリ コントローラー入力。
    d. t_{OTT} はインフィニオンがテストした仕様ではありません。システムに依存し、システム設計者が上記の項目に基づいて計算する必要があります。
92. t_{DV} はデータ有効ウィンドウです。
93. Tau = R (出力インピーダンス) x C (負荷容量)。
94. 電圧が V_{CC} の 75% に達するまでの Tau 時間の乗数です。

12.6 組込みアルゴリズム性能表

Table 56 プログラムと消去の性能

記号	パラメーター	Min	Typ[95]	Max	単位
t_W	不揮発性レジスタ書き込み時間	–	220	1200	ms
t_{PP}	ページ プログラム時間 (256 バイト)	–	450	1350	µs
t_{BP1}	バイ ト プログラム時間 (最初のバイ ト)	–	75	90	µs
t_{BP2}	追加バイト プログラム時間 (最初のバイトの後)	–	10	30	µs
t_{SE}	セクタ消去時間 (4KB 物理セクタ)	–	65	320	ms
t_{HBE}	ハーフ ブロッ ク消去時間 (32KB 物理セク タ)	–	300	600	ms
t_{BE}	ブロック消去時間 (64KB 物理セクタ)	–	450	1150	ms
t_{CE}	チップ消去時間 (S25FL064L)	–	55	150	sec

注

95. プログラム時間と消去時間の Typ 値は次の条件を想定したものです : 25°C、V_{CC}=3.0V およびチェッカーボード データ パターン。
96. 任意の OTP プログラム コマンドのプログラム時間は t_{PP} と同じです。IRPP 2Fh, PASSP E8h, および PDLRNV 43h が含まれます。

Table 57 プログラムまたは消去一時停止の AC パラメーター

パラメーター	Typ	Max	単位	備考
一時停止レイテンシ (t_{SL})	–	40	µs	一時停止コマンドから WIP ビットが 0 になるまでの時間
再開から次の一時停止までの時間 (t_{RNS})	100	–	µs	次の一時停止コマンドを発行するために要する時間

13 注文情報

13.1 注文製品番号

注文製品番号は下記の有効な組合せで構成されます。

S25FL 064 L AB M F I 00 1

包装形態
0 = トレイ
1 = チューブ
3 = 13 インチ テープ & リール

モデル番号 (追加の注文オプション)
00 = SOIC16 (300 mil)
01 = SOIC8 (208 mil) / 8 コンタクト WSON フットプリント
02 = 5x5 ボール BGA フットプリント
03 = 4x6 ボール BGA フットプリント
04 = USON (4 x 4mm)

温度範囲
I = 産業用 (–40°C ～ +85°C)
V = 産業用プラス (–40°C ～ +105°C)
A = 車載用 , AEC-Q100 グレード 3 (–40°C ～ +85°C)
B = 車載用 , AEC-Q100 グレード 2 (–40°C ～ +105°C)
M = 車載用 , AEC-Q100 グレード 1 (–40°C ～ +125°C)

パッケージ材料 [97]
F = ハロゲン フリー , 鉛 (Pb) フリー
H = ハロゲン フリー , 鉛 (Pb) フリー

パッケージ タイプ
M = 8 リード SOIC / 16 リード SOIC
N = USON 4 x 4 mm / WSON 5 x 6 mm
B = 24 ボール BGA 6 x 8 mm パッケージ , 1.00 mm ピッチ

速度
AB =108 MHz SDR および 54 MHz DDR

デバイス テクノロジー
L = フローティング ゲート プロセス技術

メモリ容量
064 = 64 Mb

デバイス ファミリ
S25FL メモリ 3.0 V 単一電源 , SPI フラッシュ メモリ

注
97.ハロゲンフリーの定義は、IEC 61249-2-21 仕様に準拠しています。

13.2 有効な組合せ — 標準

有効な組合せ表は、デバイスの大量注文に対応するコンフィギュレーションです。ご使用になる組合せの有無、ならびに新たにリリースされる組合せは担当営業までお問い合わせください。

Table 58 有効な組合せ — 標準

ベース注文製品番号	速度オプション	パッケージおよび温度	モデル番号	包装形態	パッケージ マーキング
S25FL064L	AB	MFI, MFV	00, 01	0, 1, 3	FL064L + (温度) + F + (モデル番号)
	AB	NFI, NFV	01, 04	0, 1, 3	FL064L + (温度) + F + (モデル番号)
	AB	BHI, BHV	02, 03	0, 3	FL064L + (温度) + H + (モデル番号)

13.3 有効な組合せ — 車載用グレード / AEC-Q100

Table 59 は車載向けグレード /AEC-Q100 の認定がされた、量産対応が計画されているコンフィギュレーションを示します。新しい組合せがリリースされると、表は更新されます。特定の組合せの有無、ならびに新たにリリースされる組合せは担当営業までお問い合わせください。

生産部品承認プロセス (PPAP) のサポートは AEC-Q100 グレード製品のみに提供されています。

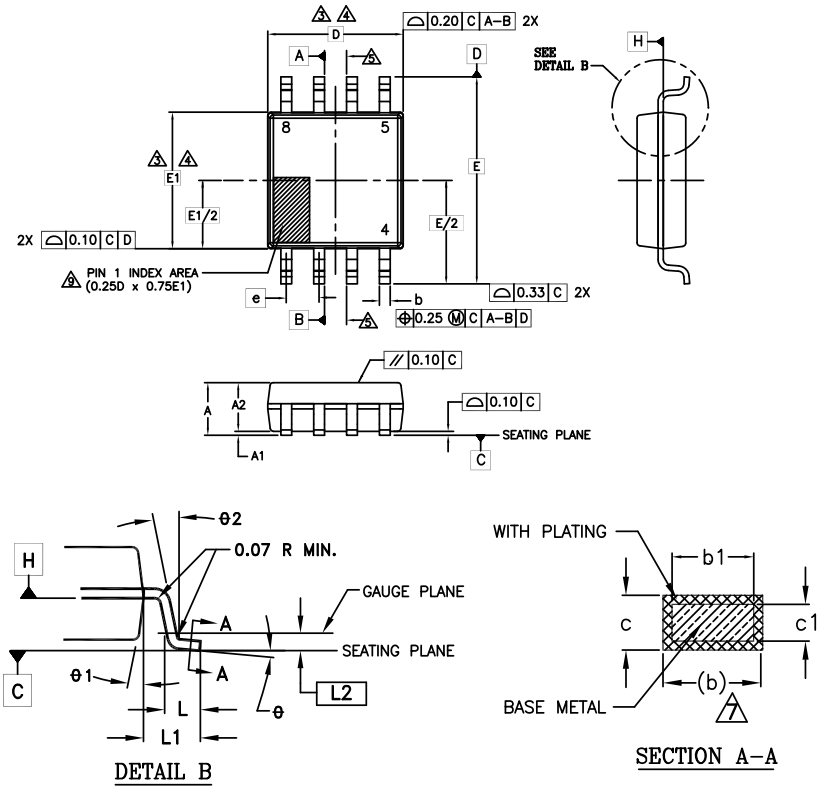
ISO/TS-16949 準拠を必要とするエンドユース アプリケーションに使用される製品は PPAP に対応した AEC-Q100 グレード製品でなければいけません。非 AEC-Q100 グレード製品は ISO/TS-16949 要件に完全に準拠して製造または記載されていません。

また、AEC-Q100 グレード製品は ISO/TS-16949 準拠を必要としないエンドユース アプリケーションにも PPAP サポートなしで提供されています。

Table 59 有効な組合せ — 車載用グレード / AEC-Q100

ベース注文製品番号	速度オプション	パッケージおよび温度	モデル番号	包装形態	パッケージ マーキング
S25FL064L	AB	MFA, MFB, MFM	00, 01	0, 1, 3	FL064L + (温度) + F + (モデル番号)
	AB	NFA, NFB, NFM	01, 04	0, 1, 3	FL064L + (温度) + F + (モデル番号)
	AB	BHA, BHB, BHM	02, 03	0, 3	FL064L + (温度) + H + (モデル番号)

14 外形図



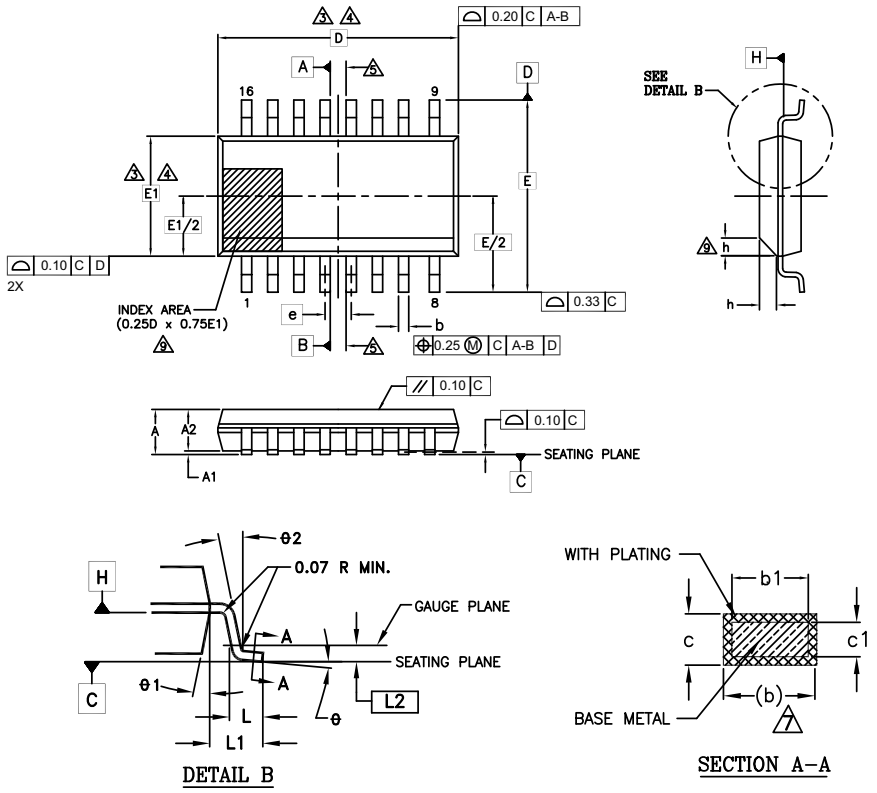
SYMBOL	DIMENSIONS		
	MIN.	NOM.	MAX.
A	1.75	-	2.16
A1	0.05	-	0.25
A2	1.70	-	1.90
b	0.36	-	0.48
b1	0.33	-	0.46
c	0.19	-	0.24
c1	0.15	-	0.20
D	5.28 BSC		
E	8.00 BSC		
E1	5.28 BSC		
e	1.27 BSC		
L	0.51	-	0.76
L1	1.36 REF		
L2	0.25 BSC		
N	8		
θ	0°	-	8°
θ 1	5°	-	15°
θ 2	0-8° REF		

NOTES:

1. ALL DIMENSIONS ARE IN MILLIMETERS.
2. DIMENSIONING AND TOLERANCING PER ASME Y14.5M - 1994.
3. DIMENSION D DOES NOT INCLUDE MOLD FLASH, PROTRUSIONS OR GATE BURRS. MOLD FLASH, PROTRUSIONS OR GATE BURRS SHALL NOT EXCEED 0.15 mm PER END. DIMENSION E1 DOES NOT INCLUDE INTERLEAD FLASH OR PROTRUSION. INTERLEAD FLASH OR PROTRUSION SHALL NOT EXCEED 0.25 mm PER SIDE. D AND E1 DIMENSIONS ARE DETERMINED AT DATUM H.
4. THE PACKAGE TOP MAY BE SMALLER THAN THE PACKAGE BOTTOM. DIMENSIONS D AND E1 ARE DETERMINED AT THE OUTMOST EXTREMES OF THE PLASTIC BODY EXCLUSIVE OF MOLD FLASH, TIE BAR BURRS, GATE BURRS AND INTERLEAD FLASH, BUT INCLUSIVE OF ANY MISMATCH BETWEEN THE TOP AND BOTTOM OF THE PLASTIC BODY.
5. DATUMS A AND B TO BE DETERMINED AT DATUM H.
6. "N" IS THE MAXIMUM NUMBER OF TERMINAL POSITIONS FOR THE SPECIFIED PACKAGE LENGTH.
7. THE DIMENSIONS APPLY TO THE FLAT SECTION OF THE LEAD BETWEEN 0.10 TO 0.25 mm FROM THE LEAD TIP.
8. DIMENSION "b" DOES NOT INCLUDE DAMBAR PROTRUSION. ALLOWABLE DAMBAR PROTRUSION SHALL BE 0.10 mm TOTAL IN EXCESS OF THE "b" DIMENSION AT MAXIMUM MATERIAL CONDITION. THE DAMBAR CANNOT BE LOCATED ON THE LOWER RADIUS OF THE LEAD FOOT.
9. THIS CHAMFER FEATURE IS OPTIONAL. IF IT IS NOT PRESENT, THEN A PIN 1 IDENTIFIER MUST BE LOCATED WITHIN THE INDEX AREA INDICATED.
10. LEAD COPLANARITY SHALL BE WITHIN 0.10 mm AS MEASURED FROM THE SEATING PLANE.

002-15548 Rev. **

Figure 150 8 リード SOIC (5.28 × 5.28 × 2.16 mm) SOC008 パッケージ外形図 , 002-15548 (PG-DSO-8)



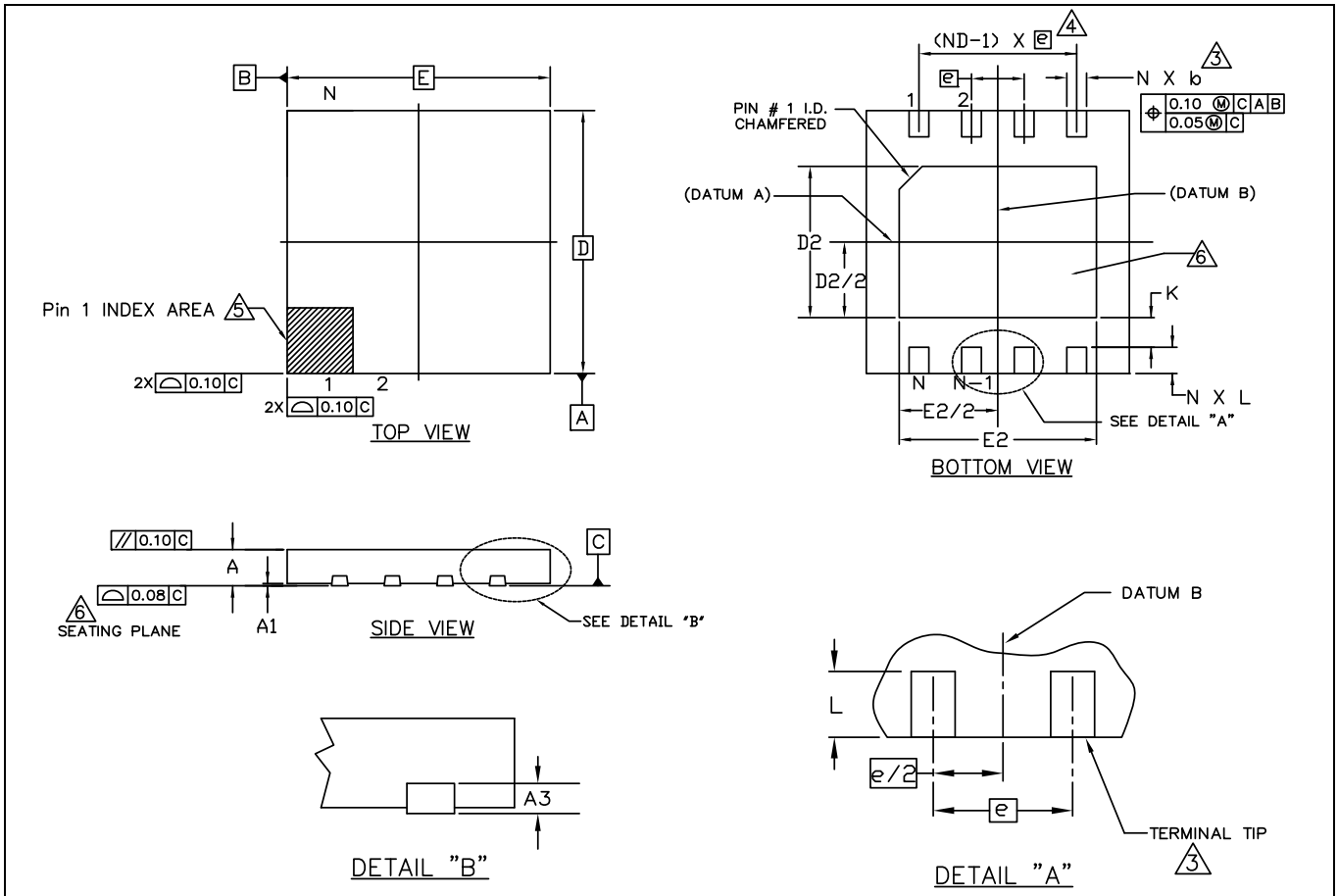
SYMBOL	DIMENSIONS		
	MIN.	NOM.	MAX.
A	2.35	-	2.65
A1	0.10	-	0.30
A2	2.05	-	2.55
b	0.31	-	0.51
b1	0.27	-	0.48
c	0.20	-	0.33
c1	0.20	-	0.30
D	10.30 BSC		
E	10.30 BSC		
E1	7.50 BSC		
e	1.27 BSC		
L	0.40	-	1.27
L1	1.40 REF		
L2	0.25 BSC		
N	16		
h	0.25	-	0.75
θ	0°	-	8°
θ1	5°	-	15°
θ2	0°	-	-

NOTES:

1. ALL DIMENSIONS ARE IN MILLIMETERS.
2. DIMENSIONING AND TOLERANCING PER ASME Y14.5M - 1994.
3. DIMENSION D DOES NOT INCLUDE MOLD FLASH, PROTRUSIONS OR GATE BURRS. MOLD FLASH, PROTRUSIONS OR GATE BURRS SHALL NOT EXCEED 0.15 mm PER END. DIMENSION E1 DOES NOT INCLUDE INTERLEAD FLASH OR PROTRUSION. INTERLEAD FLASH OR PROTRUSION SHALL NOT EXCEED 0.25 mm PER SIDE. D AND E1 DIMENSIONS ARE DETERMINED AT DATUM H.
4. THE PACKAGE TOP MAY BE SMALLER THAN THE PACKAGE BOTTOM. DIMENSIONS D AND E1 ARE DETERMINED AT THE OUTMOST EXTREMES OF THE PLASTIC BODY EXCLUSIVE OF MOLD FLASH, TIE BAR BURRS, GATE BURRS AND INTERLEAD FLASH, BUT INCLUSIVE OF ANY MISMATCH BETWEEN THE TOP AND BOTTOM OF THE PLASTIC BODY.
5. DATUMS A AND B TO BE DETERMINED AT DATUM H.
6. "N" IS THE MAXIMUM NUMBER OF TERMINAL POSITIONS FOR THE SPECIFIED PACKAGE LENGTH.
7. THE DIMENSIONS APPLY TO THE FLAT SECTION OF THE LEAD BETWEEN 0.10 TO 0.25 mm FROM THE LEAD TIP.
8. DIMENSION "b" DOES NOT INCLUDE DAMBAR PROTRUSION. ALLOWABLE DAMBAR PROTRUSION SHALL BE 0.10 mm TOTAL IN EXCESS OF THE "b" DIMENSION AT MAXIMUM MATERIAL CONDITION. THE DAMBAR CANNOT BE LOCATED ON THE LOWER RADIUS OF THE LEAD FOOT.
9. THIS CHAMFER FEATURE IS OPTIONAL. IF IT IS NOT PRESENT, THEN A PIN 1 IDENTIFIER MUST BE LOCATED WITHIN THE INDEX AREA INDICATED.
10. LEAD COPLANARITY SHALL BE WITHIN 0.10 mm AS MEASURED FROM THE SEATING PLANE.

002-15547 Rev. *A

Figure 151 **16 リード SOIC (10.30 × 7.50 × 2.65 mm) SO3016/SL3016/SS3016 パッケージ外形図 , 002-15547 (PG-DSO-16)**



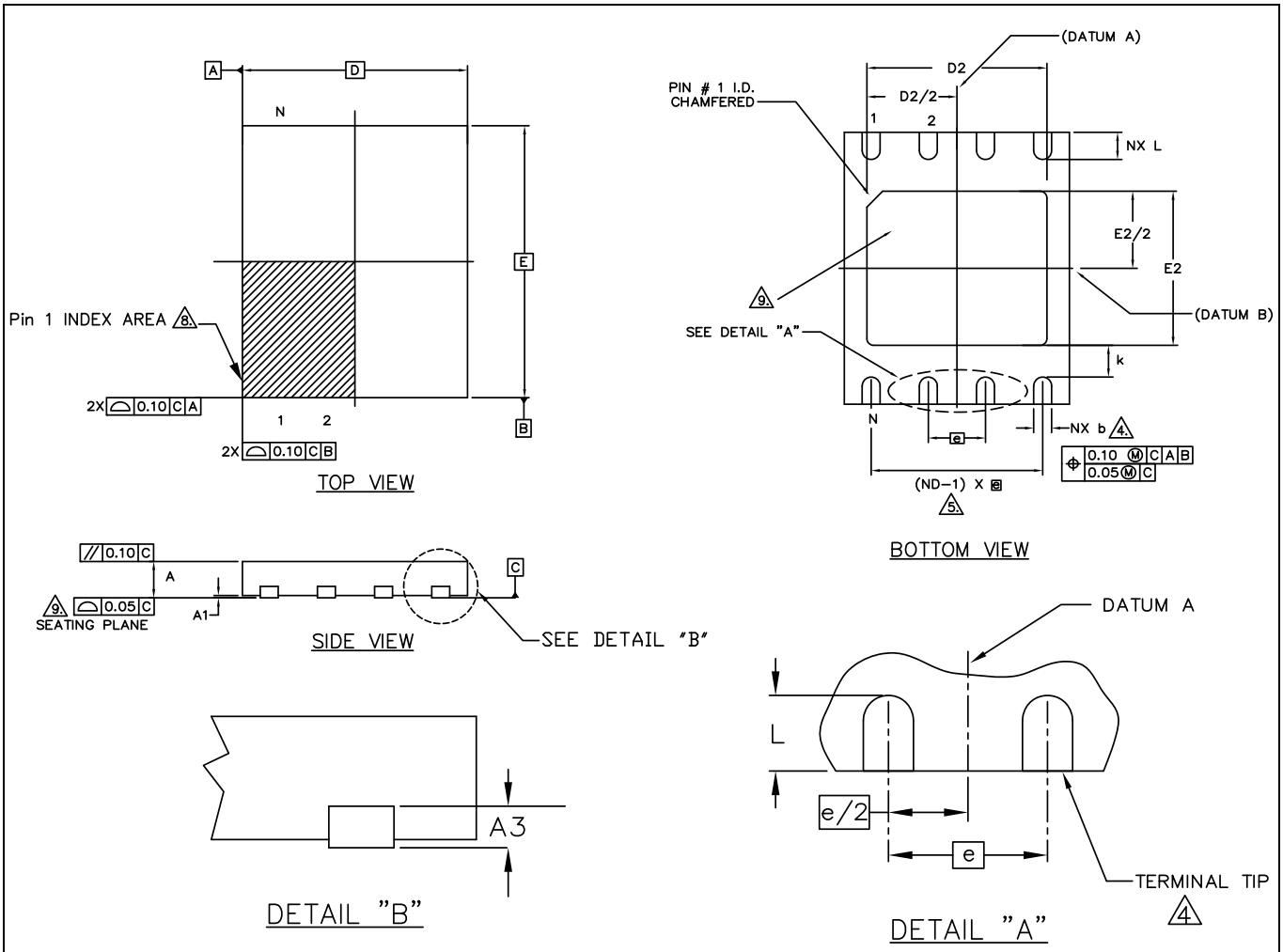
SYMBOL	DIMENSIONS		
	MIN.	NOM.	MAX.
e		0.80 BSC.	
N		8	
ND		4	
L	0.35	0.40	0.45
b	0.25	0.30	0.35
D2	2.20	2.30	2.40
E2	2.90	3.00	3.10
D		4.00 BSC	
E		4.00 BSC	
A	0.50	0.55	0.60
A1	0.00	0.035	0.05
A3		0.152 REF	
K	0.20	-	-

NOTES:

1. ALL DIMENSIONS ARE IN MILLIMETERS.
2. N IS THE TOTAL NUMBER OF TERMINALS.
3. DIMENSION "b" APPLIES TO METALLIZED TERMINAL AND IS MEASURED BETWEEN 0.15 AND 0.30mm FROM TERMINAL TIP. IF THE TERMINAL HAS THE OPTIONAL RADIUS ON THE OTHER END OF THE TERMINAL, THE DIMENSION "b" SHOULD NOT BE MEASURED IN THAT RADIUS AREA.
4. ND REFERS TO THE NUMBER OF TERMINALS ON D SIDE.
5. PIN #1 ID ON TOP WILL BE LOCATED WITHIN THE INDICATED ZONE.
6. COPLANARITY ZONE APPLIES TO THE EXPOSED HEAT SINK SLUG AS WELL AS THE TERMINALS.
7. JEDEC SPECIFICATION NO. REF: N/A

002-16243 Rev. *A

Figure 152 **8 リード DFN ((4.0 × 4.0 × 0.6 mm) UNF008, 2.3 × 3.0 mm E-Pad (Sawn)) パッケージ外形図 , 002-16243 (PG-USON-8)**



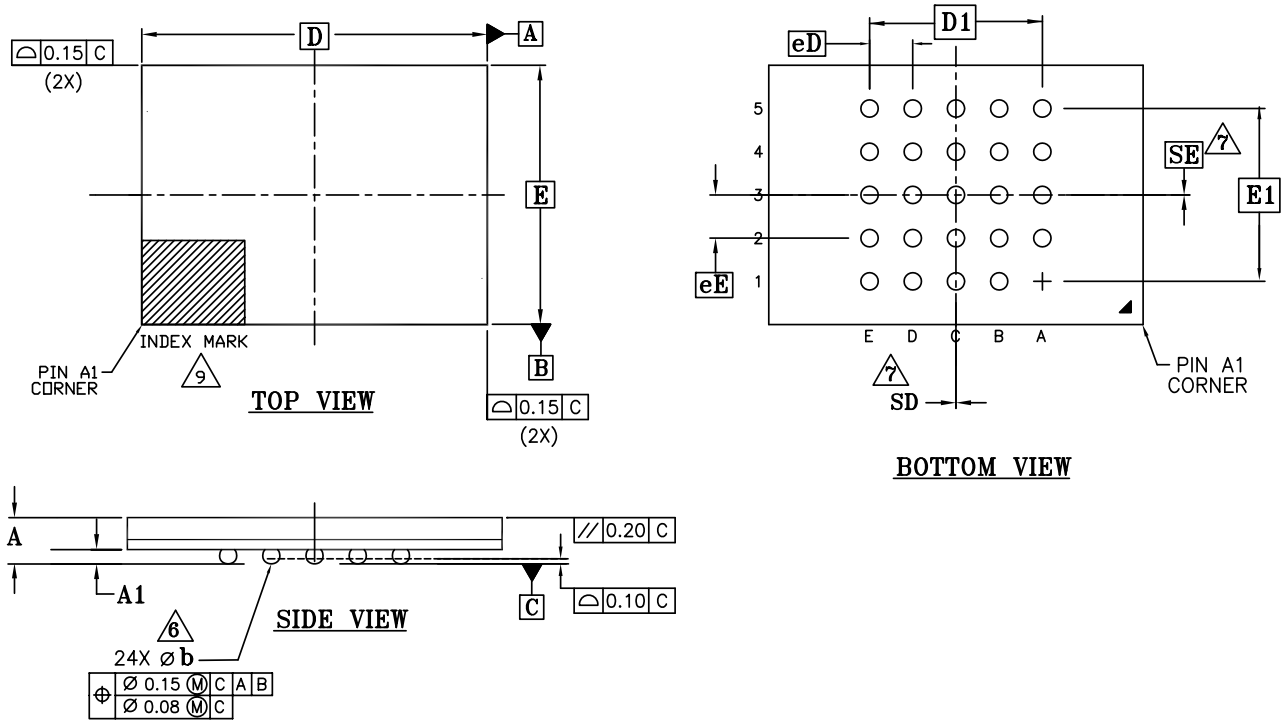
SYMBOL	DIMENSIONS		
	MIN.	NOM.	MAX.
e	1.27 BSC.		
N	8		
ND	4		
L	0.55	0.60	0.65
b	0.35	0.40	0.45
D2	3.90	4.00	4.10
E2	3.30	3.40	3.50
D	5.00 BSC		
E	6.00 BSC		
A	0.70	0.75	0.80
A1	0.00	0.02	0.05
A3	0.20 REF		
K	0.20 MIN.		

NOTES:

1. DIMENSIONING AND TOLERANCING CONFORMS TO ASME Y14.5M-1994.
2. ALL DIMENSIONS ARE IN MILLIMETERS.
3. N IS THE TOTAL NUMBER OF TERMINALS.
4. DIMENSION "b" APPLIES TO METALLIZED TERMINAL AND IS MEASURED BETWEEN 0.15 AND 0.30mm FROM TERMINAL TIP. IF THE TERMINAL HAS THE OPTIONAL RADIUS ON THE OTHER END OF THE TERMINAL, THE DIMENSION "b" SHOULD NOT BE MEASURED IN THAT RADIUS AREA.
5. ND REFERS TO THE NUMBER OF TERMINALS ON D SIDE.
6. MAX. PACKAGE WARPAGE IS 0.05mm.
7. MAXIMUM ALLOWABLE BURR IS 0.076mm IN ALL DIRECTIONS.
8. PIN #1 ID ON TOP WILL BE LOCATED WITHIN THE INDICATED ZONE.
9. BILATERAL COPLANARITY ZONE APPLIES TO THE EXPOSED HEAT SINK SLUG AS WELL AS THE TERMINALS.
10. A MAXIMUM 0.15mm PULL BACK (L1) MAY BE PRESENT.

002-18755 Rev. **

Figure 153 **8 リード DFN ((5.0 × 6.0 × 0.8 mm) WND008, 4.0 × 3.4 mm E-Pad (Sawn)) パッケージ外形図 , 002-18755 (PG-WSON-8)**



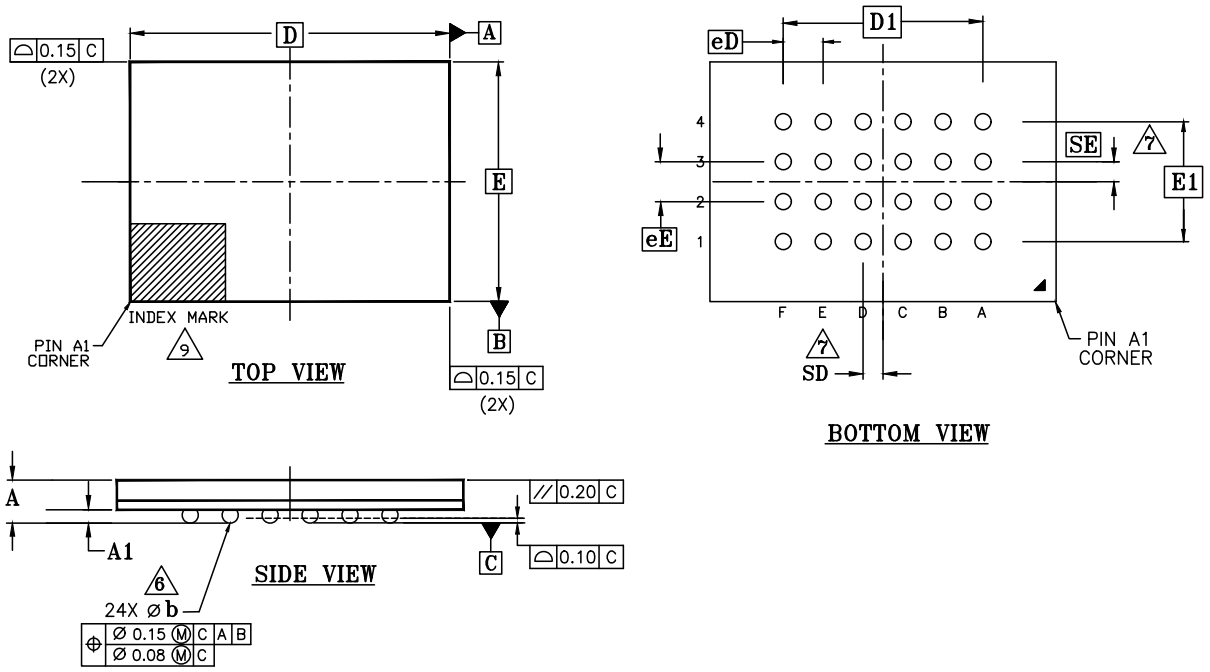
SYMBOL	DIMENSIONS		
	MIN.	NOM.	MAX.
A	-	-	1.20
A1	0.20	-	-
D	8.00 BSC		
E	6.00 BSC		
D1	4.00 BSC		
E1	4.00 BSC		
MD	5		
ME	5		
N	24		
⌀ b	0.35	0.40	0.45
eE	1.00 BSC		
eD	1.00 BSC		
SD	0.00 BSC		
SE	0.00 BSC		

NOTES:

1. DIMENSIONING AND TOLERANCING METHODS PER ASME Y14.5M-1994.
2. ALL DIMENSIONS ARE IN MILLIMETERS.
3. BALL POSITION DESIGNATION PER JEP95, SECTION 3, SPP-020.
4. e REPRESENTS THE SOLDER BALL GRID PITCH.
5. SYMBOL "MD" IS THE BALL MATRIX SIZE IN THE "D" DIRECTION.
   SYMBOL "ME" IS THE BALL MATRIX SIZE IN THE "E" DIRECTION.
   N IS THE NUMBER OF POPULATED SOLDER BALL POSITIONS FOR MATRIX SIZE MD X ME.
6. DIMENSION "b" IS MEASURED AT THE MAXIMUM BALL DIAMETER IN A PLANE PARALLEL TO DATUM C.
7. "SD" AND "SE" ARE MEASURED WITH RESPECT TO DATUMS A AND B AND DEFINE THE POSITION OF THE CENTER SOLDER BALL IN THE OUTER ROW.
   WHEN THERE IS AN ODD NUMBER OF SOLDER BALLS IN THE OUTER ROW, "SD" OR "SE" = 0.
   WHEN THERE IS AN EVEN NUMBER OF SOLDER BALLS IN THE OUTER ROW, "SD" = eD/2 AND "SE" = eE/2.
8. "+" INDICATES THE THEORETICAL CENTER OF DEPOPULATED BALLS.
9. A1 CORNER TO BE IDENTIFIED BY CHAMFER, LASER OR INK MARK, METALLIZED MARK INDENTATION OR OTHER MEANS.

002-15534 Rev. **

Figure 154 24 ボール FBGA (8.0 × 6.0 × 1.2 mm) FAB024 パッケージ外形図 , 002-15534 (PG-TFBGA-24)



SYMBOL	DIMENSIONS		
	MIN.	NOM.	MAX.
A	-	-	1.20
A1	0.25	-	-
D	8.00 BSC		
E	6.00 BSC		
D1	5.00 BSC		
E1	3.00 BSC		
MD	6		
ME	4		
N	24		
⌀ b	0.35	0.40	0.45
eE	1.00 BSC		
eD	1.00 BSC		
SD	0.50 BSC		
SE	0.50 BSC		

NOTES:

1. DIMENSIONING AND TOLERANCING METHODS PER ASME Y14.5M-1994.
2. ALL DIMENSIONS ARE IN MILLIMETERS.
3. BALL POSITION DESIGNATION PER JEP95, SECTION 3, SPP-020.
4. e REPRESENTS THE SOLDER BALL GRID PITCH.
5. SYMBOL "MD" IS THE BALL MATRIX SIZE IN THE "D" DIRECTION.
   SYMBOL "ME" IS THE BALL MATRIX SIZE IN THE "E" DIRECTION.
   N IS THE NUMBER OF POPULATED SOLDER BALL POSITIONS FOR MATRIX SIZE MD X ME.

6. DIMENSION "b" IS MEASURED AT THE MAXIMUM BALL DIAMETER IN A PLANE PARALLEL TO DATUM C.

7. "SD" AND "SE" ARE MEASURED WITH RESPECT TO DATUMS A AND B AND DEFINE THE POSITION OF THE CENTER SOLDER BALL IN THE OUTER ROW.
   WHEN THERE IS AN ODD NUMBER OF SOLDER BALLS IN THE OUTER ROW, "SD" OR "SE" = 0.
   WHEN THERE IS AN EVEN NUMBER OF SOLDER BALLS IN THE OUTER ROW, "SD" = eD/2 AND "SE" = eE/2.

8. "+" INDICATES THE THEORETICAL CENTER OF DEPOPULATED BALLS.

9. A1 CORNER TO BE IDENTIFIED BY CHAMFER, LASER OR INK MARK, METALLIZED MARK INDENTATION OR OTHER MEANS.

002-15535 Rev. *A

Figure 155 24 ボール FBGA (8.0 × 6.0 × 1.2 mm) FAC024 パッケージ外形図 , 002-15535 (PG-TFBGA-24)

改訂履歴

版数	発行日	変更内容
**	2016-11-10	これは英語版 002-12878 Rev. *A を翻訳した日本語版 002-16933 Rev. ** です。
*A	2017-03-07	これは英語版 002-12878 Rev. *B を翻訳した日本語版 002-16933 Rev. *A です。
*B	2019-05-29	これは英語版 002-12878 Rev. *F を翻訳した日本語版 002-16933 Rev. *B です。
*C	2023-12-14	これは英語版 002-12878 Rev. *H を翻訳した日本語版 002-16933 Rev. *C です。

Trademarks
All referenced product or service names and trademarks are the property of their respective owners.

Edition 2023-12-14

Published by

Infineon Technologies AG

81726 Munich, Germany

© 2023 Infineon Technologies AG.
All Rights Reserved.

Do you have a question about this document?

Email:

erratum@infineon.com

Document reference

002-16933 Rev. *C

重要事項
本文書に記載された情報は、いかなる場合も、条件または特性の保証とみなされるものではありません（「品質の保証」）。
本文に記された一切の事例、手引き、もしくは一般的価値、および／または本製品の用途に関する一切の情報に関し、インフィニオンテクノロジーズ（以下、「インフィニオン」）はここに、第三者の知的所有権の不侵害の保証を含むがこれに限らず、あらゆる種類の一切の保証および責任を否定いたします。

さらに、本文書に記載された一切の情報は、お客様の用途におけるお客様の製品およびインフィニオン製品の一切の使用に関し、本文書に記載された義務ならびに一切の関連する法的要件、規範、および基準をお客様が遵守することを条件としています。

本文書に含まれるデータは、技術的訓練を受けた従業員のみを対象としています。本製品の対象用途への適合性、およびこれら用途に関連して本文書に記載された製品情報の完全性についての評価は、お客様の技術部門の責任にて実施してください。

警告事項
技術的要件に伴い、製品には危険物質が含まれる可能性があります。当該種別の詳細については、インフィニオンの最寄りの営業所までお問い合わせください。

インフィニオンの正式代表者が署名した書面を通じ、インフィニオンによる明示の承認が存在する場合を除き、インフィニオンの製品は、当該製品の障害またはその使用に関する一切の結果が、合理的に人的傷害を招く恐れのある一切の用途に使用することはできないこと予めご了承ください。